

令和4年度（2022年度）
健康福祉に関する意識調査
報告書

令和5年（2023年）3月
中野区

はじめに

区は「健康福祉都市なかの」の実現に向け、誰一人取り残されることなく、支援を必要とする区民の年齢や抱えている課題の種類を問わず、一体的かつ重層的な支援を行うことができる地域包括ケア体制の構築を目指しています。

本調査はその一環として実施しており、区民の方々に健康福祉への関心や意見をお聞きするとともに、区の実践が区民の意向に沿ったものになっているか、また、区民の求める水準にどの程度達しているかなどを把握することを目的としています。健康福祉に関する区の事業や施策の見直し・改善に反映させるなど、活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、調査にご協力いただいた区民の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和5年（2023年）3月
中野区健康福祉部

目次

I 調査の概要	
1. 調査の目的	3
2. 調査の内容	3
3. 調査の設計	3
4. 回収状況	3
5. 報告書を読む際の留意点	3
II 調査対象者の属性	
1. 性別	7
2. 年齢	7
3. 職業	8
4. 世帯構成	9
5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）	10
6. 日常的に家族の介護をしているか	11
7. 住居形態	12
8. 居住年数	13
9. 居住地域	14
10. 母集団と調査回答者の推移	18
III 調査結果の分析	
1. 地域活動について	21
1.1. 地域の活動への参加	21
1.2. 近所とのつきあいの程度	23
1.3. 人とのつきあいが無いと感じるか	27
1.4. 取り残されていると感じるか	28
1.5. 他の人から孤立していると感じるか	29
1.6. 相談相手	30
1.7. 家族や友人以外の相談先	32
1.8. 必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動	34
1.9. 見守り・支えあい活動の実施状況	36
1.10. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況	38
1.11. 地域における住民同士の交流の場の有無	39
1.12. 障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策	41
1.13. 高齢者会館の利用状況	44
1.13.1. 高齢者会館を利用していない理由	46

2. 医療・健康について.....	48
2.1. 健康感.....	48
2.2. 健康増進のための運動習慣.....	50
2.2.1. 運動・スポーツを続けている期間.....	52
2.2.2. 運動・スポーツを行う場所.....	54
2.2.3. 運動・スポーツを行わない理由.....	57
2.3. この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか.....	60
2.4. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと.....	62
2.5. 東京オリンピック・パラリンピックの効果.....	67
2.6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと.....	69
2.7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容.....	70
2.8. 食生活で心がけていること.....	72
2.9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか.....	74
2.10. 健康診断の受診頻度.....	77
2.10.1. 健康診断の受診場所.....	80
2.10.2. 健康診断結果の活用方法.....	83
2.10.3. 健康診断を受けなかった理由.....	85
2.11. かかりつけの診療所の有無.....	87
2.11.1. かかりつけの診療所からのアドバイス.....	89
2.12. 歯科健診の受診状況.....	91
2.12.1. 歯科健診の受診場所.....	92
2.12.2. 歯科健診を受診しなかった理由.....	93
2.13. 定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているか.....	94
2.14. かかりつけの歯科診療所の有無.....	95
2.15. かかりつけの薬局の有無.....	97
2.16. 地域の救急医療体制が整っているか.....	99
2.17. 医療・介護サービスや見守り環境が整っているか.....	101
2.18. 長期療養が必要になった場合の生活.....	103
2.18.1. 長期療養の際、入院・入所したい理由.....	107
2.19. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか.....	111
2.20. 今後必要な自殺対策.....	113
2.21. 感染症の予防で心がけていること.....	116
2.22. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか.....	118
2.23. 食中毒に関する認識.....	120
2.24. 喫煙の状況.....	122
2.24.1. 今後禁煙したいか.....	123

3. 制度等について.....	124
3.1. 「障害者差別解消法」についての認知度.....	124
3.1.1. 「障害者差別解消法」の認知方法.....	126
3.2. 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと.....	128
3.3. ヘルプマークの認知度.....	130
3.4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度.....	131
3.5. 認知症についての理解度.....	133
3.6. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度.....	135
3.7. 「成年後見制度」の認知度.....	136
4. 相談窓口について.....	138
4.1. 健康福祉の相談窓口の身近さ.....	138
4.2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度.....	140
5. その他.....	142
5.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）.....	142

IV 調査票と単純集計

I 調査の概要

1. 調査の目的

健康福祉に係わる関心や健康福祉サービスに対する意見などを把握し、区の事業や施策の達成状況の確認や、見直し・改善を図る指標として活用するため、18歳以上の区民を対象としたアンケート調査を実施した。

2. 調査の内容

- (1) 調査対象者の属性
- (2) 地域活動について
- (3) 医療・健康について
- (4) 制度等について
- (5) 相談窓口について
- (6) その他

3. 調査の設計

- ・調査対象：満18歳以上の区民（基準日：令和4年8月1日時点 299,057人）
- ・調査地域：中野区全域
- ・調査標本数：3,000人
- ・抽出方法：無作為抽出
- ・調査方法：郵送による配布、郵送・インターネットによる回収
- ・調査期間：令和4年9月20日～10月11日
- ・調査機関：株式会社アイアールエス

4. 回収状況

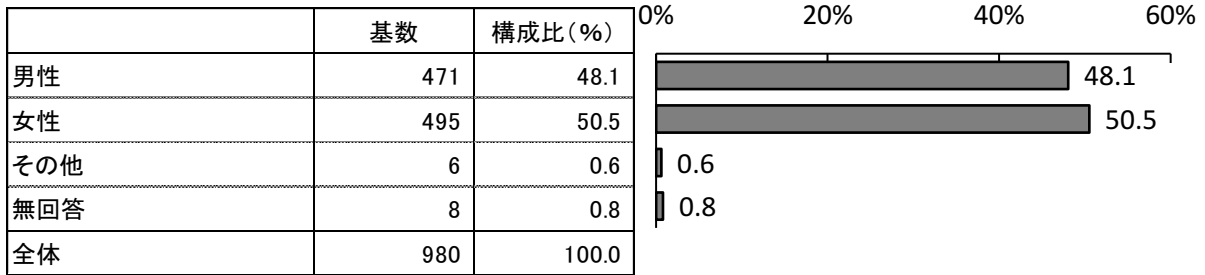
標本数	有効回収数	回収率
3,000	980	32.7%

5. 報告書を読む際の留意点

- 調査結果の比率は、その質問の回答者数を基数として、小数第2位を四捨五入して算出している。なお、単数回答形式の場合、四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。
- アンケート選択肢の語句が長い場合、本文や表・グラフ中では省略した表現を用いていることがある。
- グラフ中の「n」とは、その質問への回答者数を表す。
- クロス集計の表の中で、上段の数値は回答者数（単位：人）を、下段の数値は割合（単位：%）を表す。
- 年齢とのクロス集計において、90歳以上については母数が少ないため、統計学的に有意のものとは言えないが、参考として数値を明示している場合がある。
- 分析軸に使用した属性項目は、無回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と一致しないことがある。

Ⅱ 調査対象者の属性

1. 性別

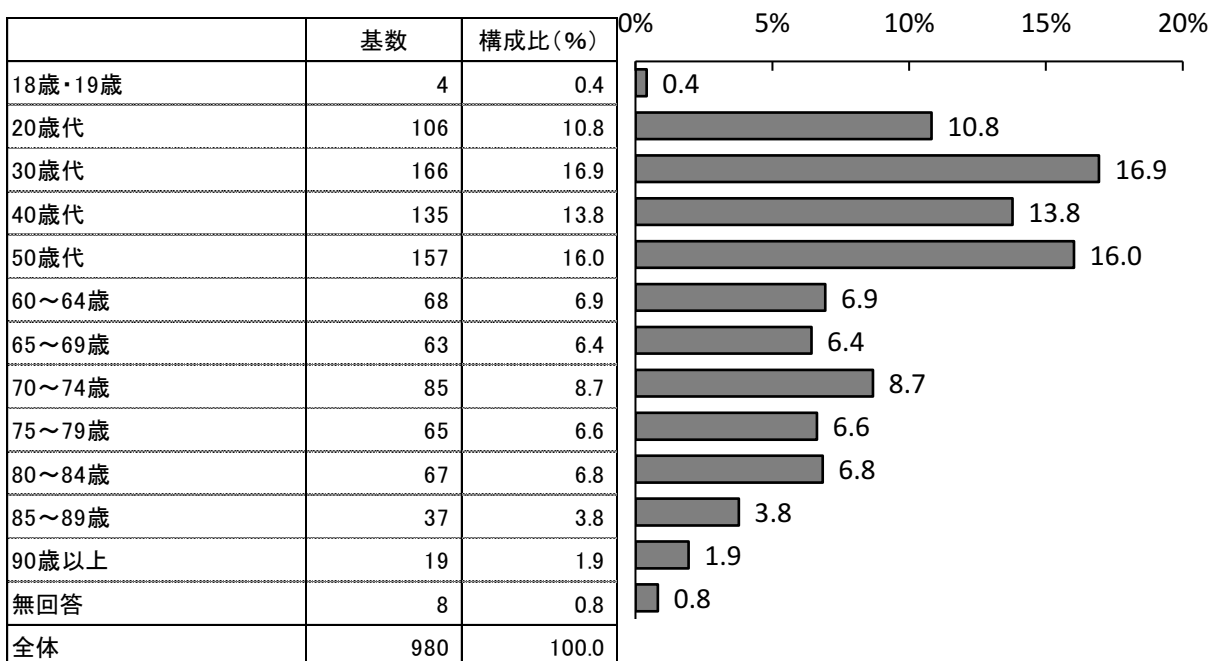


■年代別

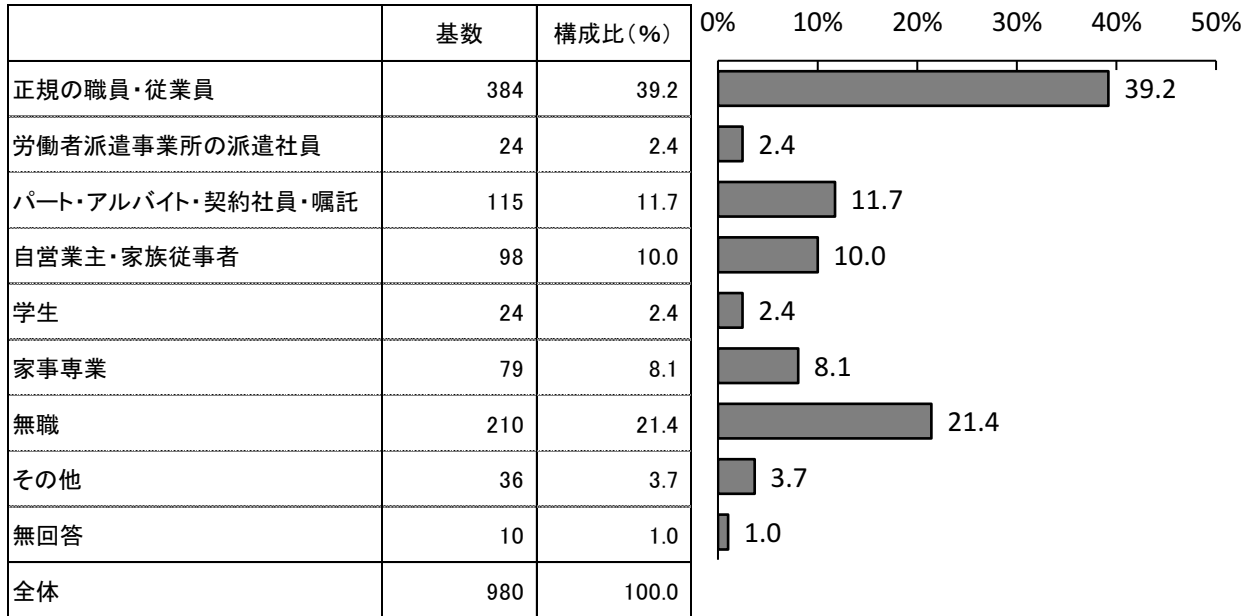
上段：人、下段：%

	n	男性	女性	その他	無回答
全体	980 100.0	471 48.1	495 50.5	6 0.6	8 0.8
18歳・19歳	4 100.0	2 50.0	2 50.0	—	—
20歳代	106 100.0	49 46.2	54 50.9	3 2.8	—
30歳代	166 100.0	71 42.8	94 56.6	1 0.6	—
40歳代	135 100.0	57 42.2	76 56.3	1 0.7	1 0.7
50歳代	157 100.0	89 56.7	67 42.7	1 0.6	—
60～64歳	68 100.0	33 48.5	35 51.5	—	—
65～69歳	63 100.0	38 60.3	25 39.7	—	—
70～74歳	85 100.0	47 55.3	38 44.7	—	—
75～79歳	65 100.0	37 56.9	28 43.1	—	—
80～84歳	67 100.0	34 50.7	33 49.3	—	—
85～89歳	37 100.0	13 35.1	24 64.9	—	—
90歳以上	19 100.0	1 5.3	18 94.7	—	—

2. 年齢



3. 職業

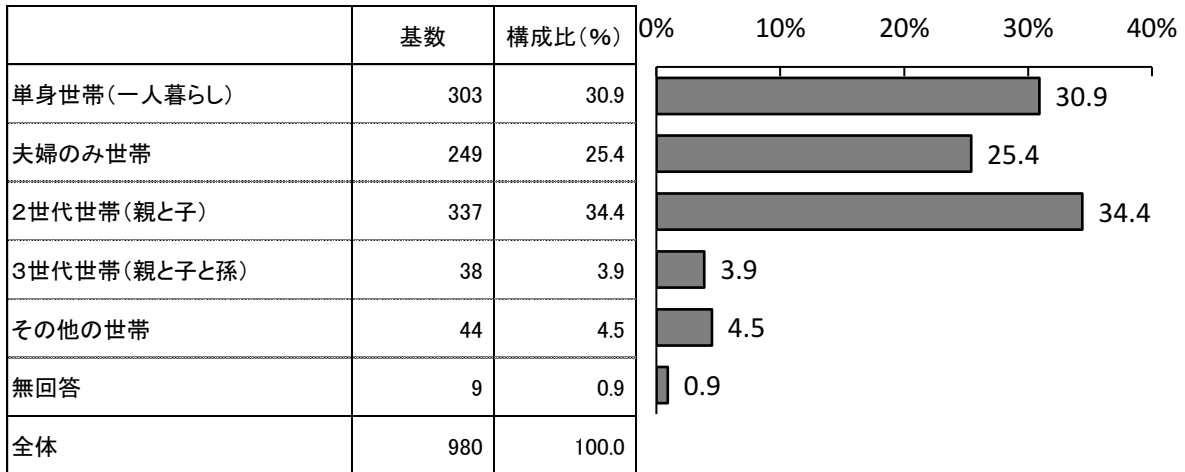


■年代別

上段:人、下段:%

	n	従 業 員 の 職 員 ・ 正 規 の 職 員	社 員 事 業 所 の 派 遣 遣	社 員 事 業 所 の 派 遣 遣	社 員 事 業 所 の 派 遣 遣	家 自 営 業 主 ・ 家 族 従 事 者 ・	学 生	家 事 専 業	無 職	そ の 他	無 回 答
全体	980	384	24	115	98	24	79	210	36	10	
	100.0	39.2	2.4	11.7	10.0	2.4	8.1	21.4	3.7	1.0	
18歳・19歳	4	—	—	—	—	4	—	—	—	—	
	100.0	—	—	—	—	100.0	—	—	—	—	
20歳代	106	69	3	9	3	18	1	3	—	—	
	100.0	65.1	2.8	8.5	2.8	17.0	0.9	2.8	—	—	
30歳代	166	117	5	20	11	2	7	2	2	—	
	100.0	70.5	3.0	12.0	6.6	1.2	4.2	1.2	1.2	—	
40歳代	135	82	10	13	9	—	10	6	4	1	
	100.0	60.7	7.4	9.6	6.7	—	7.4	4.4	3.0	0.7	
50歳代	157	83	3	22	20	—	12	12	5	—	
	100.0	52.9	1.9	14.0	12.7	—	7.6	7.6	3.2	—	
60～64歳	68	22	1	15	9	—	5	13	3	—	
	100.0	32.4	1.5	22.1	13.2	—	7.4	19.1	4.4	—	
65～69歳	63	4	1	10	10	—	6	26	5	1	
	100.0	6.3	1.6	15.9	15.9	—	9.5	41.3	7.9	1.6	
70～74歳	85	3	1	17	13	—	12	36	3	—	
	100.0	3.5	1.2	20.0	15.3	—	14.1	42.4	3.5	—	
75～79歳	65	4	—	5	10	—	9	33	4	—	
	100.0	6.2	—	7.7	15.4	—	13.8	50.8	6.2	—	
80～84歳	67	—	—	3	7	—	9	40	8	—	
	100.0	—	—	4.5	10.4	—	13.4	59.7	11.9	—	
85～89歳	37	—	—	—	4	—	4	27	1	1	
	100.0	—	—	—	10.8	—	10.8	73.0	2.7	2.7	
90歳以上	19	—	—	—	2	—	4	12	1	—	
	100.0	—	—	—	10.5	—	21.1	63.2	5.3	—	

4. 世帯構成

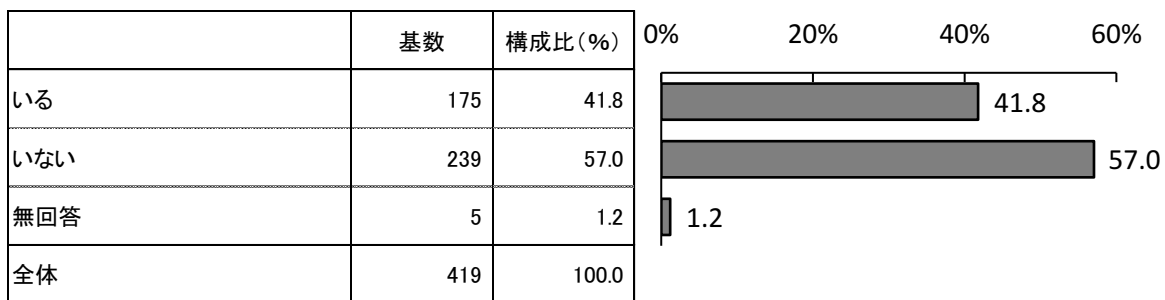


■年代別

上段：人、下段：%

	n	単身世帯 (一人暮らし)	夫婦のみ世帯	2世代世帯 (親と子)	3世代世帯 (親と子と孫)	その他の世帯	無回答
全体	980	303	249	337	38	44	9
	100.0	30.9	25.4	34.4	3.9	4.5	0.9
18歳・19歳	4	—	—	3	1	—	—
	100.0	—	—	75.0	25.0	—	—
20歳代	106	54	12	28	2	10	—
	100.0	50.9	11.3	26.4	1.9	9.4	—
30歳代	166	45	47	60	2	12	—
	100.0	27.1	28.3	36.1	1.2	7.2	—
40歳代	135	41	18	68	3	5	—
	100.0	30.4	13.3	50.4	2.2	3.7	—
50歳代	157	34	33	80	3	6	1
	100.0	21.7	21.0	51.0	1.9	3.8	0.6
60～64歳	68	14	21	28	2	3	—
	100.0	20.6	30.9	41.2	2.9	4.4	—
65～69歳	63	17	28	13	3	2	—
	100.0	27.0	44.4	20.6	4.8	3.2	—
70～74歳	85	28	30	19	6	2	—
	100.0	32.9	35.3	22.4	7.1	2.4	—
75～79歳	65	17	28	12	6	2	—
	100.0	26.2	43.1	18.5	9.2	3.1	—
80～84歳	67	25	26	12	4	—	—
	100.0	37.3	38.8	17.9	6.0	—	—
85～89歳	37	16	5	8	5	2	1
	100.0	43.2	13.5	21.6	13.5	5.4	2.7
90歳以上	19	12	—	6	1	—	—
	100.0	63.2	—	31.6	5.3	—	—

5. 18歳未満の子どもの有無（2世代世帯、3世代世帯、その他世帯のうち）

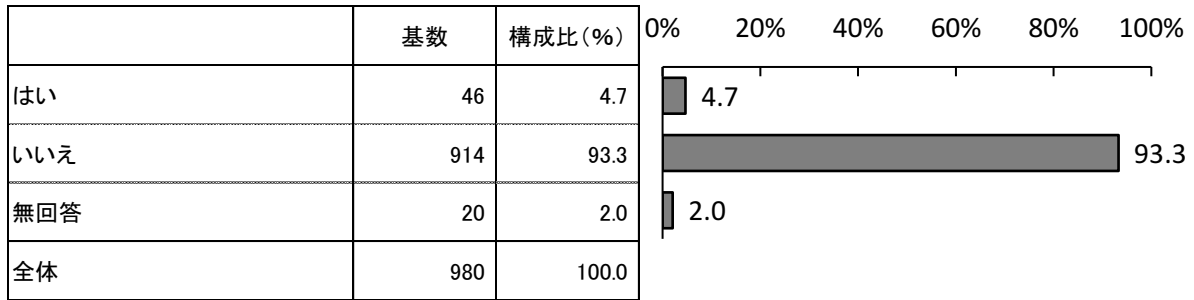


■年代別

上段：人、下段：%

	n	いる	いない	無回答
全体	419 100.0	175 41.8	239 57.0	5 1.2
18歳・19歳	4 100.0	— —	4 100.0	— —
20歳代	40 100.0	9 22.5	31 77.5	— —
30歳代	74 100.0	52 70.3	21 28.4	1 1.4
40歳代	76 100.0	58 76.3	18 23.7	— —
50歳代	89 100.0	35 39.3	53 59.6	1 1.1
60～64歳	33 100.0	2 6.1	31 93.9	— —
65～69歳	18 100.0	3 16.7	15 83.3	— —
70～74歳	27 100.0	6 22.2	20 74.1	1 3.7
75～79歳	20 100.0	7 35.0	12 60.0	1 5.0
80～84歳	16 100.0	2 12.5	13 81.3	1 6.3
85～89歳	15 100.0	1 6.7	14 93.3	— —
90歳以上	7 100.0	— —	7 100.0	— —

6. 日常的に家族の介護をしているか



■年代別

上段：人、下段：%

	n	はい	いいえ	無回答
全体	980	46	914	20
	100.0	4.7	93.3	2.0
18歳・19歳	4	—	4	—
	100.0	—	100.0	—
20歳代	106	—	106	—
	100.0	—	100.0	—
30歳代	166	4	162	—
	100.0	2.4	97.6	—
40歳代	135	6	129	—
	100.0	4.4	95.6	—
50歳代	157	12	143	2
	100.0	7.6	91.1	1.3
60～64歳	68	7	61	—
	100.0	10.3	89.7	—
65～69歳	63	7	54	2
	100.0	11.1	85.7	3.2
70～74歳	85	3	81	1
	100.0	3.5	95.3	1.2
75～79歳	65	1	62	2
	100.0	1.5	95.4	3.1
80～84歳	67	4	61	2
	100.0	6.0	91.0	3.0
85～89歳	37	2	31	4
	100.0	5.4	83.8	10.8
90歳以上	19	—	17	2
	100.0	—	89.5	10.5

7. 住居形態

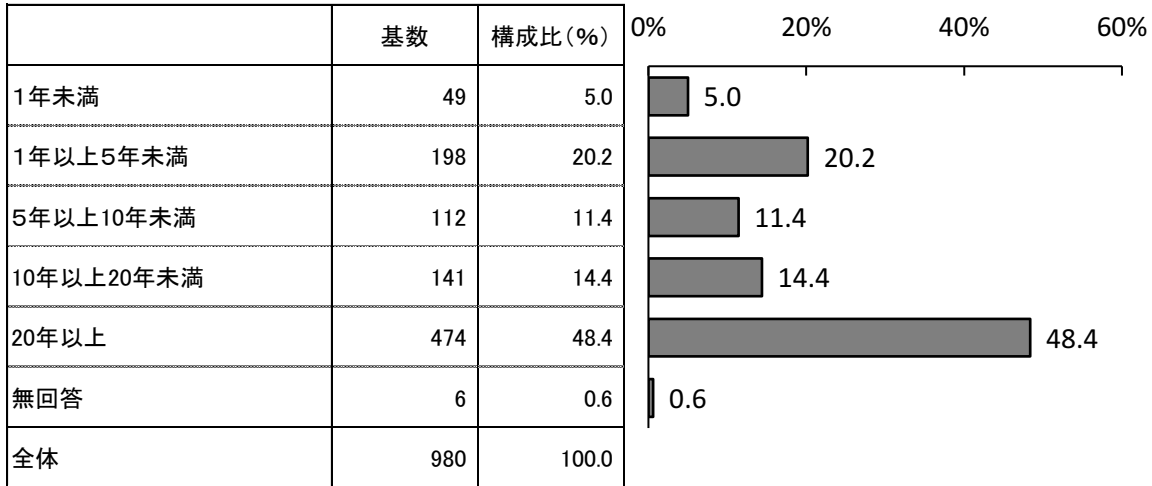
	基数	構成比(%)	0%	20%	40%
持ち家(一戸建て)	365	37.2	37.2		
持ち家(分譲マンション等の集合住宅)	177	18.1	18.1		
公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)	43	4.4	4.4		
民営の賃貸住宅	329	33.6	33.6		
社宅、社員寮、公務員住宅	30	3.1	3.1		
その他	29	3.0	3.0		
無回答	7	0.7	0.7		
全体	980	100.0			

■年代別

上段：人、下段：%

	n	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (分譲マンション 等の集合住宅)	公営の 賃貸住宅 (都営・区営 住宅、公社等)	民営の 賃貸住宅	社宅、社員寮、 公務員住宅	その他	無回答
全体	980 100.0	365 37.2	177 18.1	43 4.4	329 33.6	30 3.1	29 3.0	7 0.7
18歳・19歳	4 100.0	2 50.0	1 25.0	— —	— —	— —	1 25.0	— —
20歳代	106 100.0	16 15.1	7 6.6	8 7.5	66 62.3	8 7.5	1 0.9	— —
30歳代	166 100.0	28 16.9	23 13.9	3 1.8	104 62.7	6 3.6	2 1.2	— —
40歳代	135 100.0	37 27.4	28 20.7	5 3.7	58 43.0	6 4.4	1 0.7	— —
50歳代	157 100.0	62 39.5	35 22.3	5 3.2	43 27.4	7 4.5	5 3.2	— —
60～64歳	68 100.0	37 54.4	15 22.1	1 1.5	12 17.6	1 1.5	2 2.9	— —
65～69歳	63 100.0	31 49.2	16 25.4	2 3.2	8 12.7	— —	5 7.9	1 1.6
70～74歳	85 100.0	45 52.9	17 20.0	1 1.2	17 20.0	1 1.2	3 3.5	1 1.2
75～79歳	65 100.0	35 53.8	14 21.5	5 7.7	10 15.4	— —	1 1.5	— —
80～84歳	67 100.0	37 55.2	12 17.9	9 13.4	4 6.0	1 1.5	4 6.0	— —
85～89歳	37 100.0	23 62.2	5 13.5	2 5.4	5 13.5	— —	2 5.4	— —
90歳以上	19 100.0	11 57.9	4 21.1	2 10.5	— —	— —	2 10.5	— —

8. 居住年数

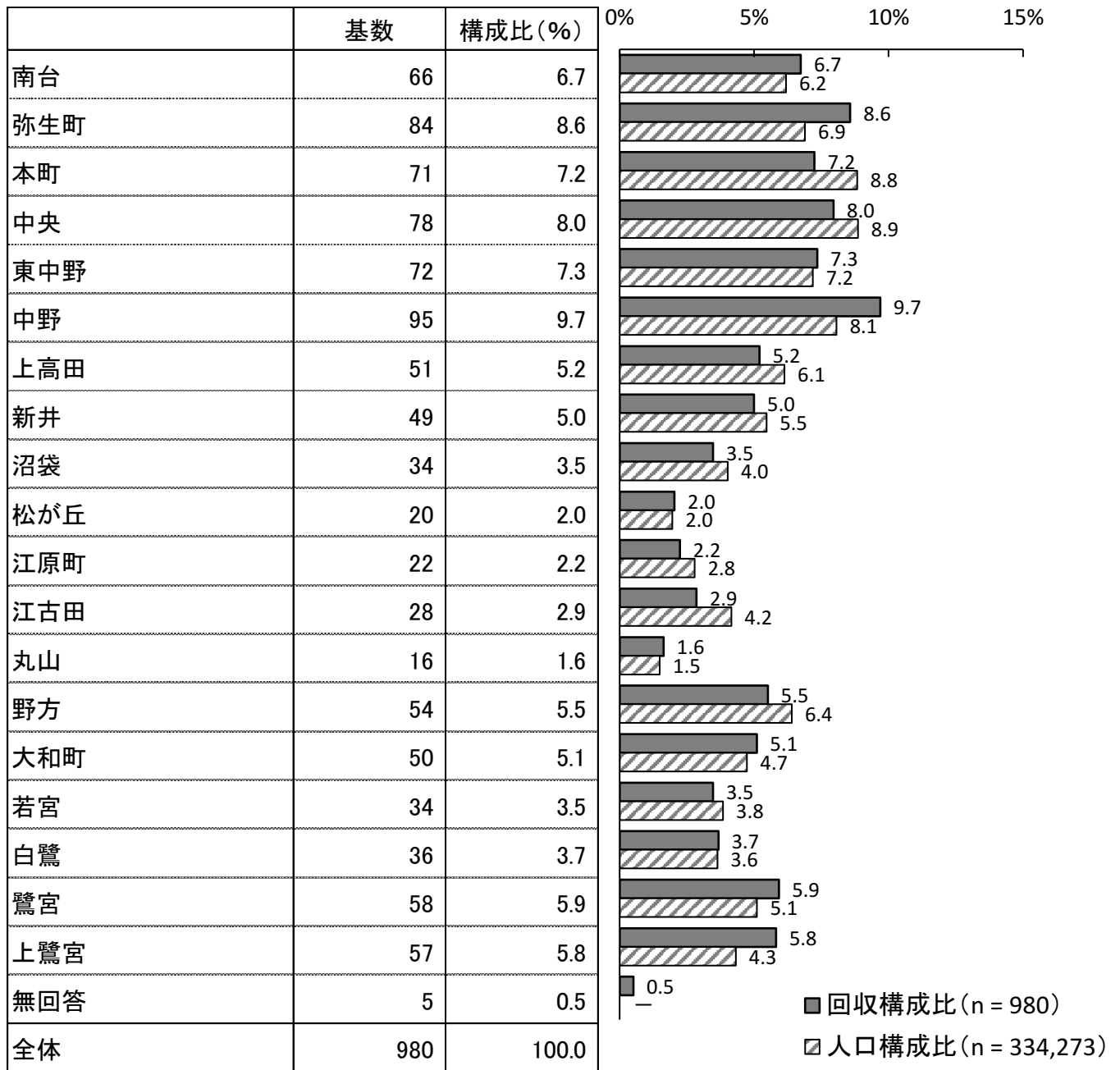


■年代別

上段：人、下段：%

	n	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	無回答
全体	980	49	198	112	141	474	6
	100.0	5.0	20.2	11.4	14.4	48.4	0.6
18歳・19歳	4	—	1	—	3	—	—
	100.0	—	25.0	—	75.0	—	—
20歳代	106	24	48	9	6	19	—
	100.0	22.6	45.3	8.5	5.7	17.9	—
30歳代	166	20	82	34	12	18	—
	100.0	12.0	49.4	20.5	7.2	10.8	—
40歳代	135	3	25	31	40	36	—
	100.0	2.2	18.5	23.0	29.6	26.7	—
50歳代	157	1	19	23	37	77	—
	100.0	0.6	12.1	14.6	23.6	49.0	—
60～64歳	68	—	8	2	13	45	—
	100.0	—	11.8	2.9	19.1	66.2	—
65～69歳	63	—	2	3	6	52	—
	100.0	—	3.2	4.8	9.5	82.5	—
70～74歳	85	1	8	5	9	62	—
	100.0	1.2	9.4	5.9	10.6	72.9	—
75～79歳	65	—	2	1	5	57	—
	100.0	—	3.1	1.5	7.7	87.7	—
80～84歳	67	—	2	2	5	58	—
	100.0	—	3.0	3.0	7.5	86.6	—
85～89歳	37	—	1	1	2	32	1
	100.0	—	2.7	2.7	5.4	86.5	2.7
90歳以上	19	—	—	1	2	16	—
	100.0	—	—	5.3	10.5	84.2	—

9. 居住地域



(中野区町丁別人口 令和4年(2022年)8月1日現在)

※人口構成比には18歳未満の人口も含むため、対象者の割合とは異なる。

■年代別

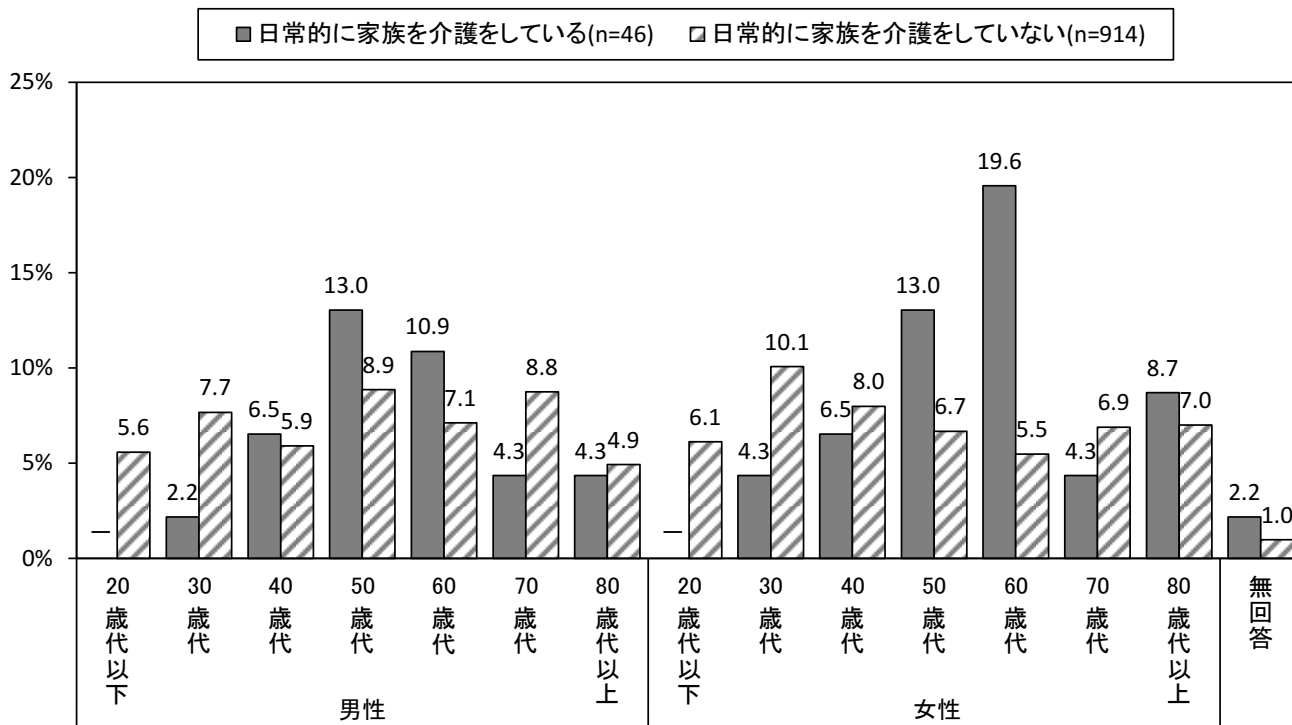
上段：人、下段：%

	n	南台	弥生町	本町	中央	東中野	中野	上高田	新井	沼袋	松が丘
全体	980 100.0	66 6.7	84 8.6	71 7.2	78 8.0	72 7.3	95 9.7	51 5.2	49 5.0	34 3.5	20 2.0
18歳・19歳	4 100.0	— —	— —	1 25.0	— —	— —	— —	— —	— —	— —	— —
20歳代	106 100.0	9 8.5	7 6.6	8 7.5	10 9.4	6 5.7	11 10.4	2 1.9	5 4.7	1 0.9	1 0.9
30歳代	166 100.0	5 3.0	17 10.2	13 7.8	19 11.4	16 9.6	17 10.2	9 5.4	8 4.8	4 2.4	2 1.2
40歳代	135 100.0	5 3.7	10 7.4	15 11.1	8 5.9	15 11.1	11 8.1	12 8.9	12 8.9	7 5.2	1 0.7
50歳代	157 100.0	9 5.7	12 7.6	8 5.1	16 10.2	9 5.7	18 11.5	4 2.5	5 3.2	9 5.7	7 4.5
60～64歳	68 100.0	5 7.4	5 7.4	4 5.9	4 5.9	6 8.8	11 16.2	2 2.9	4 5.9	2 2.9	— —
65～69歳	63 100.0	4 6.3	6 9.5	6 9.5	3 4.8	5 7.9	4 6.3	6 9.5	4 6.3	5 7.9	— —
70～74歳	85 100.0	5 5.9	12 14.1	6 7.1	7 8.2	7 8.2	7 8.2	5 5.9	4 4.7	3 3.5	1 1.2
75～79歳	65 100.0	8 12.3	7 10.8	5 7.7	3 4.6	4 6.2	3 4.6	3 4.6	3 4.6	1 1.5	5 7.7
80～84歳	67 100.0	8 11.9	5 7.5	5 7.5	2 3.0	2 3.0	3 4.5	5 7.5	2 3.0	— —	3 4.5
85～89歳	37 100.0	5 13.5	1 2.7	— —	2 5.4	2 5.4	6 16.2	3 8.1	2 5.4	2 5.4	— —
90歳以上	19 100.0	3 15.8	2 10.5	— —	3 15.8	— —	2 10.5	— —	— —	— —	— —

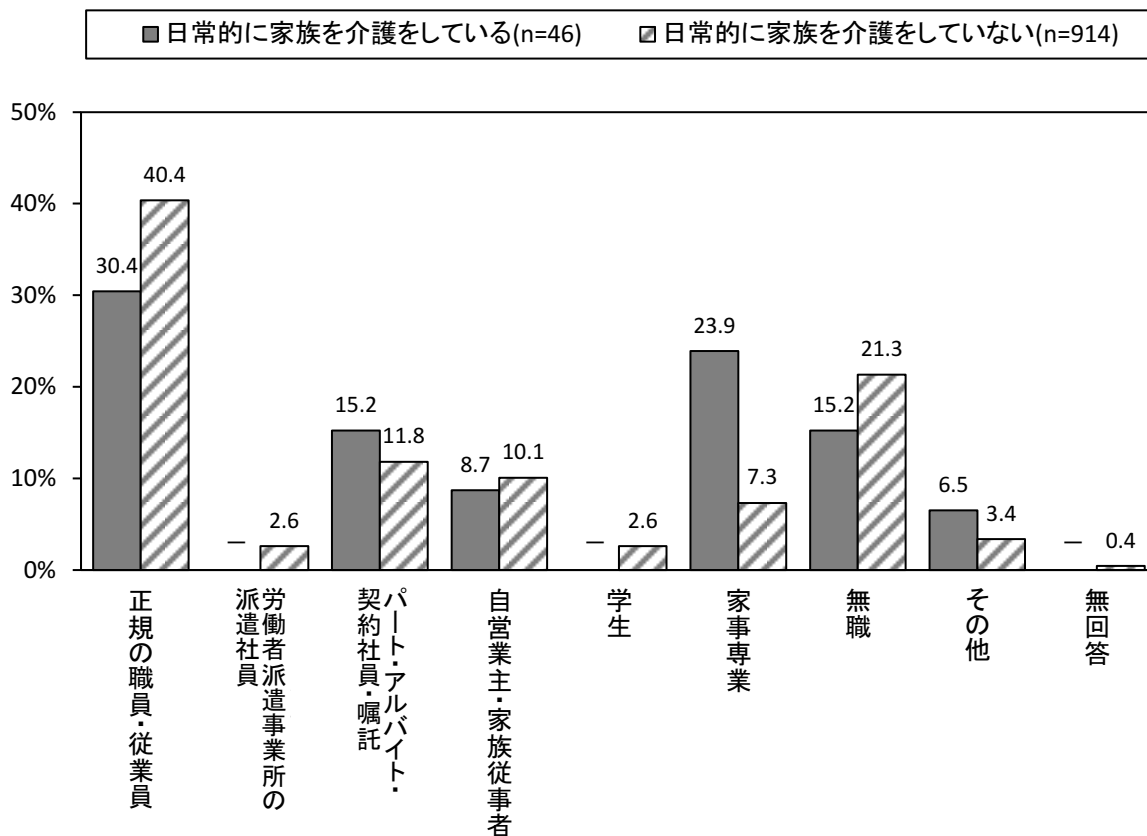
	n	江原町	江古田	丸山	野方	大和町	若宮	白鷺	鷺宮	上鷺宮	無回答
全体	980 100.0	22 2.2	28 2.9	16 1.6	54 5.5	50 5.1	34 3.5	36 3.7	58 5.9	57 5.8	5 0.5
18歳・19歳	4 100.0	— —	— —	— —	2 50.0	— —	— —	— —	— —	1 25.0	— —
20歳代	106 100.0	2 1.9	4 3.8	2 1.9	8 7.5	9 8.5	2 1.9	— —	16 15.1	3 2.8	— —
30歳代	166 100.0	4 2.4	5 3.0	2 1.2	7 4.2	7 4.2	4 2.4	6 3.6	12 7.2	9 5.4	— —
40歳代	135 100.0	3 2.2	3 2.2	1 0.7	6 4.4	5 3.7	6 4.4	3 2.2	2 1.5	10 7.4	— —
50歳代	157 100.0	4 2.5	6 3.8	5 3.2	7 4.5	8 5.1	5 3.2	4 2.5	9 5.7	12 7.6	— —
60～64歳	68 100.0	1 1.5	1 1.5	2 2.9	4 5.9	1 1.5	3 4.4	4 5.9	5 7.4	4 5.9	— —
65～69歳	63 100.0	1 1.6	— —	— —	1 1.6	4 6.3	1 1.6	5 7.9	2 3.2	6 9.5	— —
70～74歳	85 100.0	2 2.4	2 2.4	— —	5 5.9	4 4.7	3 3.5	6 7.1	3 3.5	3 3.5	— —
75～79歳	65 100.0	1 1.5	3 4.6	— —	3 4.6	5 7.7	5 7.7	3 4.6	2 3.1	1 1.5	— —
80～84歳	67 100.0	2 3.0	1 1.5	3 4.5	9 13.4	4 6.0	3 4.5	2 3.0	4 6.0	4 6.0	— —
85～89歳	37 100.0	1 2.7	3 8.1	— —	1 2.7	2 5.4	2 5.4	2 5.4	2 5.4	1 2.7	— —
90歳以上	19 100.0	1 5.3	— —	1 5.3	1 5.3	1 5.3	— —	1 5.3	1 5.3	3 15.8	— —

【日常的な家族の介護の有無別】対象者の属性

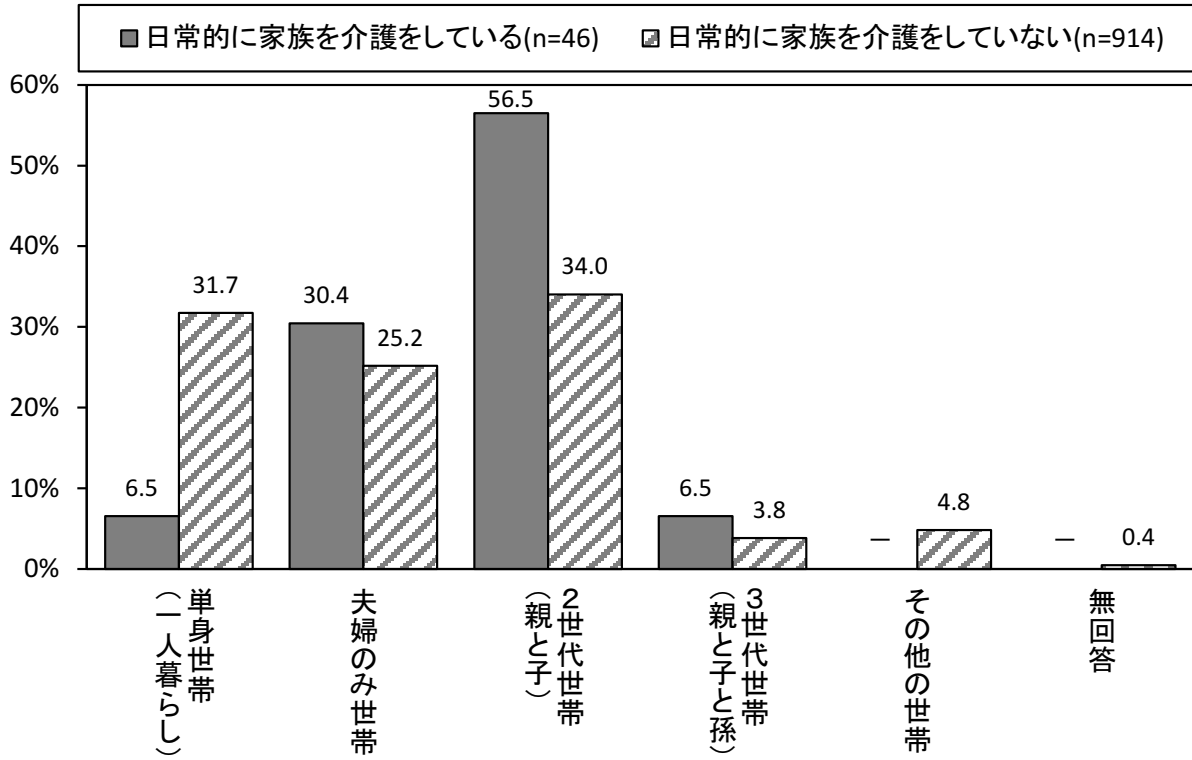
■ 【介護の有無別】性別・年齢



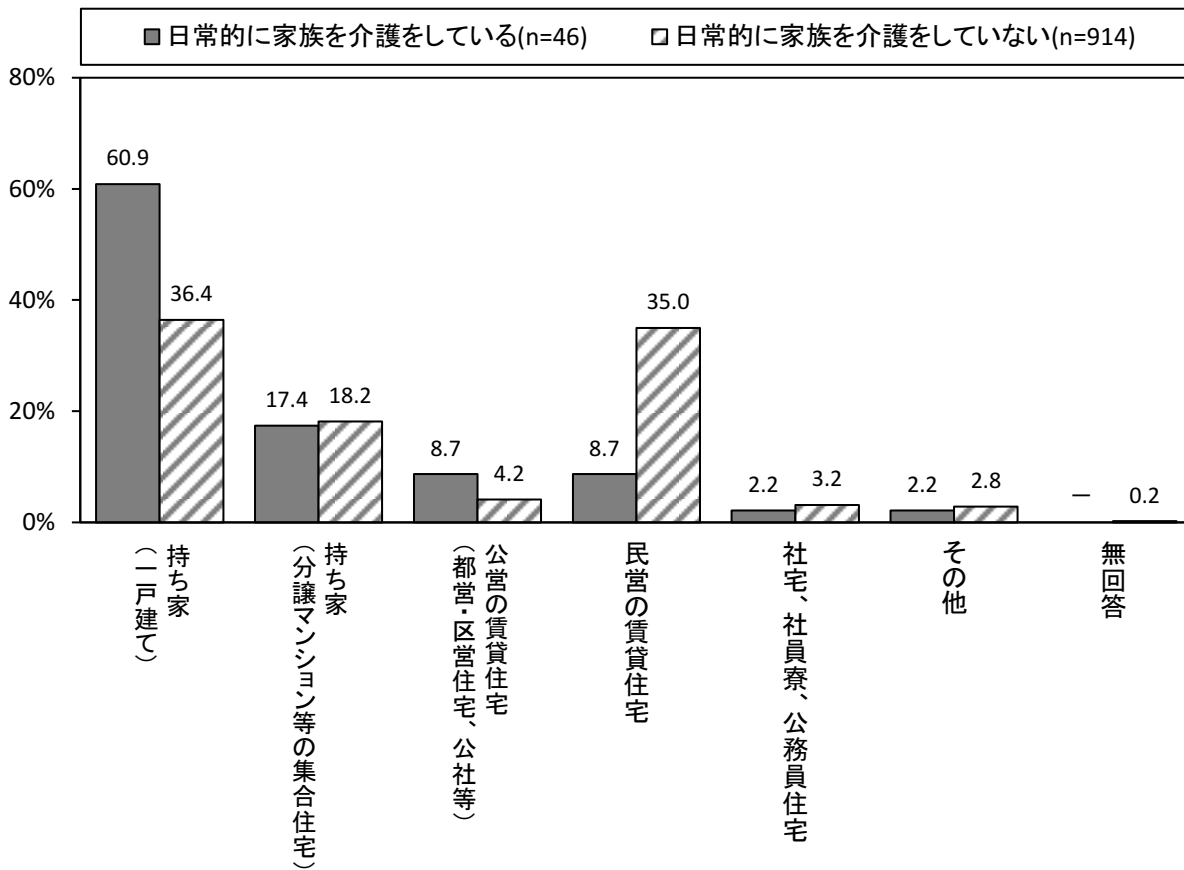
■ 【介護の有無別】職業



■【介護の有無別】世帯構成

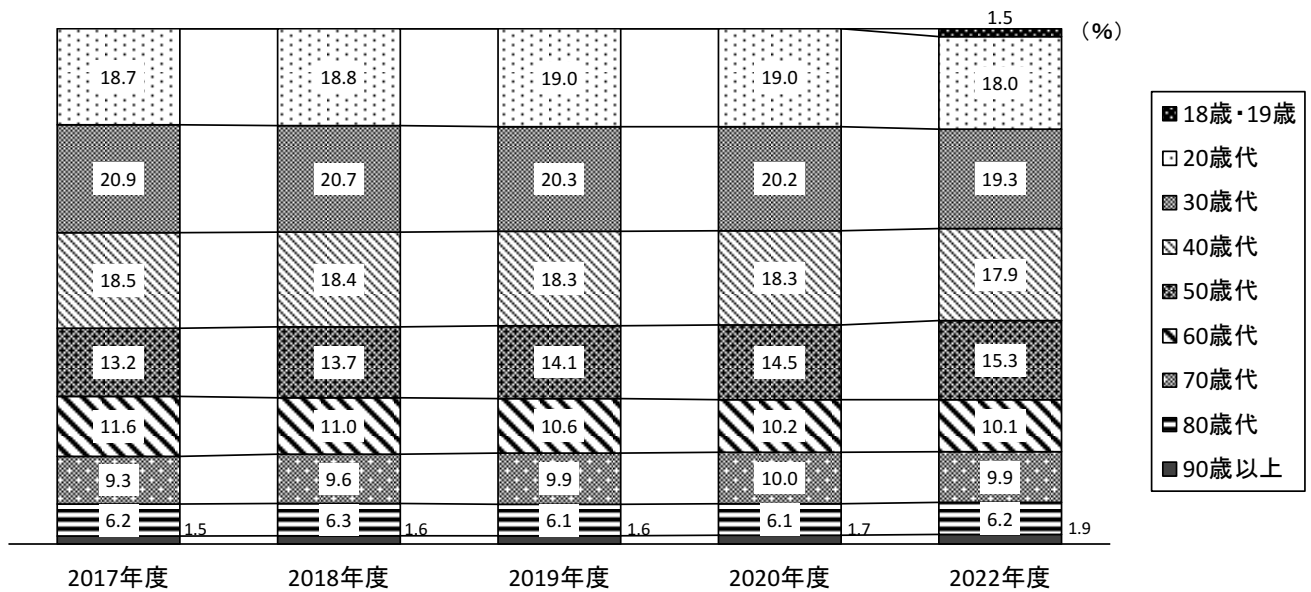


■【介護の有無別】住居形態

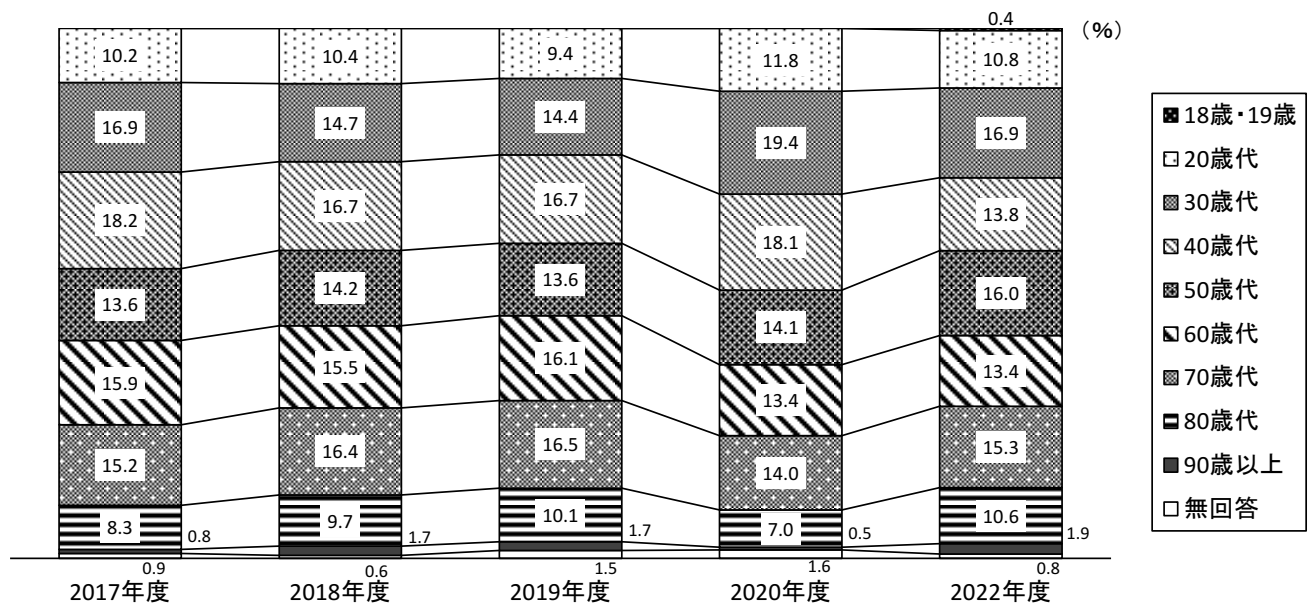


10. 母集団と調査回答者の推移

■【年代別】母集団



■【年代別】回答者



※2020年度までは満20歳以上の区民を調査対象としていたが、2022年度は満18歳以上の区民を調査対象とした。

Ⅲ 調査結果の分析

1. 地域活動について

1.1. 地域の活動への参加

◆参加している地域活動の中で、最も高いのは「町会・自治会の活動」

(全員の方に)

問1. あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。(あてはまるものすべてに○)

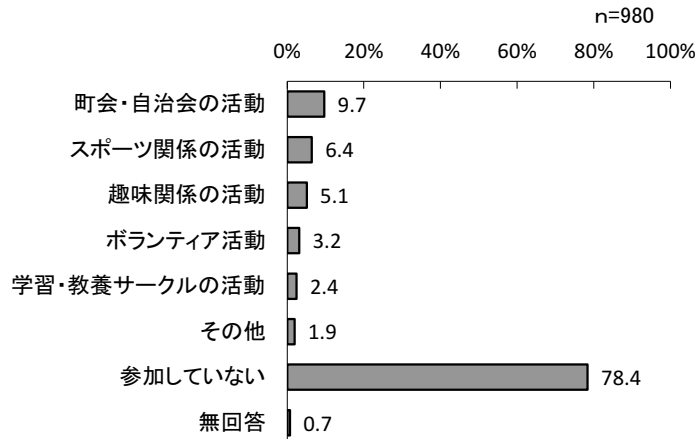


図1-1 参加している地域活動

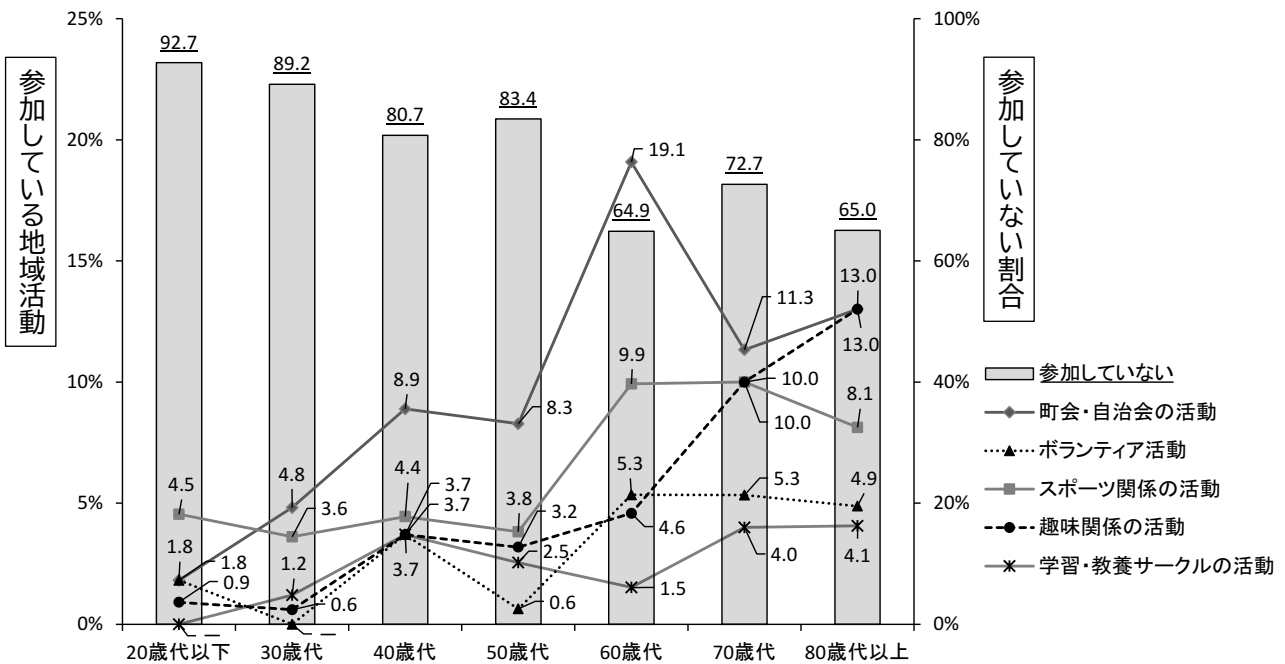
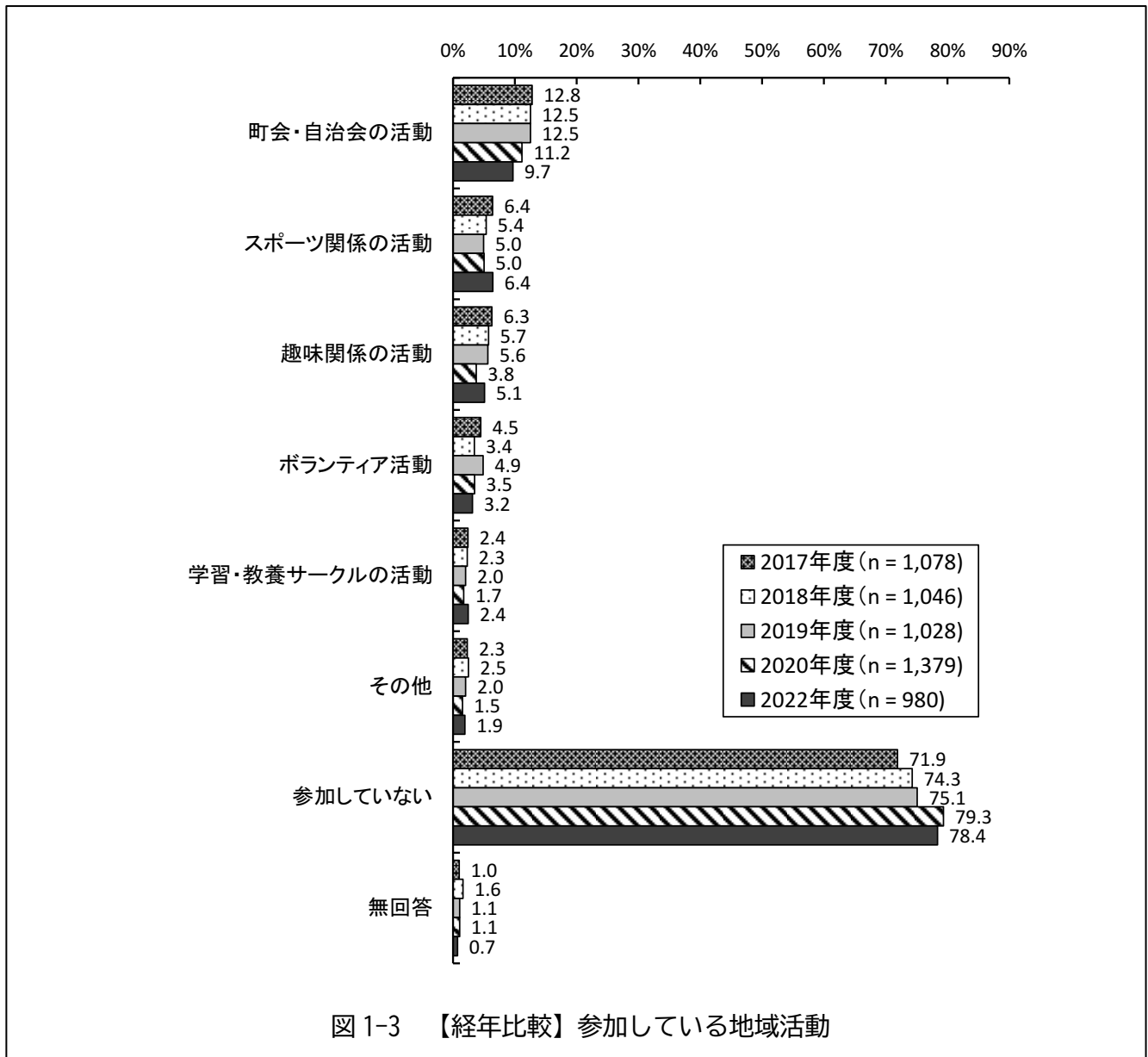


図1-2 【年代別】参加している地域活動

地域活動への参加状況は、「参加していない」(78.4%)が最も高くなっている。年代別にみると、30歳代以下で「参加していない」の割合が9割前後と高くなっている。参加している地域の活動としては「町会・自治会の活動」が60歳代で約2割と他の年代と比較して高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられないが、「町会・自治会の活動」の割合は減少傾向にある。

1.2. 近所とのつきあいの程度

◆親しくおつきあいしている割合は70歳代で約2割

(全員の方に)

問2. あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(○は1つ)

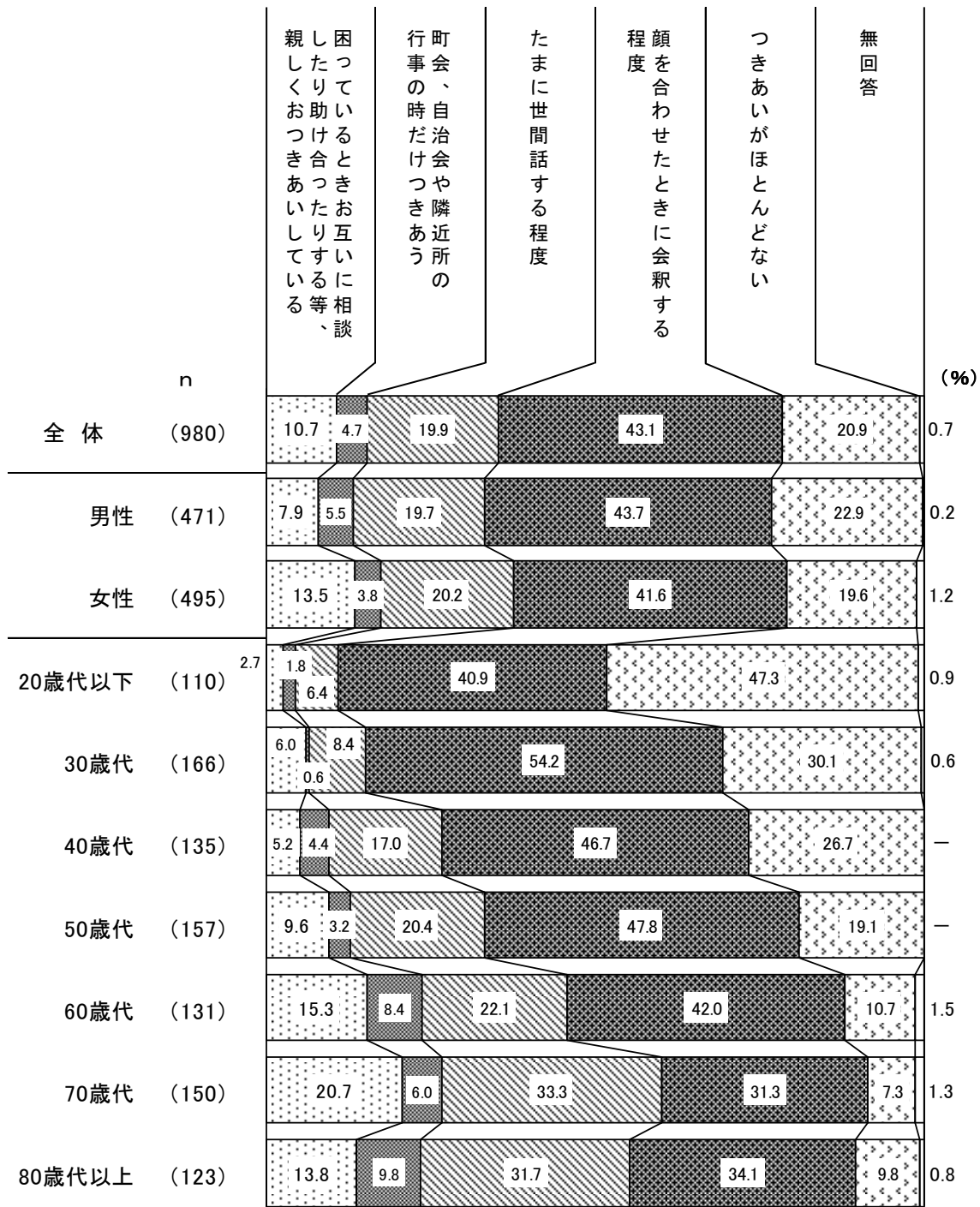
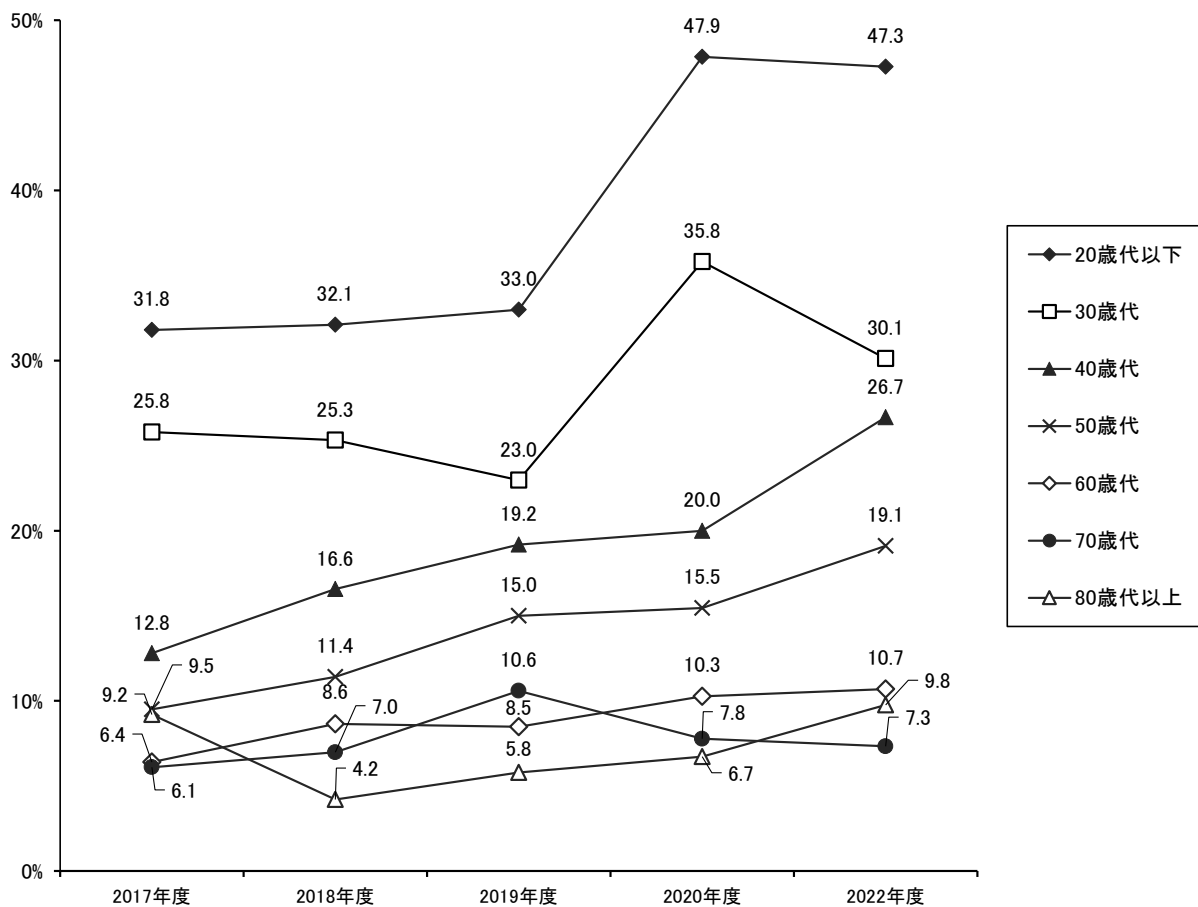


図1-4 【性・年代別】近所とのつきあいの程度

ご近所とのつきあいの程度としては、「顔を合わせたときに会釈する程度」(43.1%)が最も高くなっている。性別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」は、女性(13.5%)が男性(7.9%)を5.6ポイント上回っている。年代別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、70歳代で約2割と高くなっている。

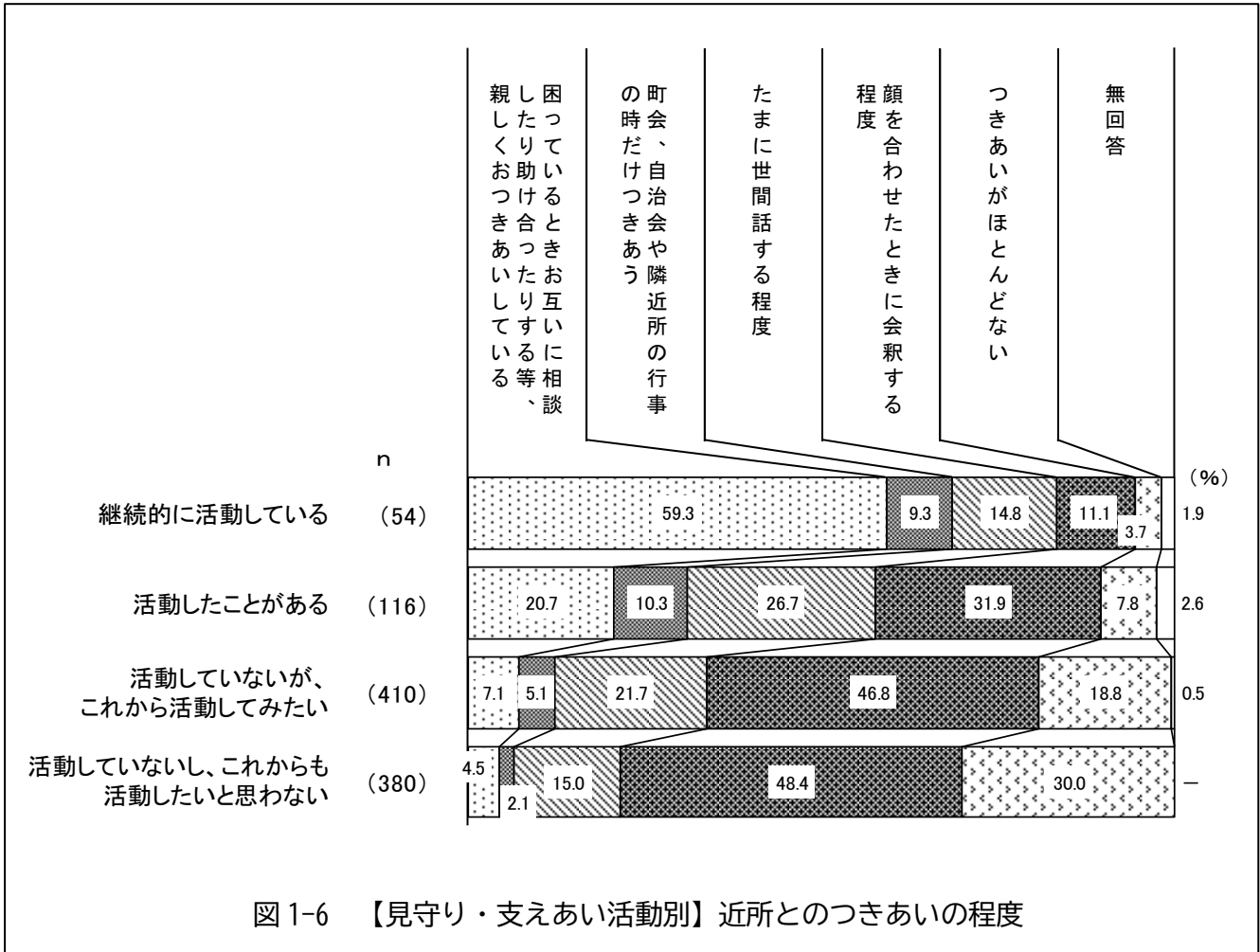
■年代別 「つきあいがほとんどない」の割合



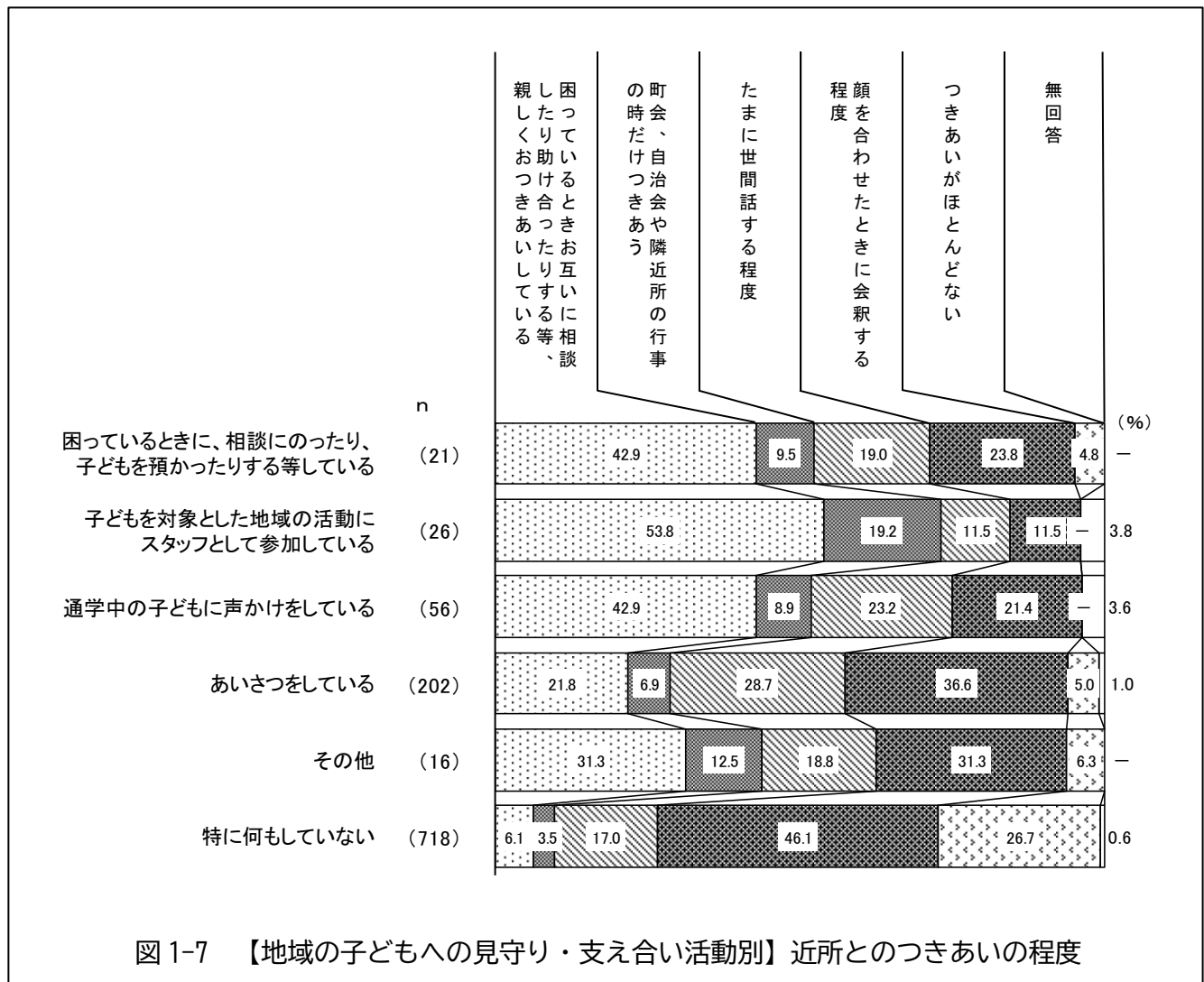
※2022年度から18歳・19歳を調査対象としているため、2020年度以前は「20歳代以下」ではなく「20歳代」。
以下、年代別クロス集計の経年比較は全て同様。

図1-5 【経年比較】近所とのつきあいの程度

経年で比較すると、いずれの年度も「つきあいがほとんどない」の割合が20歳代以下で最も高くなっており、次いで30歳代の割合が高くなっている。



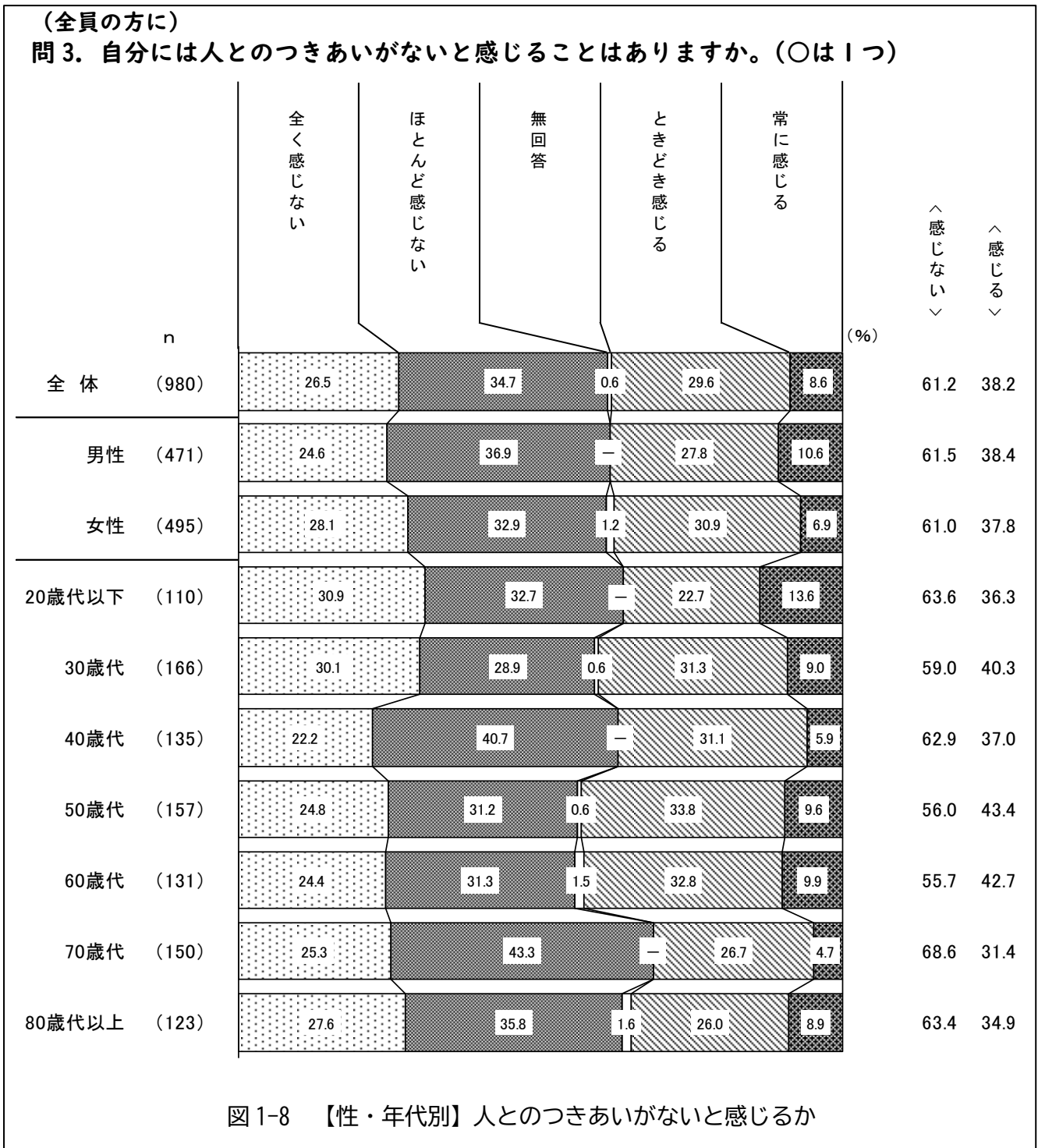
見守り・支えあい活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」の割合は、継続的に活動している人や活動したことがある人で高くなっており、継続的に活動している人で約6割、活動したことがある人で約2割となっている。



地域の子どもへの見守り・支え合い活動別にみると、「困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている」は、何らかの見守り・支え合い活動をしている人の方が割合が高くなっている。一方、「つきあいがほとんどない」と「顔を合わせたときに会釈する程度」は、特に何もしていない人の方が割合が高くなっている。

1.3. 人とのつきあいがないと感じるか

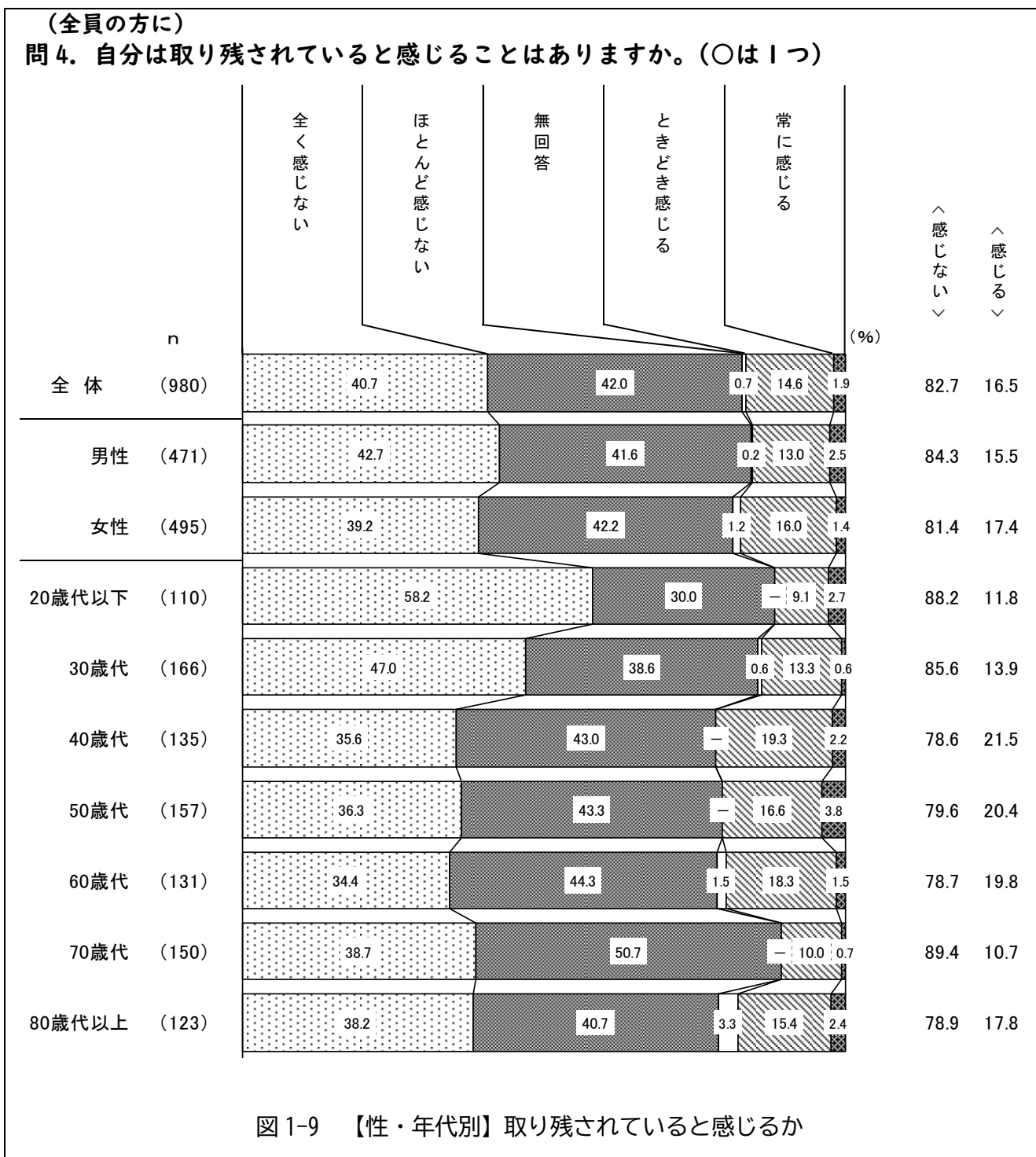
◆人とのつきあいがないと感じる<>は3割台後半



人とのつきあいがないと感じるかどうかは、「全く感じない」(26.5%)と「ほとんど感じない」(34.7%)を合わせた<感じない>が約6割であるのに対し、「ときどき感じる」(29.6%)と「常に感じる」(8.6%)を合わせた<感じる>は3割台後半となっている。年代別にみると、50歳~60歳代で<感じる>、20歳代以下で「常に感じる」の割合がやや高くなっている。

1.4. 取り残されていると感じるか

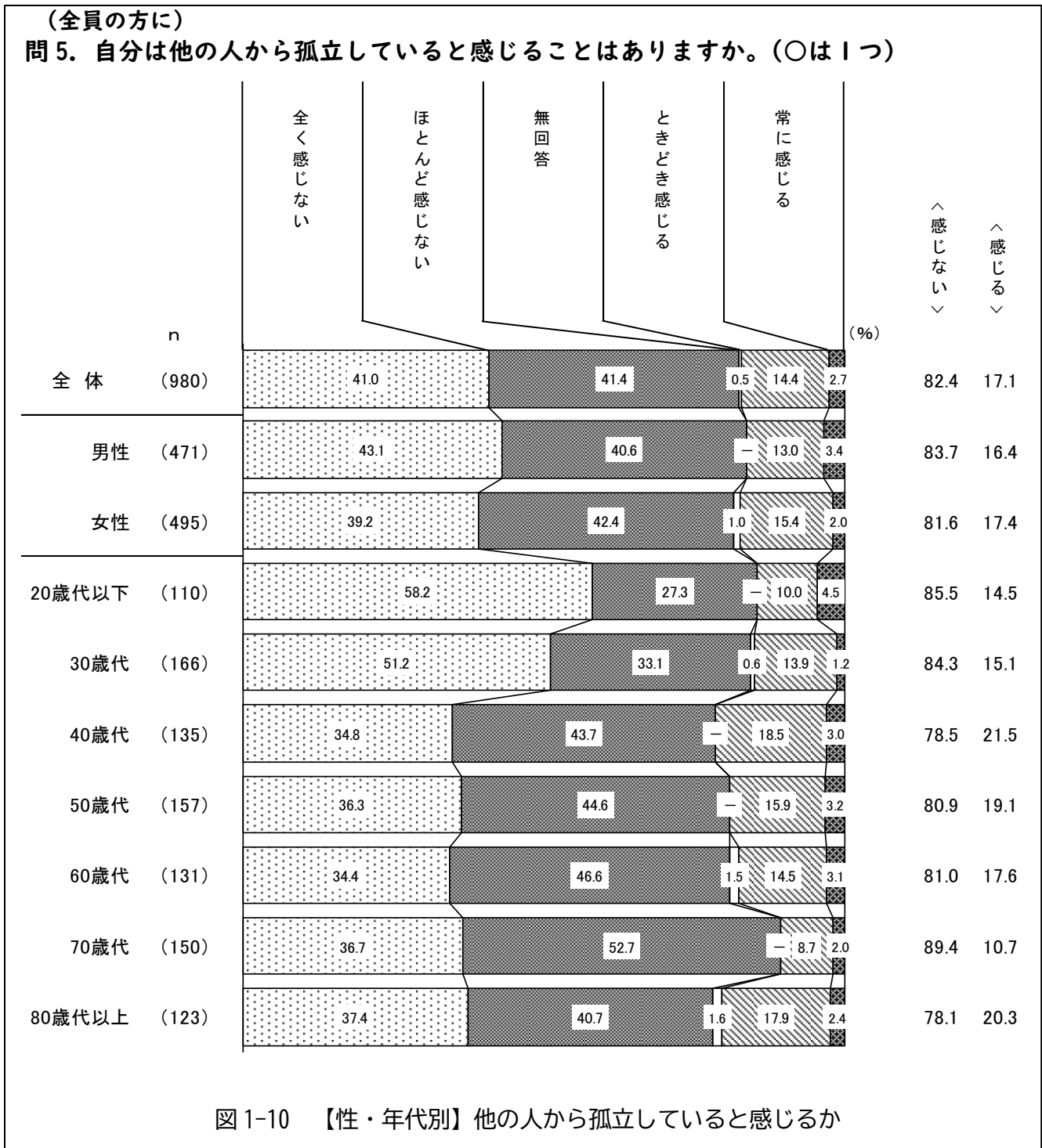
◆取り残されていると<感じる>は1割台半ば



自分は取り残されていると感じるかどうかは、「全く感じない」(40.7%)と「ほとんど感じない」(42.0%)を合わせた<感じない>が8割台前半であるのに対し、「ときどき感じる」(14.6%)と「常に感じる」(1.9%)を合わせた<感じる>は1割台半ばとなっている。年代別にみると、40歳~60歳代で<感じる>の割合がやや高くなっている。

1.5. 他の人から孤立していると感じるか

◆他の人から孤立していると感じるは1割台後半



他の人から孤立していると感じるかどうかは、「全く感じない」(41.0%)と「ほとんど感じない」(41.4%)を合わせた〈感じない〉が8割台前半であるのに対し、「ときどき感じる」(14.4%)と「常に感じる」(2.7%)を合わせた〈感じる〉は1割台後半となっている。年代別にみると、40歳代と80歳代以上で〈感じる〉の割合がやや高くなっている。

1.6. 相談相手

◆相談相手は「知人・友人」が5割台後半

(全員の方に)

問6. あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できるのは誰ですか。
(あてはまるものすべてに○)

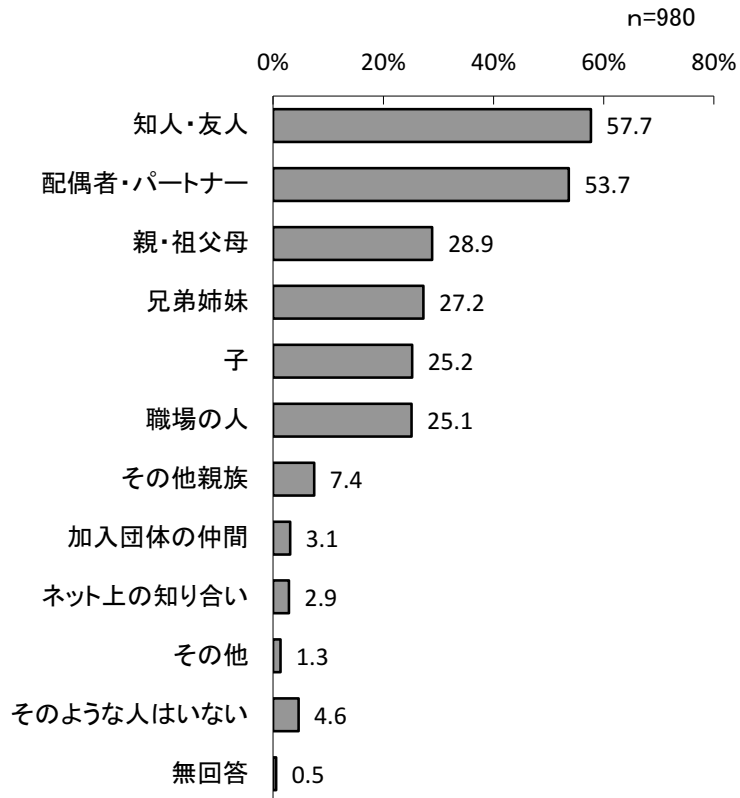


図 1-11 相談相手

心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できる相手は、「知人・友人」が 57.7%で最も高く、次いで「配偶者・パートナー」(53.7%)、「親・祖父母」(28.9%)となっている。

表 1-1 【年代別】上位 5 項目 相談相手

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	知人・友人 76.4	親・祖父母 70.0	配偶者・パートナー 46.4	職場の人 35.5	兄弟姉妹 23.6
30歳代 n=166	配偶者・パートナー 66.9	知人・友人 66.3	親・祖父母 51.2	職場の人 38.6	兄弟姉妹 24.7
40歳代 n=135	知人・友人 68.1	配偶者・パートナー 56.3	親・祖父母 48.1	職場の人 38.5	兄弟姉妹 31.1
50歳代 n=157	配偶者・パートナー 61.8	知人・友人 56.1	職場の人 35.7	親・祖父母 26.8	子 22.3
60歳代 n=131	知人・友人 56.5	配偶者・パートナー 54.2	子 35.1	兄弟姉妹 32.8	職場の人 15.3
70歳代 n=150	配偶者・パートナー 53.3	知人・友人 49.3	子 48.0	兄弟姉妹 36.7	その他親族 10.0
80歳代以上 n=123	子 60.2	知人・友人 30.9	配偶者・パートナー 27.6	兄弟姉妹 19.5	その他親族 10.6

心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できる相手を年代別にみると、20歳代以下で「知人・友人」、30歳代で「配偶者・パートナー」、80歳代以上で「子」の割合が特に高くなっている。

1.7. 家族や友人以外の相談先

◆家族や友人以外の相談先は「そのような人はいない」が6割台半ば

(全員の方に)

問7. 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

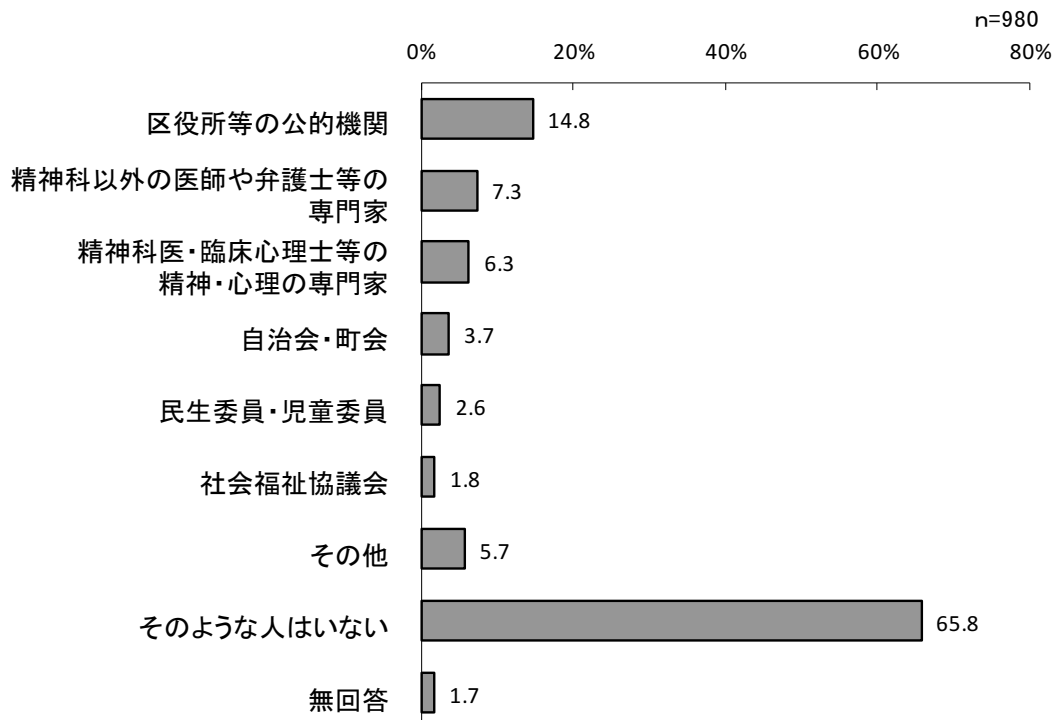


図 1-12 家族や友人以外の相談先

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関は、「そのような人はいない」が65.8%で最も高く、次いで「区役所等の公的機関」(14.8%)となっている。

表 1-2 【年代別】上位5項目 家族や友人以外の相談先

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	そのような人はいない 78.2	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 11.8	区役所等の公的機関 8.2	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 2.7	自治会・町会 0.9
30歳代 n=166	そのような人はいない 75.9	区役所等の公的機関 10.8	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 9.0	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 3.6	自治会・町会／民生委員・児童委員 0.6
40歳代 n=135	そのような人はいない 73.3	区役所等の公的機関 14.1	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 8.1	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 6.7	社会福祉協議会 4.4
50歳代 n=157	そのような人はいない 66.9	区役所等の公的機関 14.0	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 8.3	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 5.1	民生委員・児童委員／社会福祉協議会 1.9
60歳代 n=131	そのような人はいない 61.8	区役所等の公的機関 14.5	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 9.9	自治会・町会 4.6	精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家 3.8
70歳代 n=150	そのような人はいない 56.0	区役所等の公的機関 19.3	精神科以外の医師や弁護士等の専門家 12.7	自治会・町会 6.7	民生委員・児童委員 4.0
80歳代以上 n=123	そのような人はいない 48.8	区役所等の公的機関 21.1	自治会・町会 12.2	民生委員・児童委員／精神科以外の医師や弁護士等の専門家 7.3	

家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関を年代別にみると、いずれの年代でも「そのような人はいない」が最も高く、若い年代ほどその割合が高くなっている。

1.8. 必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動

◆必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動は「日常的な声かけ」が約5割

(全員の方に)

問8. あなたは、地域で生活していくうえで、近隣同士のどのような見守り・支えあい活動が必要だと思いますか(あてはまるものすべてに○)

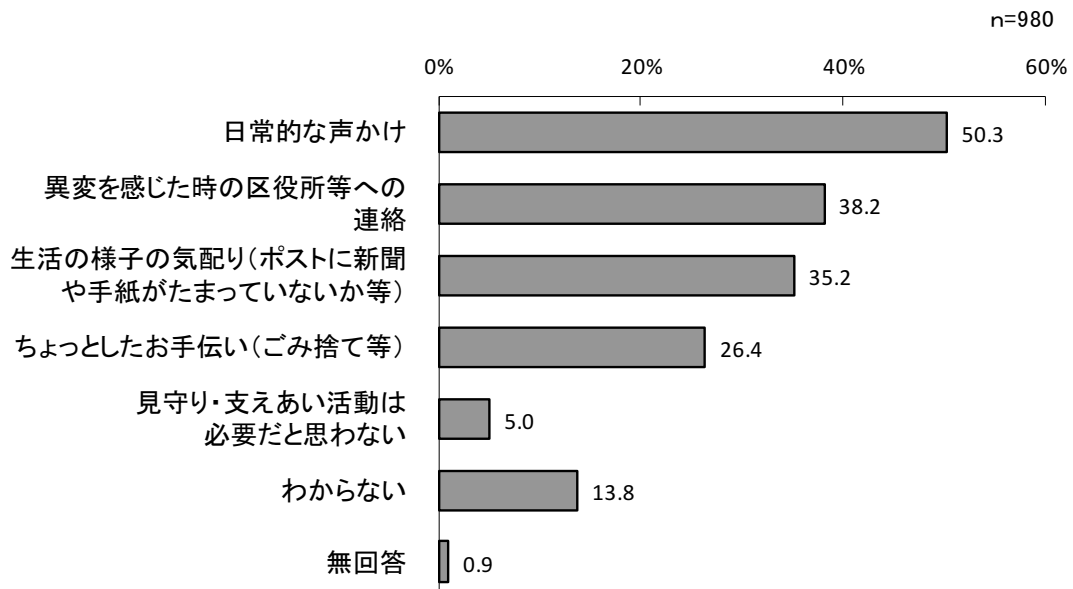
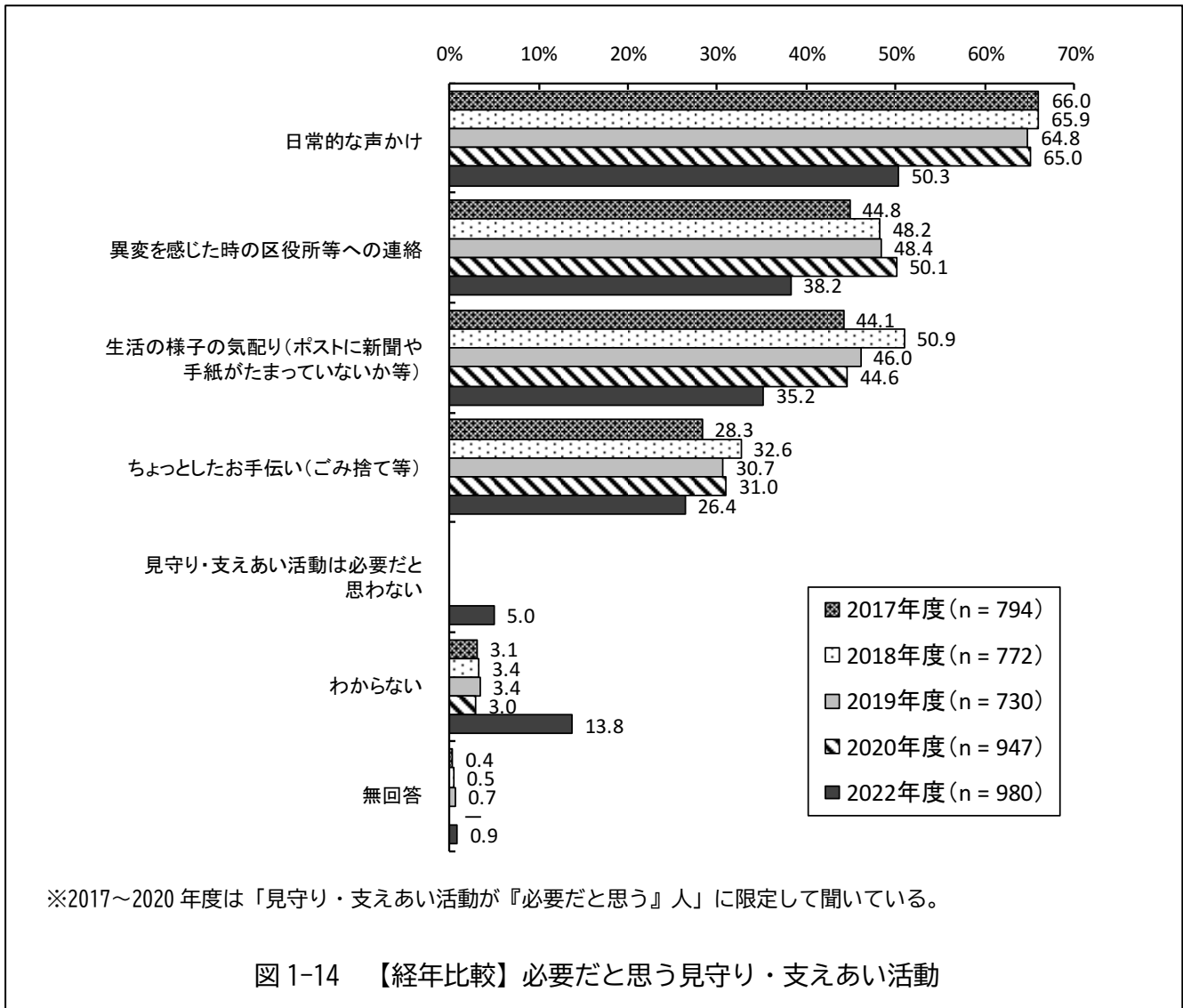


図1-13 必要だと思う見守り・支えあい活動

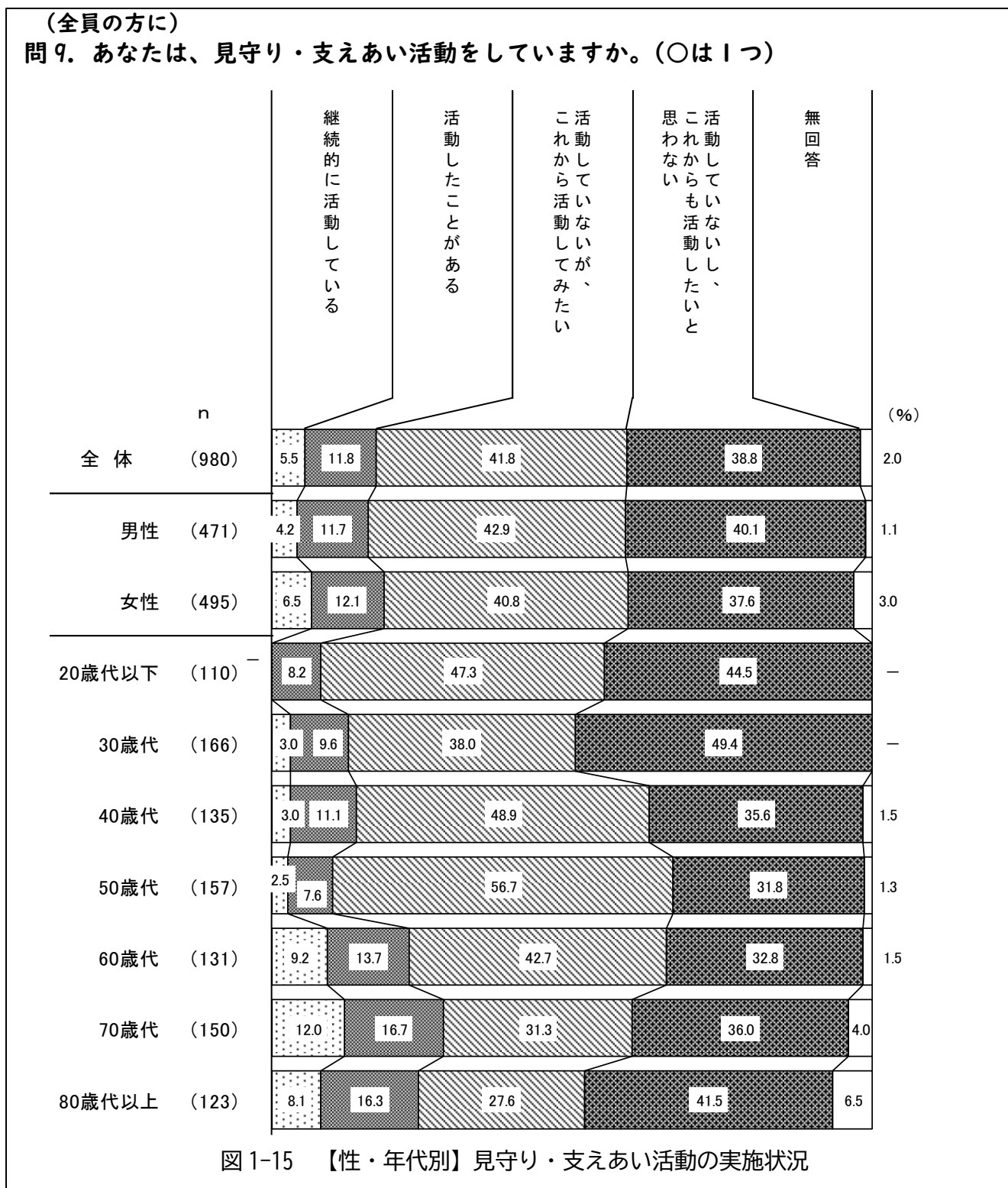
必要だと思う近隣同士の見守り・支えあい活動は、「日常的な声かけ」が50.3%で最も高く、次いで「異変を感じた時の区役所等への連絡」(38.2%)、「生活の様子の気配り(ポストに新聞や手紙がたまっていないか等)」(35.2%)となっている。



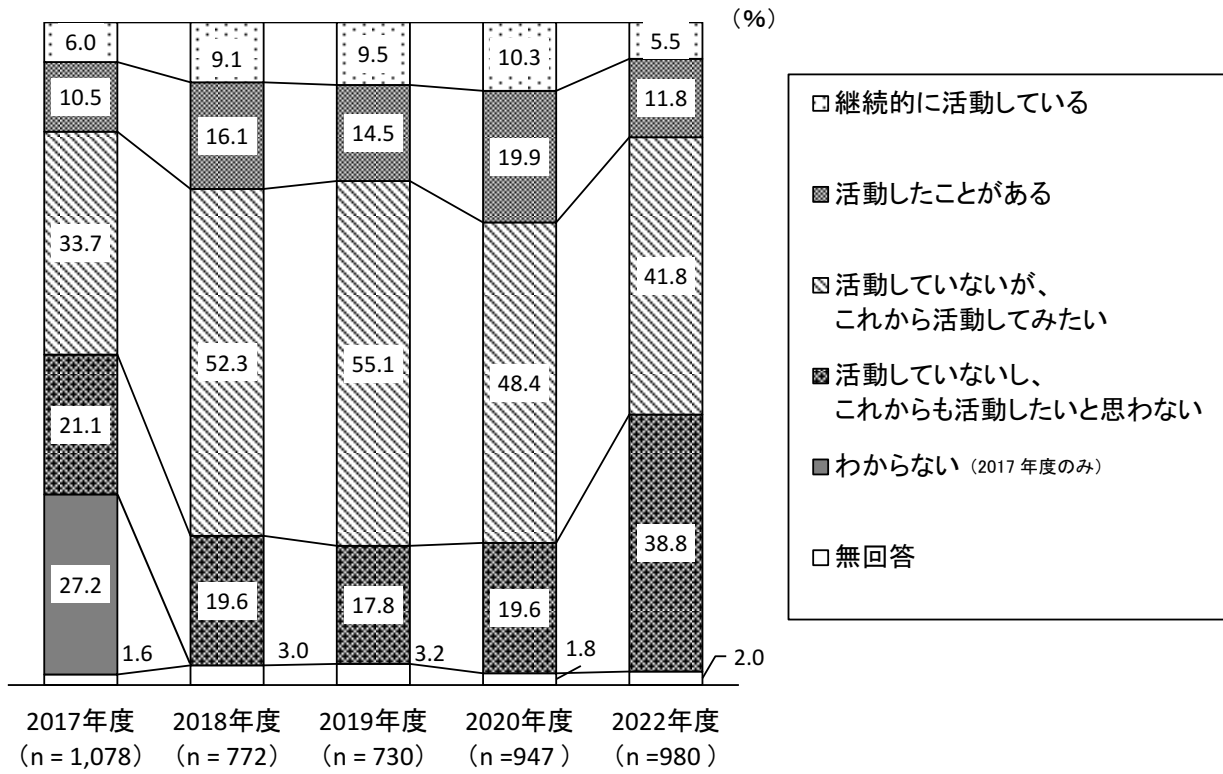
質問の形式が異なるため、経年比較は参考までに掲載する。

1.9. 見守り・支えあい活動の実施状況

◆見守り・支えあい活動を「これからしてみたい」人が約4割



見守り・支えあい活動の実施状況は、「活動していないが、これから活動してみたい」(41.8%)が最も高くなっている。年代別にみると、70歳代で「継続的に活動している」、50歳代で「活動していないが、これから活動してみたい」、30歳代で「活動していませんし、これから活動したいと思わない」の割合が特に高くなっている。



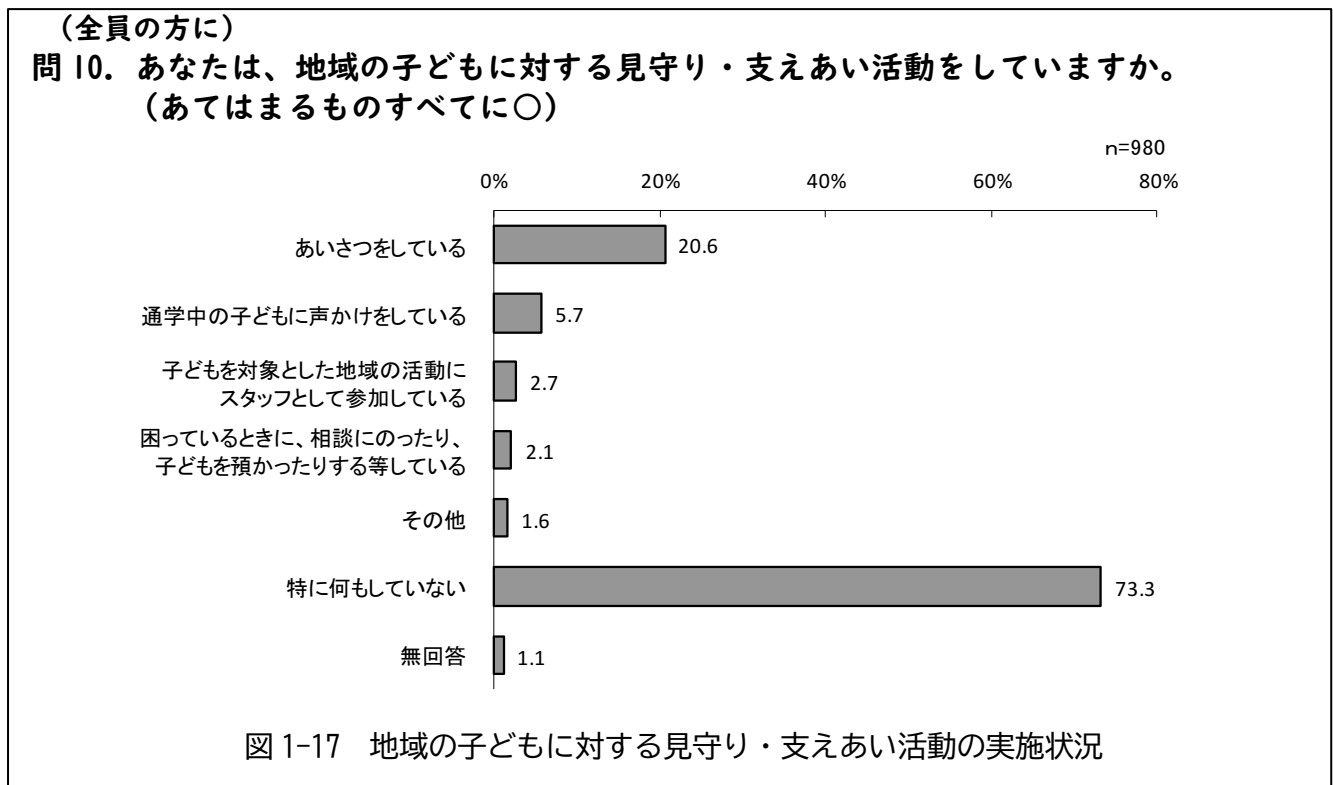
※2017年度は「全員の方」を調査対象としており、また、「わからない」の選択肢を設定していた。
 ※2018～2020年度は「見守り・支えあい活動が『必要だと思う』人」に限定して聞いている。

図 1-16 【経年比較】見守り・支えあい活動の実施状況

質問の形式が異なるため、経年比較は参考までに掲載する。

1.10. 地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況

◆子どもに対する見守り・支えあい活動を「特に何もしていない」が7割台前半



地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況は、「特に何もしていない」が 73.3%と最も高く、次いで「あいさつをしている」(20.6%)となっている。

表 1-3 【性・年代別】地域の子どもに対する見守り・支えあい活動の実施状況

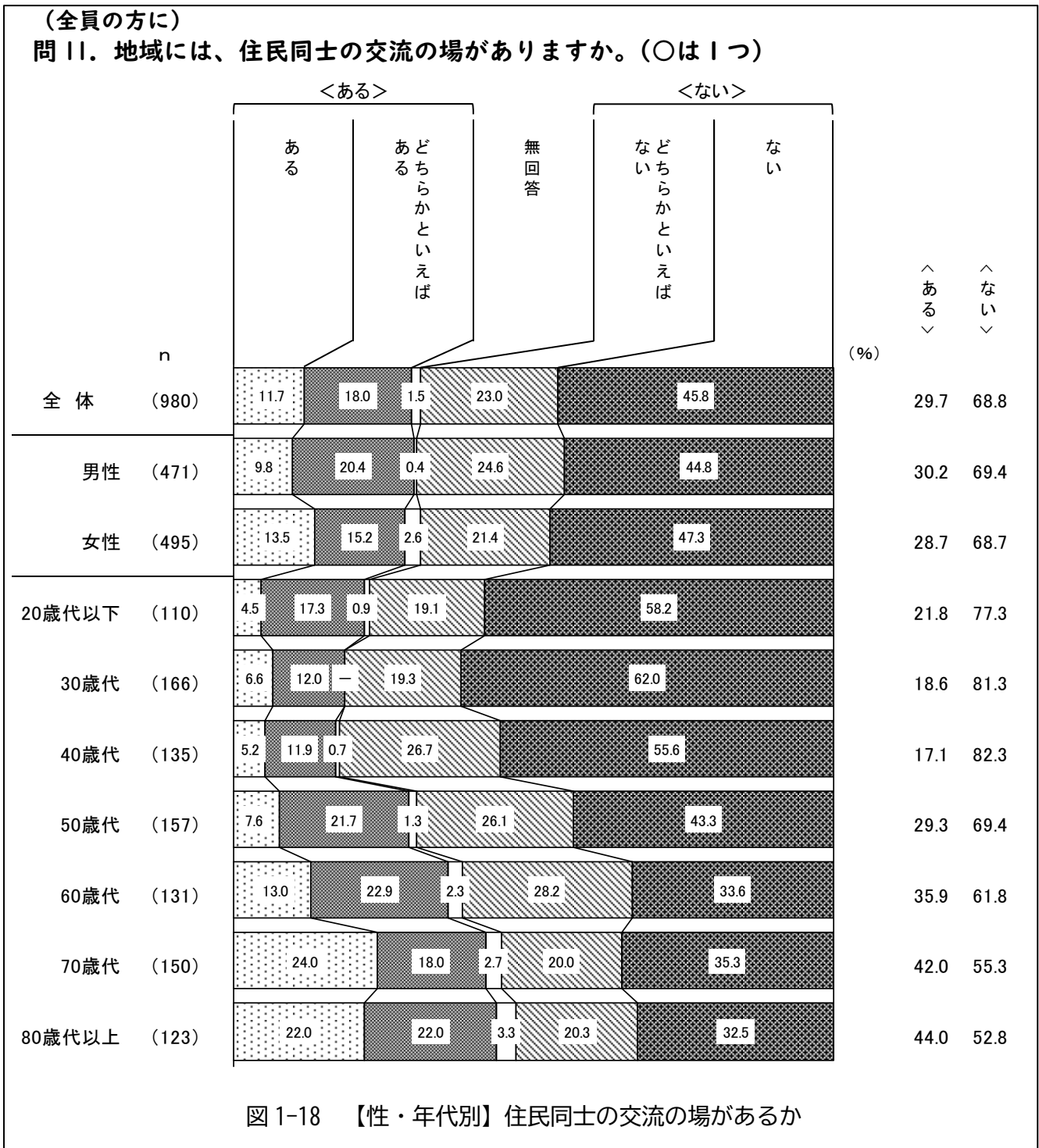
単位：%

区分	有効回答数(件)	困りつつある等しているときに、相談にのる	参加しているスタッフとした地域	子どもを対象とした地域	通学中の子どもに声をかけている	あいさつをしている	その他	特に何もしていない	無回答
全体	980	2.1	2.7	5.7	20.6	1.6	73.3	1.1	
男性	471	2.3	2.3	3.4	19.7	1.5	75.6	0.4	
女性	495	2.0	2.8	7.7	21.0	1.8	71.5	1.8	
20歳代以下	110	0.9	2.7	0.9	10.0	—	86.4	—	
30歳代	166	3.0	1.2	1.2	15.1	1.2	80.7	—	
40歳代	135	2.2	3.0	7.4	27.4	1.5	65.9	1.5	
50歳代	157	1.3	1.9	4.5	21.7	0.6	75.8	—	
60歳代	131	3.1	3.1	3.8	24.4	3.1	70.2	—	
70歳代	150	3.3	2.7	12.7	23.3	2.0	67.3	2.0	
80歳代以上	123	0.8	4.9	8.9	19.5	3.3	68.3	4.9	

性別にみると、「特に何もしていない」は男性(75.6%)が女性(71.5%)を4.1ポイント上回っている。年代別にみると、いずれの年代でも「特に何もしていない」の割合が最も高く、特に30歳代以下で8割を超えて高くなっている。

1.11. 地域における住民同士の交流の場の有無

◆住民同士の交流の場が<ない>が6割台後半



地域における住民同士の交流の場の有無は、「どちらかといえはない」(23.0%)と「ない」(45.8%)を合わせた<ない>が6割台後半であるのに対し、「ある」(11.7%)と「どちらかといえはある」(18.0%)を合わせた<ある>は約3割となっている。年代別にみると、30歳~40歳代で<ない>が8割を超えて特に高くなっている。

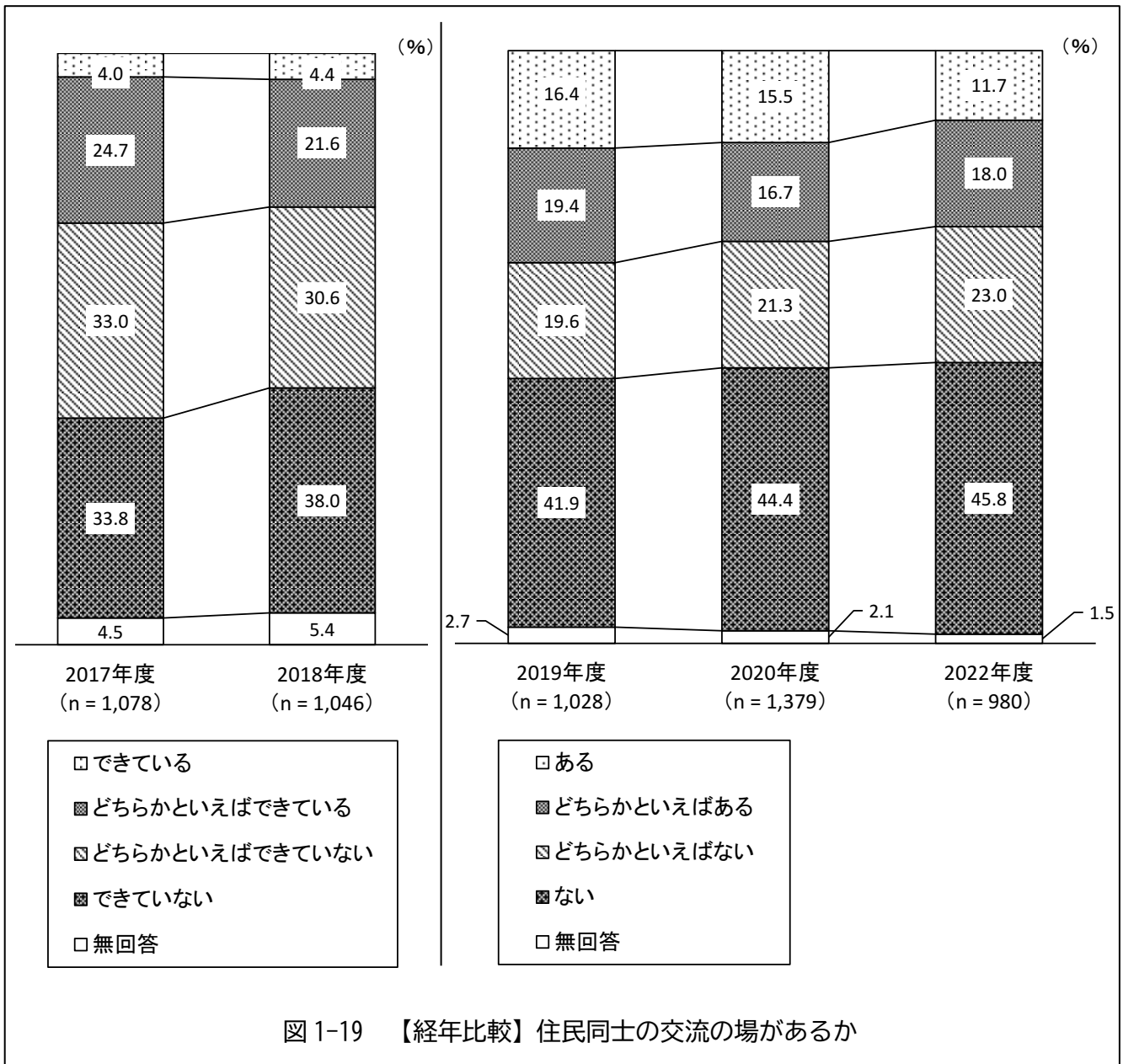


図 1-19 【経年比較】住民同士の交流の場があるか

2018 年度までは「交流する『場づくり』ができていないか」について調査しているため、参考として 2017 年度から 2018 年度までの結果を掲載する。経年で比較すると、＜ある＞の割合は減少傾向となっている。

1.12. 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

◆障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が約3割

(全員の方に)

問 12. 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。(〇は3つまで)

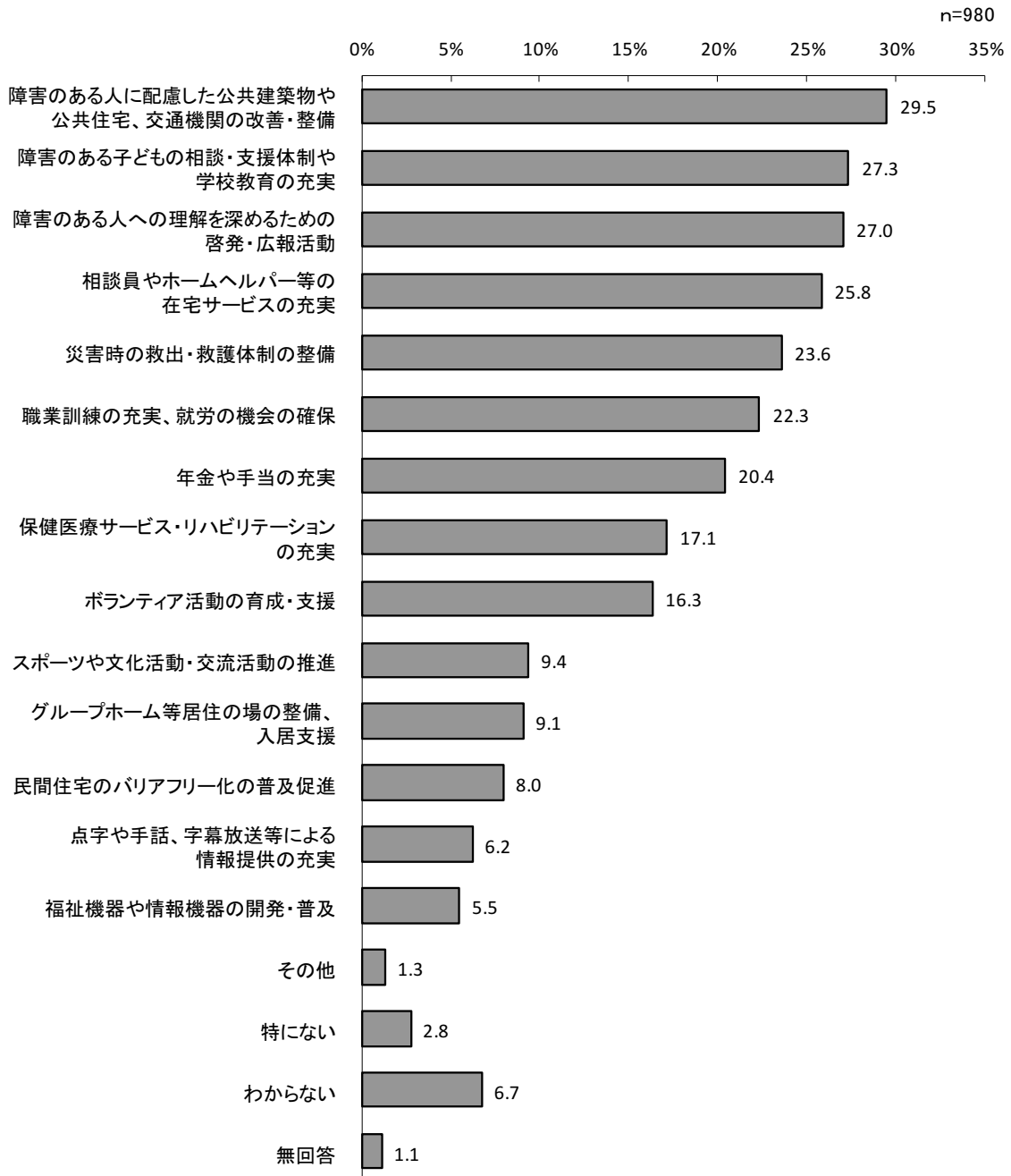


図 1-20 障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策は、「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」が29.5%で最も高く、次いで「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」(27.3%)、「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」(27.0%)、「相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実」(25.8%)となっている。

表1-4 【年代別】上位5項目 障害のある人となない人が
共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 35.5	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 33.6	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 30.0	年金や手当の充実 22.7	職業訓練の充実、就労の機会の確保 21.8
30歳代 n=166	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 33.7	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 30.1	職業訓練の充実、就労の機会の確保 25.9	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 24.7	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 24.1
40歳代 n=135	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 33.3	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 29.6	職業訓練の充実、就労の機会の確保／災害時の救出・救護体制の整備 24.4	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 23.0	
50歳代 n=157	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実 28.7	職業訓練の充実、就労の機会の確保／相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 28.0	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 26.8	災害時の救出・救護体制の整備 26.1	
60歳代 n=131	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 34.4	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 30.5	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 25.2	職業訓練の充実、就労の機会の確保／災害時の救出・救護体制の整備 23.7	
70歳代 n=150	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 34.0	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 30.7	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 28.7	災害時の救出・救護体制の整備 26.7	障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実／年金や手当の充実 24.0
80歳代以上 n=123	相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実 27.6	災害時の救出・救護体制の整備 24.4	障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動 22.8	障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備 20.3	ボランティア活動の育成・支援／年金や手当の充実 17.9

障害のある人となない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策を年代別にみると、20歳代以下と40歳～50歳代では「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」、30歳代では「障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備」、60歳代では「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」、70歳代以上では「相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実」が1位となっている。

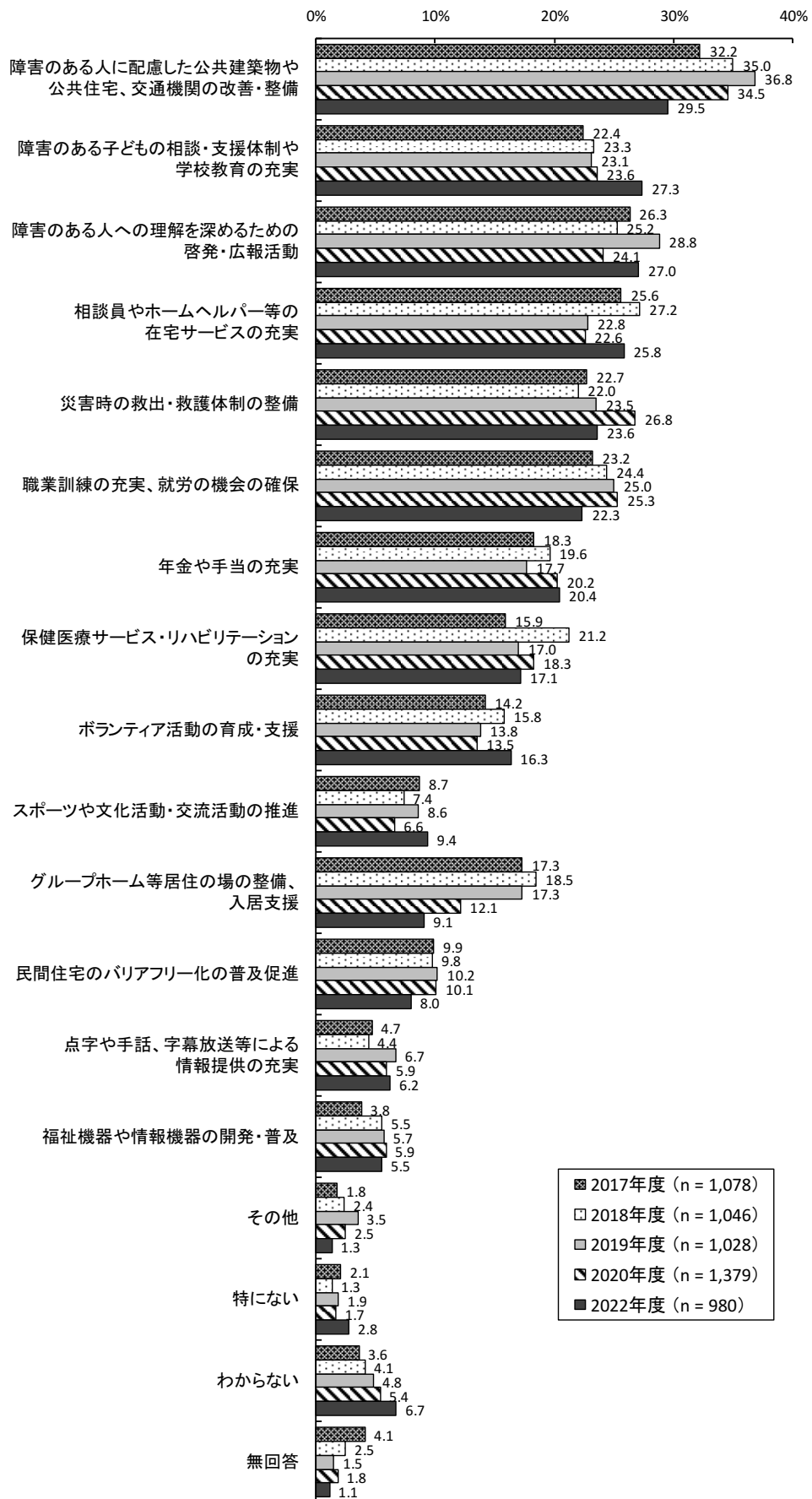
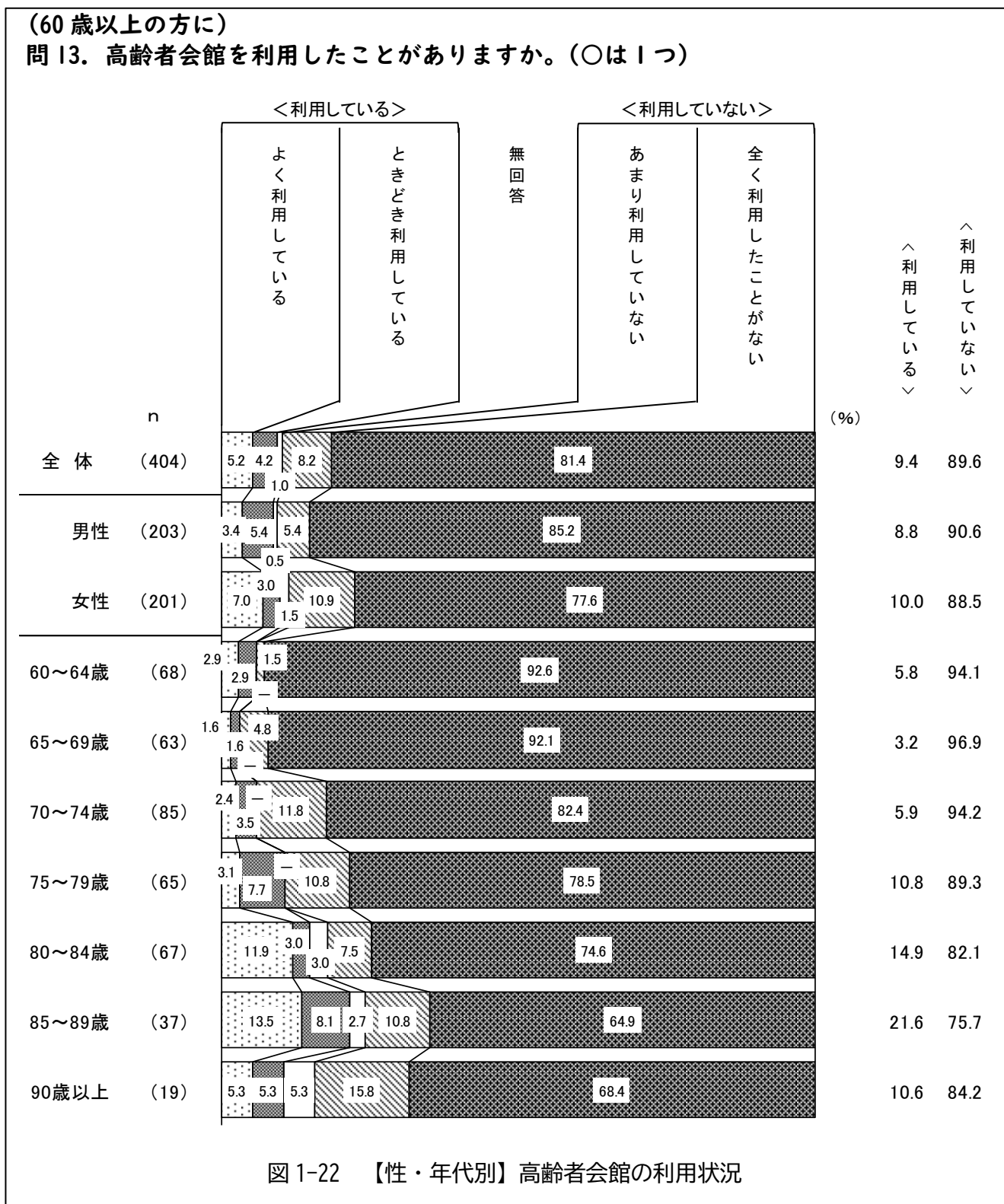


図 1-21 【経年比較】障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために重要な行政施策

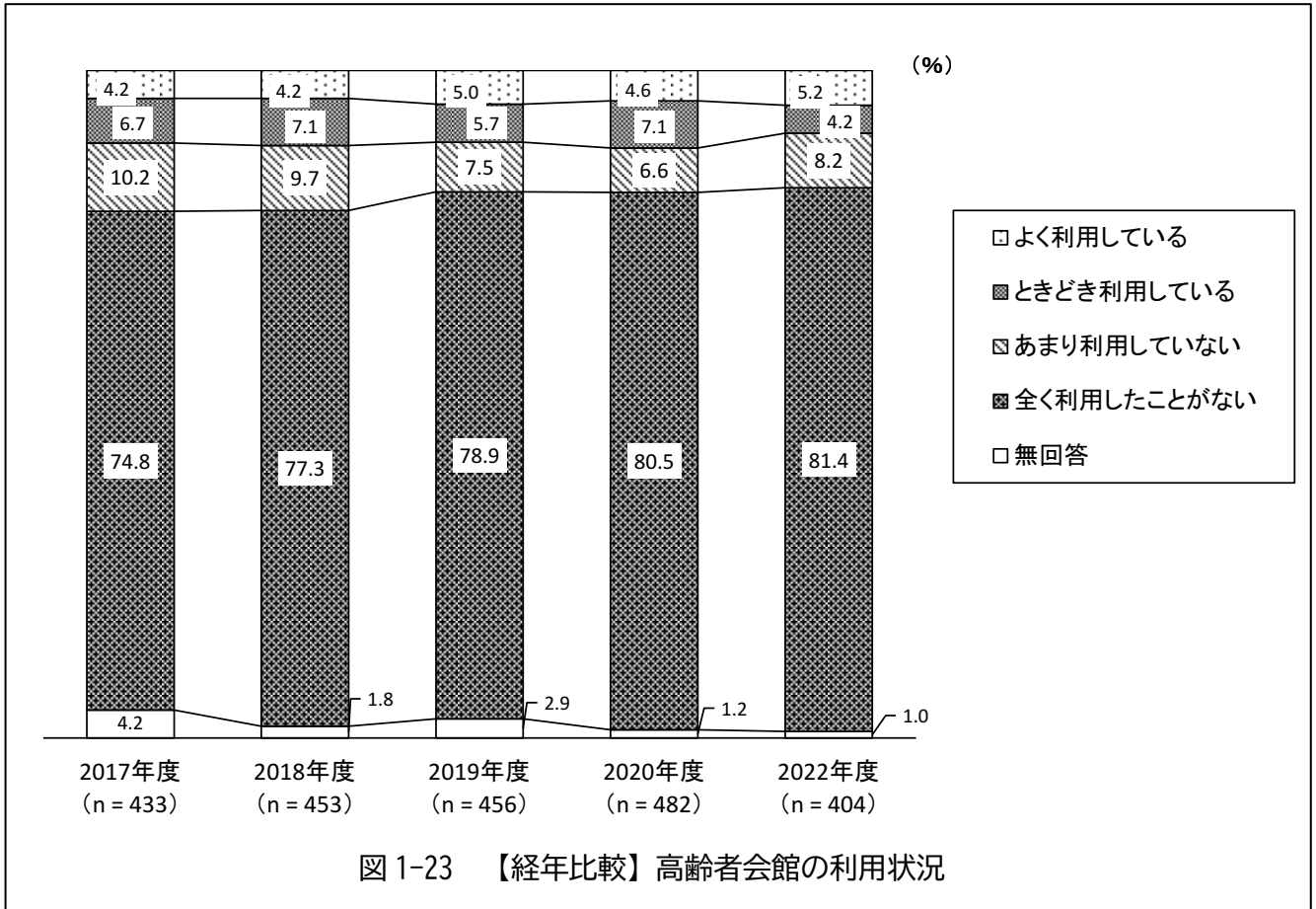
経年で比較すると、「障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実」が増加している。

1.13. 高齢者会館の利用状況

◆高齢者会館を<利用している>は約1割



60歳以上の方に高齢者会館の利用状況を聞いたところ、「よく利用している」(5.2%)と「ときどき利用している」(4.2%)を合わせた<利用している>は9.4%となっている。性別では、「全く利用したことがない」は男性(85.2%)が女性(77.6%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、80歳代で<利用している>が1割台半ばから約2割と高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

1.13.1. 高齢者会館を利用していない理由

◆高齢者会館を利用していない理由は「行く必要を感じないから」が約6割

(問13で「3.あまり利用していない」「4.全く利用したことがない」に○をつけた方に)
問13-1. 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

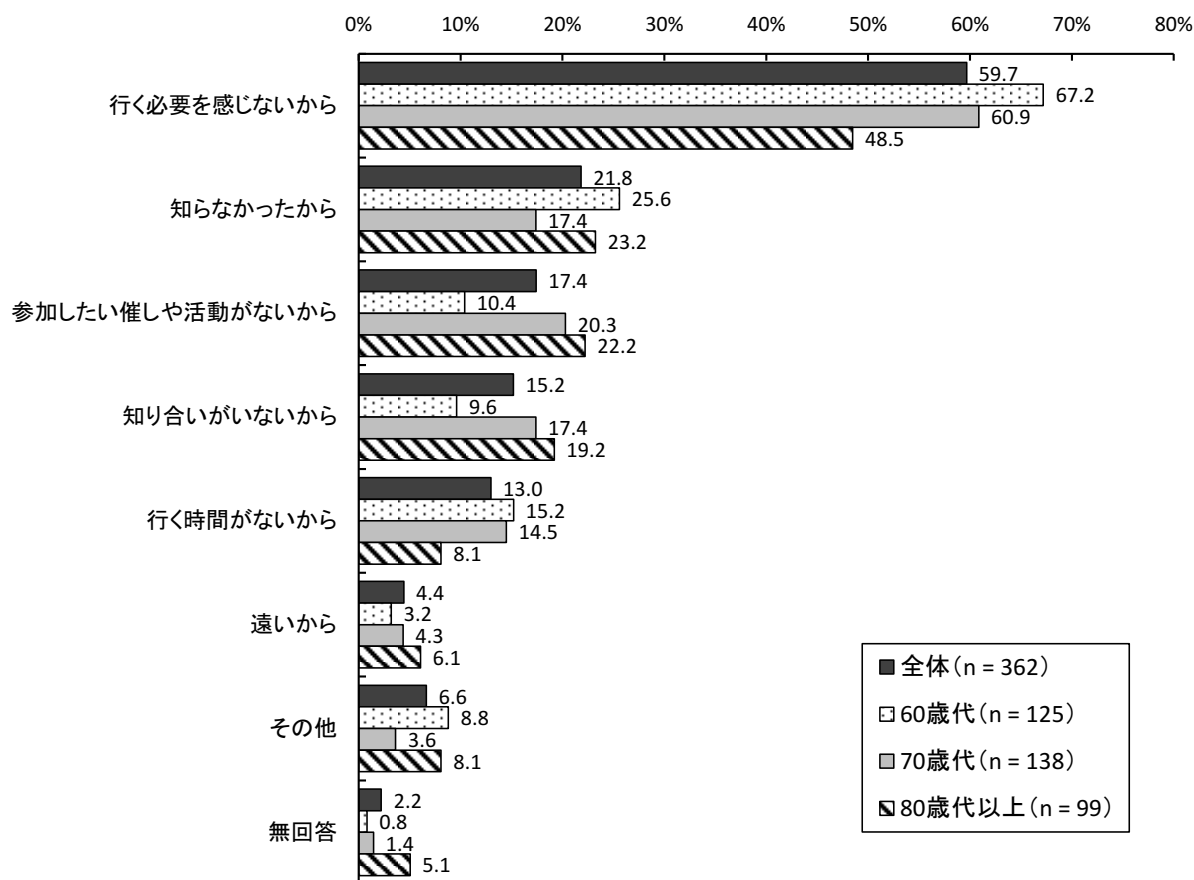


図1-24 【年代別】高齢者会館を利用していない理由

高齢者会館を利用していない方にその理由を聞いたところ、「行く必要を感じないから」が59.7%で最も高く、次いで「知らなかったから」(21.8%)、「参加したい催しや活動がないから」(17.4%)となっている。年代別にみると、いずれの年代でも「行く必要を感じないから」が最も高く、特に60歳代で6割台後半となっている。

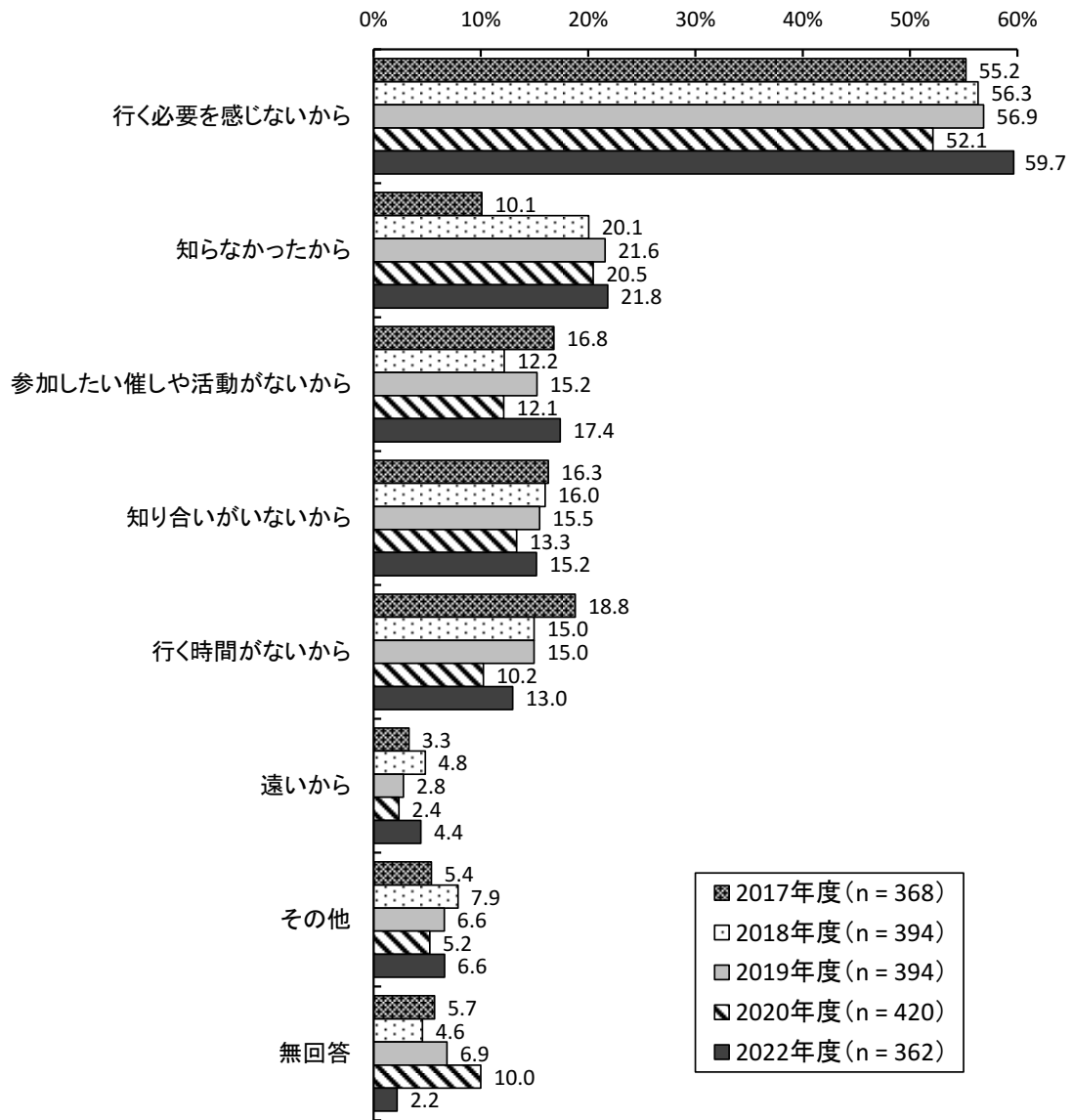


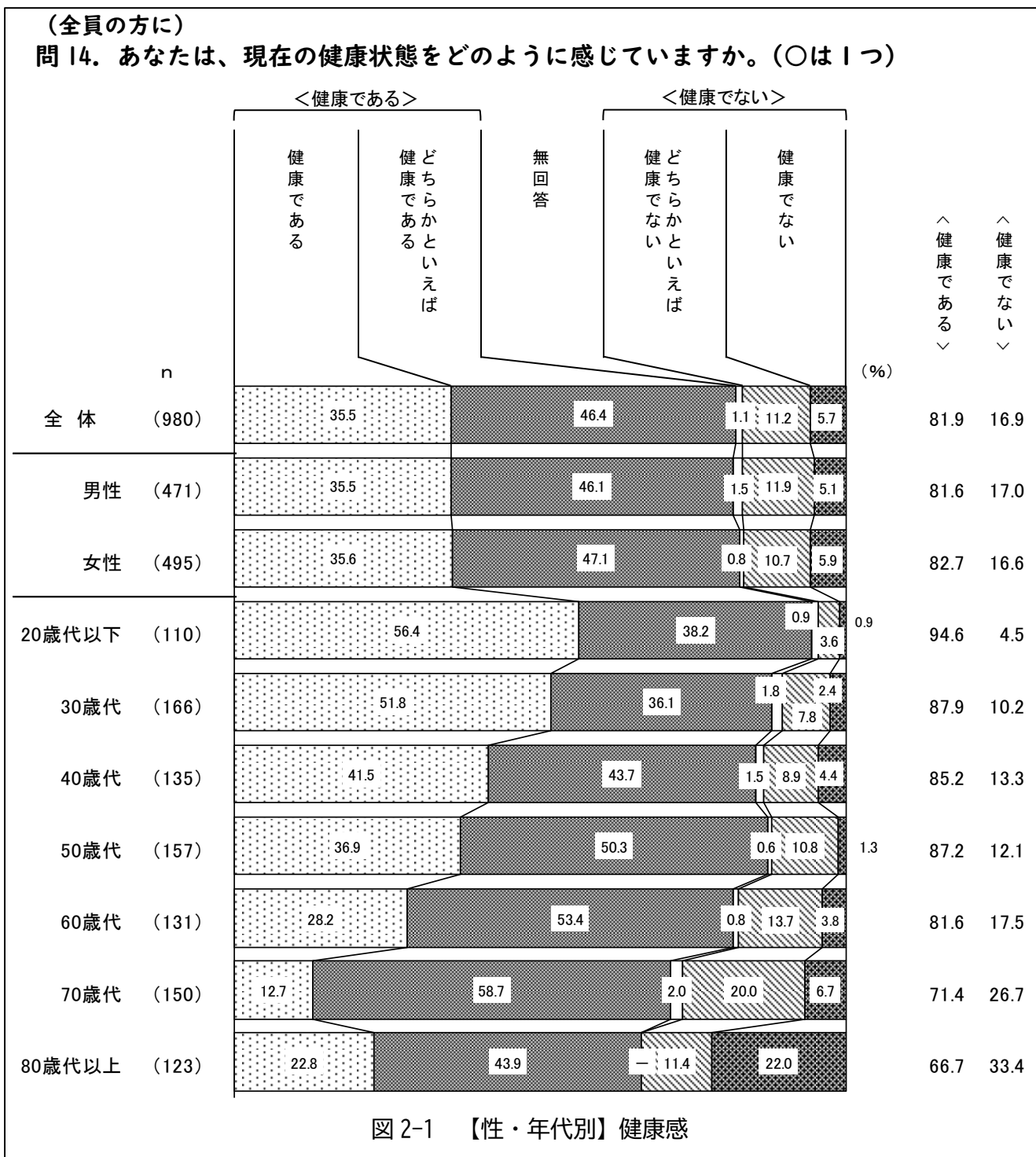
図 1-25 【経年比較】高齢者会館を利用していない理由

経年で比較すると、「行く必要を感じないから」は5割台前半から約6割で推移している。

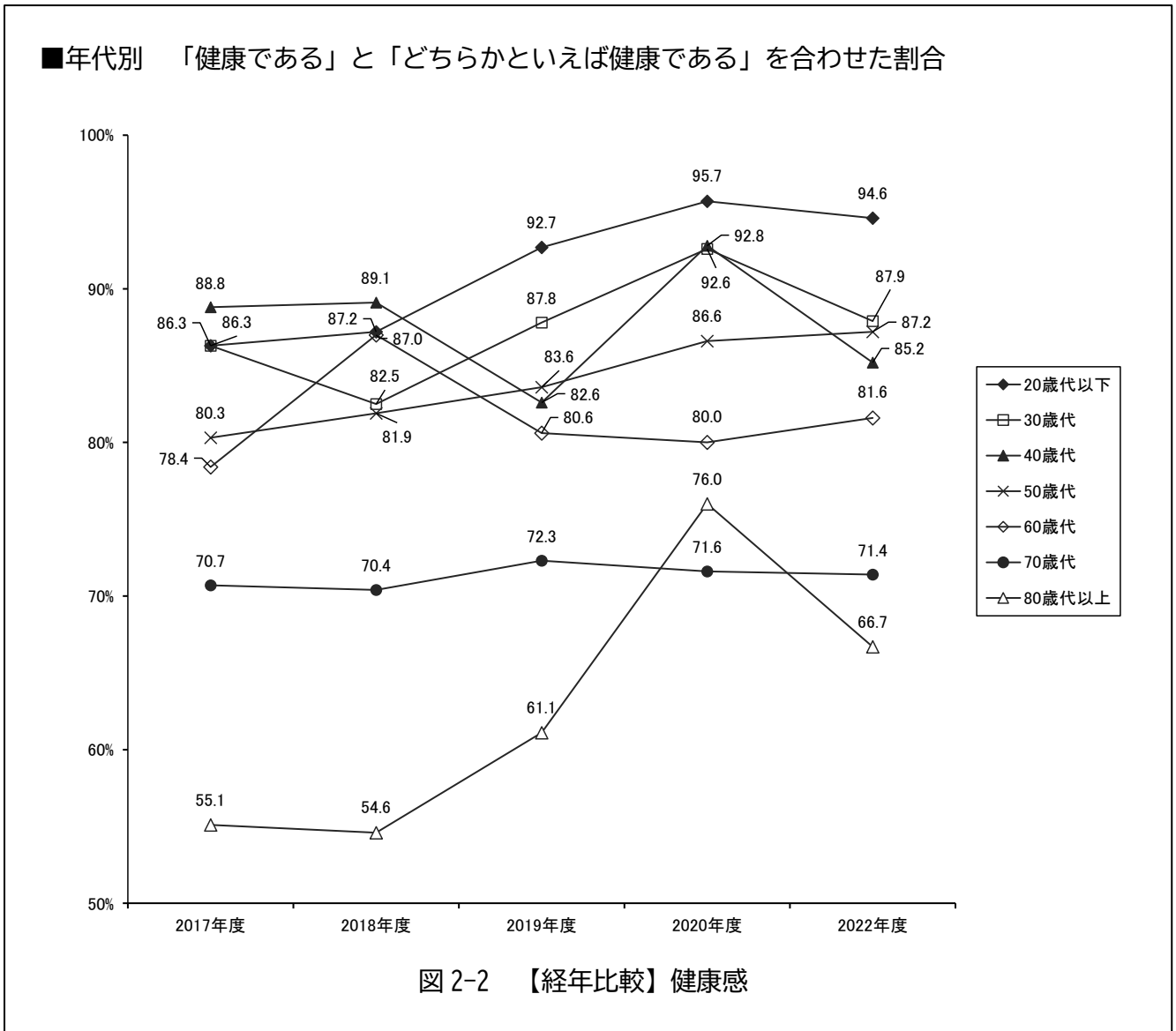
2. 医療・健康について

2.1. 健康感

◆<健康である>と感じる人の割合は年代が上がるにつれ減少傾向



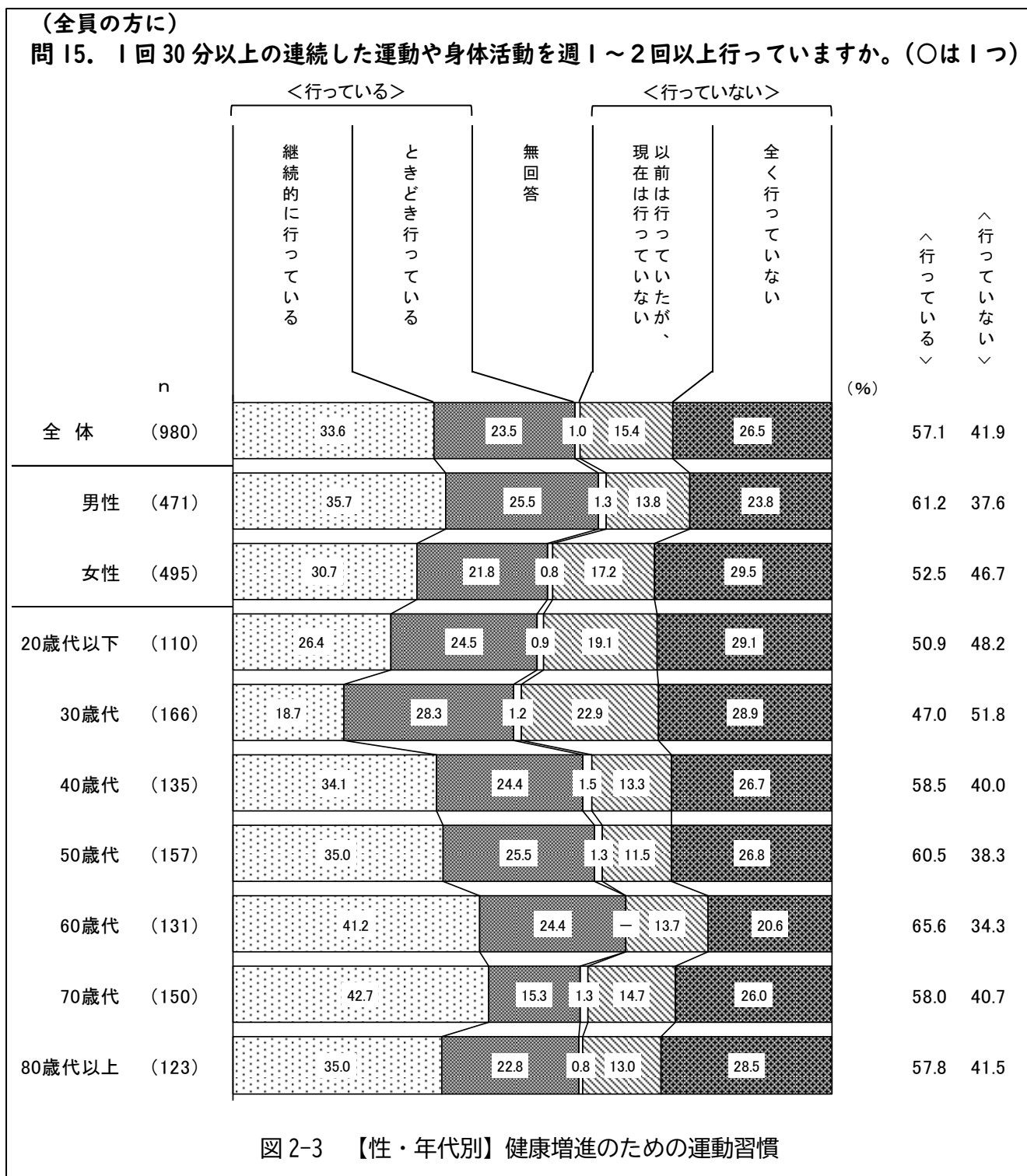
現在の健康状態をどのように感じているかについては、「健康である」(35.5%)と「どちらかといえば健康である」(46.4%)を合わせた<健康である>で81.9%となっている。年代別にみると、<健康である>は50歳代を除き、年代が上がるほど減少している。



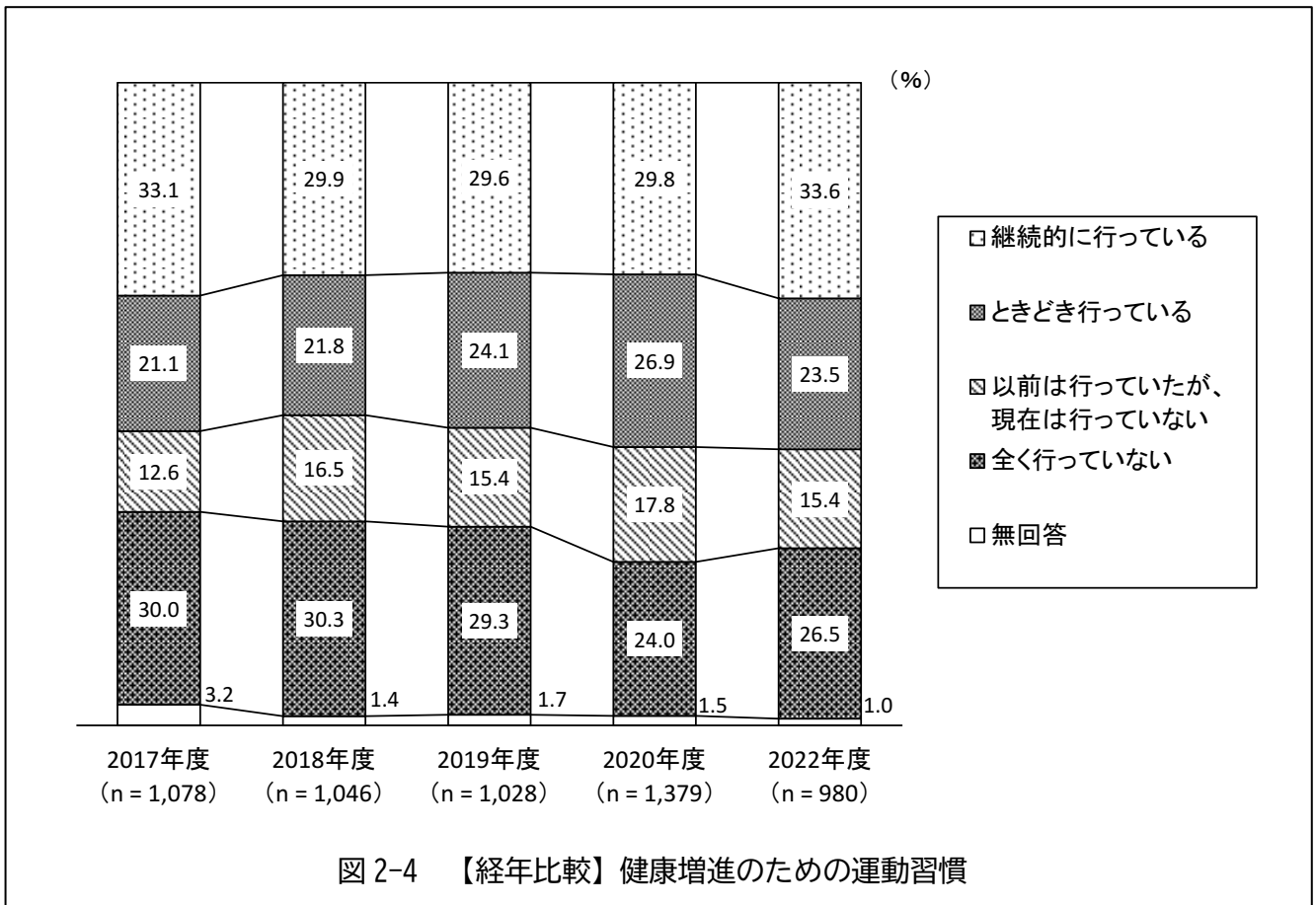
経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合わせた割合が、50歳～60歳代を除く年代で減少しており、特に80歳代以上で大きく減少している。

2.2. 健康増進のための運動習慣

◆ 1回30分以上の運動を週に1～2回以上<行っている>割合は5割台後半



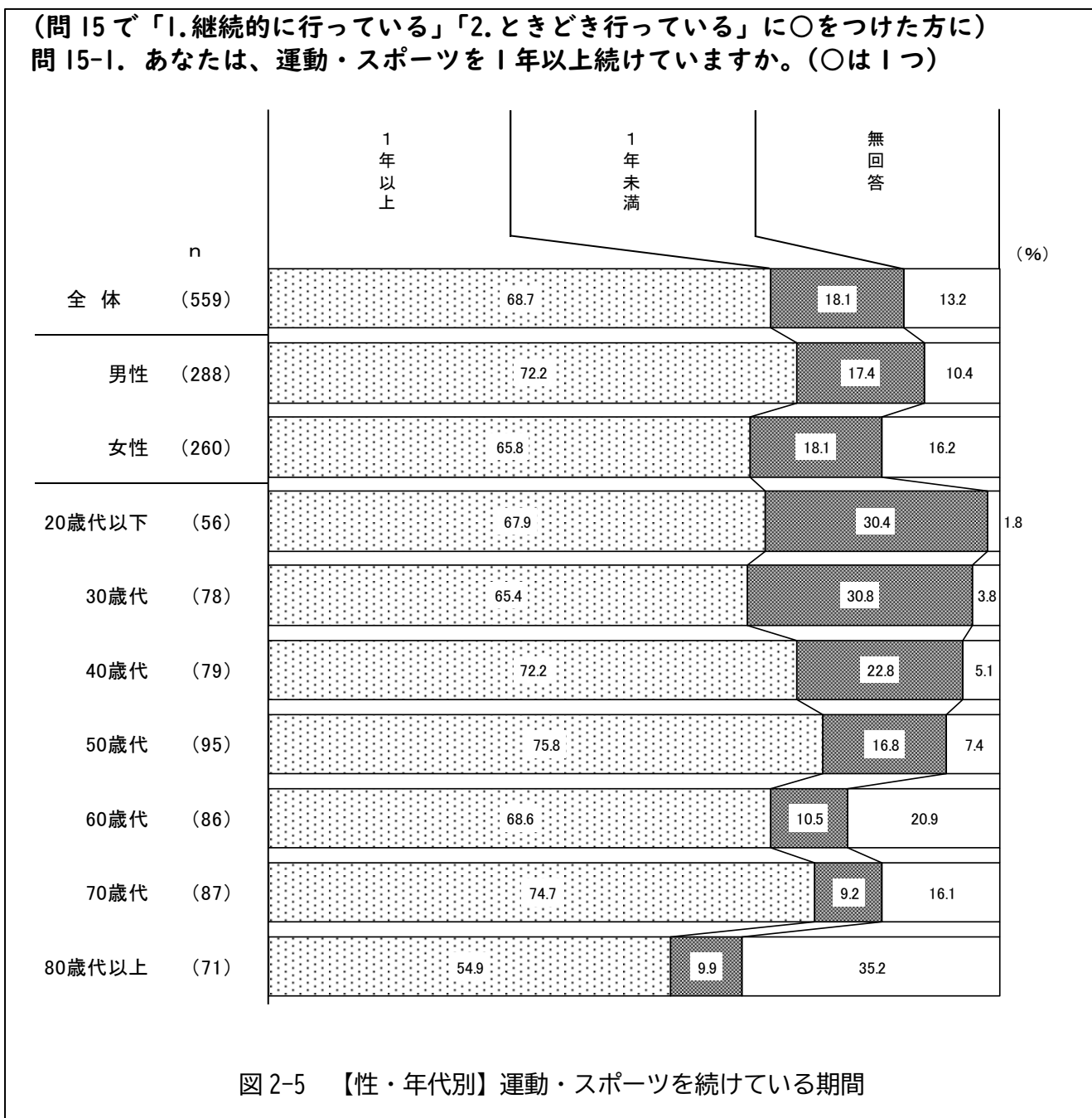
1回30分以上の連続した運動や身体活動を週に1～2回以上行っているかについては、「継続的に
行っている」(33.6%)と「ときどき行っている」(23.5%)を合わせた<行っている>で57.1%となっ
ている。性別にみると、<行っている>は男性(61.2%)が女性(52.5%)を約9ポイント上回っている。
年代別にみると、<行っている>は60歳代(65.6%)で最も高くなっている。



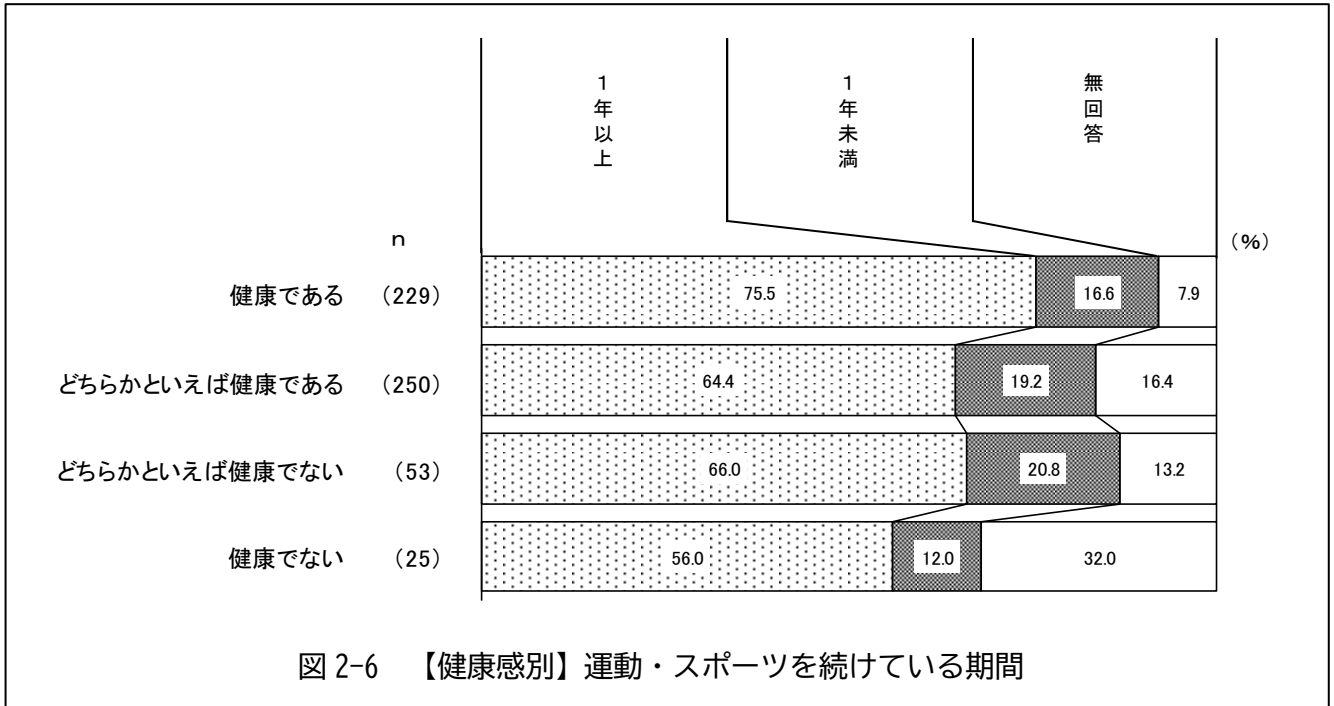
経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ「継続的に行っている」が約4ポイント増加している。

2.2.1. 運動・スポーツを続けている期間

◆運動・スポーツを1年以上継続している人が6割台後半



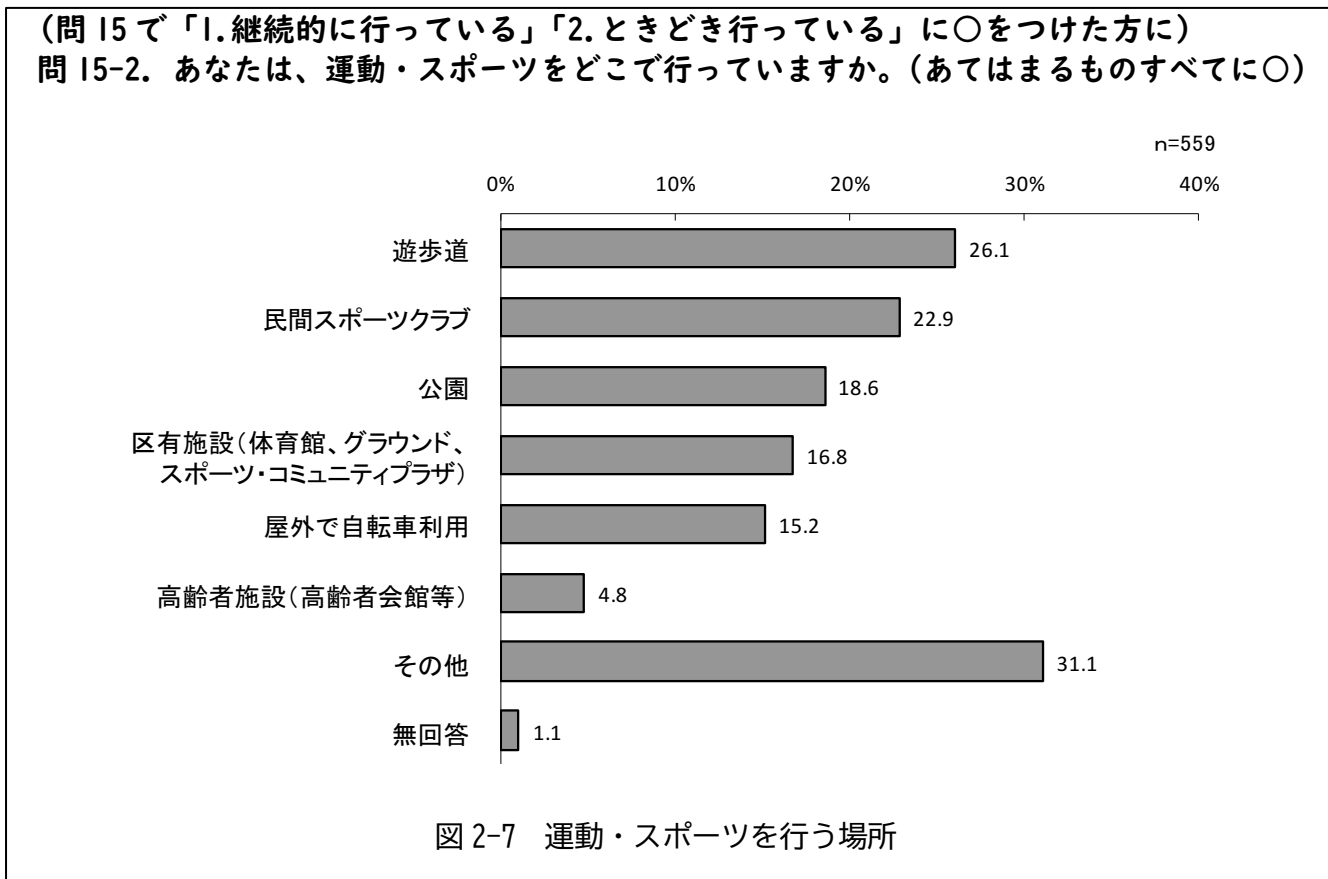
運動・スポーツを1年以上継続しているかについては、「1年以上」が68.7%、「1年未満」が18.1%となっている。性別にみると、「1年以上」は男性（72.2%）が女性（65.8%）を約6ポイント上回っている。年代別にみると、80歳代以上で「1年以上」が5割台半ばとなっており、他の年代と比較して低くなっている。



健康感別にみると、「健康である」の方が、「健康でない」人よりも1年以上運動・スポーツを続けている割合が高い。

2.2.2. 運動・スポーツを行う場所

◆運動・スポーツを行う場所は「遊歩道」が約3割



運動・スポーツを行う場所としては、「遊歩道」が26.1%で最も高く、次いで「民間スポーツクラブ」(22.9%)、「公園」(18.6%)となっている。

「その他」(31.1%)としては「自宅」、「職場・通勤」、「道路・ウォーキング」、「登山・山」などがあがっている。

表 2-1 【健康感別】運動・スポーツを行う場所

単位：%

区分	有効回答数(件)	公園	遊歩道	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)	高齢者施設(高齢者会館等)	民間スポーツクラブ	屋外で自転車利用	その他	無回答
全体	559	18.6	26.1	16.8	4.8	22.9	15.2	31.1	1.1
健康である	229	20.1	27.5	18.8	0.9	29.3	15.3	28.4	0.9
どちらかといえば健康である	250	18.4	26.0	16.8	5.6	21.2	17.2	31.2	0.8
どちらかといえば健康でない	53	18.9	22.6	15.1	9.4	13.2	9.4	37.7	—
健康でない	25	8.0	24.0	4.0	24.0	4.0	8.0	40.0	4.0

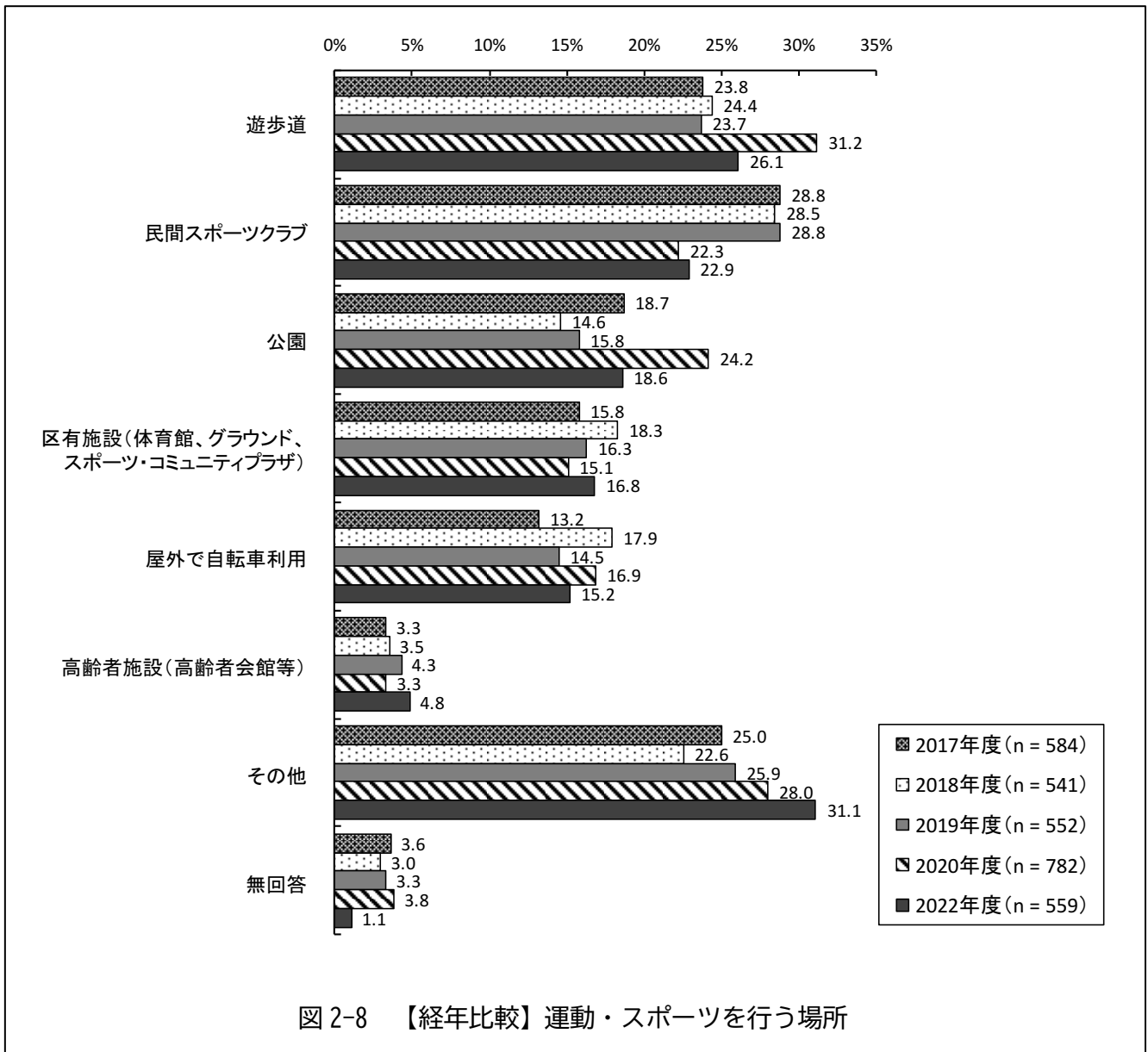
健康感別にみると、健康でないと感じている人よりも健康であると感じているの方が、「民間スポーツクラブ」や「区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)」の割合が高くなっている。

表 2-2 【年代別】上位5項目 運動・スポーツを行う場所

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=56	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 32.1	遊歩道／民間スポーツクラブ 19.6		屋外で自転車利用 17.9	公園 16.1
30歳代 n=78	遊歩道 37.2	民間スポーツクラブ 32.1	屋外で自転車利用 20.5	公園 16.7	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 14.1
40歳代 n=79	民間スポーツクラブ 29.1	公園／遊歩道 27.8		屋外で自転車利用 15.2	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 10.1
50歳代 n=95	民間スポーツクラブ 23.2	遊歩道 22.1	公園 14.7	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 12.6	屋外で自転車利用 11.6
60歳代 n=86	遊歩道 24.4	屋外で自転車利用 22.1	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)／民間スポーツクラブ 20.9		公園 14.0
70歳代 n=87	遊歩道 27.6	公園 21.8	民間スポーツクラブ 19.5	区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ) 16.1	高齢者施設(高齢者会館等) 10.3
80歳代以上 n=71	遊歩道 23.9	公園／高齢者施設(高齢者会館等) 21.1		区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)／民間スポーツクラブ 16.9	

1回 30分以上の連続した運動や身体活動を週に1～2回以上行っている方の運動・スポーツを行う場所を年代別にみると、20歳代では「区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)」、30歳代、60歳代以上では「遊歩道」、40歳～50歳代では「民間スポーツクラブ」が1位となっている。



経年で比較すると、2020 年度に増加した「遊歩道」、「公園」が減少に転じ、「その他」（※主に自宅）が増加している。

2.2.3. 運動・スポーツを行わない理由

◆運動・スポーツを行わない理由は「時間がないから」が2割台後半

(問15で「3.以前は行っていたが、現在は行っていない」「4.全く行っていない」に○をつけた方に)

問15-3. 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

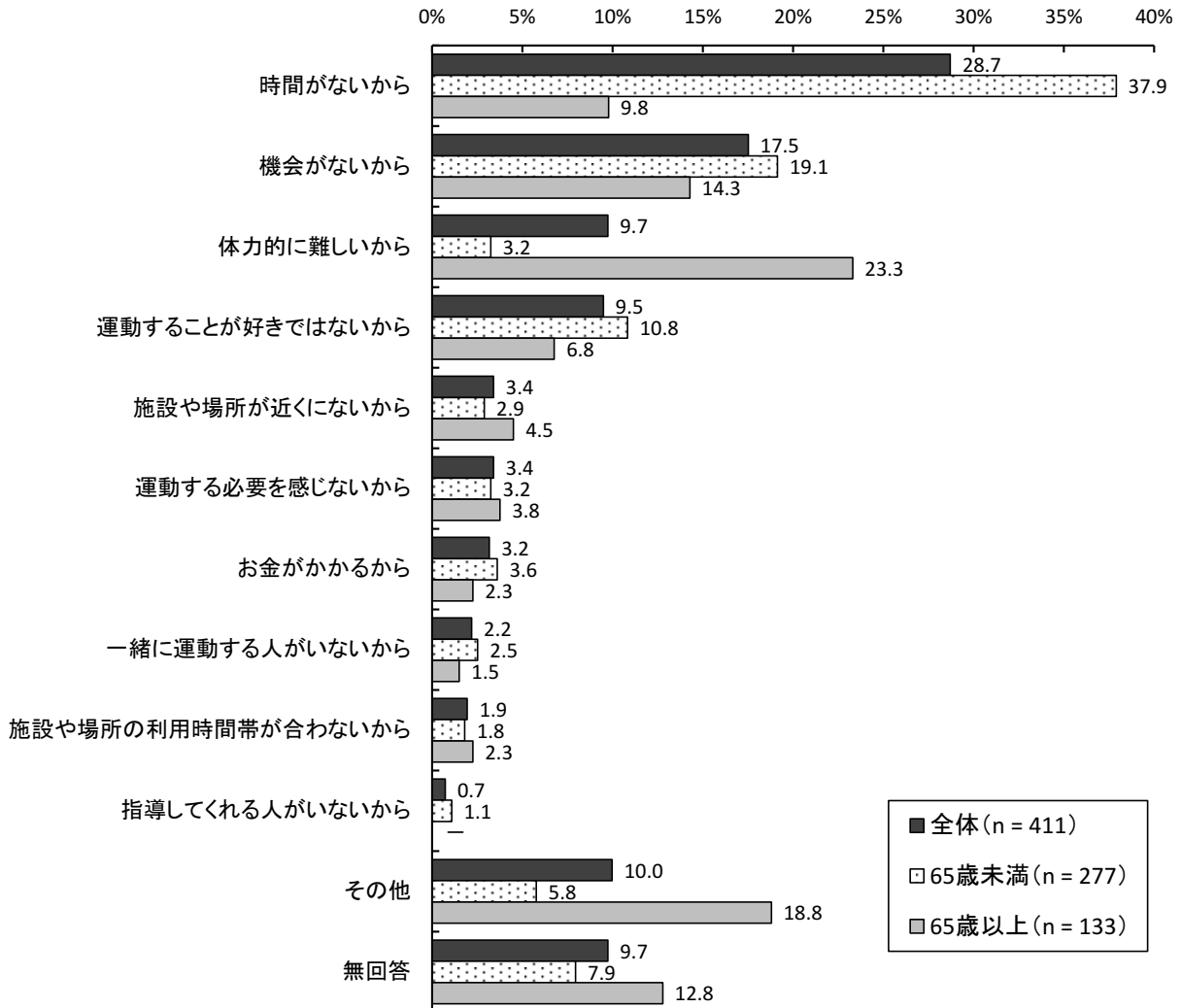


図2-9 【年代別】運動・スポーツを行わない理由

運動・スポーツを行っていない方にその理由を聞いたところ、「時間がないから」が28.7%で最も高く、次いで「機会がないから」(17.5%)、「体力的に難しいから」(9.7%)となっている。「その他」としては、「病気・ケガ・健康上の理由」「新型コロナウイルス感染症の影響」などがあげられている。

年代別にみると、65歳未満では「時間がないから」(37.9%)が最も高くなっているのに対し、65歳以上では「体力的に難しいから」(23.3%)が最も高くなっている。

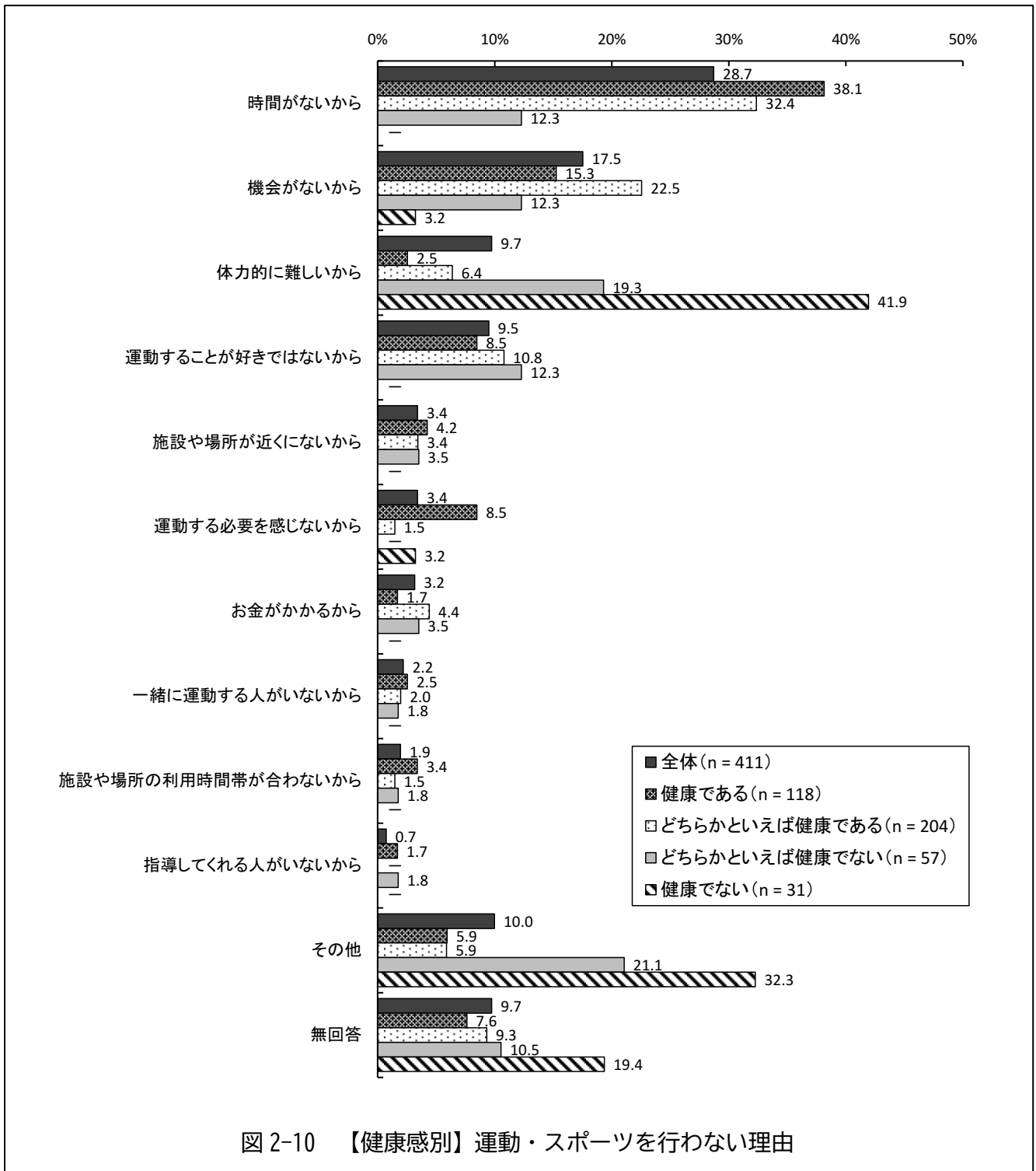


図 2-10 【健康感別】運動・スポーツを行わない理由

健康感別にみると、健康であると感じている人ほど「時間がないから」の割合が高くなっている一方、健康でないと感じている人ほど「体力的に難しいから」の割合が高くなっている。

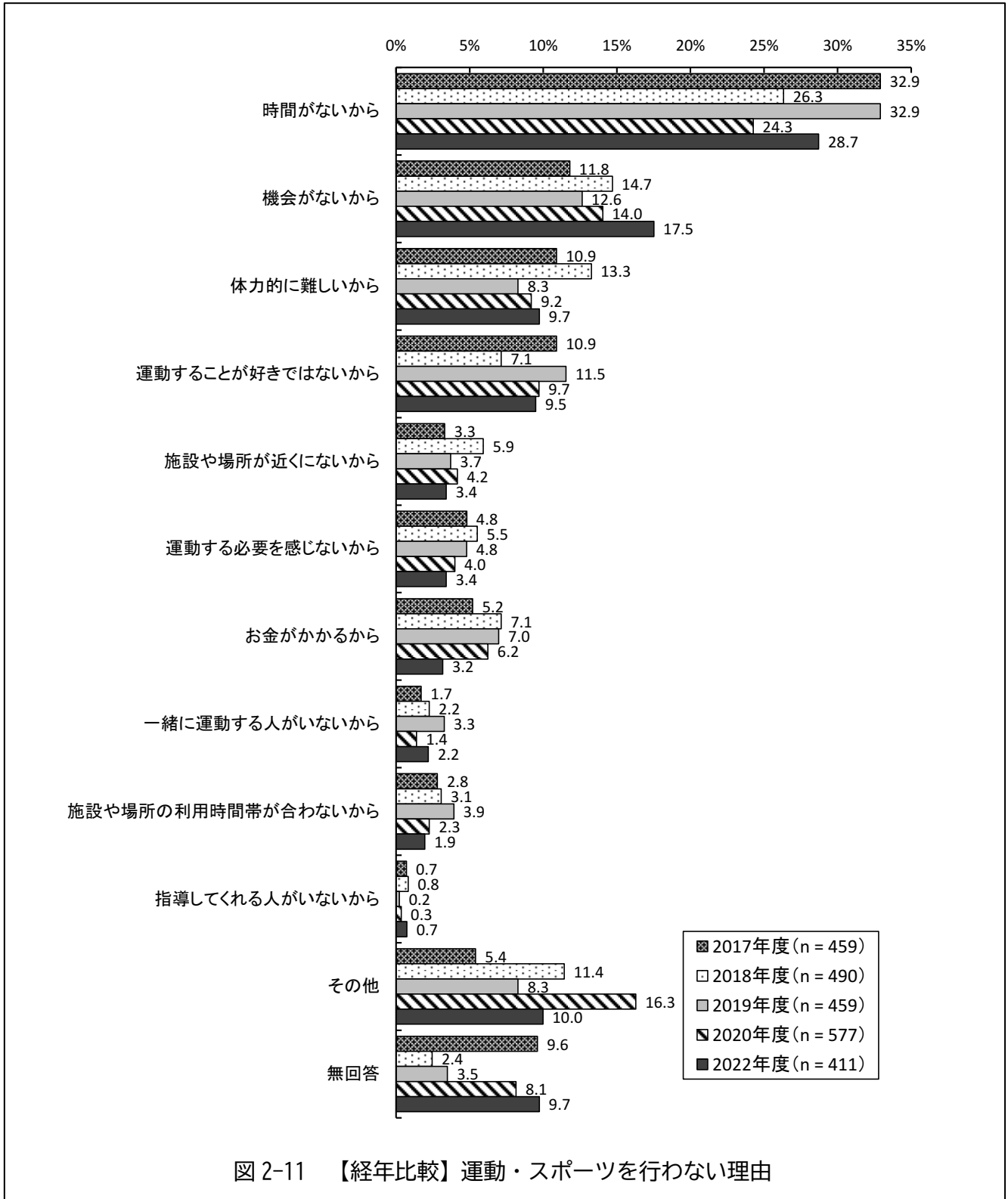


図 2-11 【経年比較】運動・スポーツを行わない理由

経年で比較すると、いずれの年度でも「時間がないから」が1位にあげられており、2022年度は「機会がないから」が微増となっている。

2.3. この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

◆この1年間に観戦したスポーツは「野球」が1割台半ば

(全員の方に)

問16. この1年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

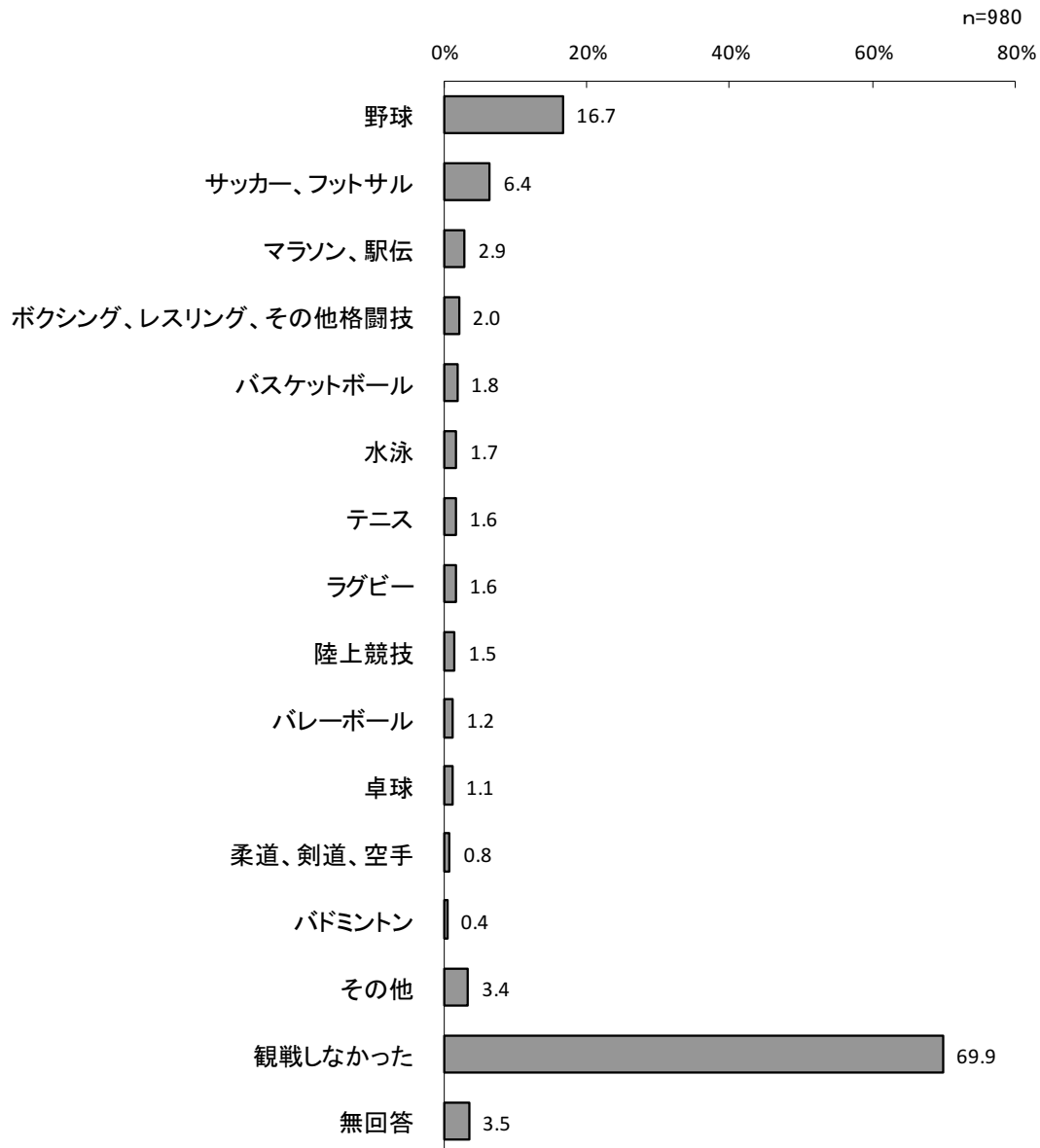


図2-12 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

実際に観戦したスポーツでは、「野球」が16.7%と最も高くなっており、次いで「サッカー、フットサル」(6.4%)、「マラソン、駅伝」(2.9%)となっている。

表 2-3 【年代別】上位5項目 この1年間にスタジアム等で実際にスポーツを観戦したか

単位：%

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	野球 20.9	サッカー、フットサル 15.5	バスケットボール 3.6	バレーボール/テニス/ラグビー/陸上競技/マラソン、駅伝/ボクシング、レスリング、その他格闘技	2.7
30歳代 n=166	野球 20.5	サッカー、フットサル 9.6	バスケットボール 3.0	ボクシング、レスリング、その他格闘技 1.8	ラグビー/陸上競技/水泳 1.2
40歳代 n=135	野球 25.9	サッカー、フットサル 7.4	ボクシング、レスリング、その他格闘技 5.2	マラソン、駅伝 3.7	水泳 3.0
50歳代 n=157	野球 15.9	サッカー、フットサル 6.4	テニス 2.5	マラソン、駅伝 1.9	バスケットボール/水泳 1.3
60歳代 n=131	野球 12.2	サッカー、フットサル/バレーボール/ボクシング、レスリング、その他格闘技		2.3	バスケットボール/テニス 1.5
70歳代 n=150	野球 12.0	マラソン、駅伝 3.3	ラグビー 2.7	サッカー、フットサル/陸上競技	2.0
80歳代以上 n=123	野球 10.6	マラソン、駅伝 9.8	卓球/テニス/水泳		4.9

実際に観戦したスポーツを年代別にみると、全ての年代で「野球」が1位にあげられている。

2.4. 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

◆区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むことは、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が2割台半ば

（全員の方に）

問 17. あなたは、区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設について、何か望むことはありますか。（あてはまるものすべてに○）

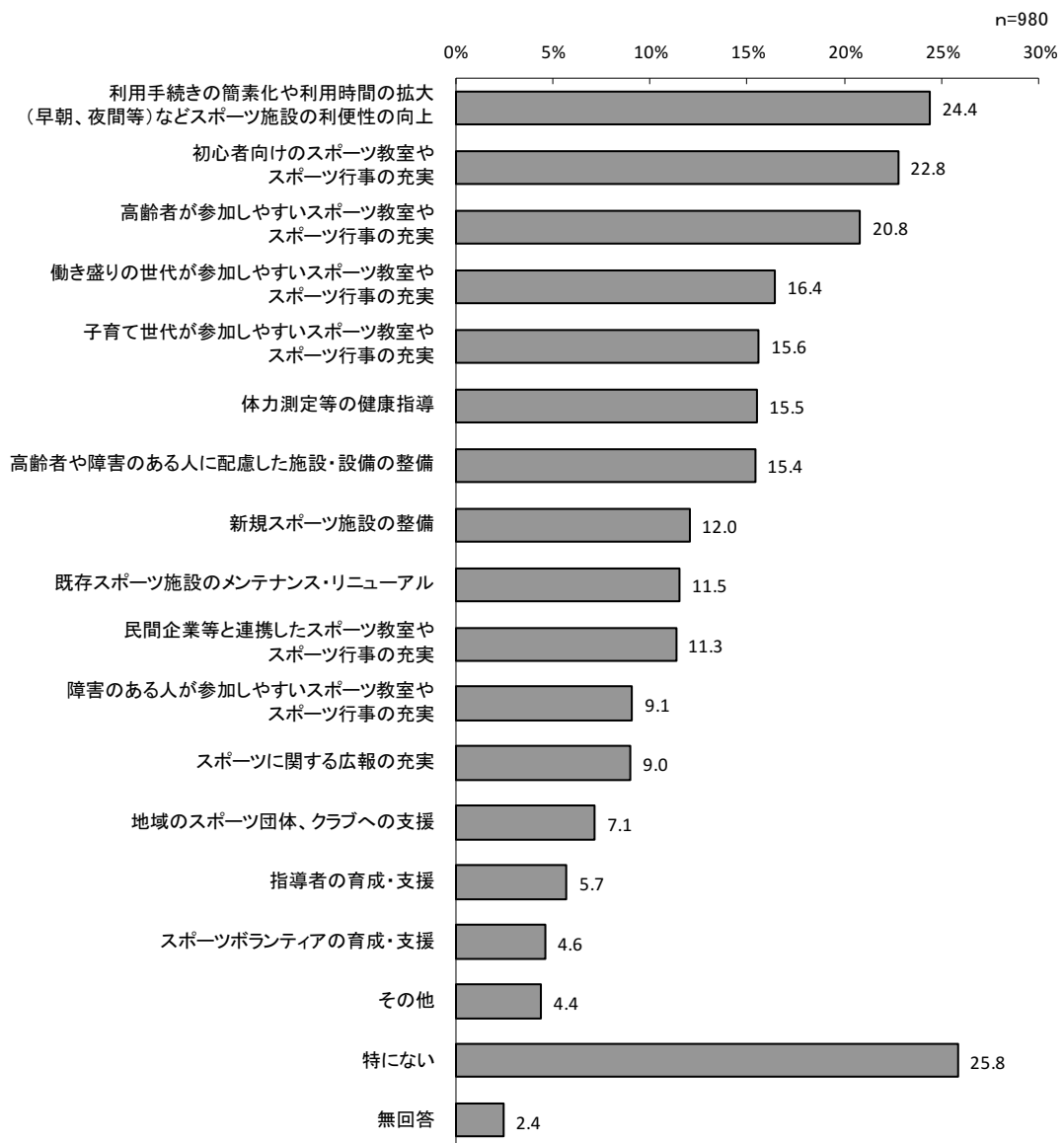


図 2-13 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこととしては、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスポーツ施設の利便性の向上」が24.4%で最も高く、次いで「初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（22.8%）、「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（20.8%）、「働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」（16.4%）となっている。

表 2-4 【年代別】上位5項目 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実／新規スポーツ施設の整備 21.8		利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 20.9	子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 16.4	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 15.5
30歳代 n=166	子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実／利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 34.9		働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 27.7	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実／新規スポーツ施設の整備	18.7
40歳代 n=135	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 36.3	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 34.8	子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 25.9	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 24.4	民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実 19.3
50歳代 n=157	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 33.8	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 28.7	働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 23.6	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 17.2	民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実 16.6
60歳代 n=131	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 35.1	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 25.2	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 22.9	体力測定等の健康指導 20.6	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 19.1
70歳代 n=150	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 35.3	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実／体力測定等の健康指導	16.7	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 16.0	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上 14.7
80歳代以上 n=123	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実 35.8	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備 29.3	体力測定等の健康指導 21.1	初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実 10.6	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上／スポーツに関する広報の充実 8.9

年代別にみると、20歳代では「働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」「新規スポーツ施設の整備」、30歳代では「子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」、30歳～40歳代では「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上」、60歳代以上では「高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実」が1位となっている。

表 2-5 【健康感別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	高齢者が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	子育て世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	働き盛りの世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	民間企業等と連携したスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	体力測定等の健康指導	地域のスーポーツ団体、クラブへの支援	指導者の育成・支援
全体	980	22.8	9.1	20.8	15.6	16.4	11.3	15.5	7.1	5.7
健康である	348	21.6	9.5	16.1	22.7	20.4	14.1	11.5	7.8	6.9
どちらかといえば健康である	455	24.2	7.7	23.5	12.3	17.1	11.9	18.2	8.1	6.2
どちらかといえば健康でない	110	25.5	12.7	24.5	12.7	7.3	6.4	18.2	3.6	2.7
健康でない	56	14.3	12.5	23.2	1.8	3.6	1.8	12.5	3.6	1.8

区分	スーポーツボランティアの育成・支援	利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスーポーツ施設の利便性の向上	スーポーツに関する広報の充実	新規スーポーツ施設の整備	既存スーポーツ施設のメンテナンス・リニューアル	高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備	その他	特にない	無回答
全体	4.6	24.4	9.0	12.0	11.5	15.4	4.4	25.8	2.4
健康である	4.9	28.4	7.5	18.1	15.2	12.6	3.4	22.7	—
どちらかといえば健康である	4.6	26.4	11.0	10.5	12.1	15.2	4.8	25.7	2.4
どちらかといえば健康でない	2.7	12.7	7.3	4.5	2.7	19.1	2.7	30.9	3.6
健康でない	7.1	8.9	7.1	3.6	3.6	28.6	8.9	41.1	3.6

健康感別にみると、健康である、どちらかといえば健康であると感じている人は、「利用手続きの簡素化や利用時間の拡大（早朝、夜間等）などスーポーツ施設の利便性の向上」の割合が高くなっており、どちらかといえば健康でない、健康でないと感じている人は「特にない」の割合が高くなっている。

表 2-6 【居住地域別】区のスーポーツ施策や区立のスーポーツ施設に望むこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	初心者向けのスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	障害のある人が参加しやすいの充実	高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスーポーツ行事の充実	子育て世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	働き盛りの世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	民間企業等と連携したスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実	体力測定等の健康指導	地域のスーポーツ団体、クラブへの支援	指導者の育成・支援
全体	980	22.8	9.1	20.8	15.6	16.4	11.3	15.5	7.1	5.7
南台	66	28.8	7.6	27.3	12.1	16.7	9.1	21.2	10.6	3.0
弥生町	84	22.6	7.1	21.4	19.0	19.0	7.1	14.3	6.0	8.3
本町	71	18.3	7.0	21.1	14.1	18.3	15.5	14.1	4.2	1.4
中央	78	25.6	5.1	15.4	11.5	20.5	7.7	7.7	6.4	7.7
東中野	72	22.2	9.7	16.7	13.9	16.7	12.5	9.7	6.9	5.6
中野	95	29.5	11.6	20.0	16.8	20.0	12.6	14.7	10.5	5.3
上高田	51	25.5	15.7	27.5	21.6	17.6	9.8	15.7	5.9	9.8
新井	49	26.5	12.2	18.4	14.3	12.2	12.2	6.1	8.2	4.1
沼袋	34	32.4	14.7	23.5	26.5	14.7	11.8	32.4	2.9	8.8
松が丘	20	10.0	15.0	20.0	20.0	10.0	5.0	20.0	20.0	5.0
江原町	22	22.7	9.1	22.7	13.6	18.2	9.1	9.1	4.5	9.1
江古田	28	17.9	3.6	10.7	7.1	25.0	3.6	17.9	10.7	10.7
丸山	16	31.3	12.5	31.3	18.8	18.8	12.5	12.5	12.5	6.3
野方	54	16.7	5.6	20.4	7.4	3.7	11.1	24.1	3.7	3.7
大和町	50	32.0	6.0	24.0	10.0	16.0	14.0	18.0	8.0	4.0
若宮	34	11.8	8.8	17.6	14.7	8.8	8.8	2.9	2.9	5.9
白鷺	36	16.7	5.6	27.8	16.7	13.9	11.1	19.4	8.3	8.3
鷺宮	58	17.2	8.6	20.7	15.5	19.0	12.1	13.8	3.4	5.2
上鷺宮	57	12.3	12.3	14.0	26.3	15.8	21.1	24.6	8.8	3.5

居住地域別にみると、全体で上位にあげられたもの以外では、沼袋で「体力測定等の健康指導」、江原町で「新規スーポーツ施設の整備」、上鷺宮で「子育て世代が参加しやすいスーポーツ教室やスーポーツ行事の充実」などの割合が高くなっている。

表 2-6 【居住地域別】 区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設に望むこと（続き）

単位：％

区分	支 援 ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア の 育 成	ス ポ ー ツ の 利 用 手 続 き の 簡 素 化 や 利 用 時 間 の 拡 大 （ 早 朝 、 夜 間 等 ） の 利 便 性 の 向 上	ス ポ ー ツ に 関 す る 広 報 の 充 実	新 規 ス ポ ー ツ 施 設 の 整 備	既 存 ス ポ ー ツ 施 設 の メン テ ナ ン ス ・ リ ニ ュ ー ア ル	高 齢 者 や 障 害 の あ る 人 に 配 慮 し た 施 設 ・ 設 備 の 整 備	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体	4.6	24.4	9.0	12.0	11.5	15.4	4.4	25.8	2.4
南台	7.6	28.8	9.1	9.1	12.1	15.2	1.5	19.7	—
弥生町	3.6	25.0	6.0	8.3	10.7	9.5	2.4	28.6	3.6
本町	5.6	35.2	8.5	18.3	18.3	21.1	9.9	19.7	1.4
中央	5.1	14.1	7.7	14.1	11.5	10.3	6.4	30.8	5.1
東中野	4.2	29.2	11.1	12.5	9.7	16.7	5.6	20.8	5.6
中野	6.3	22.1	11.6	12.6	8.4	13.7	4.2	24.2	2.1
上高田	2.0	27.5	15.7	5.9	7.8	19.6	3.9	25.5	2.0
新井	2.0	28.6	10.2	10.2	10.2	12.2	8.2	30.6	—
沼袋	2.9	26.5	17.6	2.9	11.8	14.7	2.9	11.8	5.9
松が丘	—	35.0	5.0	10.0	5.0	15.0	5.0	30.0	—
江原町	9.1	27.3	9.1	36.4	27.3	18.2	9.1	22.7	—
江古田	10.7	17.9	10.7	10.7	7.1	17.9	—	28.6	7.1
丸山	12.5	31.3	18.8	25.0	12.5	18.8	—	31.3	—
野方	1.9	20.4	1.9	13.0	9.3	16.7	1.9	33.3	1.9
大和町	4.0	28.0	8.0	6.0	8.0	20.0	8.0	26.0	—
若宮	5.9	17.6	5.9	14.7	5.9	23.5	—	44.1	2.9
白鷺	2.8	22.2	5.6	16.7	19.4	13.9	—	22.2	2.8
鷺宮	3.4	15.5	5.2	12.1	20.7	12.1	3.4	27.6	1.7
上鷺宮	3.5	21.1	10.5	8.8	8.8	15.8	5.3	22.8	1.8

2.5. 東京オリンピック・パラリンピックの効果

◆障害者への理解の向上が2割台半ば

(全員の方に)

問 18. 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、あなたはどのような効果があったと感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

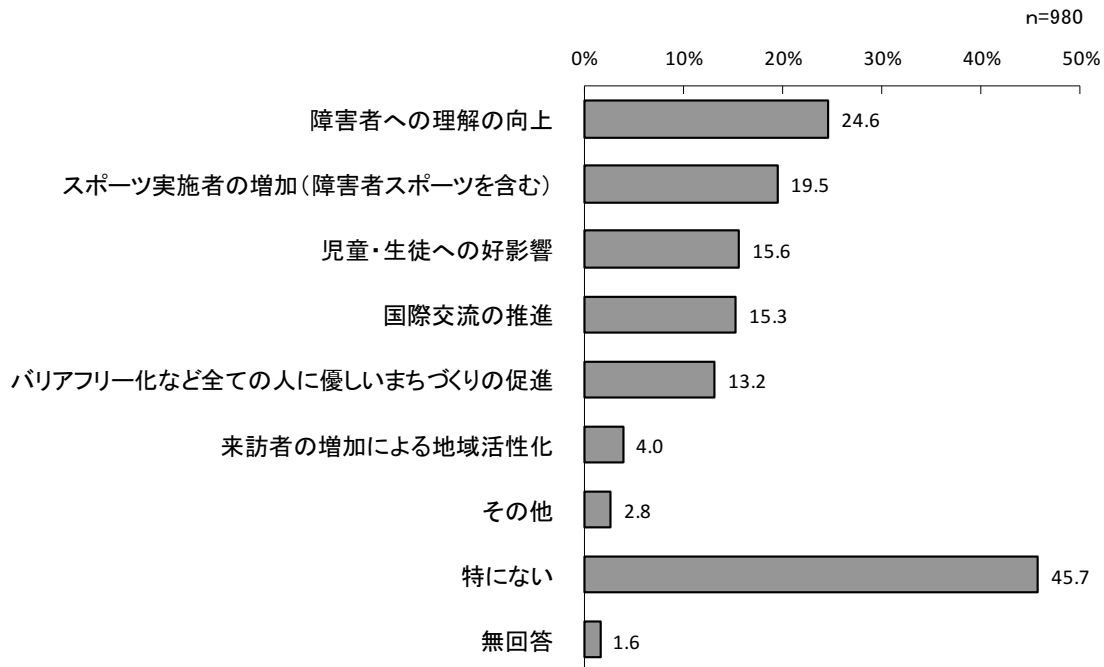


図 2-14 東京オリンピック・パラリンピックの効果

東京オリンピック・パラリンピックの開催による効果では、「特にない」(45.7%)を除き、「障害者への理解の向上」が24.6%で最も高くなっており、次いで「スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む)」(19.5%)、「児童・生徒への好影響」(15.6%)となっている。

表 2-7 【年代別】東京オリンピック・パラリンピックの効果

単位：％

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
20歳代以下 n=110	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 18.2	国際交流の推進 15.5	障害者への理解の向上 12.7	児童・生徒への好影響 10.9	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 10.0
30歳代 n=166	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 19.3	児童・生徒への好影響 13.3	国際交流の推進 12.7	障害者への理解の向上 12.0	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 10.2
40歳代 n=135	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 21.5	障害者への理解の向上 18.5	児童・生徒への好影響 17.0	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 10.4	国際交流の推進 9.6
50歳代 n=157	障害者への理解の向上 23.6	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 20.4	児童・生徒への好影響 13.4	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進／国際交流の推進 12.1	
60歳代 n=131	障害者への理解の向上 30.5	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 18.3	児童・生徒への好影響／国際交流の推進 16.8		バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 14.5
70歳代 n=150	障害者への理解の向上 36.0	児童・生徒への好影響 20.7	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 18.0	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 16.0	国際交流の推進 15.3
80歳代以上 n=123	障害者への理解の向上 39.0	国際交流の推進 27.6	スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む) 23.6	児童・生徒への好影響 17.9	バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進 17.1

東京オリンピック・パラリンピックを通じて期待する効果を年代別にみると、20歳～40歳代では「スポーツ実施者の増加（障害者スポーツを含む）」が、50歳代以上では「障害者への理解の向上」が1位となっている。

2.6. パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

◆「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が5割台前半

(全員の方に)

問19. パラリンピックや障害者スポーツ(ユニバーサルスポーツ)を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

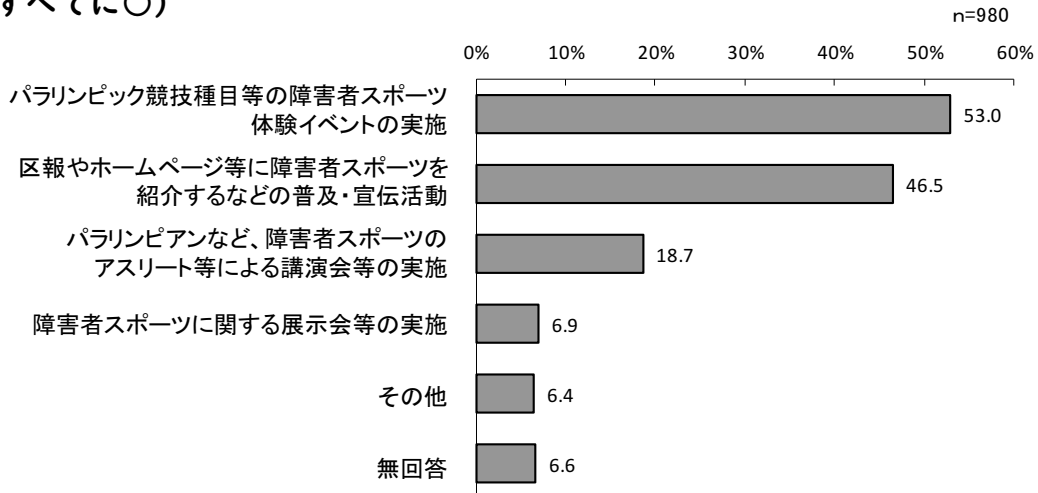


図2-15 パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきことは、「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が53.0%で最も高く、次いで「区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動」(46.5%)、「パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施」(18.7%)となっている。

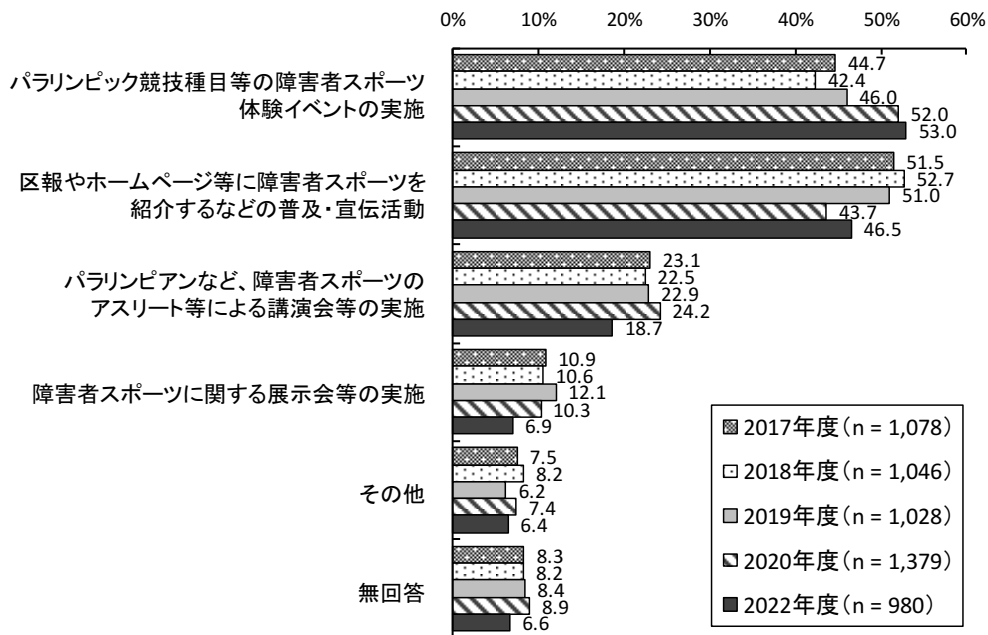
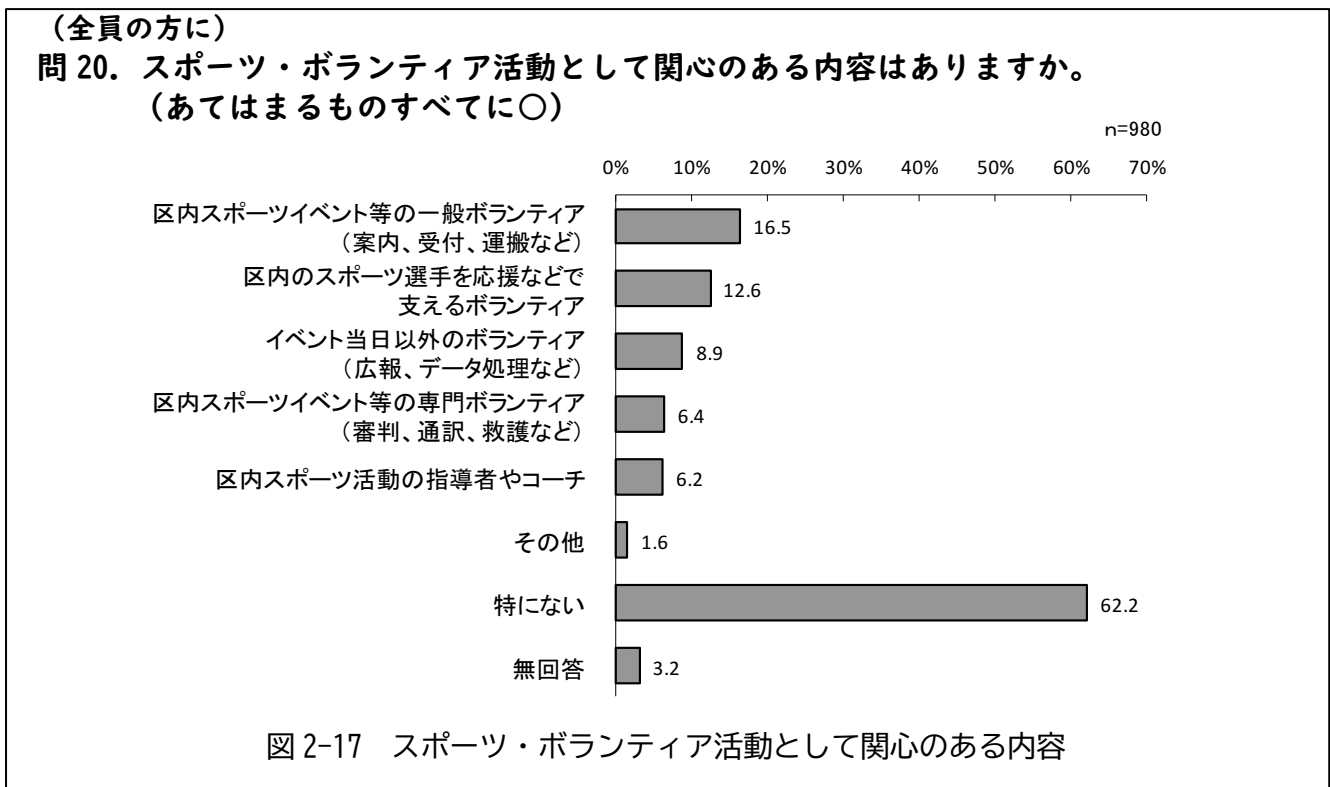


図2-16 【経年比較】パラリンピックや障害者スポーツを理解し広めるために区が重点的に行うべきこと

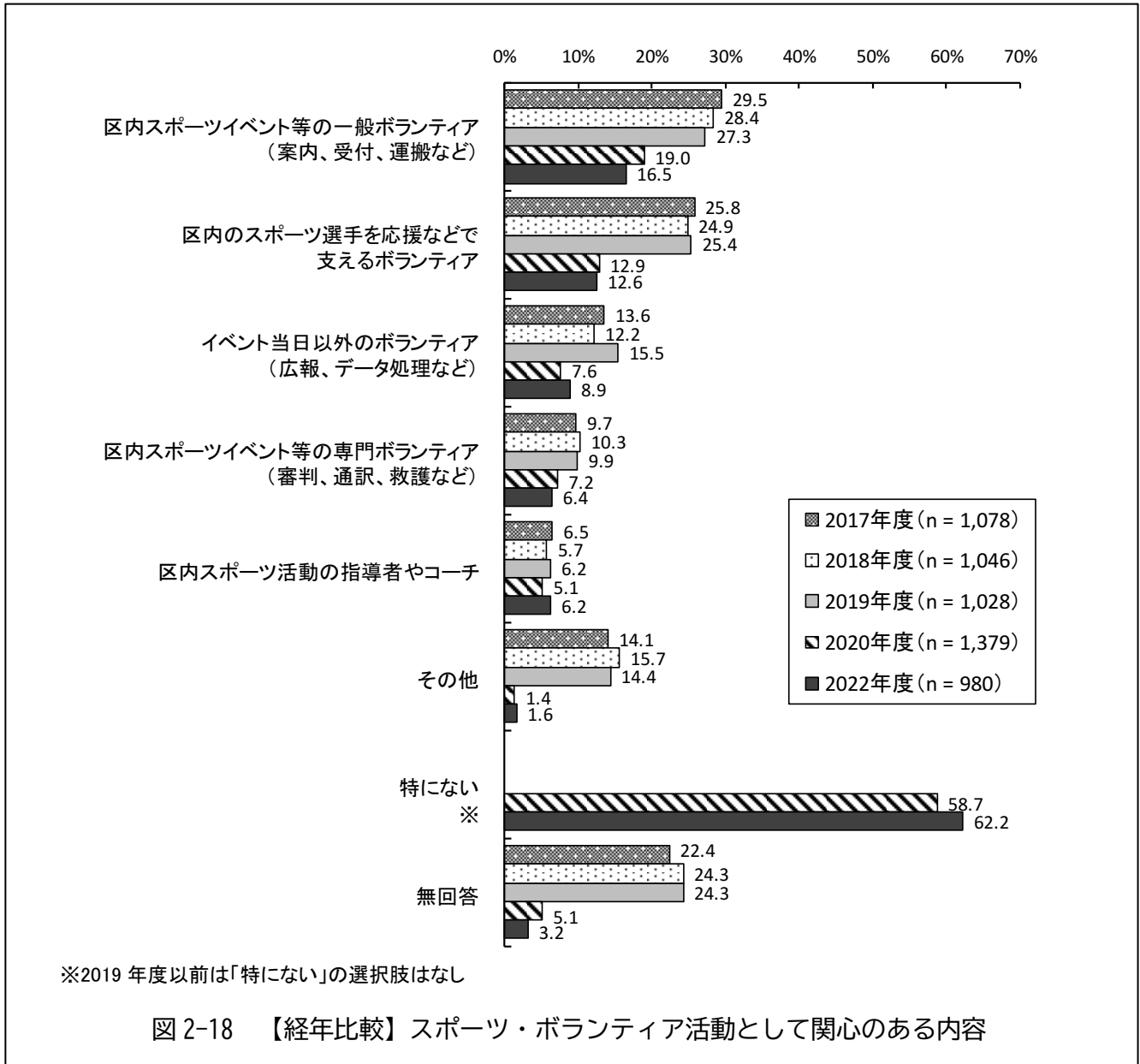
経年で比較すると、「パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施」が増加傾向にある。

2.7. スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容

◆「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が1割台半ば



スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容は、「特にない」(62.2%)を除き、「区内スポーツイベント等の一般ボランティア（案内、受付、運搬など）」が16.5%で最も高く、次いで「区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア」(12.6%)、「イベント当日以外のボランティア（広報、データ処理など）」(8.9%)となっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.8. 食生活で心がけていること

◆食生活で心がけていることは「朝食を毎朝欠かさず食べる」が5割台後半

(全員の方に)

問 21. 日ごろ、あなたが食べ物や食生活に関して心がけていることや、関心があることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

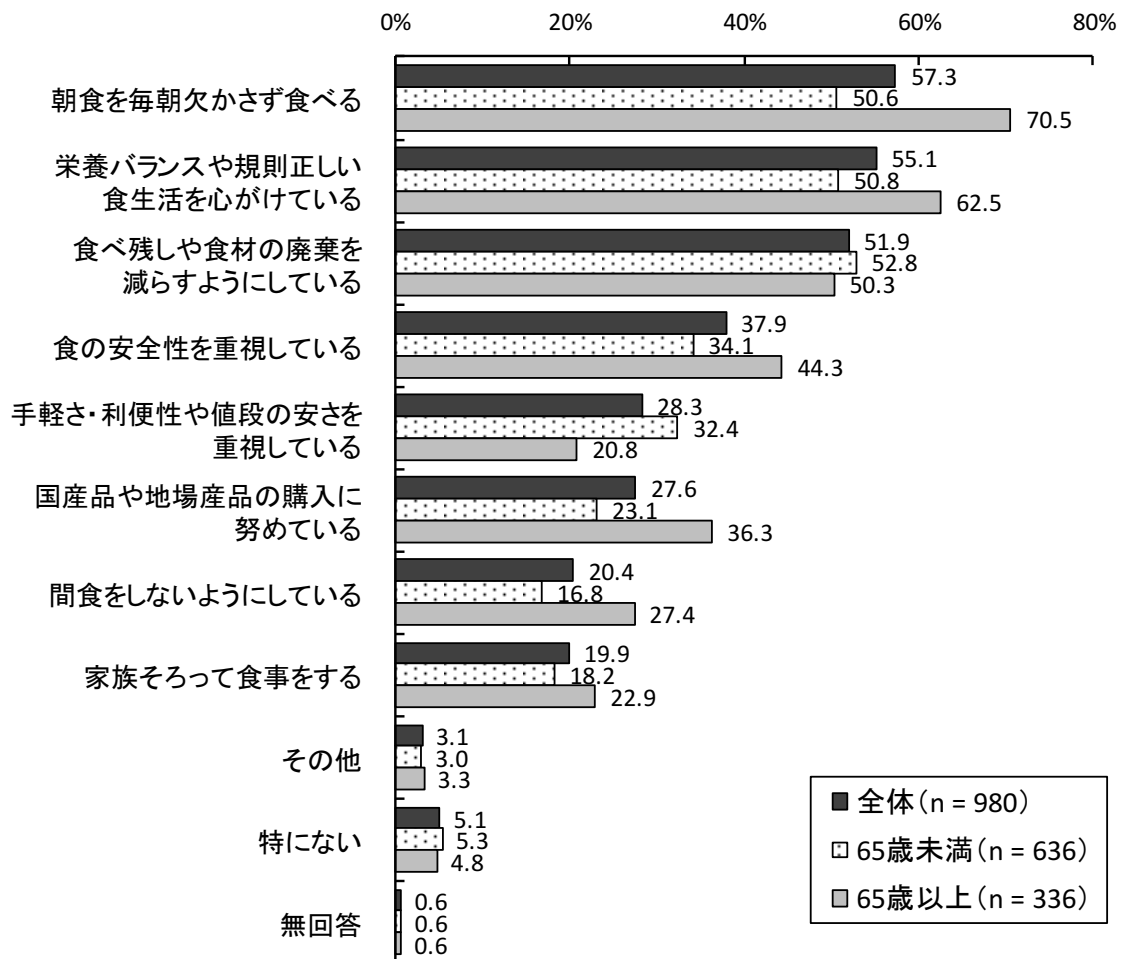
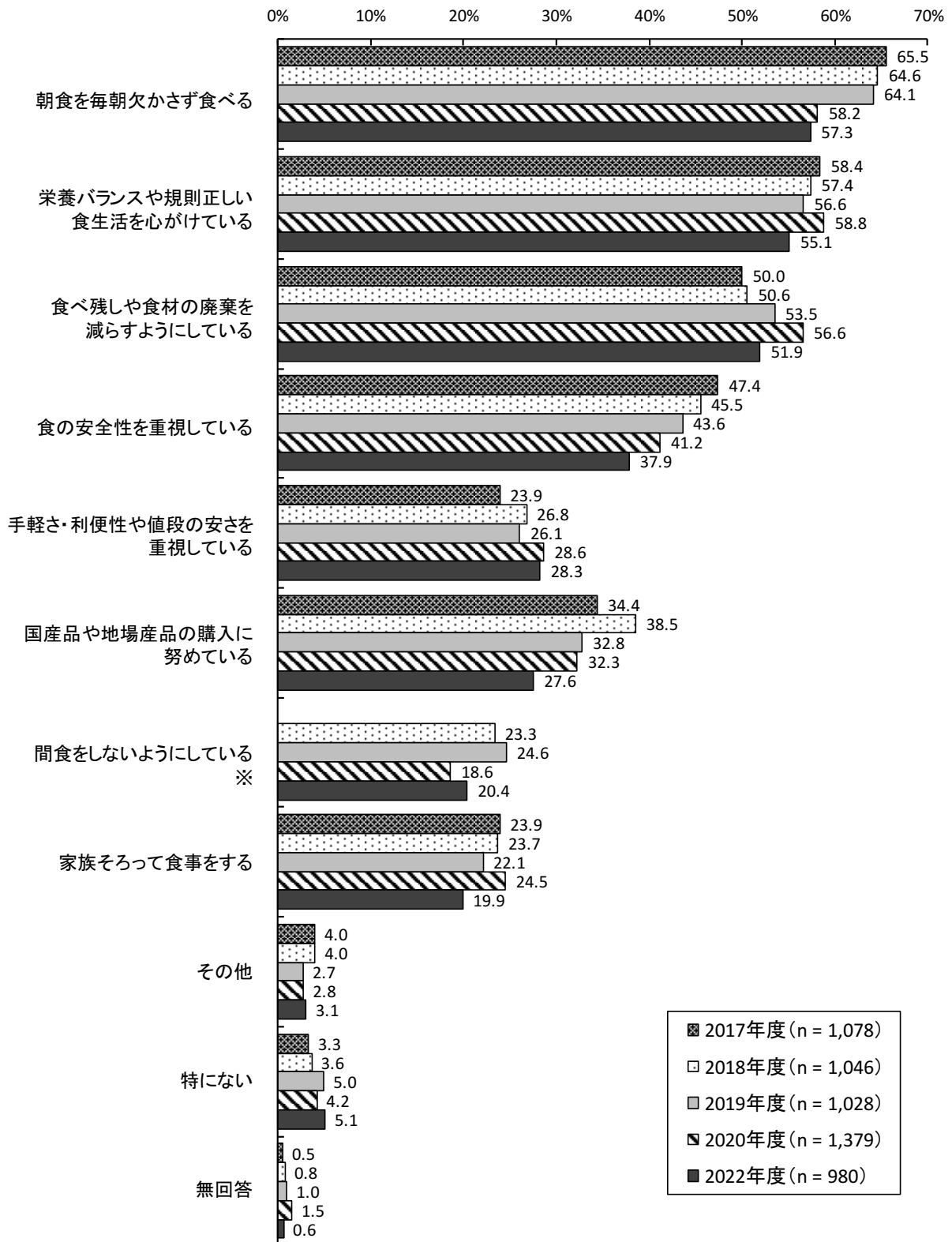


図 2-19 【年代別】食生活で心がけていること

食べ物や食生活に関して心がけていることや関心があることは、「朝食を毎朝欠かさず食べる」が57.3%で最も高く、次いで「栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている」(55.1%)、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」(51.9%)となっている。年代別にみると、65歳以上の方が65歳未満の方より食べ物や食生活について、「食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている」「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」を除いて関心が高くなっている。



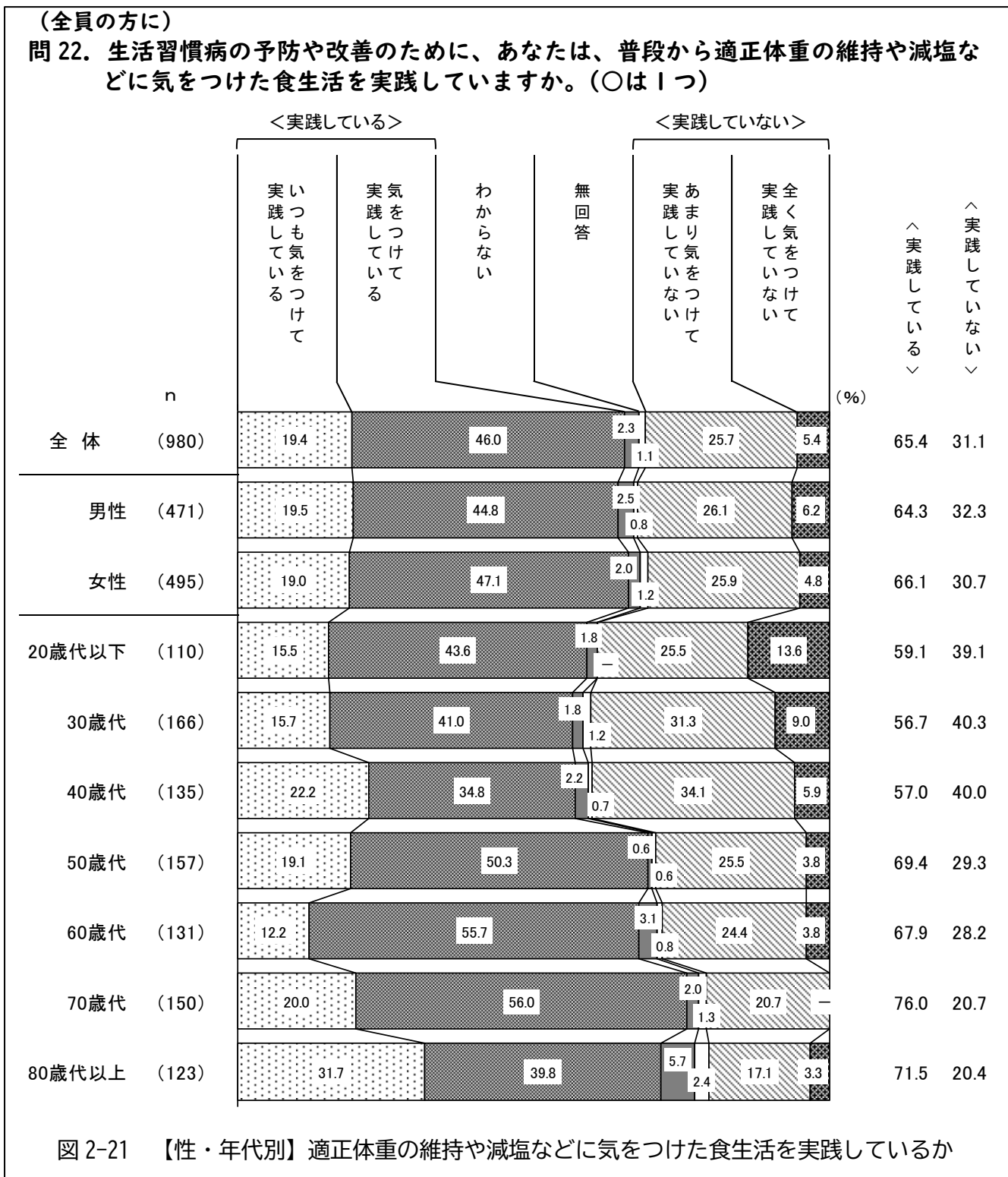
※2017年度は「間食をしないようにしている」の選択肢はない

図 2-20 【経年比較】食生活で心がけていること

経年で比較すると、「手軽さ・利便性や値段の安さを重視している」「間食をしないようにしている」を除き、全体的に減少傾向となっている。

2.9. 適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

◆適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を<実践している>は6割台半ば



適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているかについては、「いつも気をつけて実践している」(19.4%)と「気をつけて実践している」(46.0%)を合わせた<実践している>は65.4%となっている。年代別にみると、<実践している>は50歳代以上で比較的高くなっており、70歳代以上では7割を超えている。

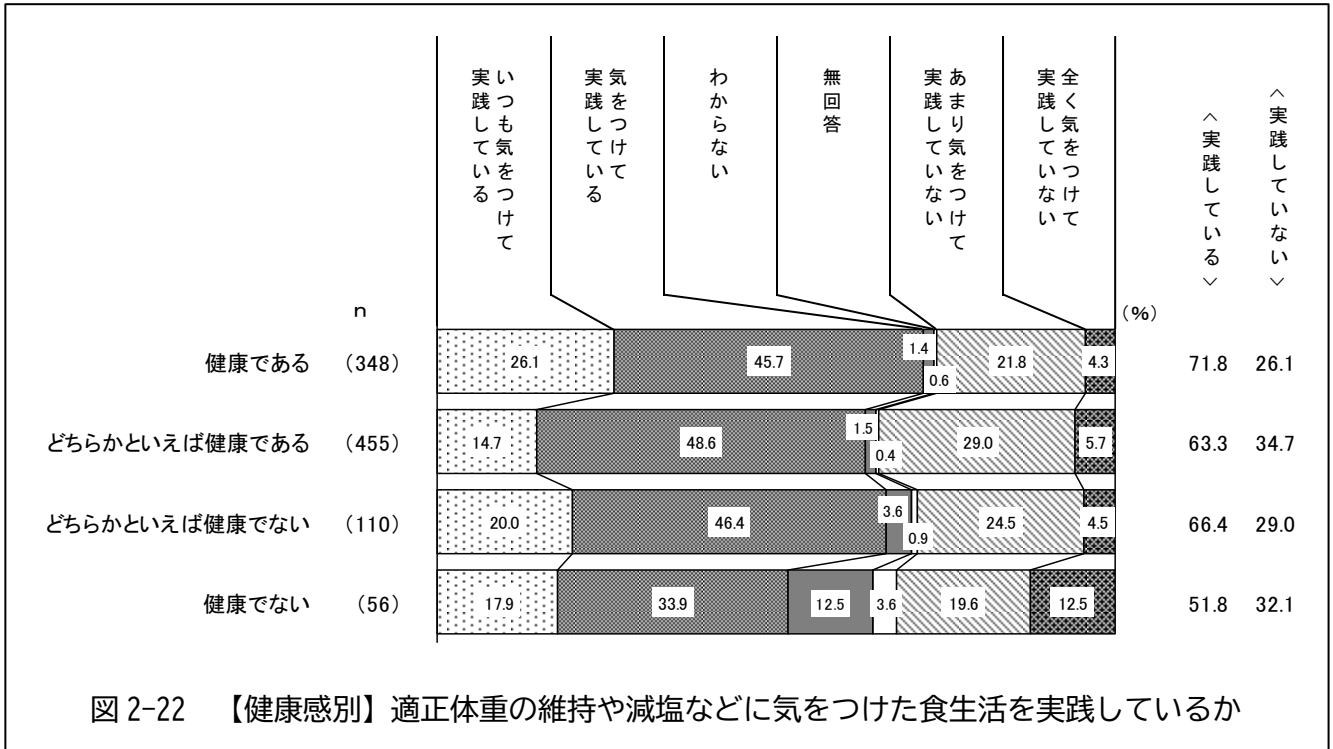
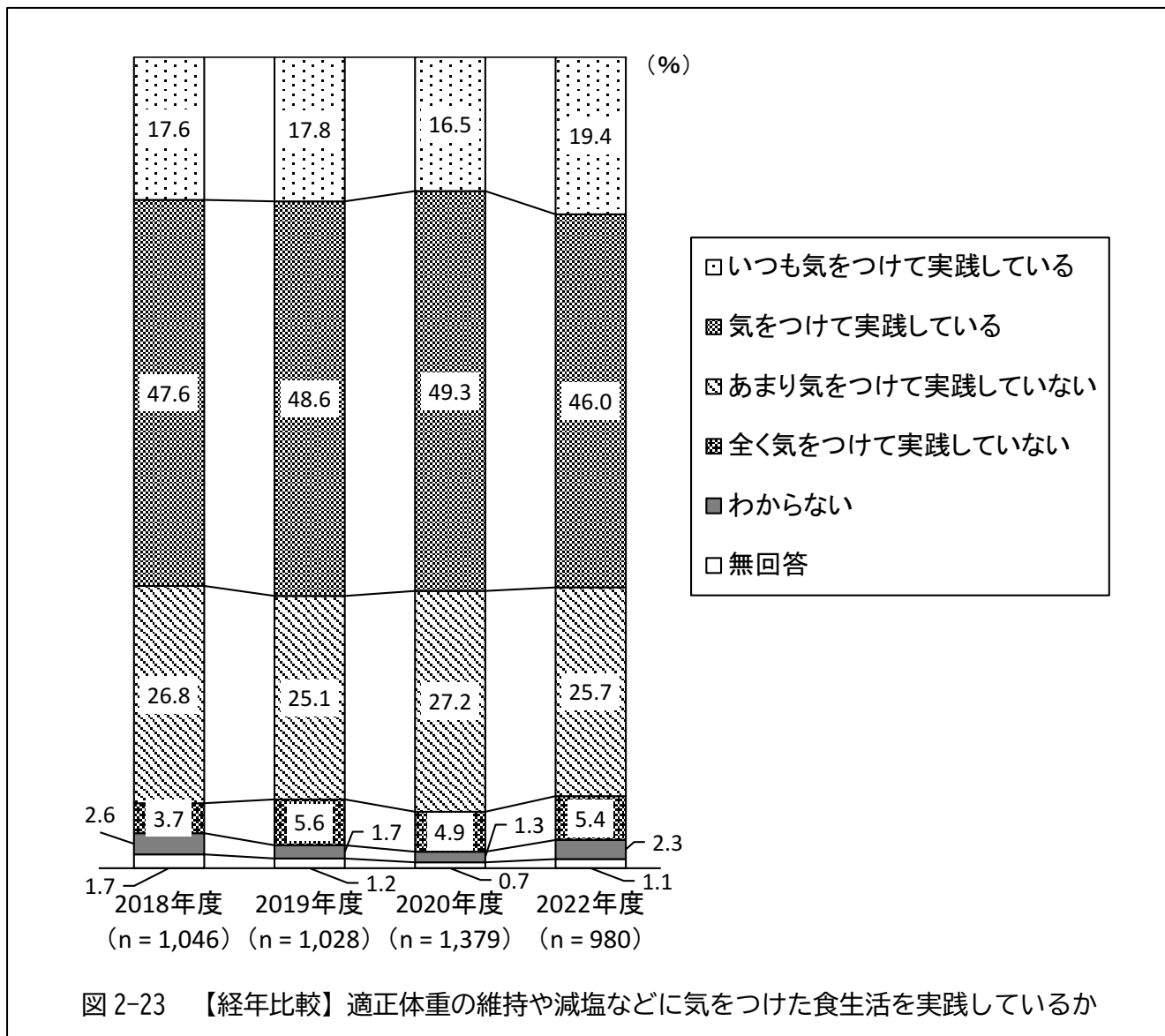


図 2-22 【健康感別】適正体重の維持や減塩などに気をつけた食生活を実践しているか

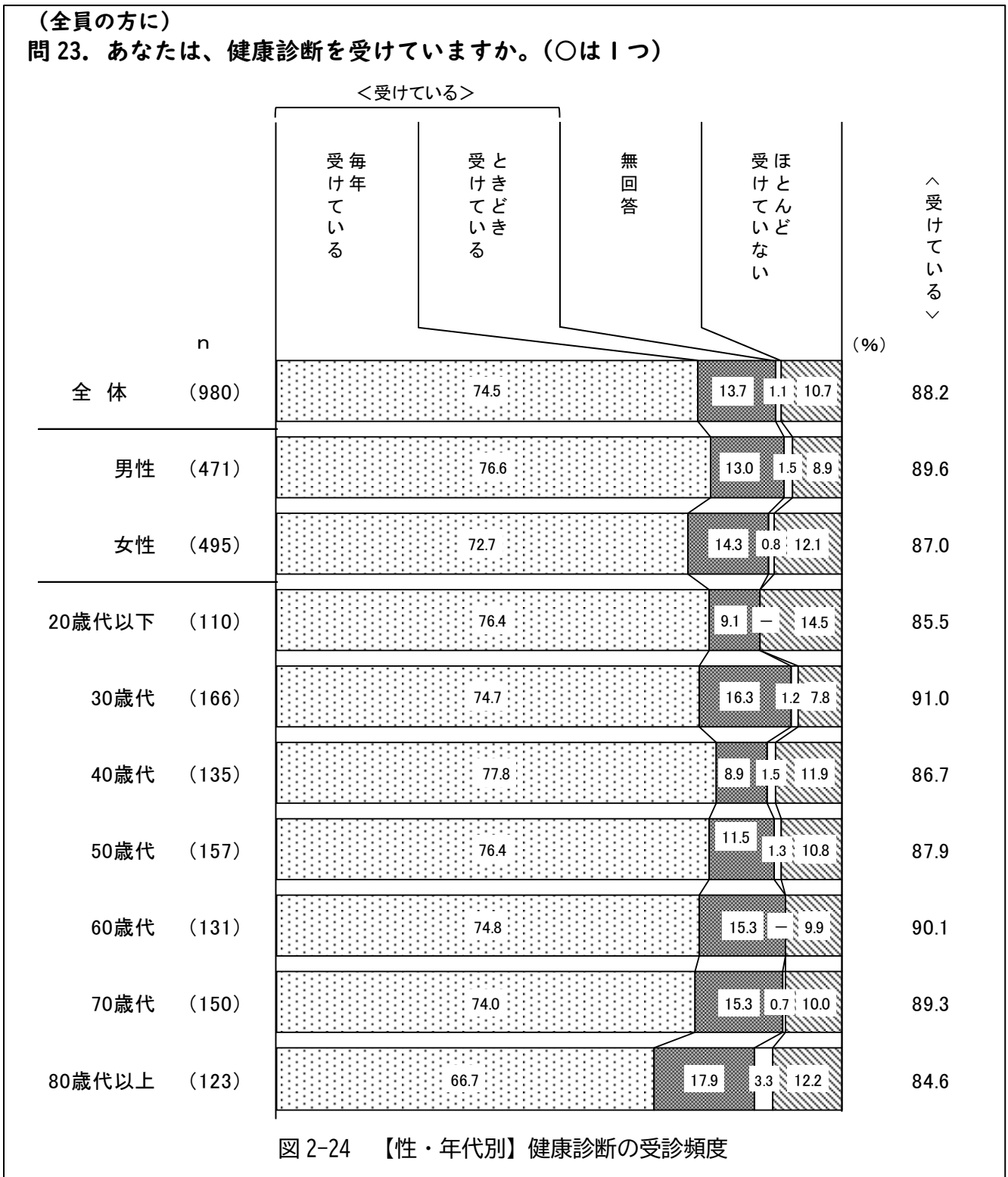
健康感別にみると、健康であると感じている人は<実践している>の割合が高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10. 健康診断の受診頻度

◆健康診断を<受けている>は8割台後半



健康診断の受診頻度は、「毎年受けている」(74.5%)と「ときどき受けている」(13.7%)を合わせた<受けている>で 88.2%となっている。性別にみると、「毎年受けている」は男性(76.6%)が女性(72.7%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、30歳代と60歳代で<受けている>が9割を超えて高くなっている。

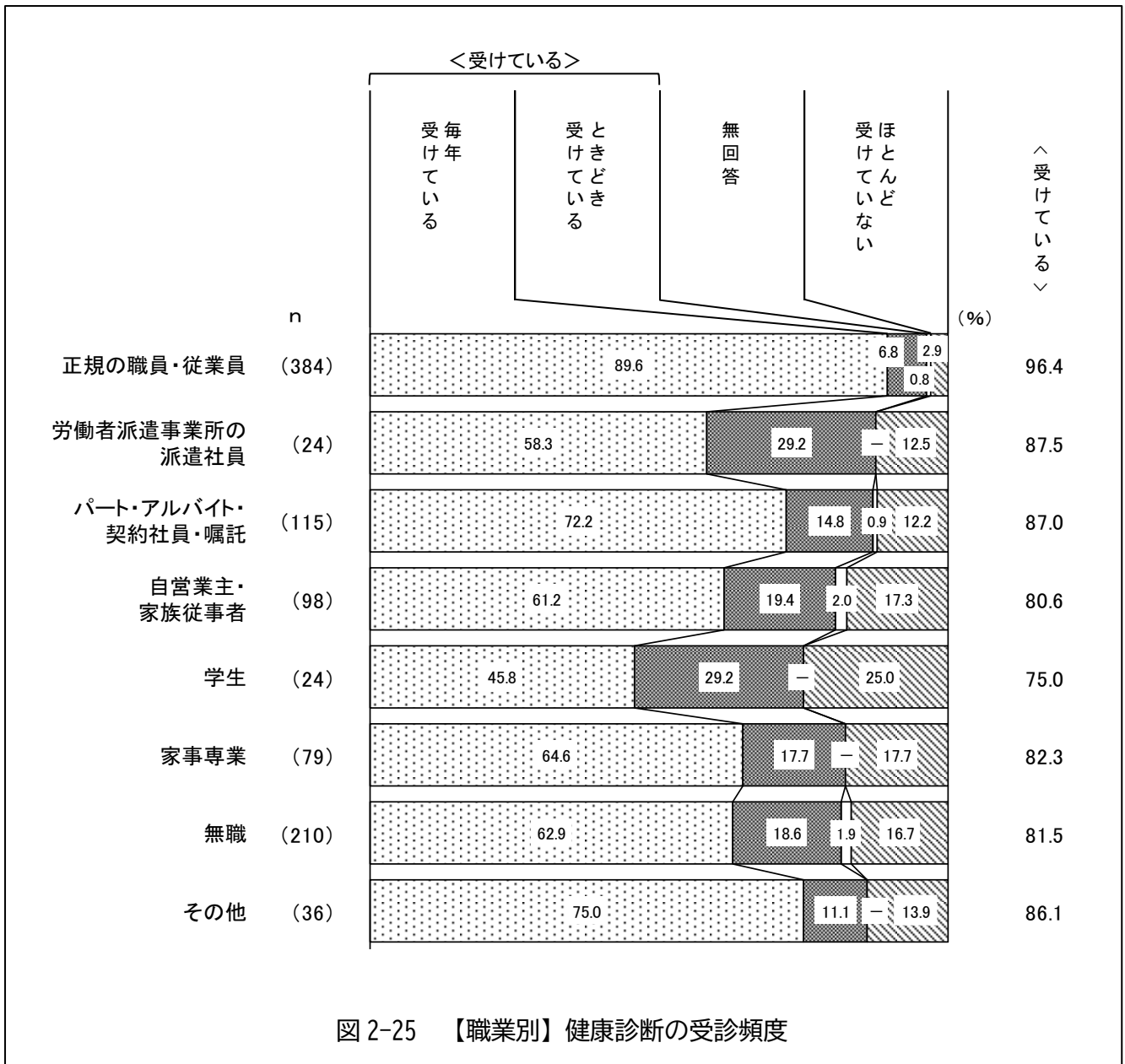


図 2-25 【職業別】健康診断の受診頻度

職業別にみると、<受けている>は「正規の職員・従業員」で 96.4%と最も高くなっている。一方、「学生」は<受けている>が 75.0%と低くなっている。

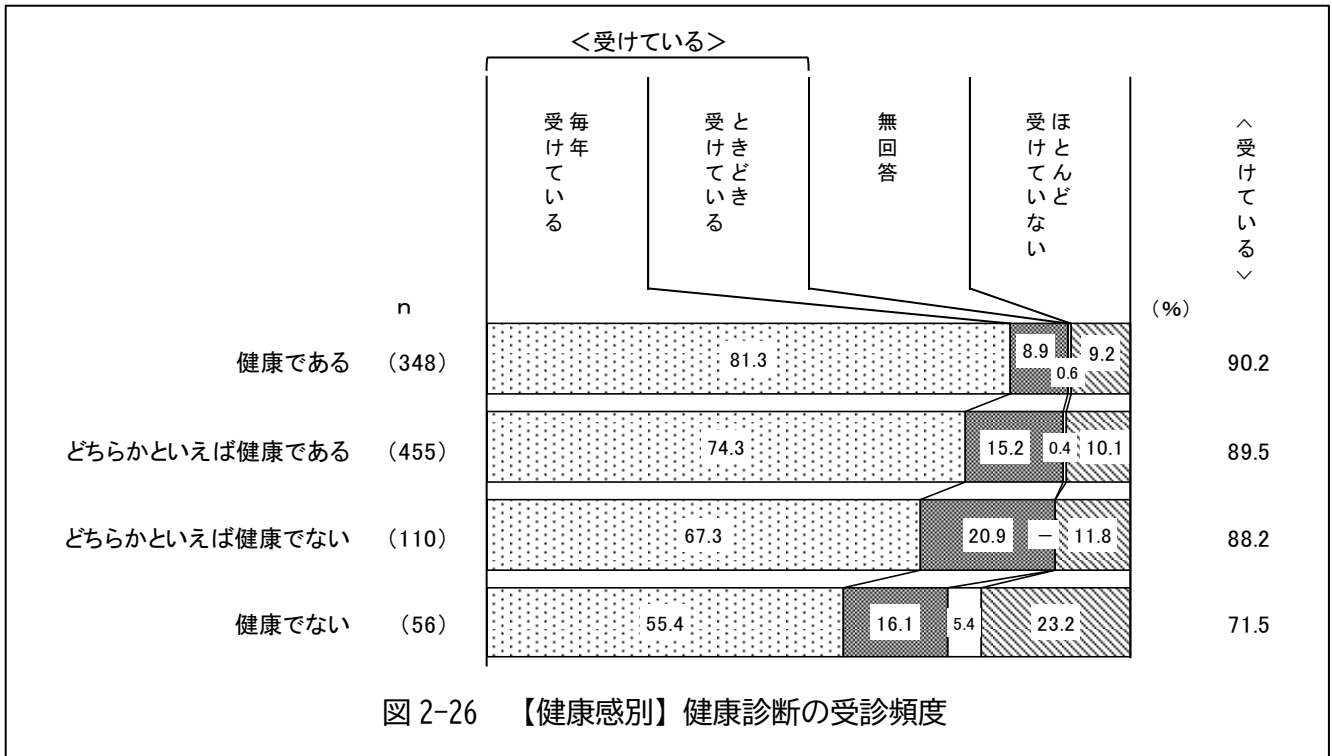


図 2-26 【健康感別】健康診断の受診頻度

「健康である」「どちらかといえば健康である」の方が、「どちらかといえば健康でない」「健康でない」よりも毎年健康診断を受診している割合が高くなっている。

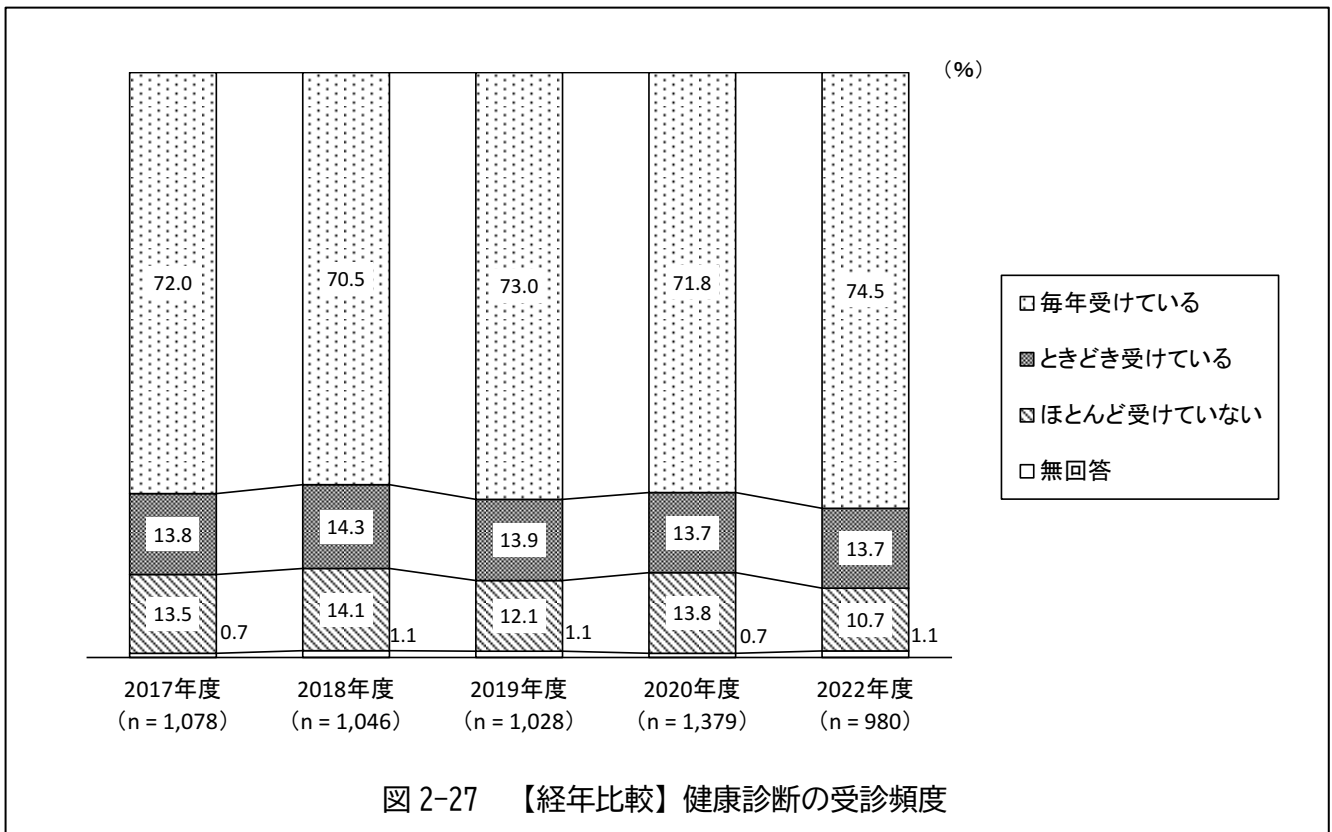
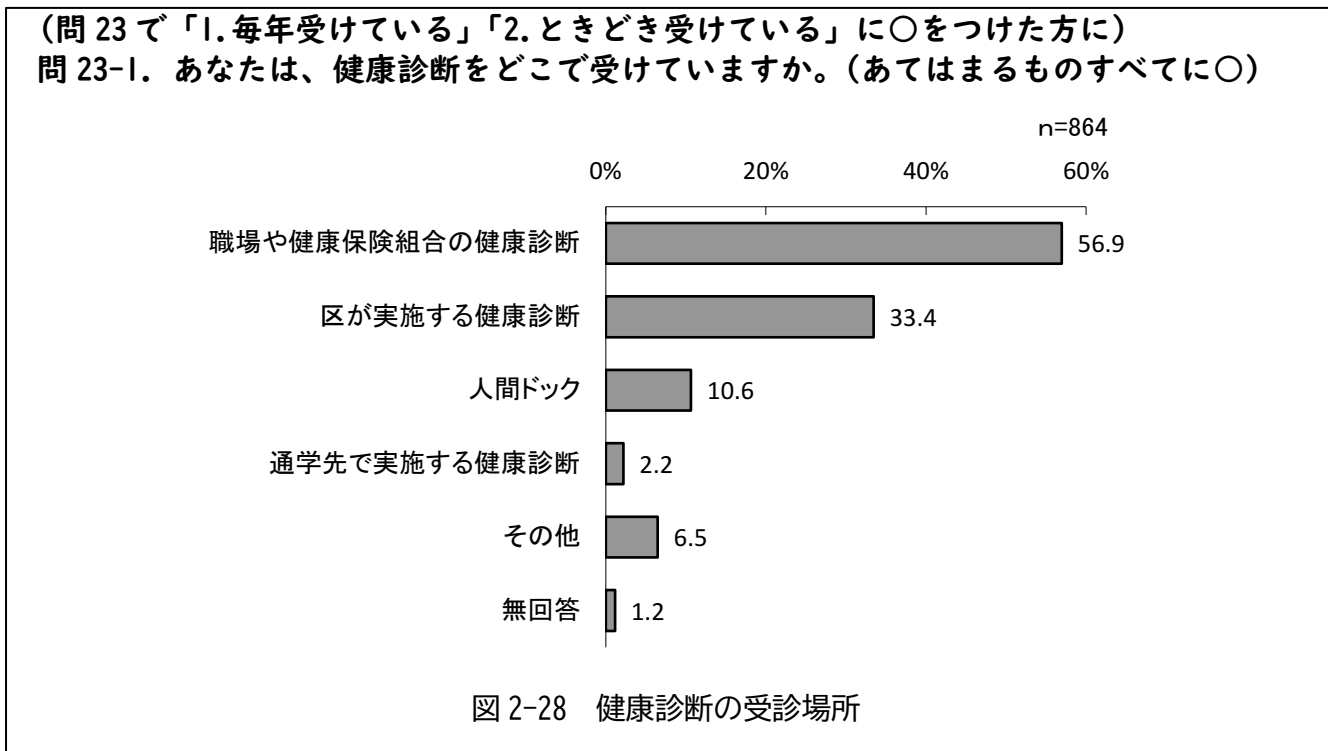


図 2-27 【経年比較】健康診断の受診頻度

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10.1. 健康診断の受診場所

◆健康診断の受診場所は「職場や健康保険組合の健康診断」が5割台半ば



健康診断を受けている方に受診場所を聞いたところ、「職場や健康保険組合の健康診断」が 56.9%で最も高く、次いで「区が実施する健康診断」(33.4%)となっている。

表 2-8 【性・年代別】健康診断の受診場所

単位：%

区分	有効回答数 (件)	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	864	56.9	33.4	2.2	10.6	6.5	1.2
男性	422	59.2	30.3	2.1	11.6	6.6	0.5
女性	431	55.7	36.2	2.3	9.7	6.0	1.6
20歳代以下	94	78.7	2.1	18.1	2.1	—	1.1
30歳代	151	90.7	5.3	0.7	7.9	2.0	—
40歳代	117	83.8	14.5	—	17.9	3.4	0.9
50歳代	138	74.6	23.2	—	10.9	2.2	0.7
60歳代	118	48.3	45.8	—	20.3	6.8	—
70歳代	134	14.9	72.4	—	6.7	11.2	2.2
80歳代以上	104	1.9	71.2	1.0	7.7	21.2	3.8

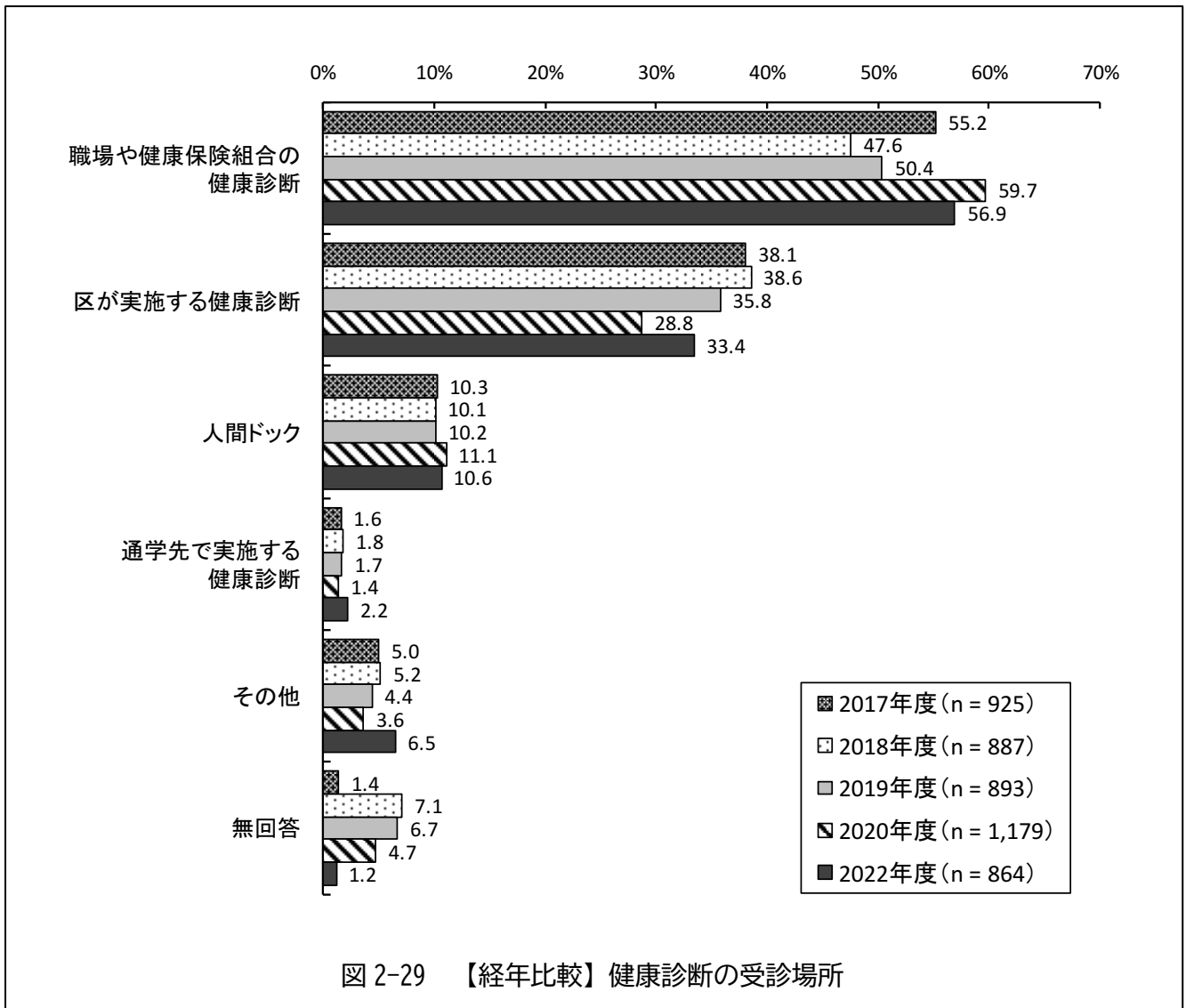
性別にみると、「職場や健康保険組合の健康診断」は男性、「区が実施する健康診断」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳～60歳代は「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高いのに対し、70歳代以上では「区が実施する健康診断」が最も高くなっている。また、60歳代は「人間ドック」の割合が約2割と他の年代と比較して高くなっている。

表 2-9 【居住地域別】健康診断の受診場所

単位：％

区分	有効回答数（件）	職場や健康保険組合の健康診断	区が実施する健康診断	通学先で実施する健康診断	人間ドック	その他	無回答
全体	864	56.9	33.4	2.2	10.6	6.5	1.2
南台	59	40.7	42.4	5.1	13.6	3.4	1.7
弥生町	74	56.8	39.2	—	9.5	6.8	1.4
本町	60	66.7	33.3	3.3	10.0	1.7	—
中央	71	71.8	26.8	2.8	4.2	4.2	1.4
東中野	63	63.5	22.2	1.6	9.5	7.9	1.6
中野	81	59.3	27.2	3.7	12.3	4.9	—
上高田	48	58.3	33.3	—	6.3	12.5	—
新井	42	52.4	33.3	2.4	19.0	9.5	—
沼袋	32	46.9	28.1	3.1	18.8	9.4	3.1
松が丘	18	44.4	55.6	—	16.7	5.6	—
江原町	20	65.0	40.0	—	—	10.0	—
江古田	26	57.7	26.9	3.8	3.8	11.5	3.8
丸山	15	60.0	40.0	—	13.3	—	—
野方	46	45.7	47.8	2.2	4.3	8.7	—
大和町	43	51.2	34.9	4.7	25.6	2.3	—
若宮	32	50.0	34.4	—	12.5	15.6	—
白鷺	31	41.9	48.4	—	6.5	3.2	3.2
鷺宮	48	72.9	22.9	2.1	6.3	4.2	—
上鷺宮	50	58.0	26.0	2.0	12.0	8.0	6.0

居住地域別にみると、南台、松が丘、野方、白鷺を除く地域で「職場や健康保険組合の健康診断」が最も高くなっている。



経年で比較すると、2022年度は「区が実施する健康診断」が増加し、「職場や健康保険組合の健康診断」が減少している。

2.10.2. 健康診断結果の活用方法

◆健康診断結果の活用方法は「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が7割台半ば

(問 23 で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に)
問 23-2. 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

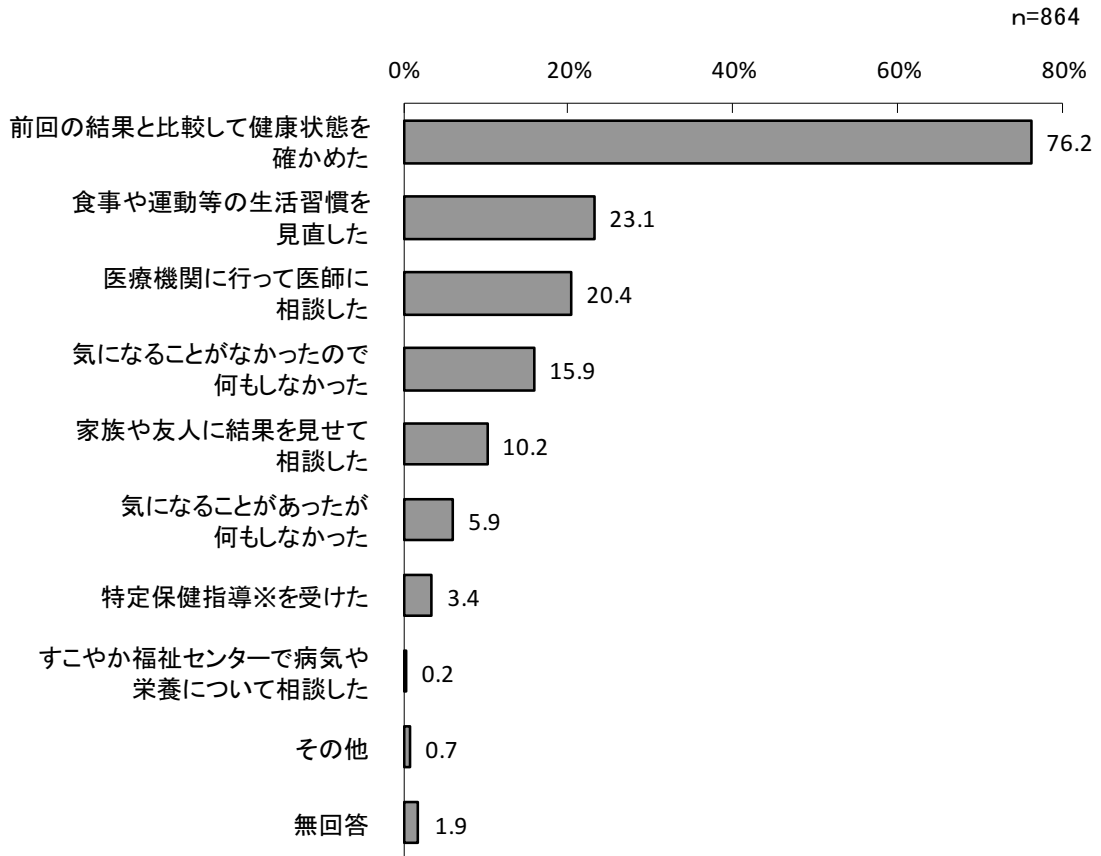


図 2-30 健康診断結果の活用方法

※特定保健指導…メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の早期発見を目的とした健康診査（特定健診）の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のこと。

健康診断を受けている方に健康診断結果の活用方法を聞いたところ、「前回の結果と比較して健康状態を確かめた」が 76.2%で最も高く、次いで「食事や運動等の生活習慣を見直した」(23.1%)、「医療機関に行って医師に相談した」(20.4%)となっている。

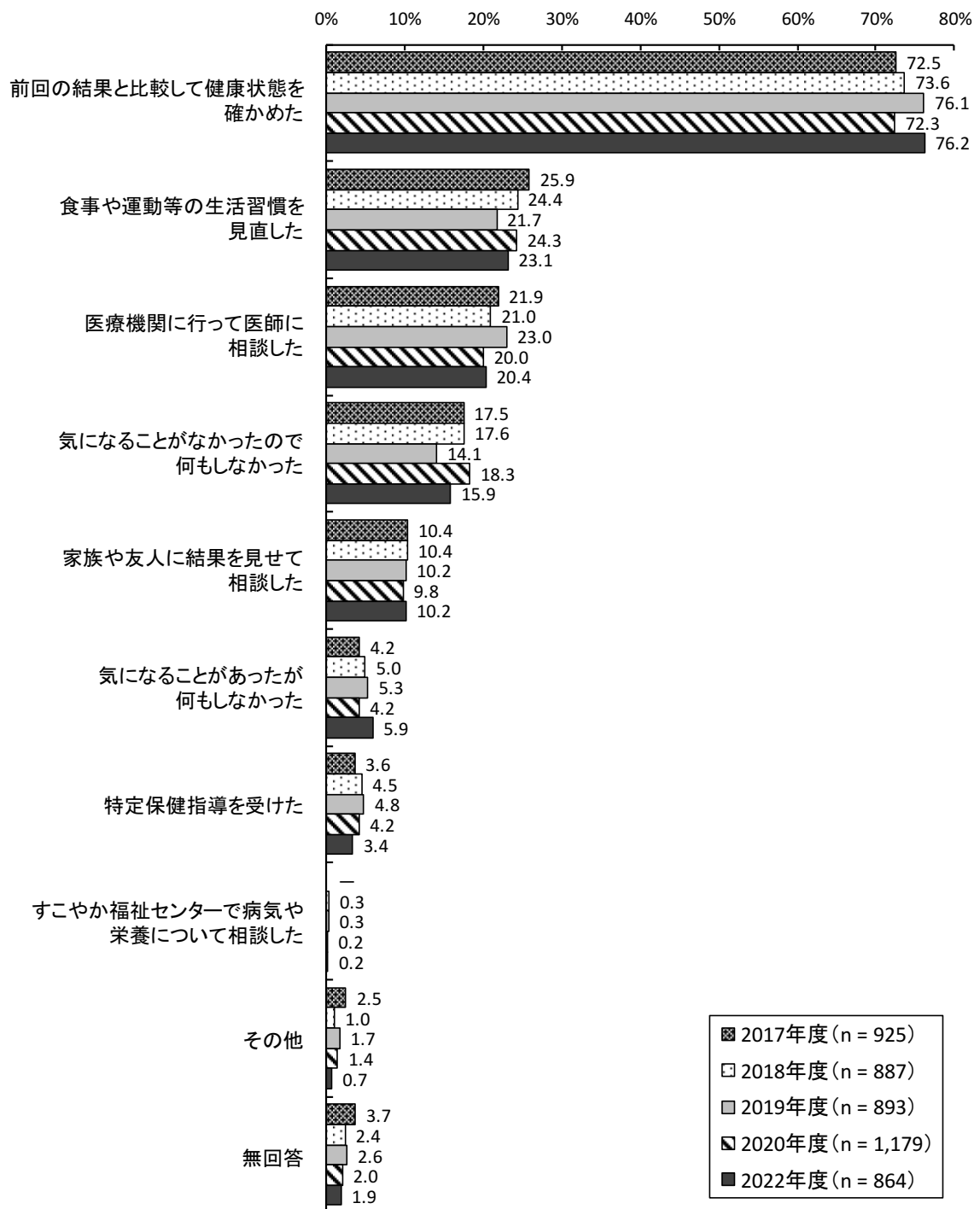


図 2-31 【経年比較】健康診断結果の活用方法

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.10.3. 健康診断を受けなかった理由

◆健康診断を受けなかった理由は「面倒だから」が3割台前半

(問23で「3.ほとんど受けていない」に○をつけた方に)

問23-3. あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

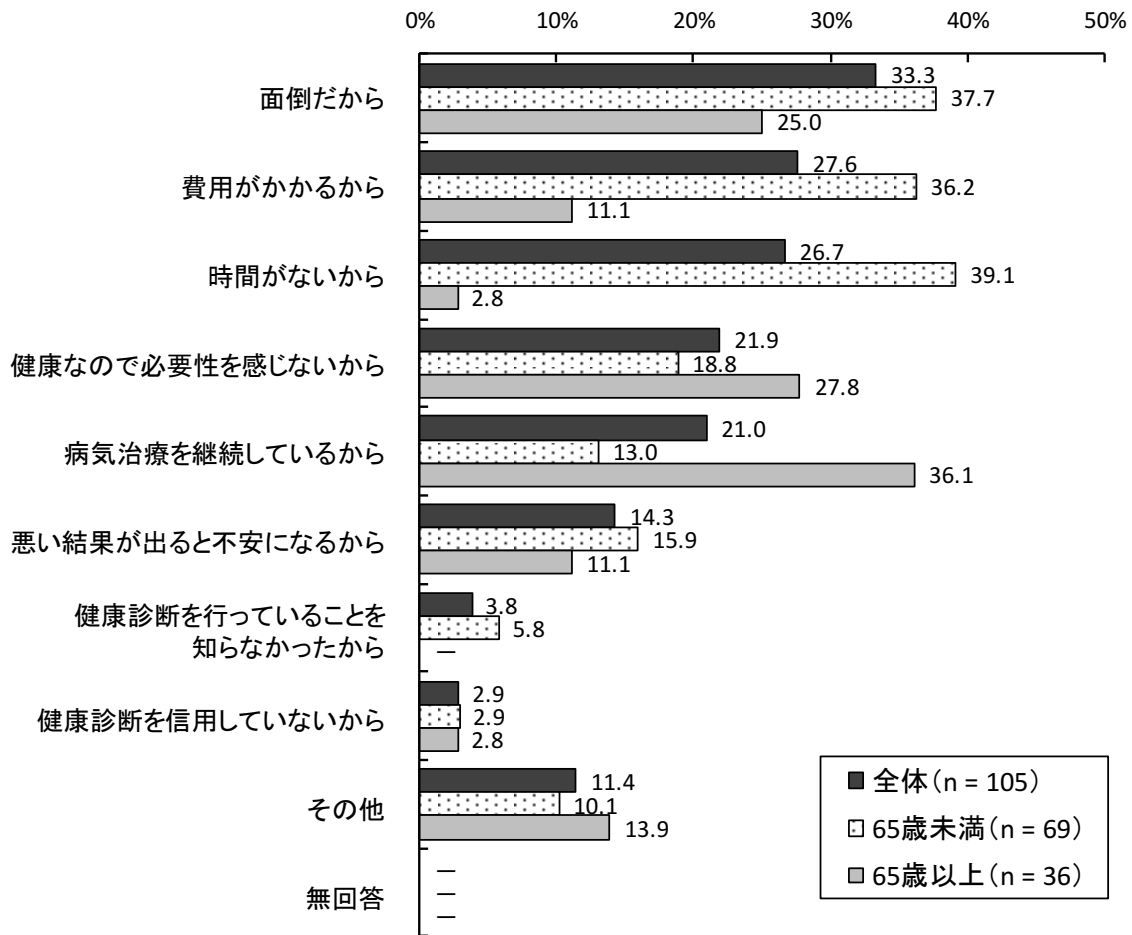


図2-32 【年代別】健康診断を受けなかった理由

健康診断を受けなかった方にその理由を聞いたところ、「面倒だから」が33.3%で最も高く、次いで「費用がかかるから」(27.6%)、「時間がないから」(26.7%)となっている。年代別にみると、65歳未満では「時間がないから」(39.1%)が最も高く、次いで「面倒だから」(37.7%)、「費用がかかるから」(36.2%)となっているのに対し、65歳以上では「病気治療を継続しているから」(36.1%)が最も高く、次いで「健康なので必要性を感じないから」(27.8%)、「面倒だから」(25.0%)となっている。

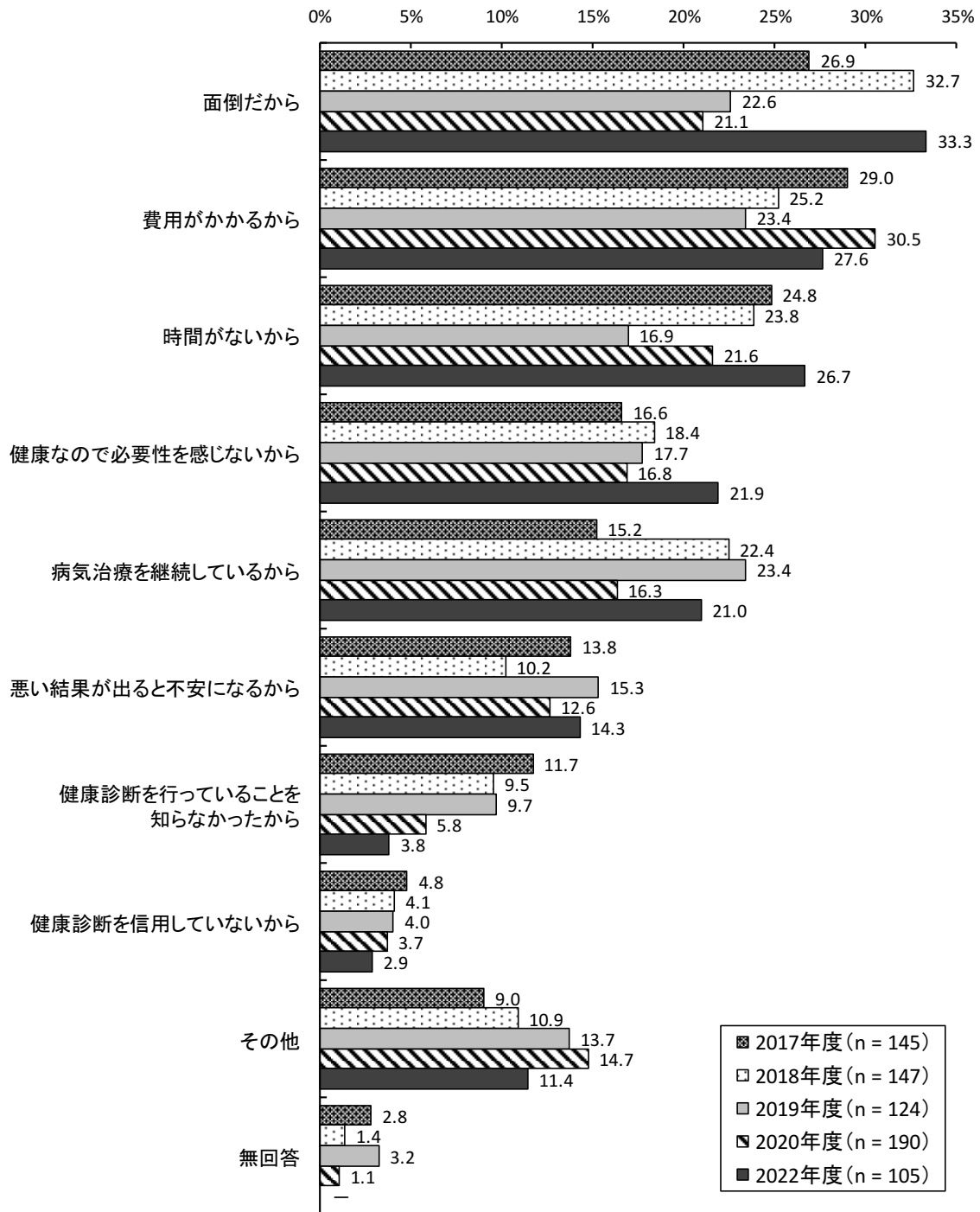


図 2-33 【経年比較】健康診断を受けなかった理由

経年で比較すると、2022年度は「面倒だから」「時間がないから」「健康なので必要性を感じないから」「病気治療を継続しているから」などが増加に転じている。

2.11. かかりつけの診療所の有無

◆かかりつけの診療所を<決めている>割合は年代が上がるにつれ増加傾向

(全員の方に)

問 24. あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所（医院・クリニック）を決めていますか。（○は1つ）

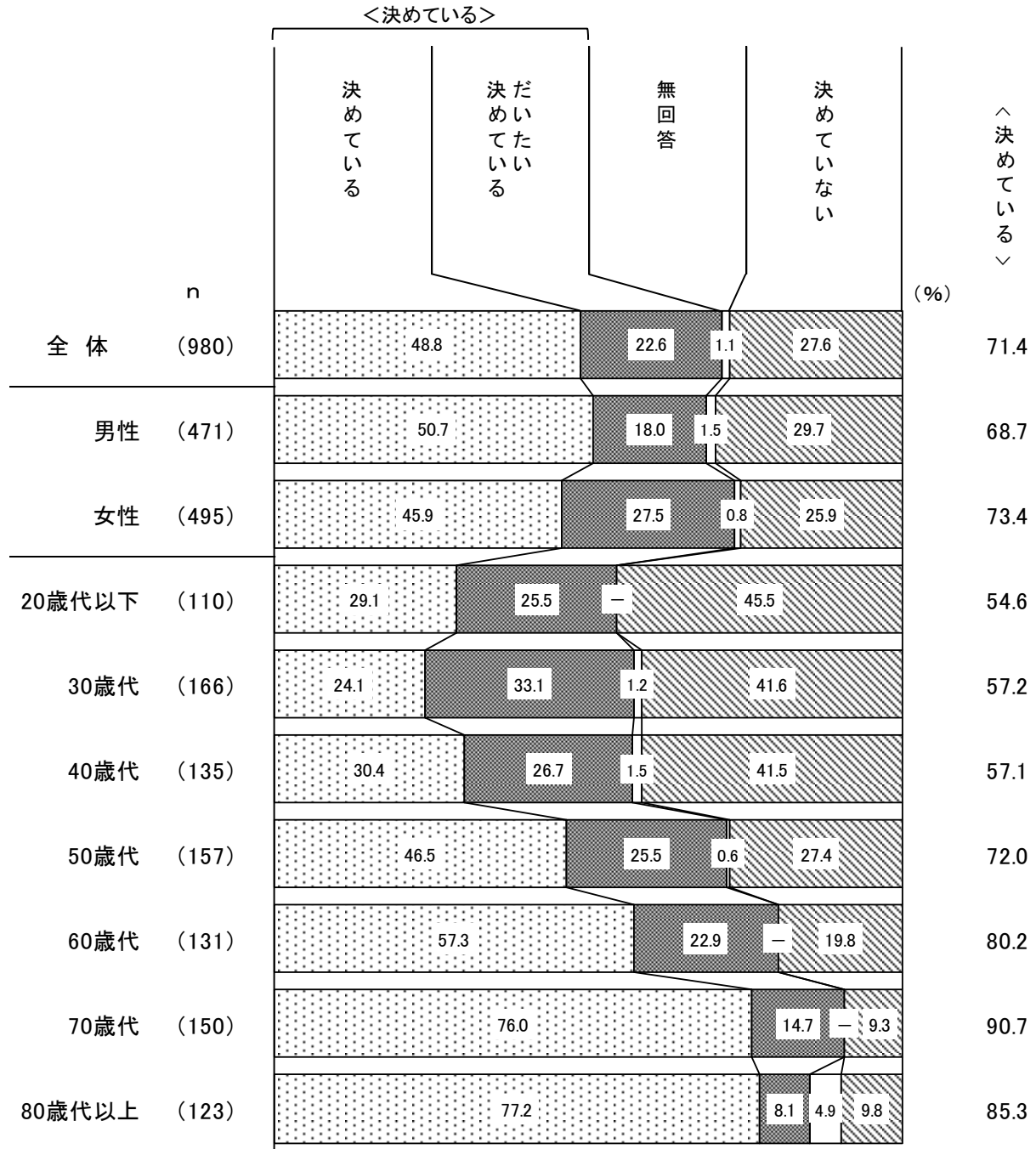
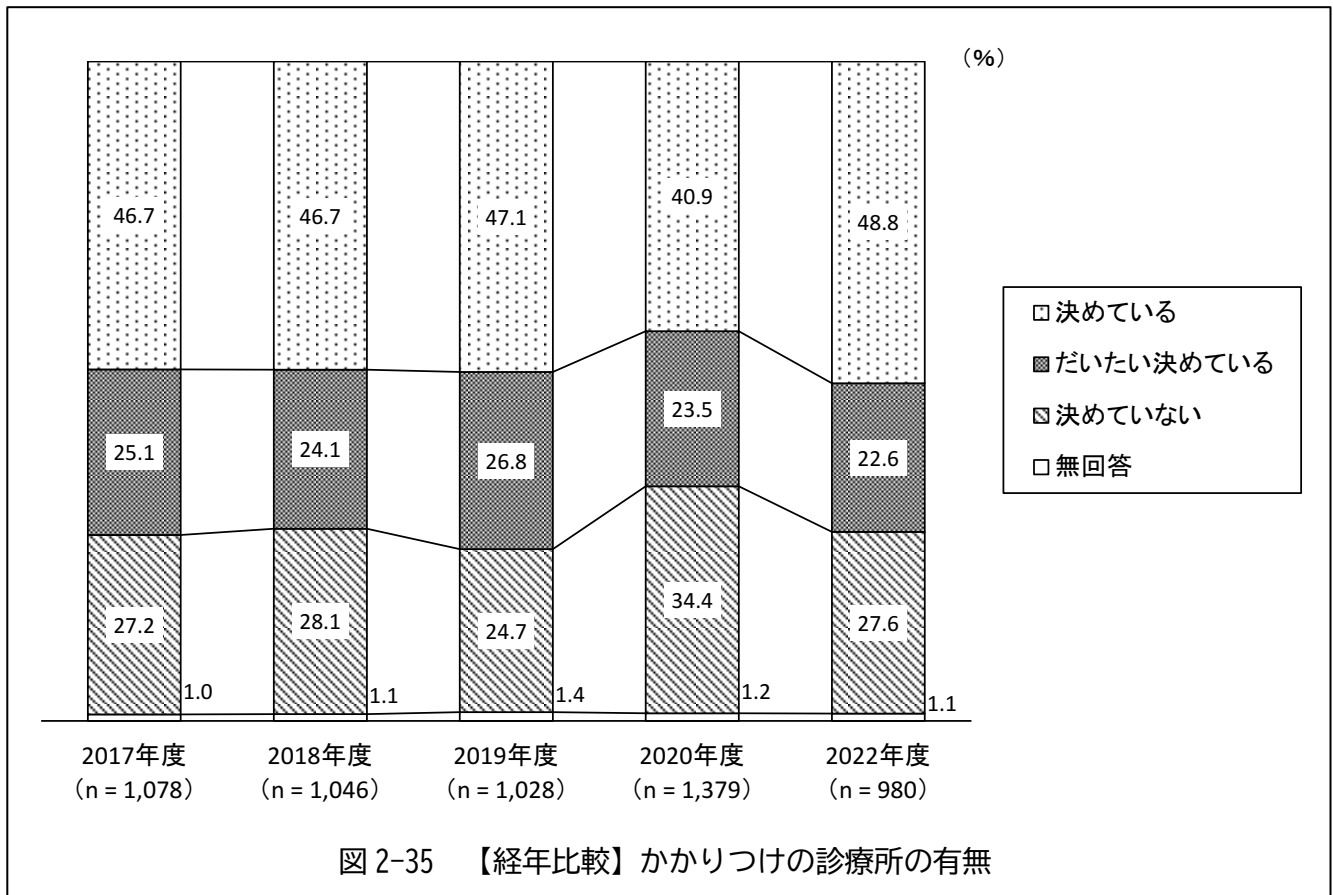


図 2-34 【性・年代別】かかりつけの診療所の有無

かかりつけの診療所を決めているかについては、「決めている」(48.8%)と「だいたい決めている」(22.6%)を合わせた<決めている>で71.4%となっている。性別にみると、<決めている>では女性(73.4%)が男性(68.7%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は概ね年代が上がるにつれ増加傾向となっている。



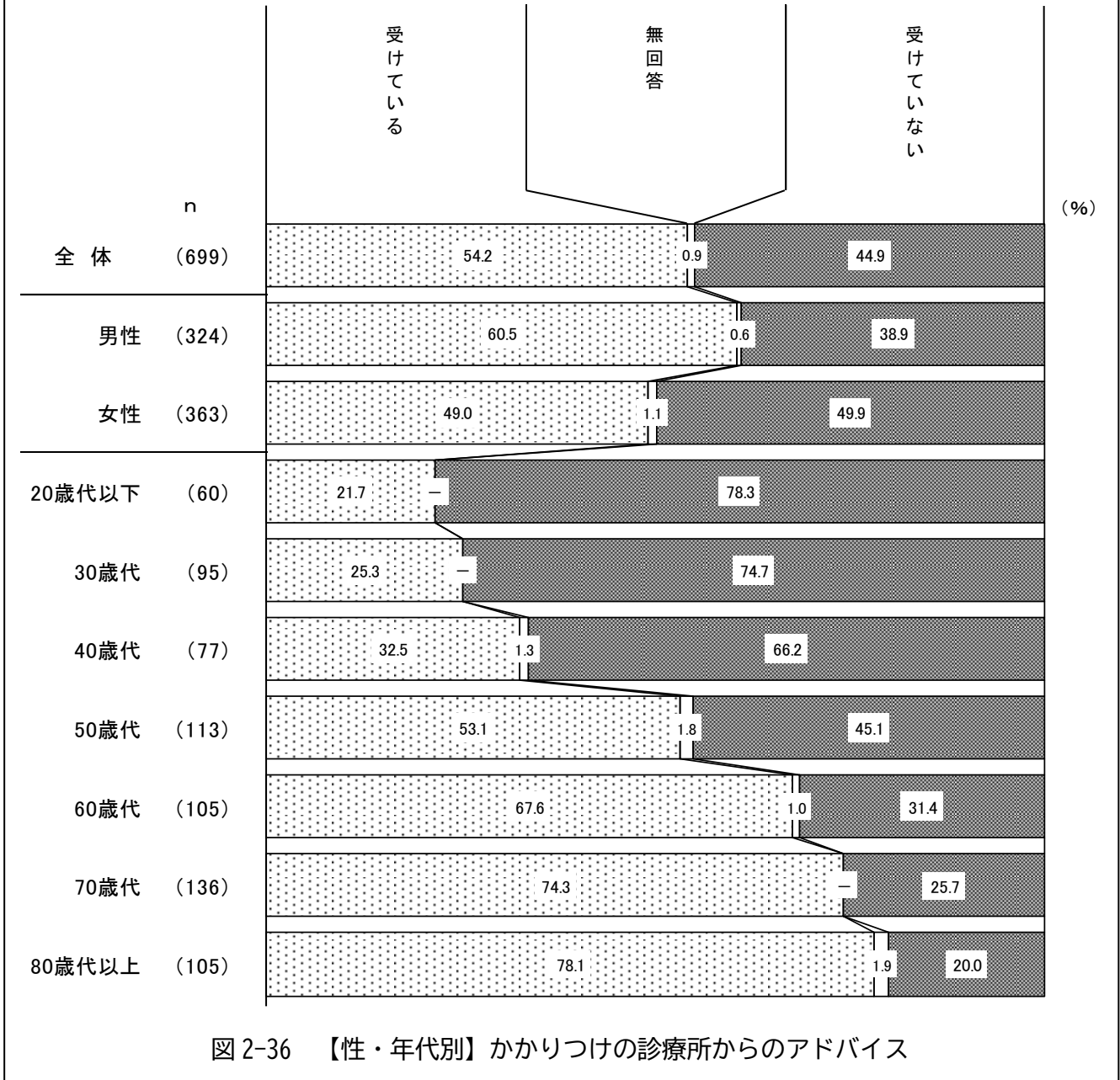
経年で比較すると、「決めている」は2020年度に減少したものの、2022年度は増加に転じている。

2.11.1. かかりつけの診療所からのアドバイス

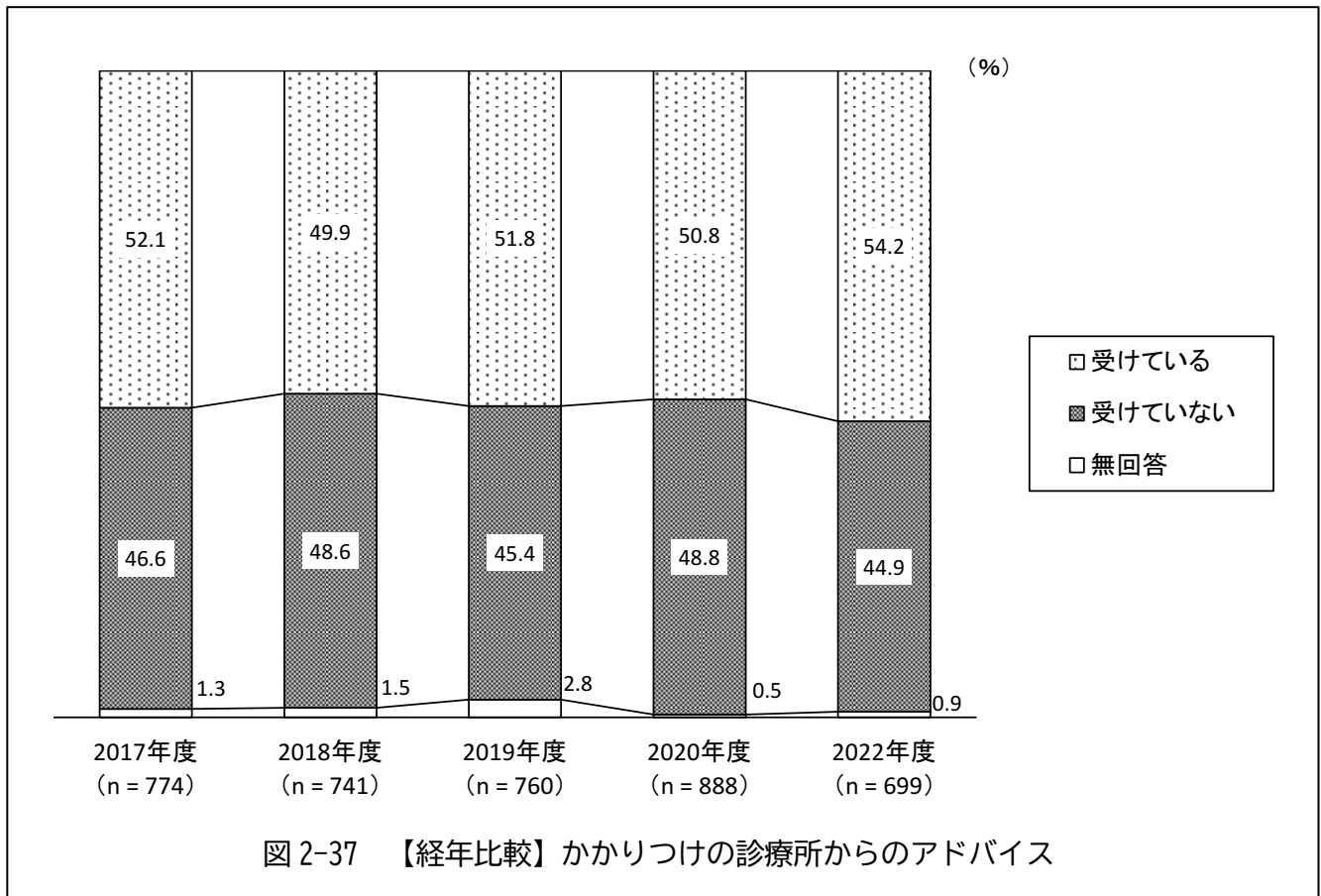
◆かかりつけの診療所で健康についてのアドバイスを「受けている」は5割台半ば

(問 24 で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に)

問 24-1. あなたは、かかりつけの診療所（医院・クリニック）で、普段から本人や家族等の日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。(○は1つ)



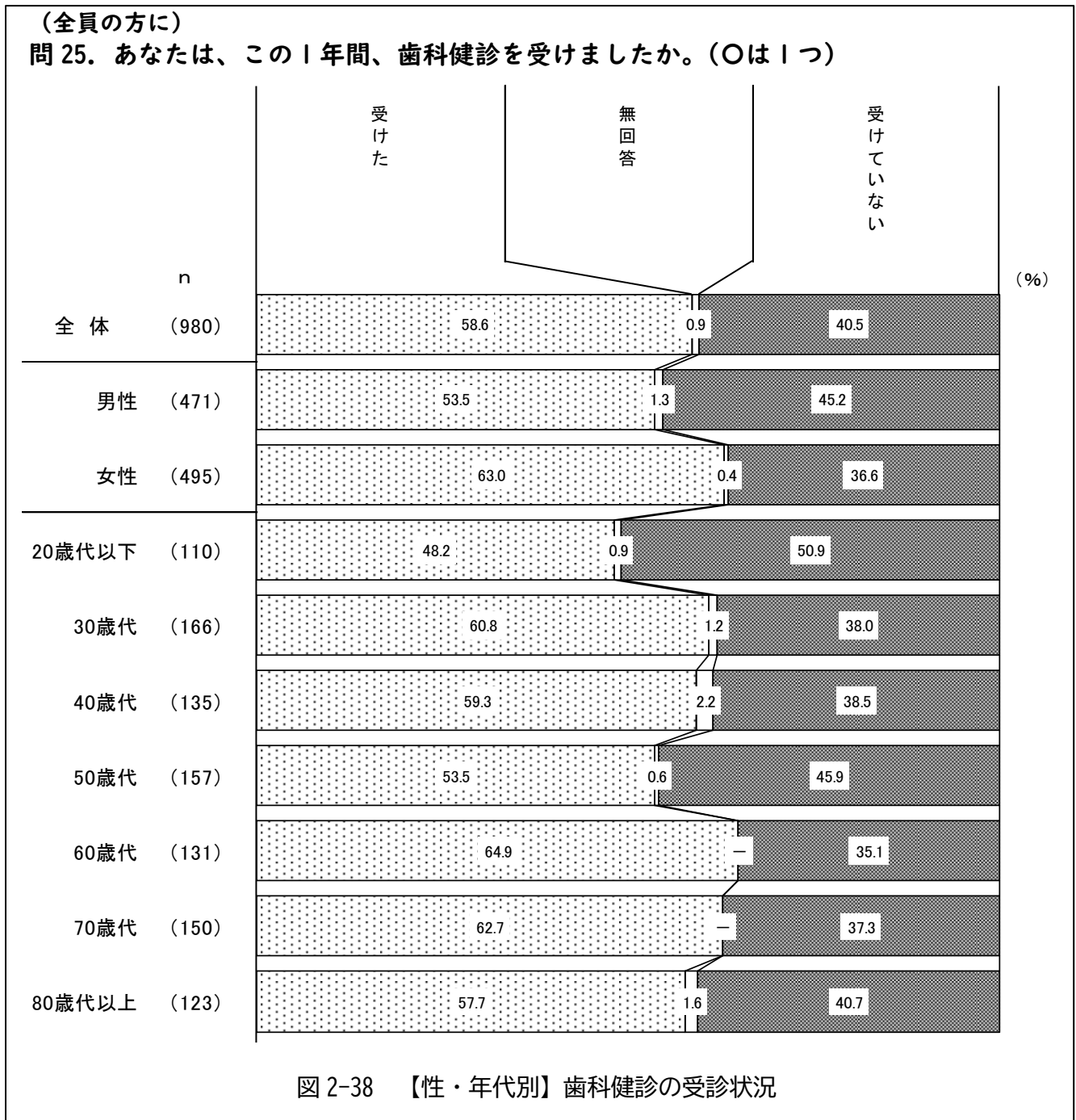
かかりつけの診療所を決めている方にかかりつけの診療所から健康についてのアドバイスを受けているか聞いたところ、「受けている」が 54.2%に対し、「受けていない」は 44.9%となっている。性別にみると、「受けている」では男性 (60.5%) が女性 (49.0%) を約 12 ポイント上回っている。年代別にみると、「受けている」は年代が上がるにつれ増加している。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.12. 歯科健診の受診状況

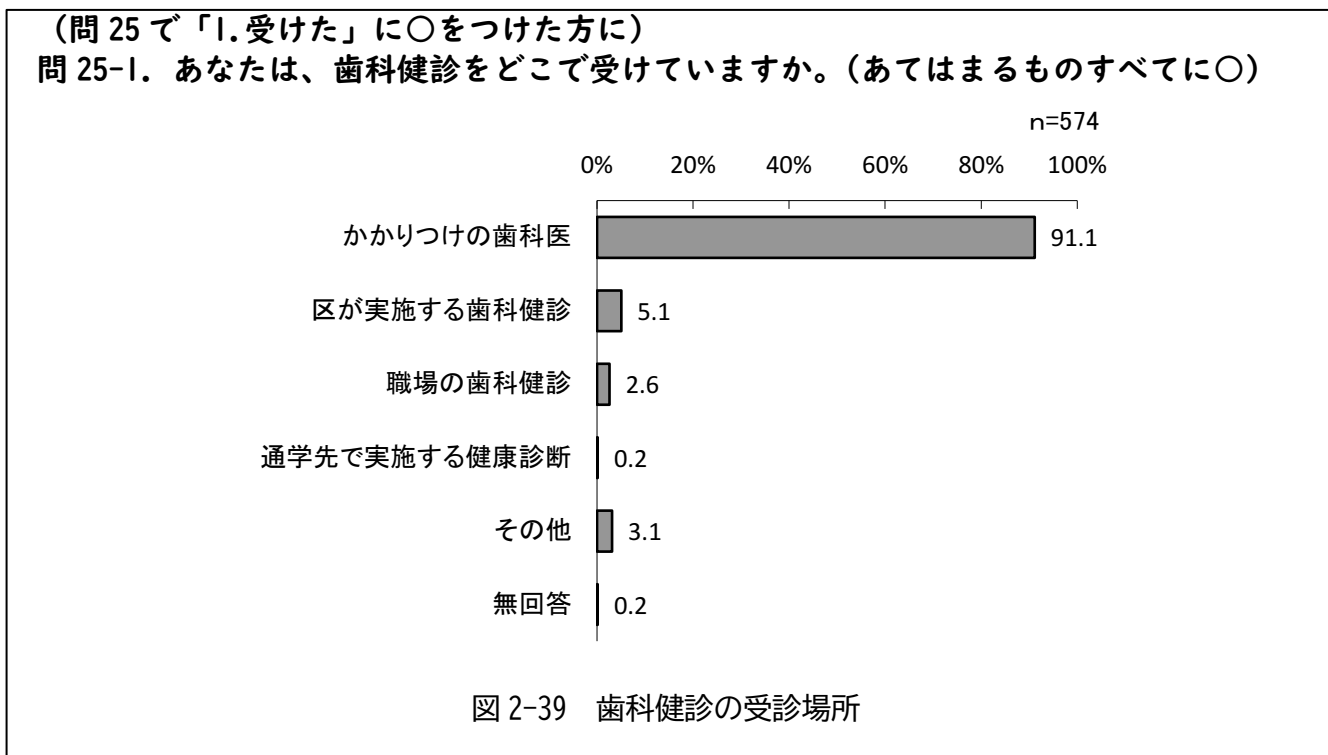
◆歯科健診を「受けた」は5割台後半



歯科健診の受診については「受けた」が58.6%に対し、「受けていない」が40.5%となっている。性別に見ると、「受けた」は女性(63.0%)が男性(53.5%)を約10ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「受けていない」が約5割となっており、他の年代と比較して高くなっている。

2.12.1. 歯科健診の受診場所

◆歯科健診の受診場所は「かかりつけの歯科医」が約9割



歯科健診の受診場所については「かかりつけの歯科医」が 91.1%で最も高く、次いで、「区が実施する歯科健診」(5.1%)となっている。

表 2-10 【性・年代別】 歯科健診の受診場所

単位：%

区分	有効回答数(件)	職場の歯科健診	区が実施する歯科健診	通学先で実施する健康診断	かかりつけの歯科医	その他	無回答
全体	574	2.6	5.1	0.2	91.1	3.1	0.2
男性	252	4.8	6.3	0.4	88.5	2.8	—
女性	312	1.0	4.2	—	92.9	3.5	0.3
20歳代以下	53	3.8	3.8	1.9	86.8	3.8	—
30歳代	101	5.0	2.0	—	85.1	8.9	—
40歳代	80	2.5	10.0	—	88.8	2.5	—
50歳代	84	3.6	4.8	—	91.7	1.2	—
60歳代	85	3.5	9.4	—	94.1	—	—
70歳代	94	—	5.3	—	94.7	2.1	—
80歳代以上	71	—	—	—	95.8	2.8	1.4

性別にみると、「職場の歯科健診」は男性の割合が高くなっている。年代別にみると、40歳代と60歳代で「区が実施する歯科健診」の割合が他の年代と比較してやや高くなっている。

2.12.2. 歯科健診を受診しなかった理由

◆ 歯科健診を受診しなかった理由は「時間がないから」が3割

(問 25 で「2. 受けていない」に○をつけた方に)

問 25-2. あなたが、歯科健診を受診しなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

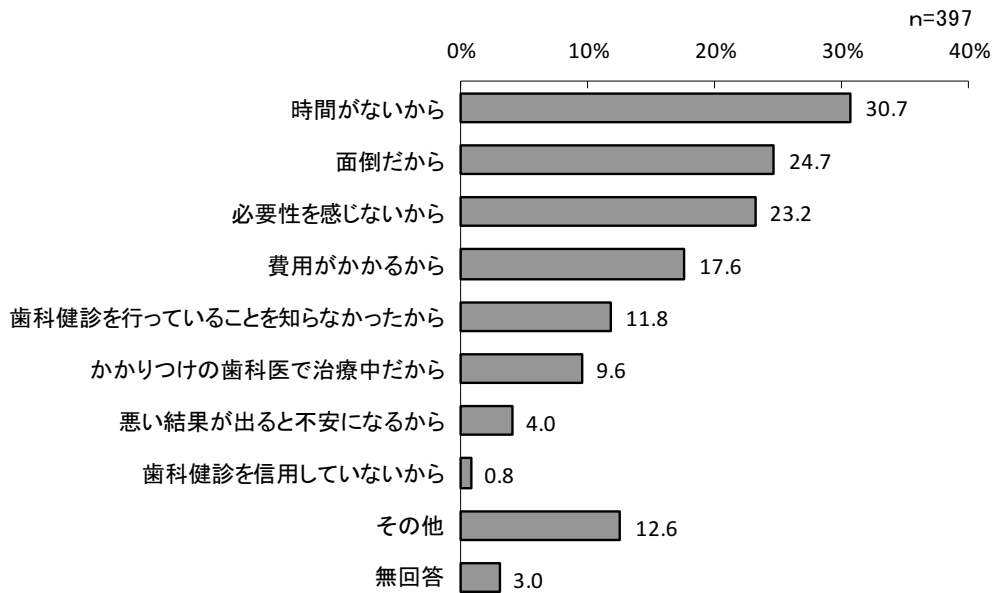


図 2-40 歯科健診を受診しなかった理由

歯科健診を受診しなかった理由については「時間がないから」が30.7%と最も高くなっており、次いで「面倒だから」(24.7%)、「必要性を感じないから」(23.2%)となっている。

表 2-11 【性・年代別】歯科健診を受診しなかった理由

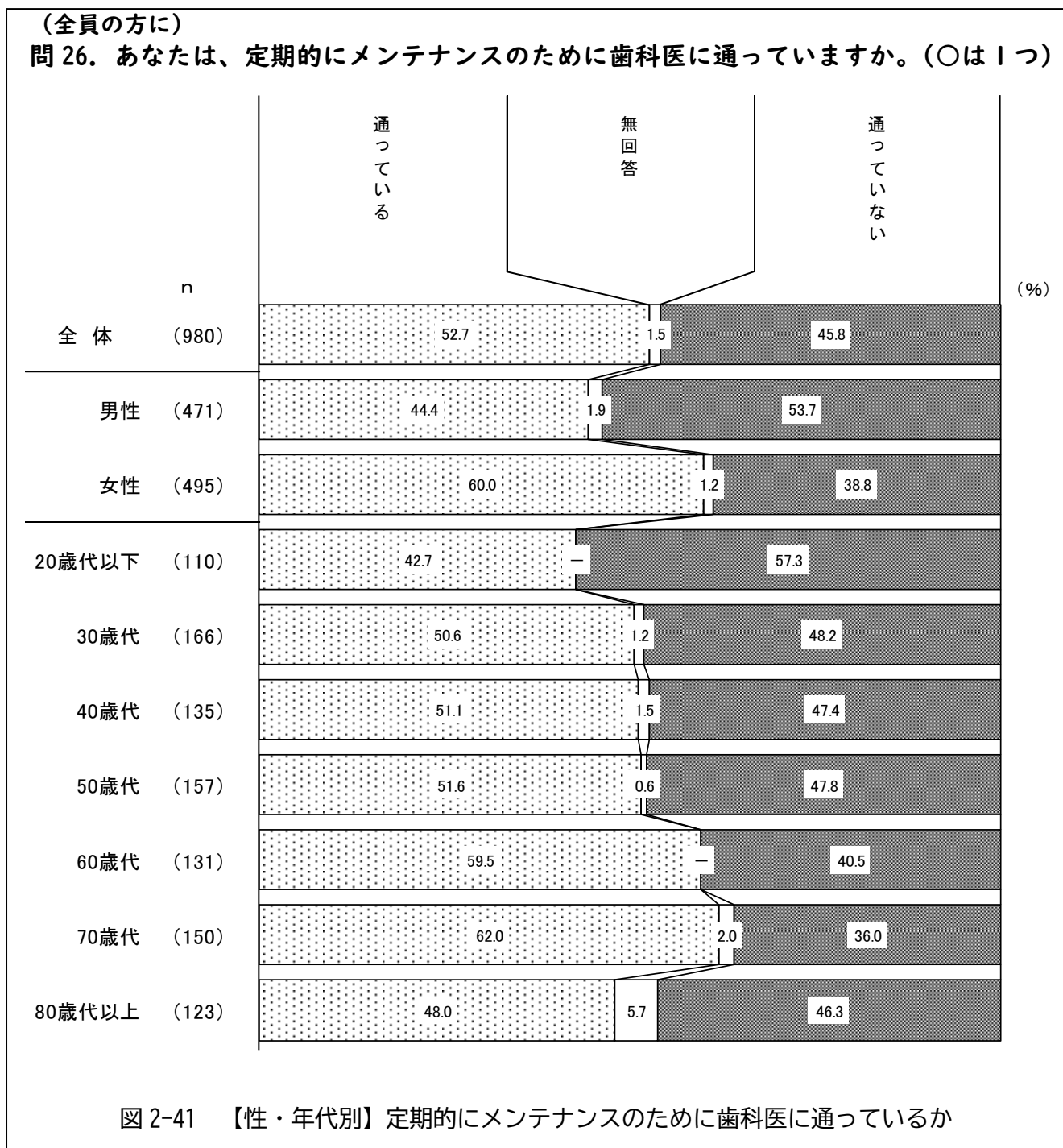
単位：%

区分	有効回答数(件)	時間がないから	費用がかかるから	面倒だから	かかりつけの歯科医で治療中だから	知らないから	歯科健診を行って	いらないから	不安になるから	悪い結果が出ると	から	必要性を感じない	その他	無回答
全体	397	30.7	17.6	24.7	9.6	11.8	0.8	4.0	23.2	12.6	3.0			
男性	213	31.5	17.4	27.2	8.0	10.3	0.9	3.8	27.7	12.2	0.9			
女性	181	29.8	18.2	22.1	11.6	13.8	0.6	4.4	16.6	13.3	5.5			
20歳代以下	56	48.2	35.7	41.1	3.6	10.7	—	3.6	14.3	7.1	—			
30歳代	63	42.9	30.2	36.5	4.8	12.7	3.2	3.2	14.3	6.3	3.2			
40歳代	52	42.3	17.3	34.6	3.8	9.6	—	9.6	23.1	5.8	1.9			
50歳代	72	34.7	15.3	16.7	5.6	8.3	1.4	5.6	25.0	18.1	5.6			
60歳代	46	21.7	4.3	19.6	21.7	15.2	—	6.5	19.6	15.2	—			
70歳代	56	12.5	7.1	14.3	21.4	7.1	—	—	35.7	21.4	—			
80歳代以上	50	6.0	8.0	10.0	10.0	22.0	—	—	30.0	14.0	10.0			

性別にみると、男性で「必要性を感じないから」「面倒だから」の割合が高くなっている。年代別にみると、60歳代以下で「時間がないから」、60歳代で「かかりつけの歯科医で治療中だから」、70歳代以上で「必要性を感じないから」の割合が高くなっている。

2.13. 定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているか

◆定期的にメンテナンスのために歯科医に「通っている」は5割台前半



定期的にメンテナンスのために歯科医に通っているかについては「通っている」が52.7%に対し、「通っていない」が45.8%となっている。性別に見ると、「通っている」は女性(60.0%)が男性(44.4%)を約16ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「通っていない」が5割台後半となっており、他の年代と比較して高くなっている。

2.14. かかりつけの歯科診療所の有無

◆かかりつけの歯科診療所を<決めている>が6割台後半

(全員の方に)

問 27. あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの歯科診療所を決めていますか。(○は1つ)

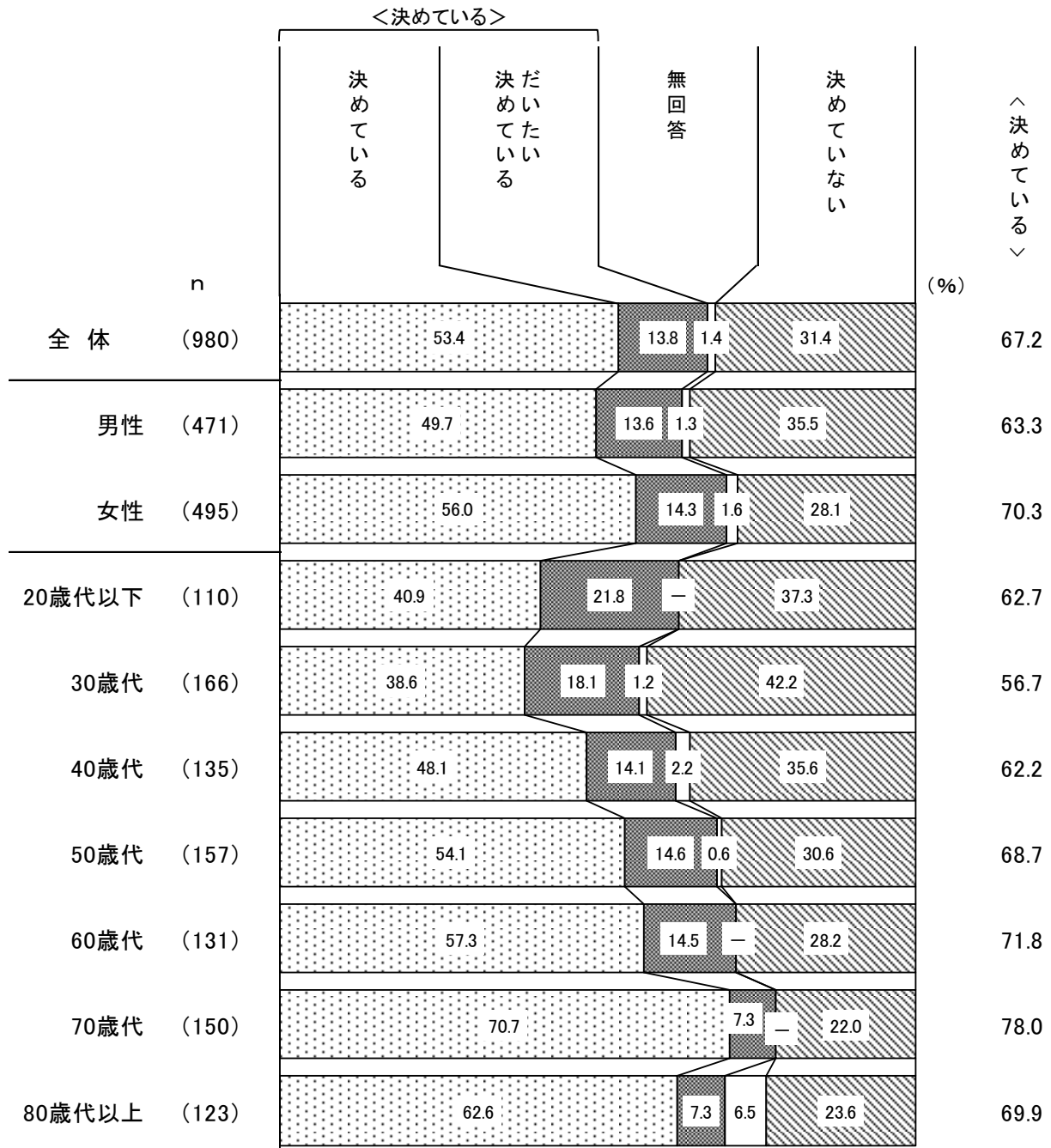
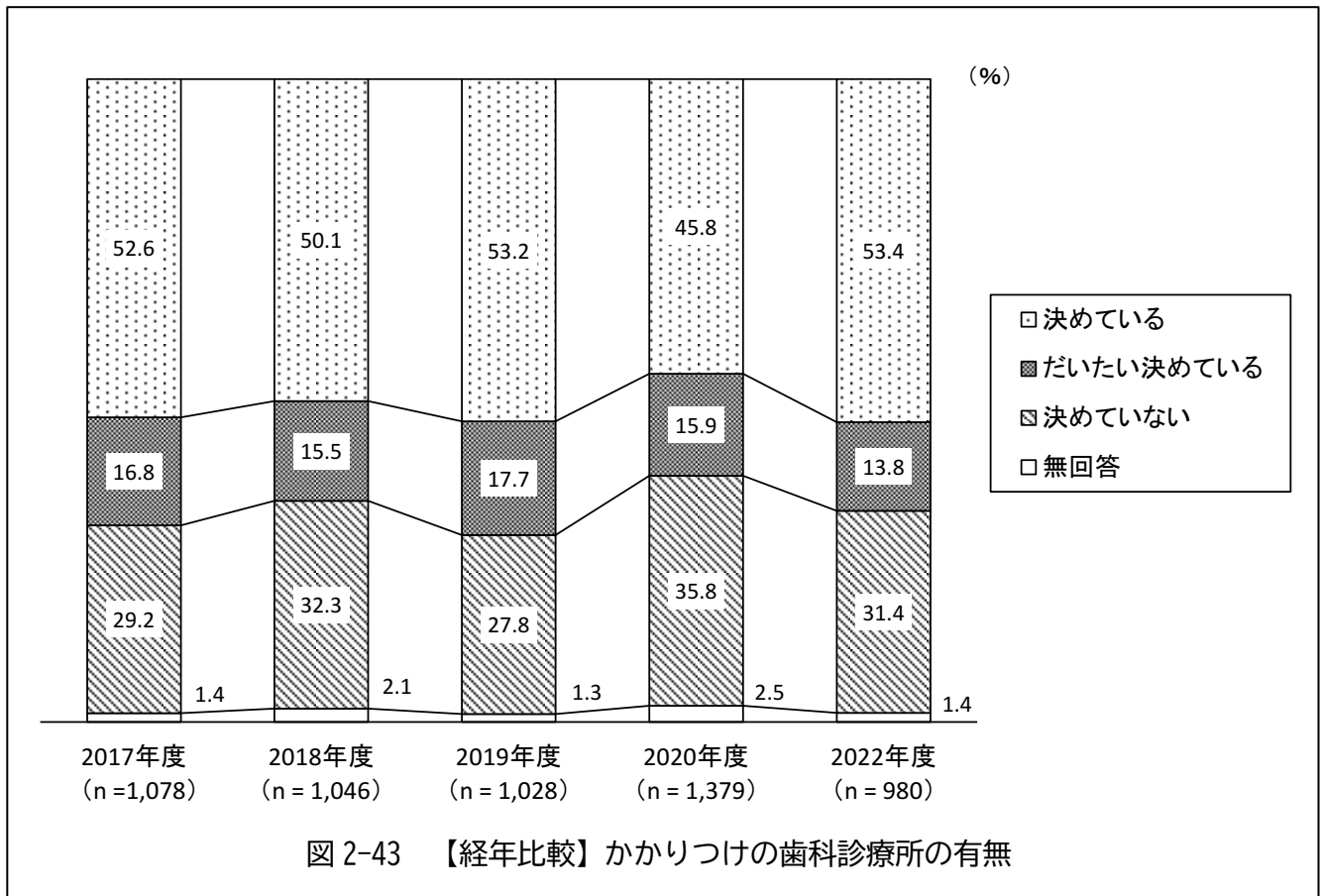


図 2-42 【性・年代別】かかりつけの歯科診療所の有無

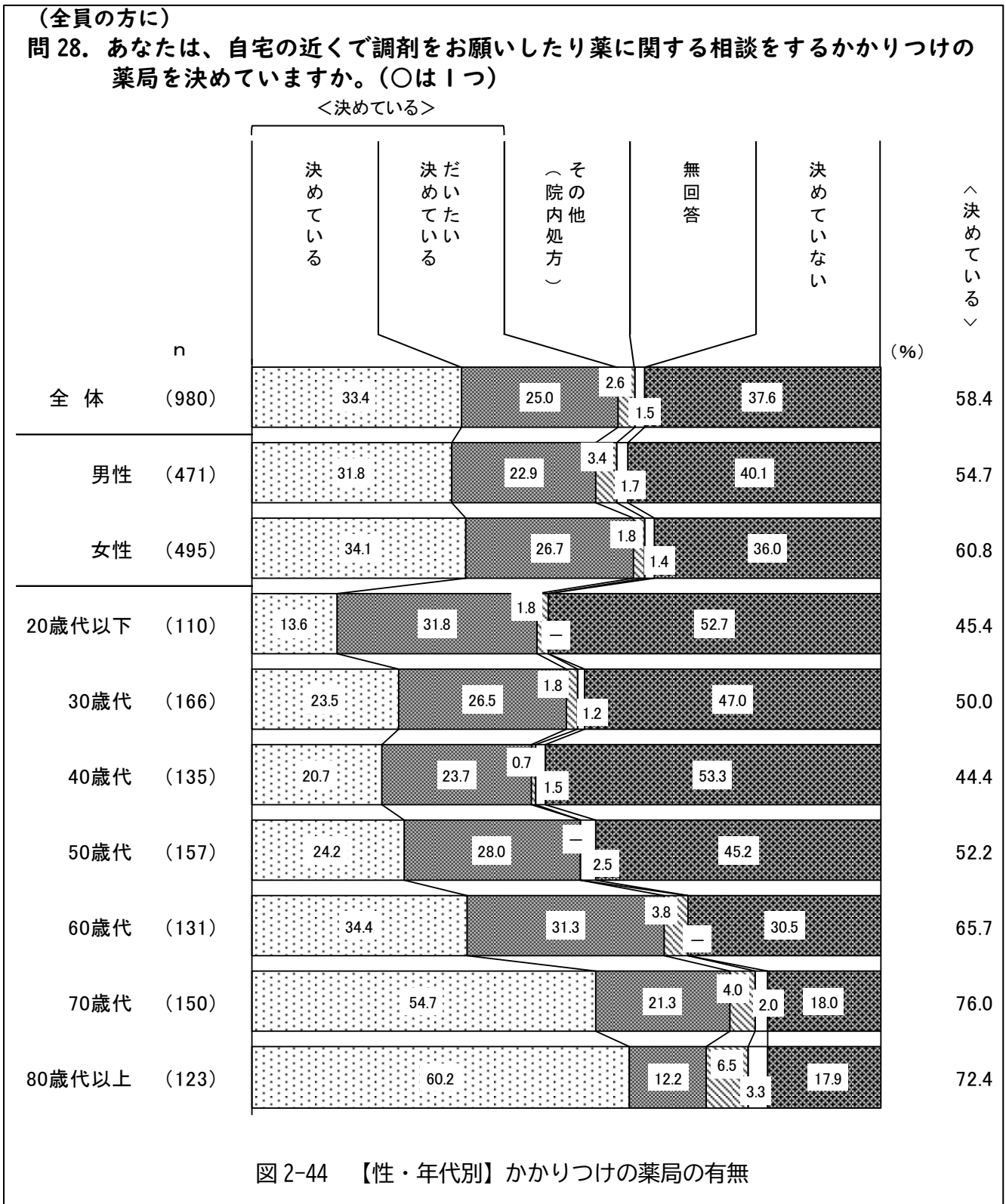
かかりつけの歯科診療所を決めているかについては、「決めている」(53.4%)と「だいたい決めている」(13.8%)を合わせた<決めている>で67.2%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(70.3%)が男性(63.3%)を7ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は70歳代で7割台後半と特に高くなっている。



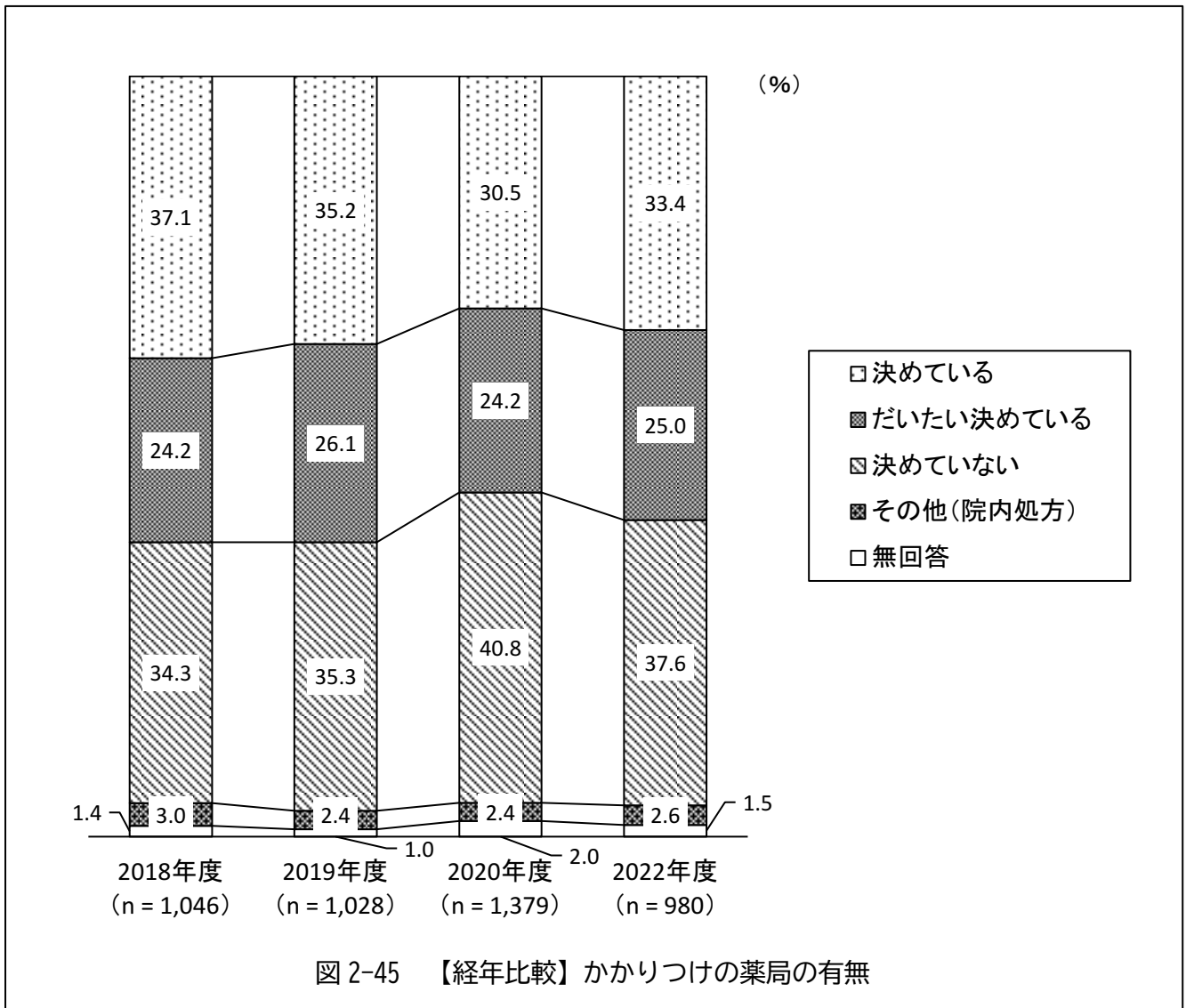
経年で比較すると、2020年度に「決めている」の割合が減少したものの、2022年度は2019年度と同程度となっている。

2.15. かかりつけの薬局の有無

◆かかりつけの薬局を<決めている>が5割台後半



かかりつけの薬局を決めているかについては、「決めている」(33.4%)と「だいたい決めている」(25.0%)を合わせた<決めている>で 58.4%となっている。性別にみると、<決めている>は女性(60.8%)が男性(54.7%)を約6ポイント上回っている。年代別にみると、<決めている>は70歳代以上では7割を超えている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.16. 地域の救急医療体制が整っているか

◆地域の救急医療体制は<整っている>が7割台後半

(全員の方に)

問 29. あなたは、自宅のある地域で救急患者が出た場合に、病状に応じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますか。(〇は1つ)

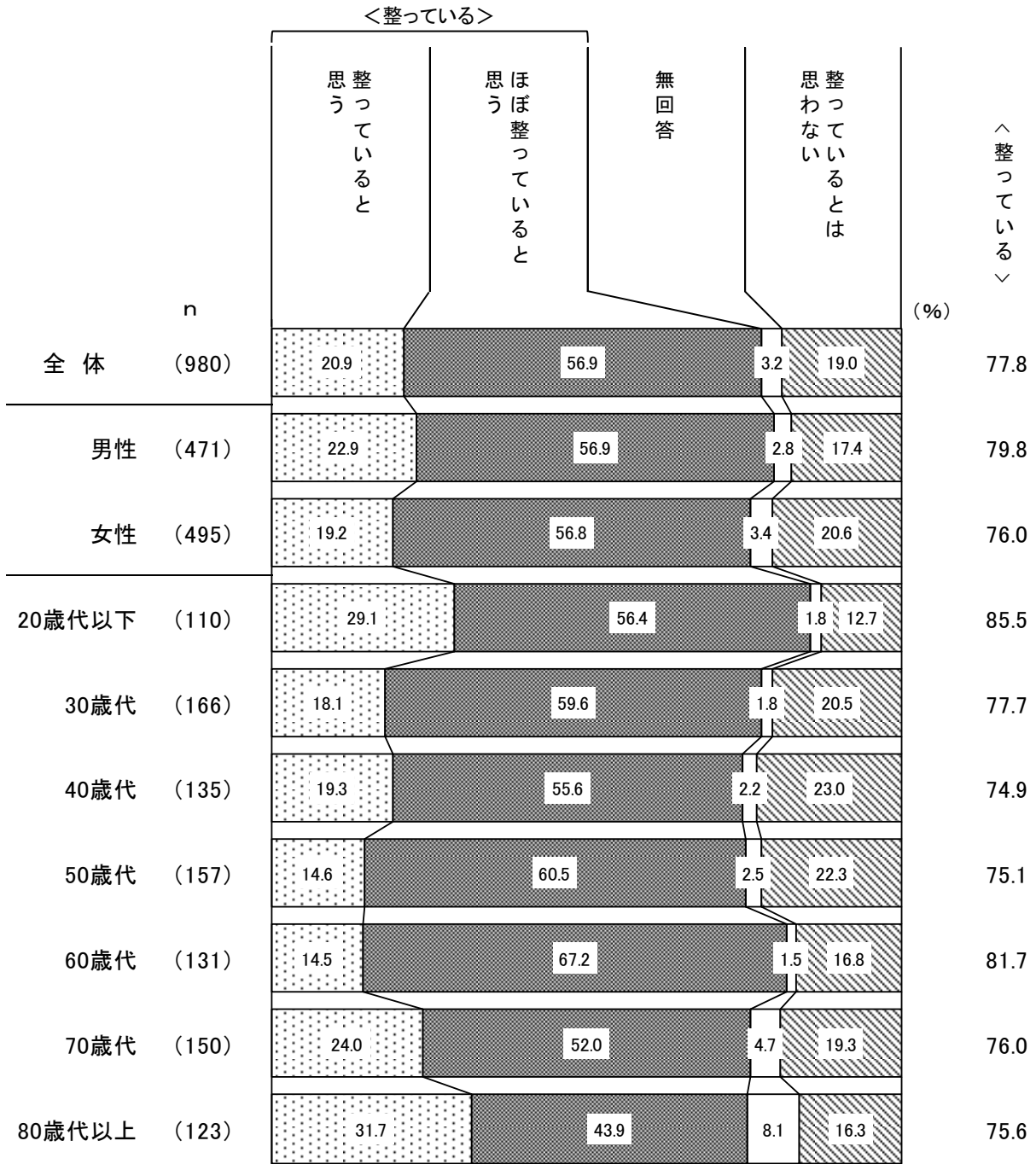
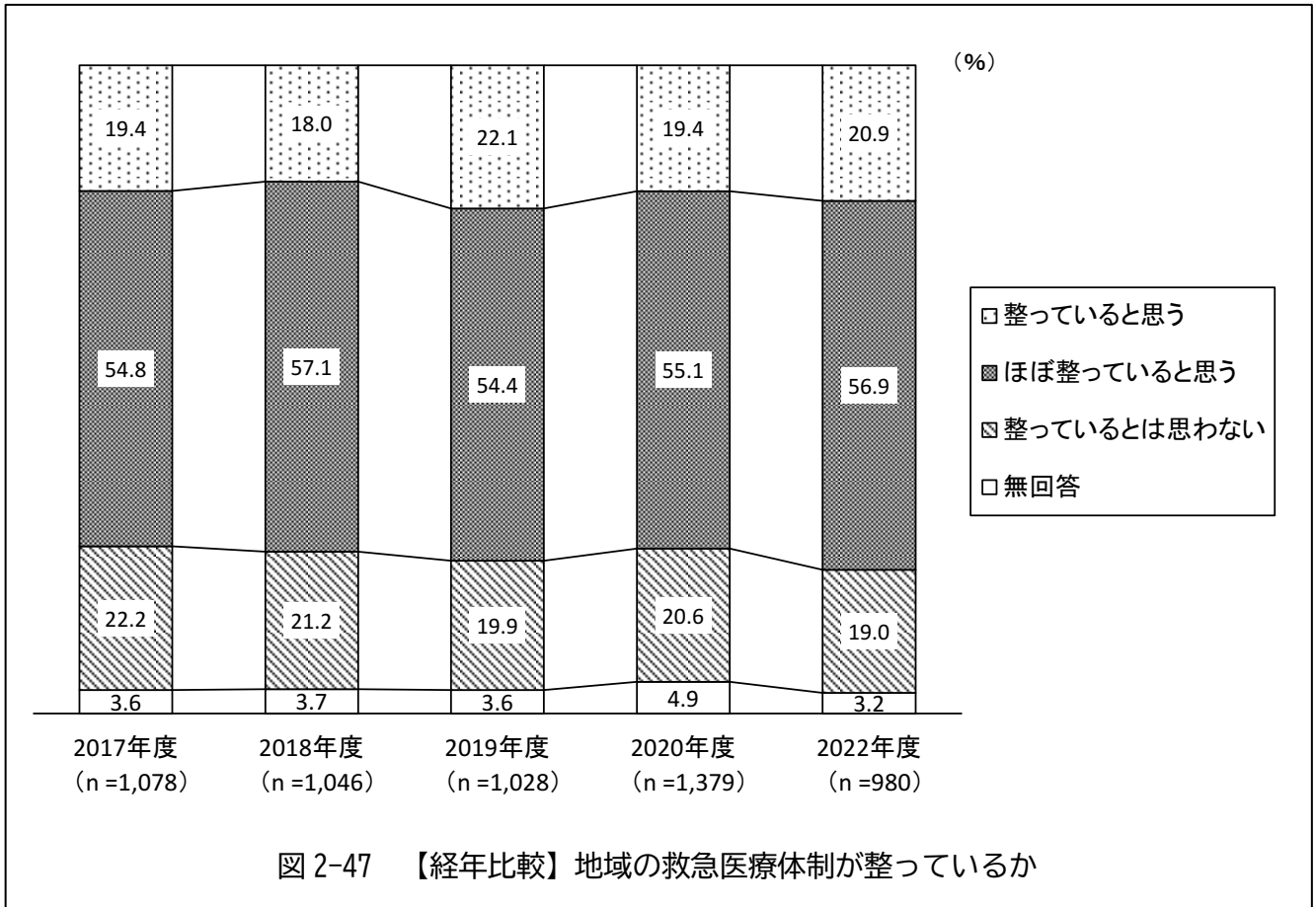


図 2-46 【性・年代別】地域の救急医療体制が整っているか

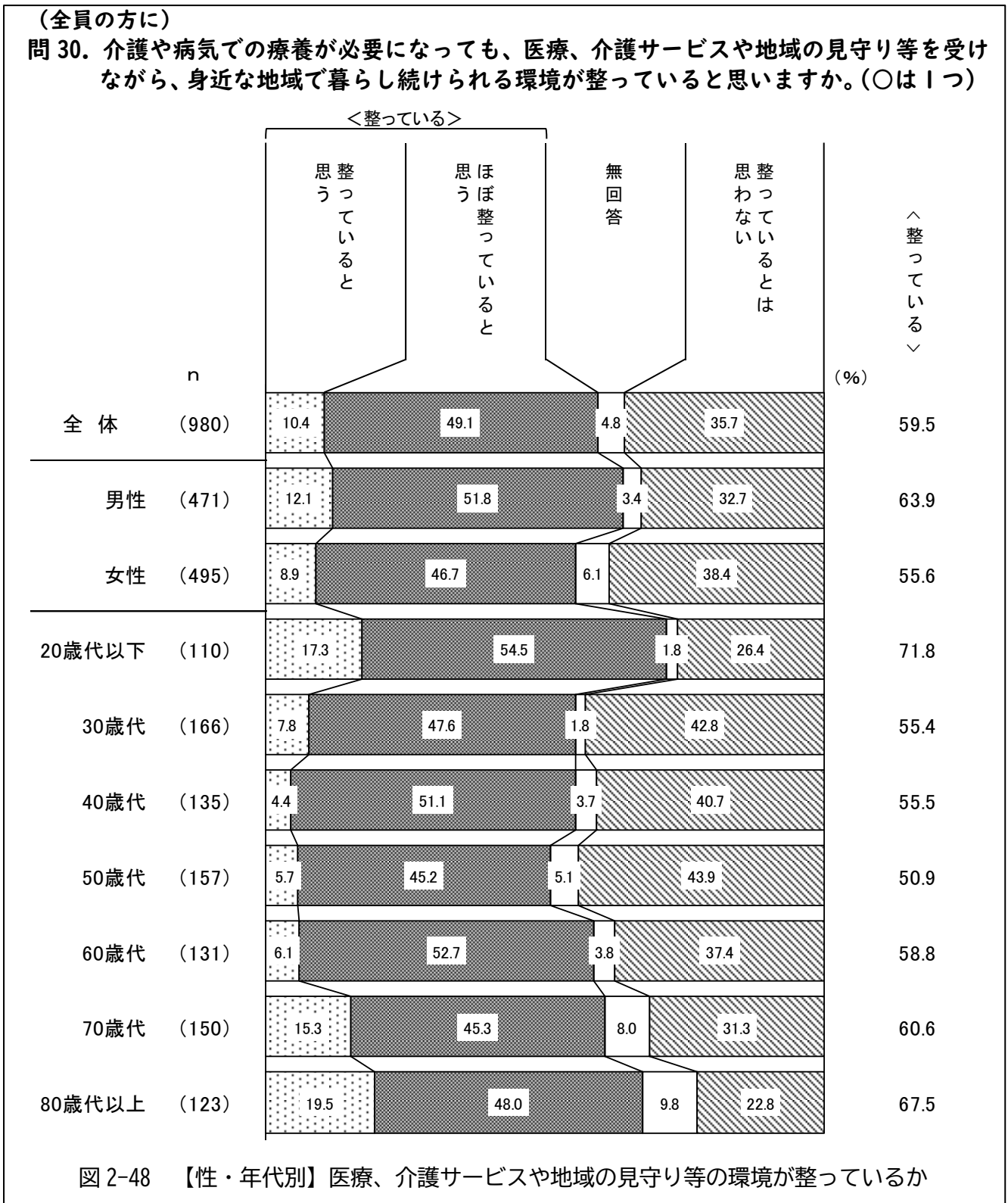
自宅のある地域で救急医療の体制が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(20.9%)と「ほぼ整っていると思う」(56.9%)を合わせた<整っている>で77.8%となっている。性別にみると、<整っている>は男性(79.8%)が女性(76.0%)を約4ポイント上回っている。年代別にみると、<整っている>は20歳代以下と60歳代で8割を超えて高くなっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.17. 医療・介護サービスや見守り環境が整っているか

◆医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が＜整っている＞は約6割



医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うかについては、「整っていると思う」(10.4%)と「ほぼ整っていると思う」(49.1%)を合わせた＜整っている＞で 59.5%となっている。性別にみると、＜整っている＞は男性(63.9%)が女性(55.6%)を約8ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代で＜整っている＞が7割を超えて高くなっている。一方、30歳～50歳代で「整っているとは思わない」が4割を超えて高くなっている。

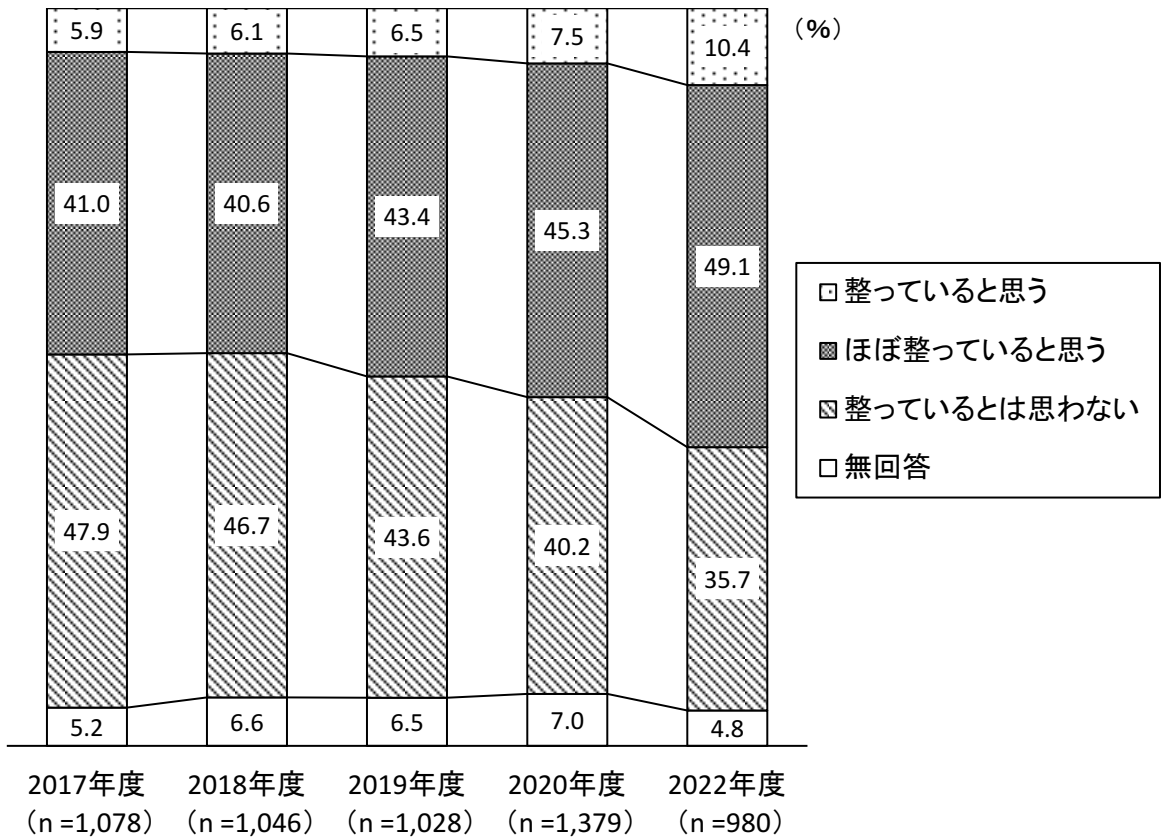


図 2-49 【経年比較】医療、介護サービスや地域の見守り等の環境が整っているか

経年で比較すると、＜整っている＞の割合が増加傾向にある。

2.18. 長期療養が必要になった場合の生活

◆長期療養が必要になった場合の生活は「医療機関や施設に入院・入所したい」が3割台後半

(全員の方に)

問 31. 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはこういった生活をお考えですか。(〇は1つ)

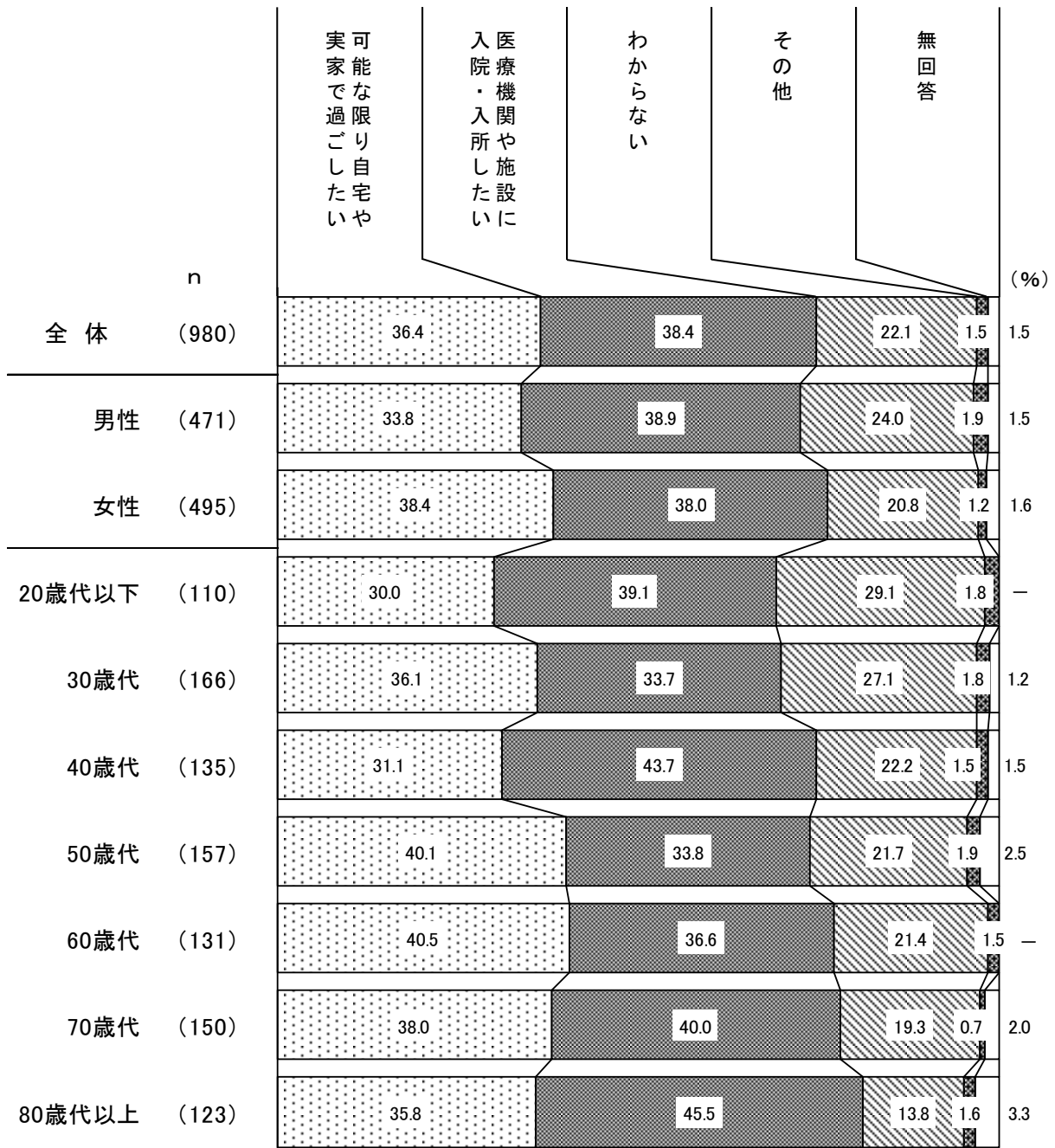


図 2-50 【性・年代別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活は、「医療機関や施設に入院・入所したい」が38.4%で最も高く、次いで「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」が36.4%、「わからない」が22.1%となっている。性別にみると、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」は女性(38.4%)が男性(33.8%)を約5ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下や40歳代、70歳代以上で「医療機関や施設に入院・入所したい」、30歳代や50歳～60歳代で「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合が比較的高くなっている。

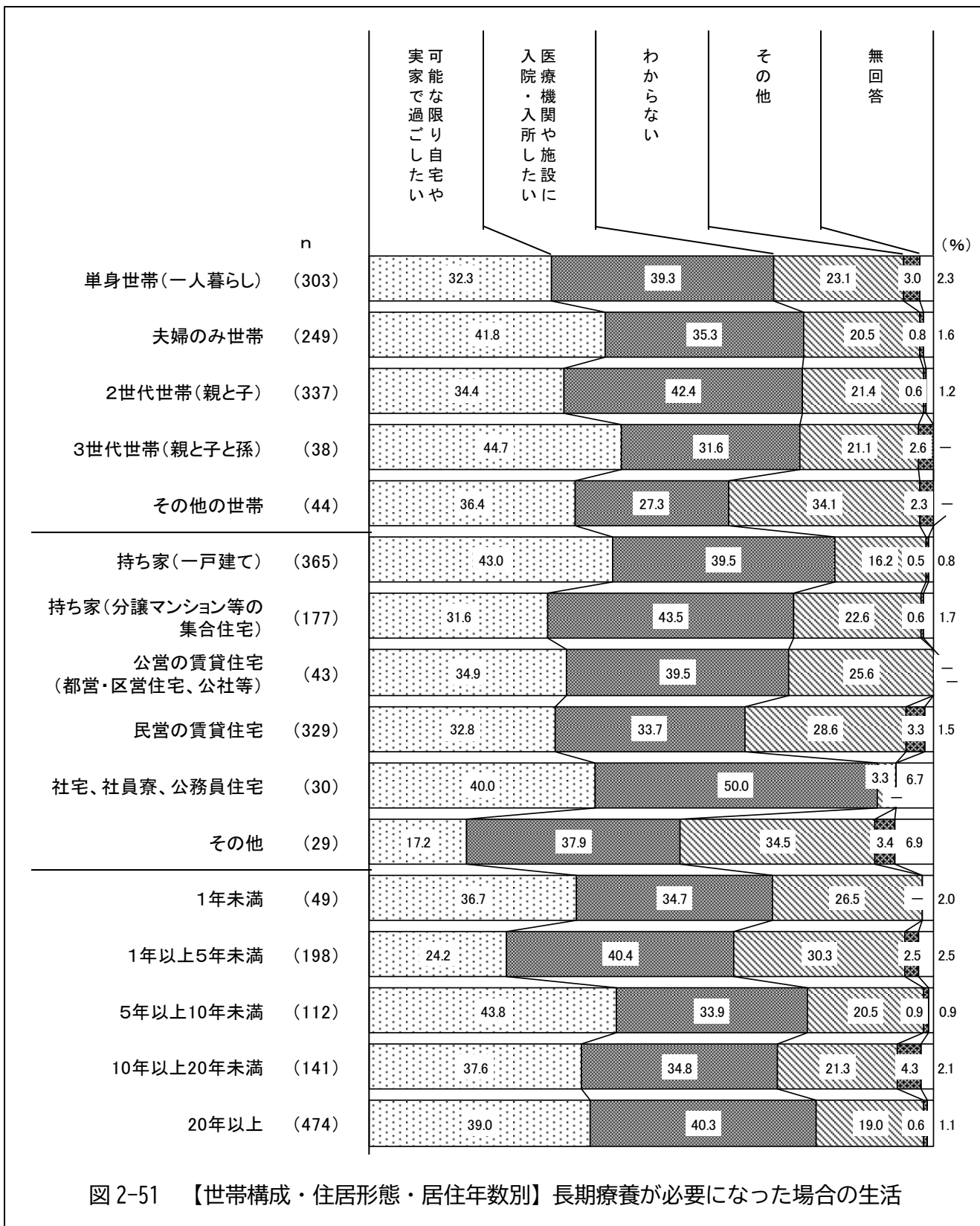


図 2-51 【世帯構成・住居形態・居住年数別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を世帯構成・住居形態・居住年数別にみると、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合は、世帯構成が「夫婦のみ世帯」「3世代世帯(親と子と孫)」、住居形態が「持ち家(一戸建て)」、居住年数が「5年以上10年未満」などで高くなっている。

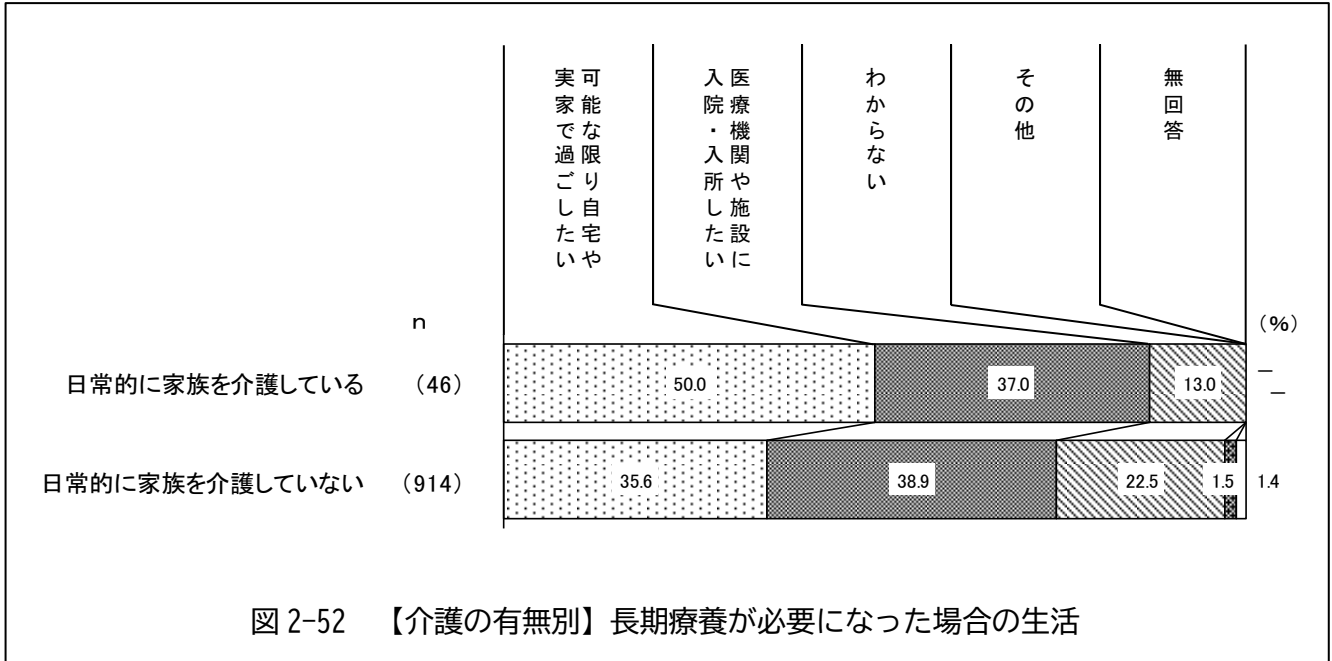


図 2-52 【介護の有無別】長期療養が必要になった場合の生活

長期療養が必要になった場合の生活を介護の有無別で見ると、日常的に家族を介護している人は「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」、日常的に家族を介護していない人は「医療機関や施設に入院・入所したい」の割合が高くなっている。

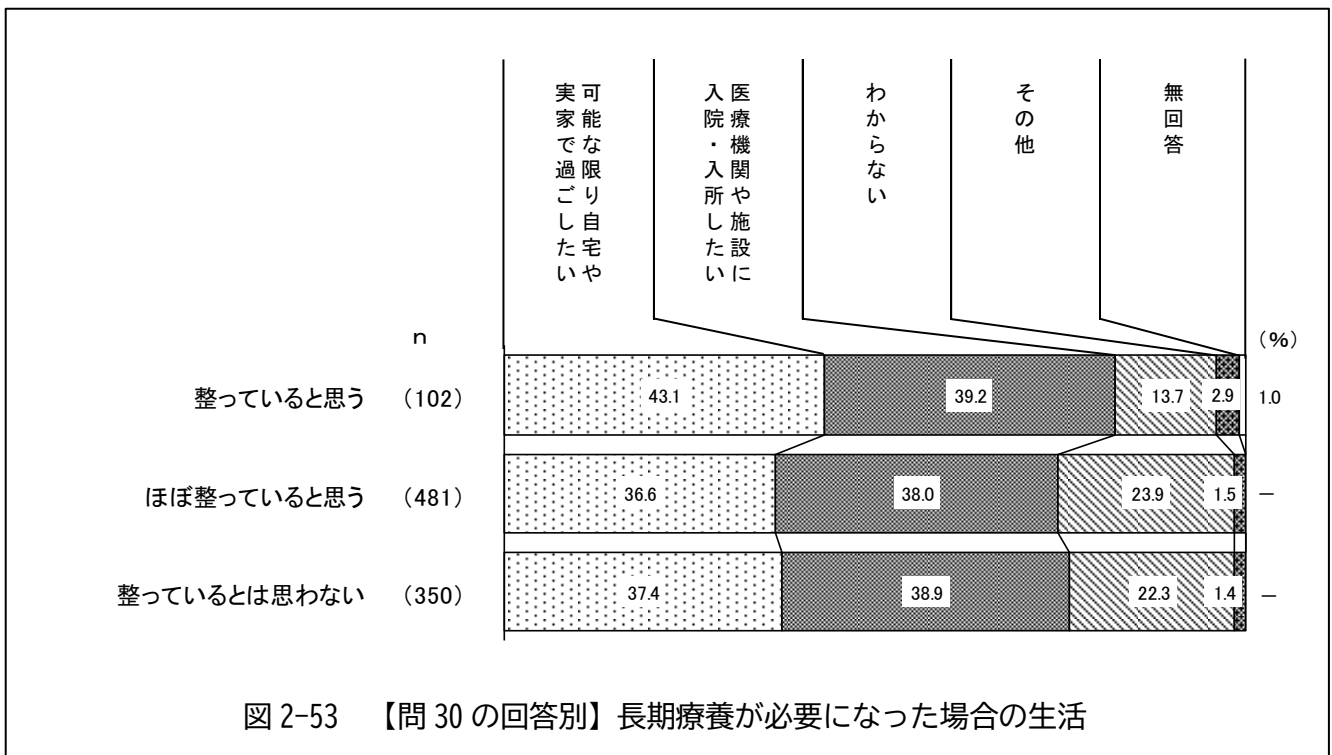
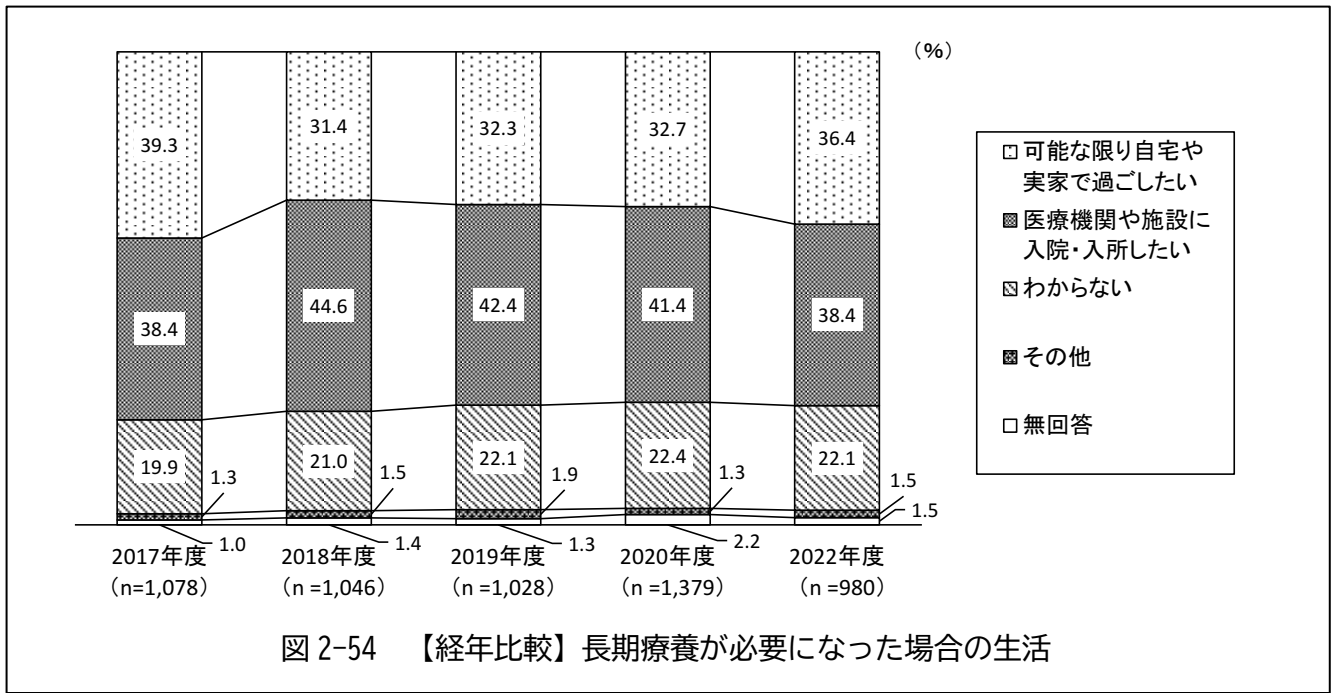


図 2-53 【問 30 の回答別】長期療養が必要になった場合の生活

問 30（医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思うか）の回答別で見ると、「整っていると思う」と回答した人は、「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合が高くなっている。



経年で比較すると、2022年度は「可能な限り自宅や実家で過ごしたい」の割合が増加している。

2.18.1. 長期療養の際、入院・入所したい理由

◆長期療養の際に入院・入所したい理由は「家族に負担をかけるから」が7割台前半

(問 31 で「2. 医療機関や施設に入院・入所したい」に○をつけた方に)
 問 31-1. あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

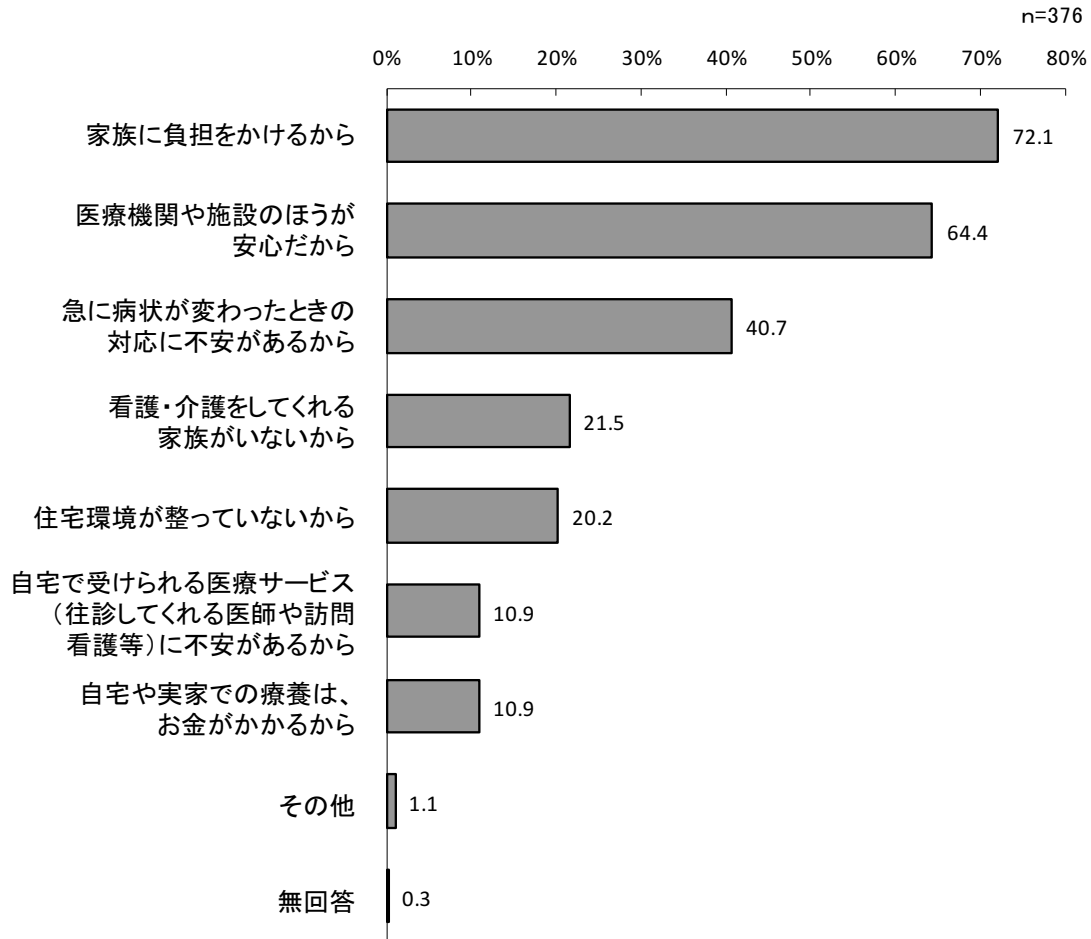


図 2-55 長期療養の際、入院・入所したい理由

長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい方にその理由を聞いたところ、「家族に負担をかけるから」が72.1%で最も高く、次いで「医療機関や施設のほうが安心だから」(64.4%)、「急に病状が変わったときの対応に不安があるから」(40.7%)となっている。

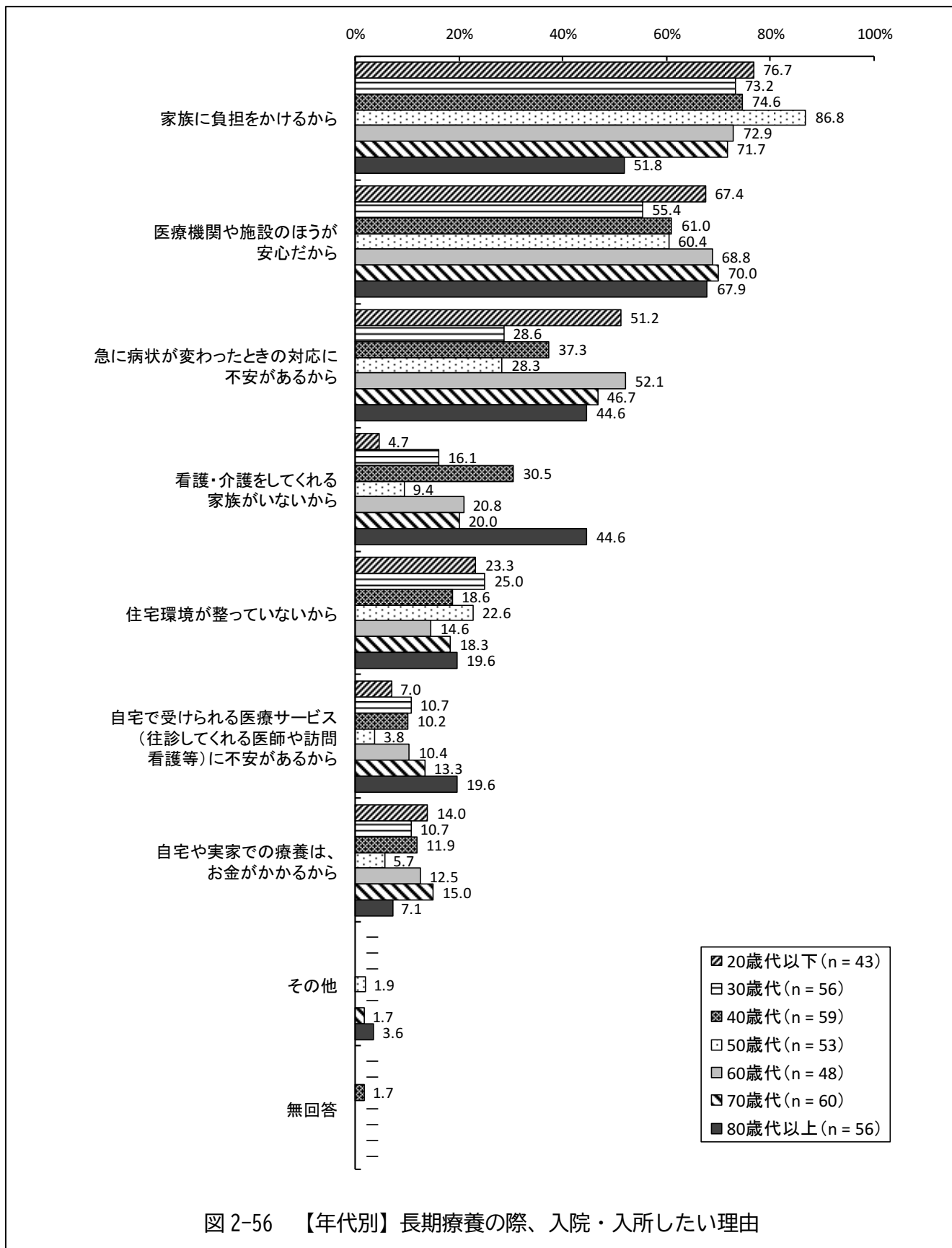
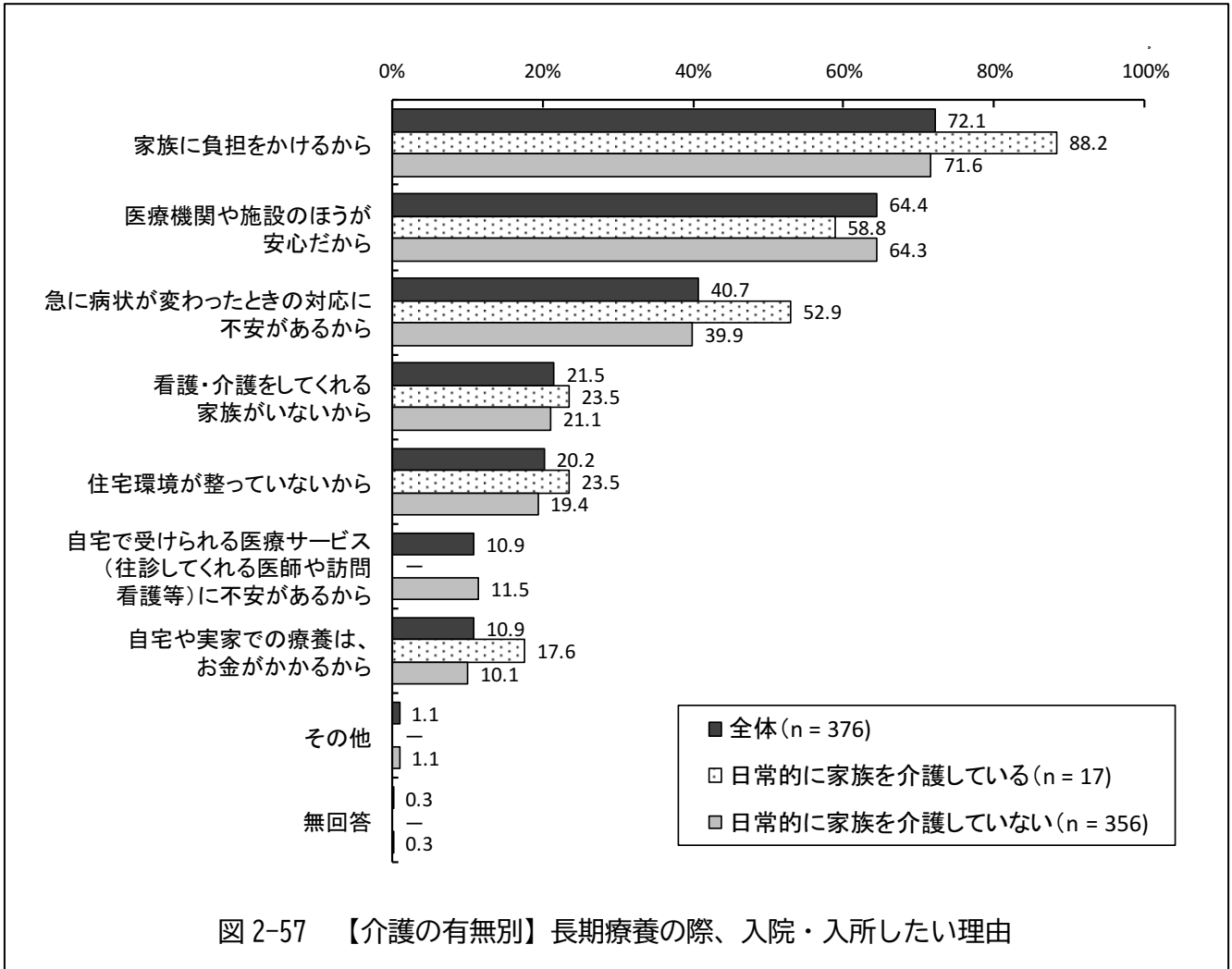
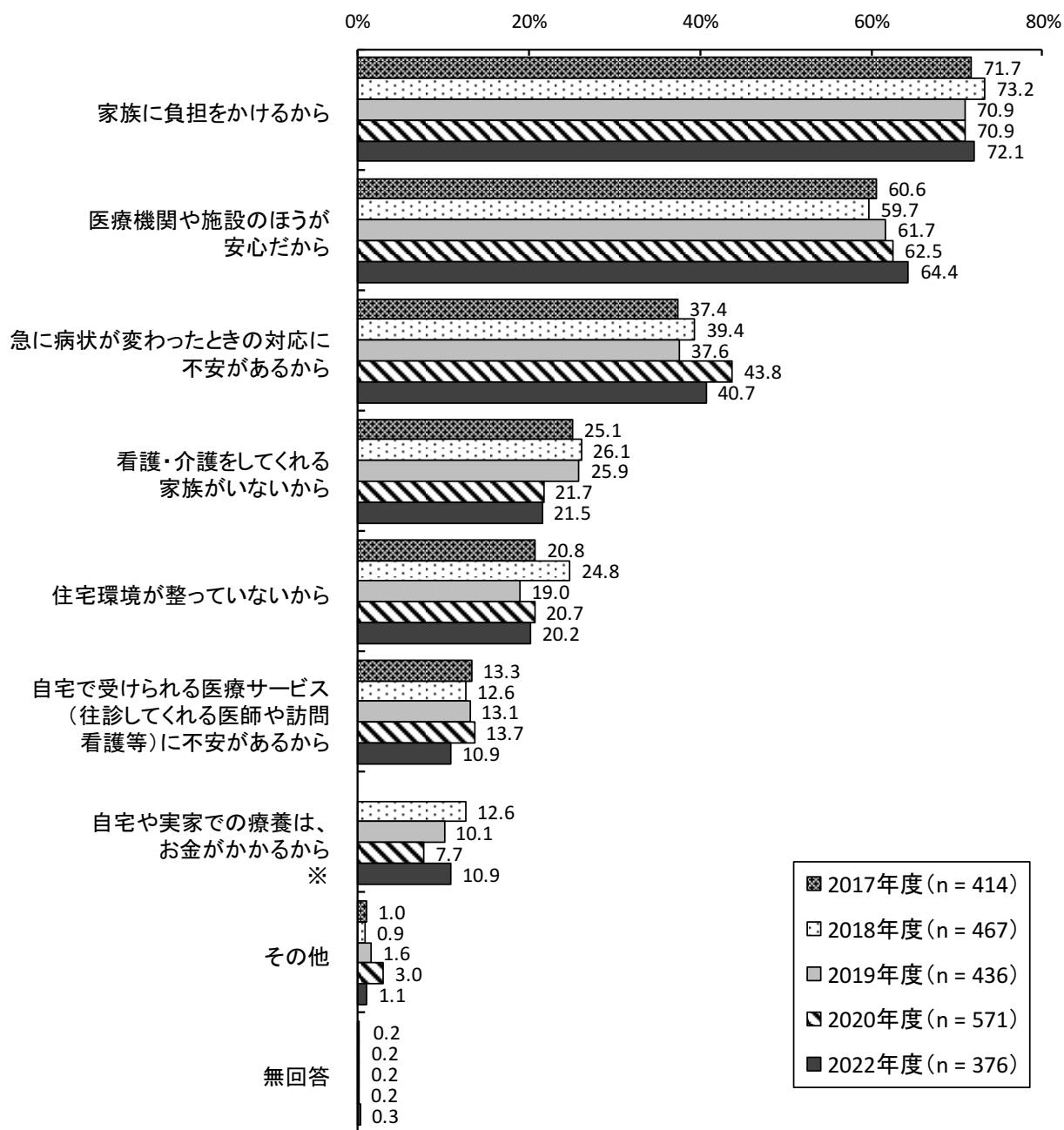


図 2-56 【年代別】長期療養の際、入院・入所したい理由

長期療養が必要になった場合、医療機関や施設に入院・入所したい理由を年代別にみると、20歳～70歳代では「家族に負担をかけるから」、80歳代以上では「医療機関や施設のほうが安心だから」の割合が最も高くなっている。



基数が少ないため、グラフは参考までの掲載とする。



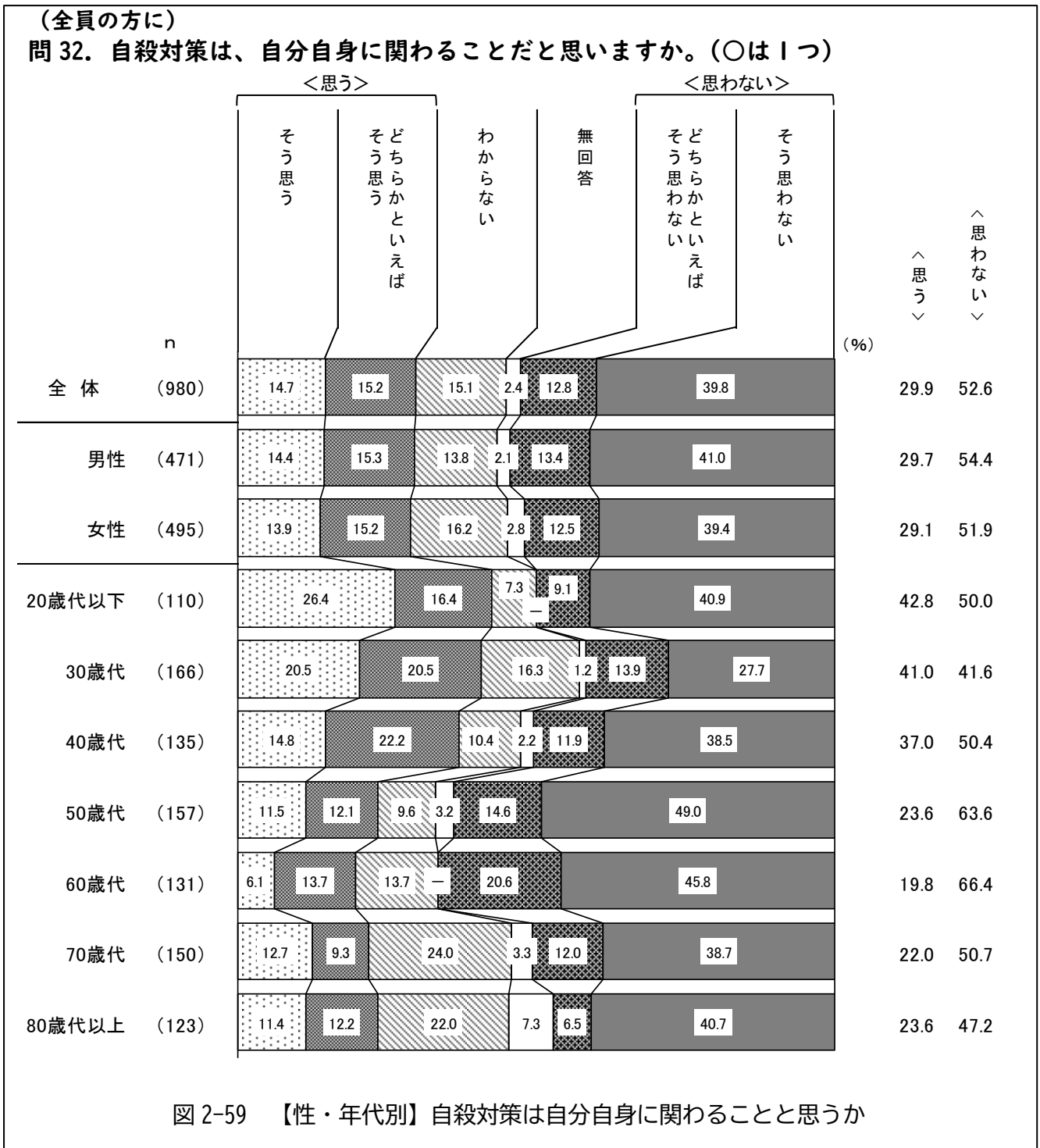
※2017年度は「自宅や実家での療養は、お金がかかるから」の選択肢はない

図 2-58 【経年比較】長期療養の際、入院・入所したい理由

経年で比較すると、「医療機関や施設のほうが安心だから」が増加傾向にある。

2.19. 自殺対策は自分自身に関わることと思うか

◆自殺対策は自分自身に関わること<思う>が約3割



自殺対策は自分自身に関わることと思うかについては、「そう思う」(14.7%)と「どちらかといえばそう思う」(15.2%)を合わせた<思う>が29.9%に対し、「そう思わない」(39.8%)と「どちらかといえばそう思わない」(12.8%)を合わせた<思わない>は52.6%となっている。年代別にみると、20歳代以下と30歳代で<思う>が4割を超えており、他の年代と比較して高くなっている。

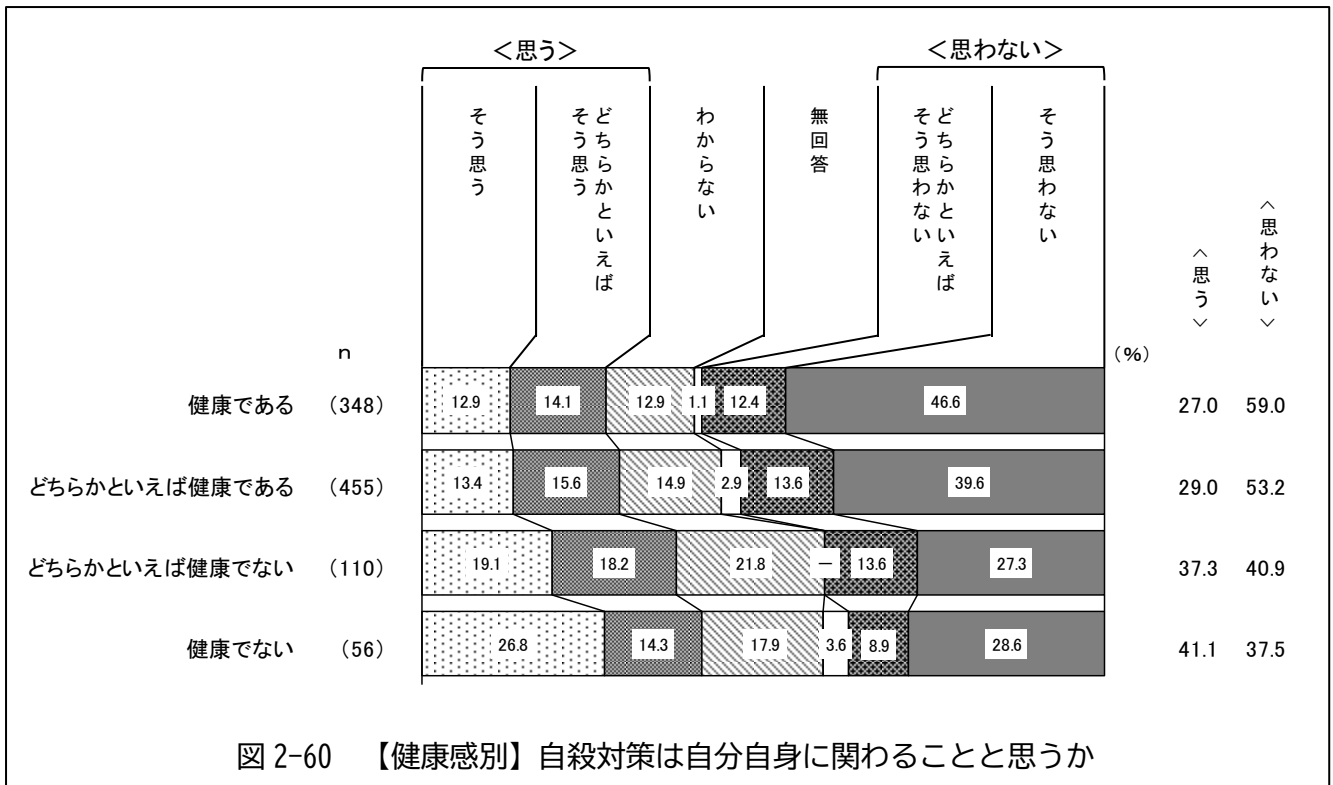


図 2-60 【健康感別】自殺対策は自分自身に関わると思うか

健康感別にみると、健康でないと感じている人の方が、自殺対策は自分自身に関わると思う割合が高くなっている。

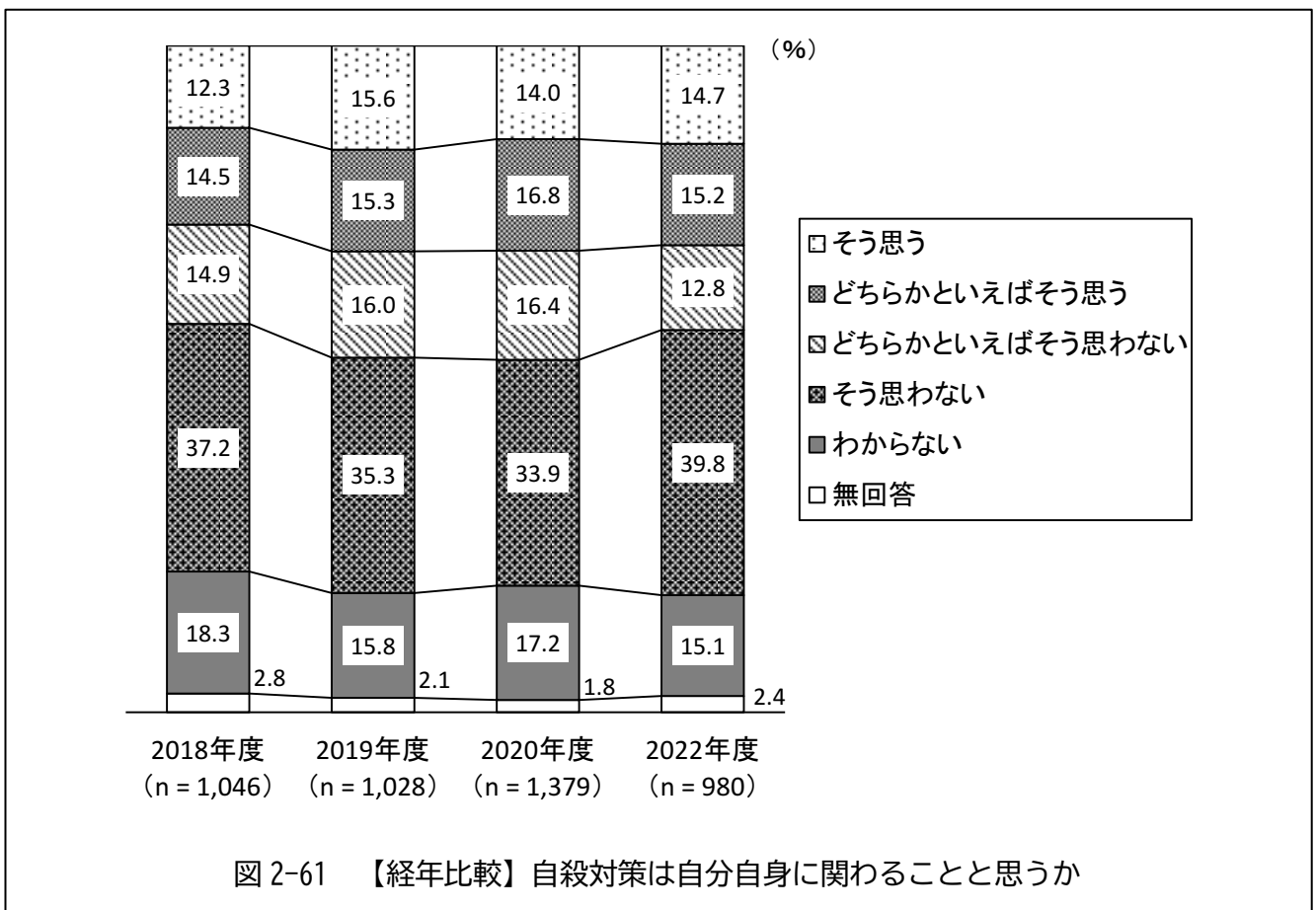
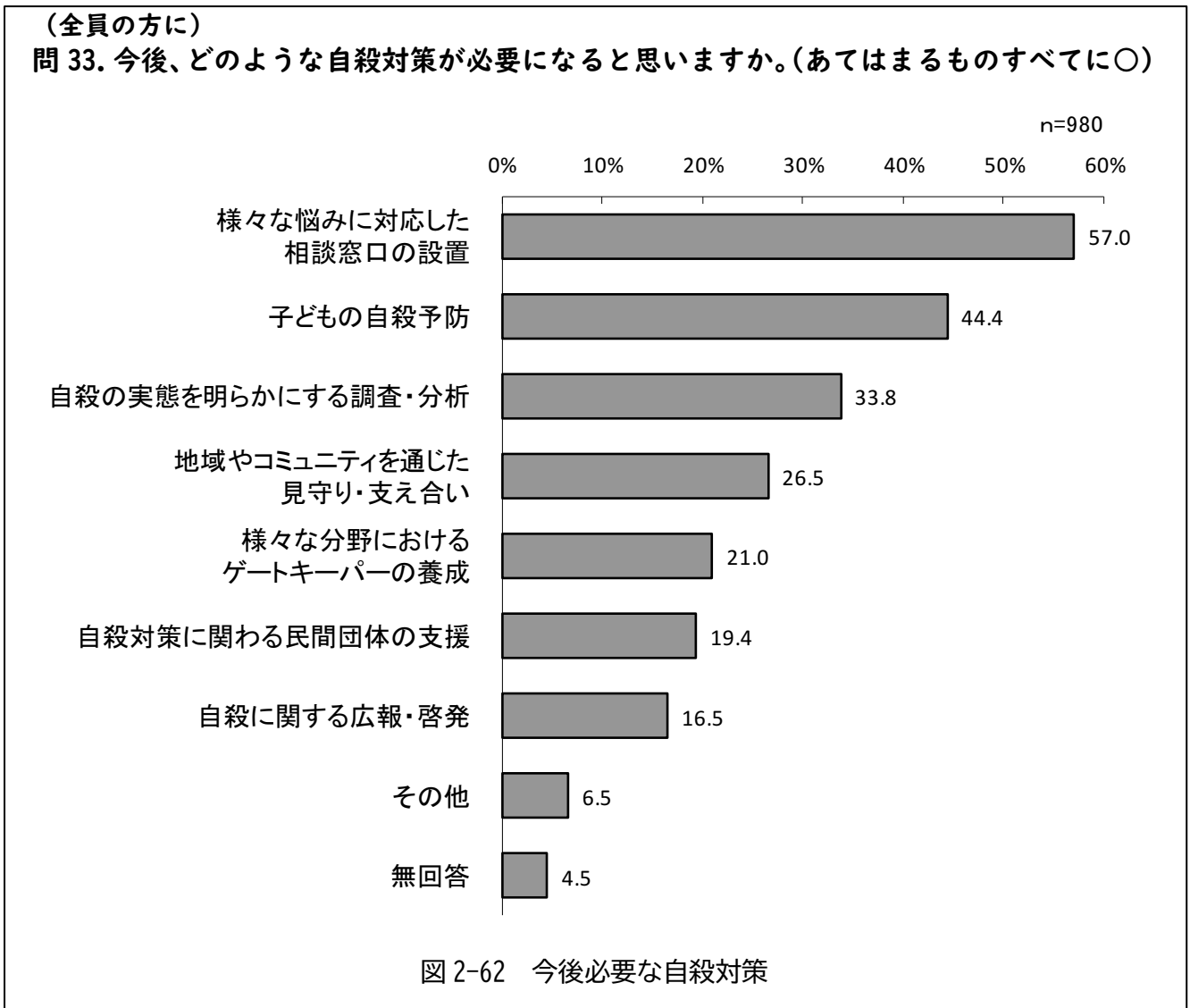


図 2-61 【経年比較】自殺対策は自分自身に関わると思うか

経年で比較すると、2022年度は「そう思わない」が約6ポイント増加している。

2.20. 今後必要な自殺対策

◆今後必要な自殺対策は「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が5割台後半



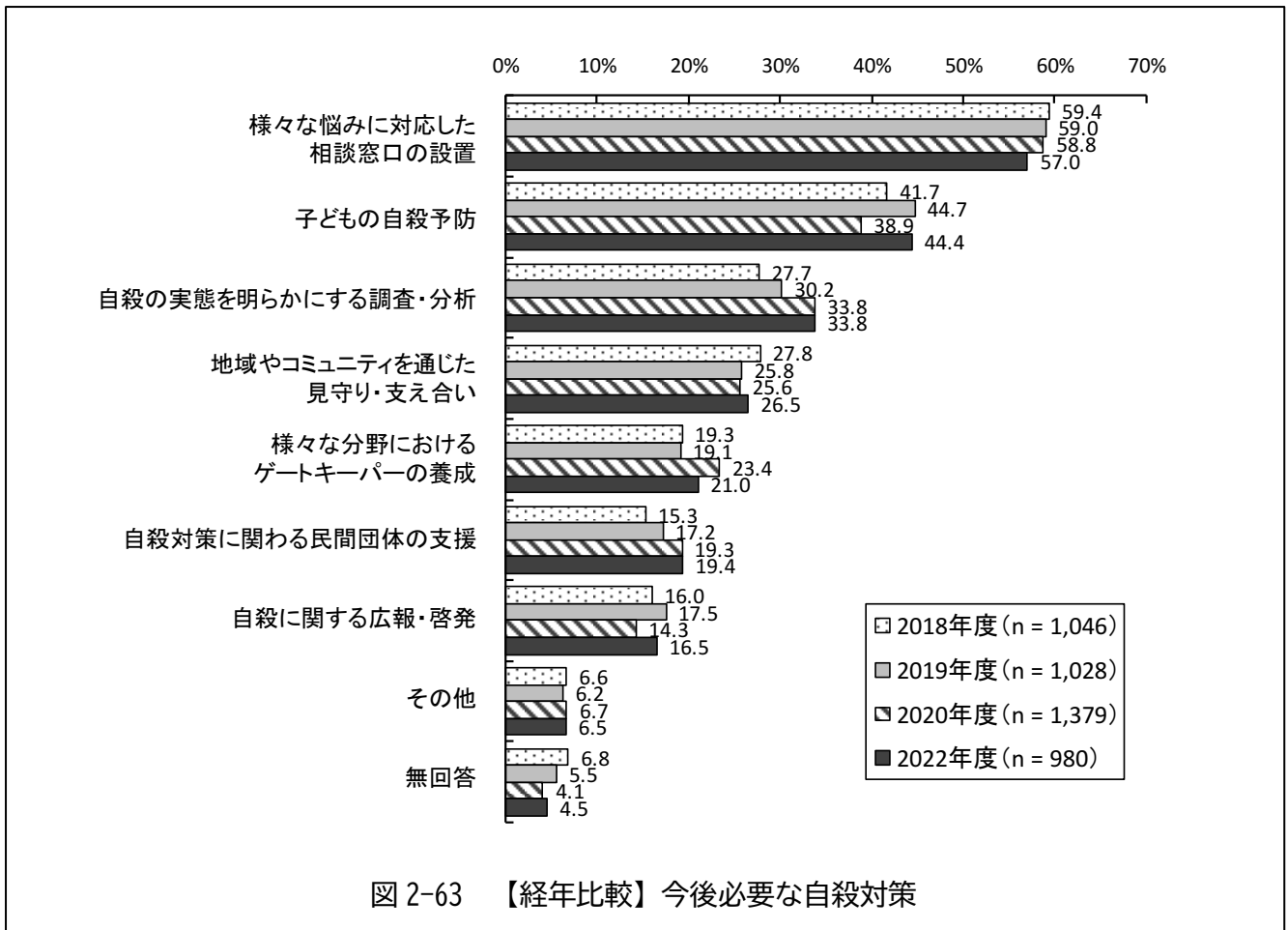
今後必要な自殺対策は、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(57.0%)が最も高く、次いで「子どもの自殺予防」(44.4%)、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」(33.8%)、「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(26.5%)となっている。

表 2-12 【性・年代別】今後必要な自殺対策

単位：%

区分	有効回答数（件）	自殺の実態を明らかにする調査・分析	様々な分野におけるゲートキーパーの養成	地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い	様々な悩みに対応した相談窓口の設置	民間団体の支援	自殺対策に関する広報・啓発	子どもの自殺予防	その他	無回答
全体	980	33.8	21.0	26.5	57.0	19.4	16.5	44.4	6.5	4.5
男性	471	38.0	18.7	25.3	52.7	18.3	18.9	39.1	7.6	2.5
女性	495	29.9	23.2	27.9	60.6	20.4	14.1	49.7	5.5	6.5
20歳代以下	110	40.9	20.0	21.8	53.6	18.2	14.5	54.5	6.4	—
30歳代	166	36.1	27.7	24.7	48.8	16.9	18.1	57.2	6.6	1.2
40歳代	135	38.5	25.9	25.2	55.6	22.2	18.5	54.1	5.9	3.7
50歳代	157	32.5	24.2	29.3	68.2	24.8	20.4	46.5	3.8	3.8
60歳代	131	26.7	20.6	27.5	58.0	23.7	13.0	39.7	7.6	3.1
70歳代	150	29.3	13.3	26.7	58.0	17.3	16.7	30.7	8.0	6.0
80歳代以上	123	34.1	12.2	29.3	55.3	12.2	12.2	27.6	7.3	14.6

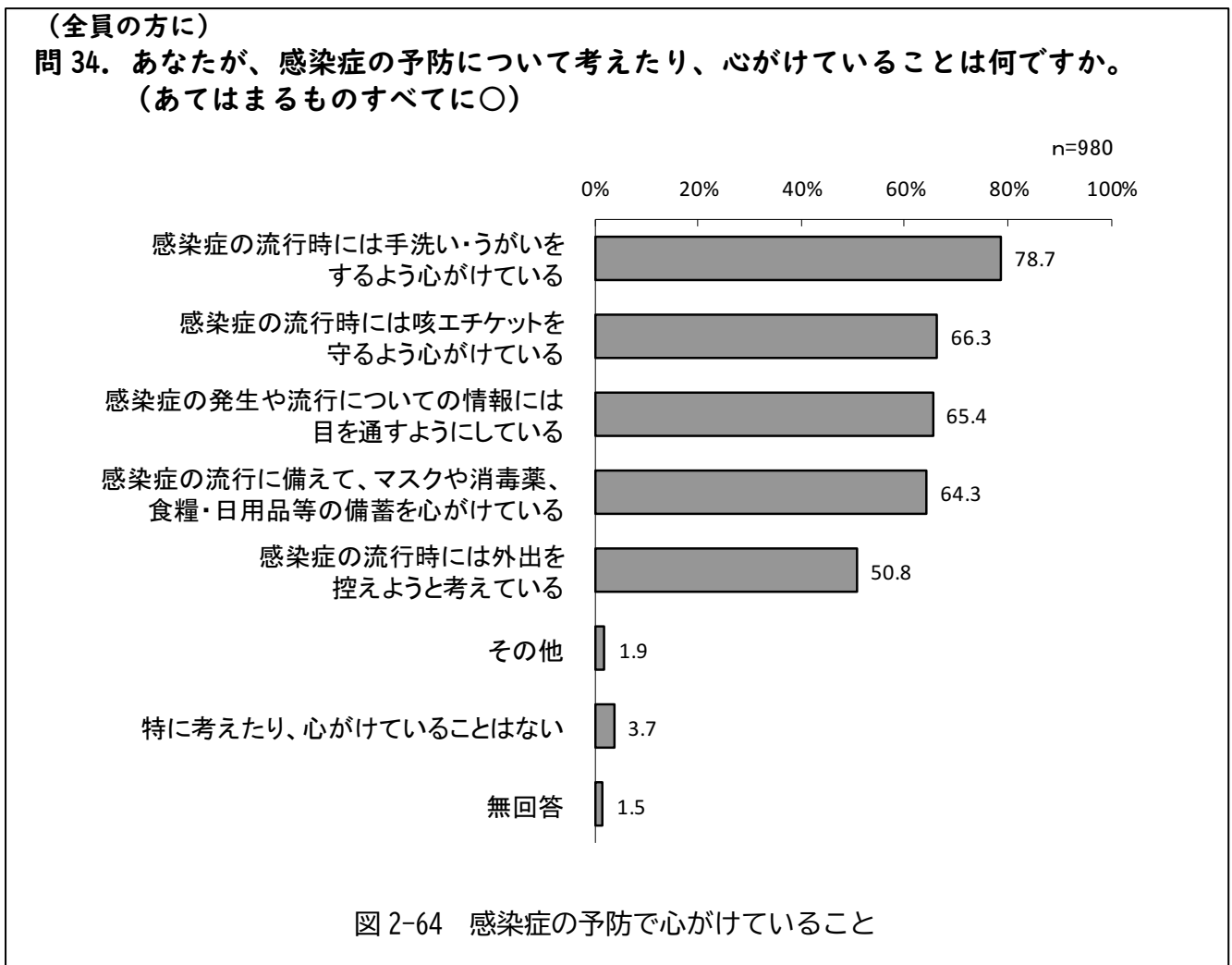
性別にみると、「自殺の実態を明らかにする調査・分析」は男性、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」「子どもの自殺予防」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、30歳代以下では「子どもの自殺予防」、40歳代以上では「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が1位となっている。



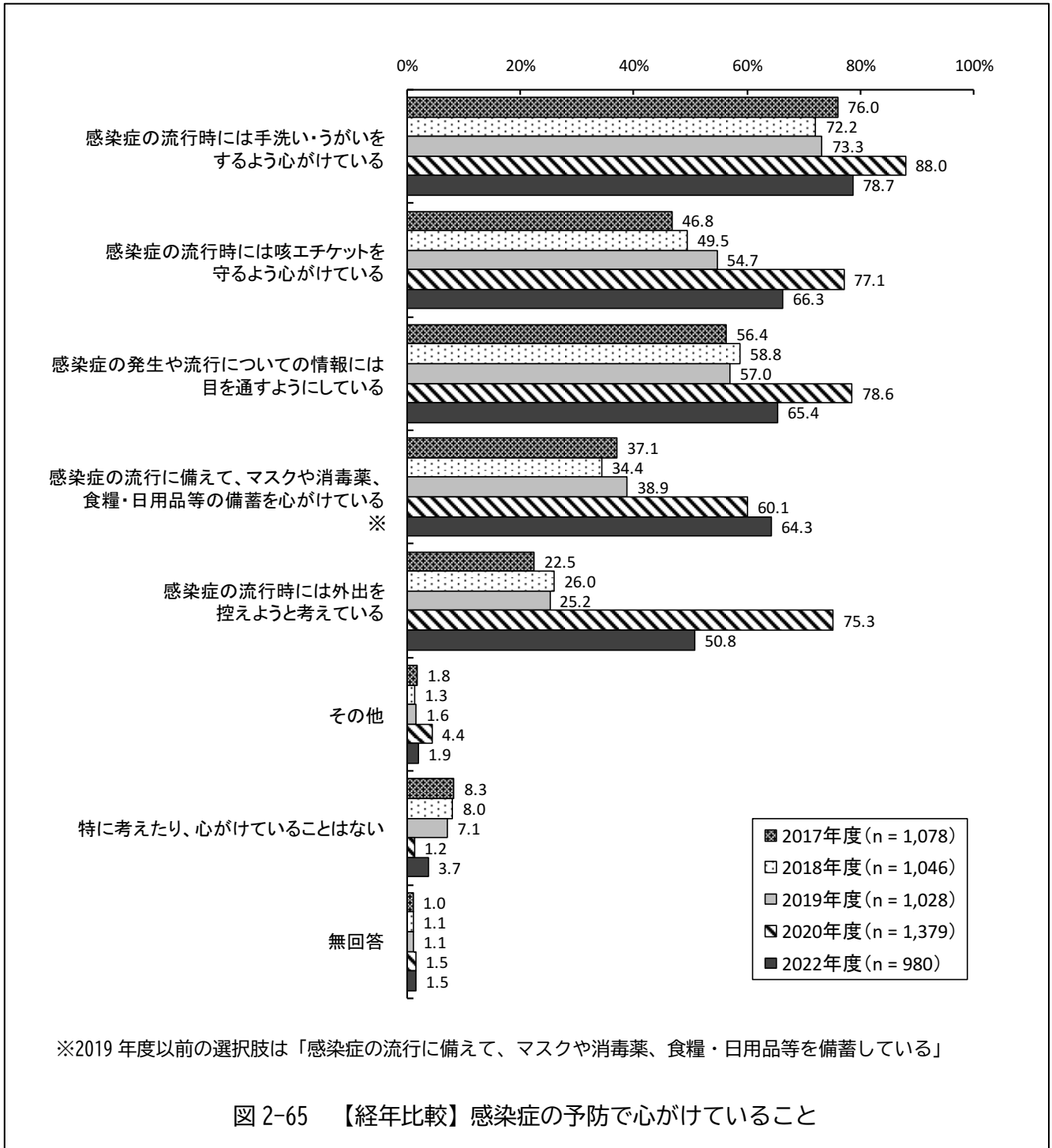
経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ、「子どもの自殺予防」が5.5ポイント増加している。

2.21. 感染症の予防で心がけていること

◆感染症の予防では「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が7割台後半



感染症の予防について考えたり、心がけていることは、「感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている」が78.7%で最も高く、次いで「感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている」(66.3%)、「感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている」(65.4%)、「感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている」(64.3%)となっている。



経年で比較すると、2022年度は2020年度と比べ「感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている」を除き、すべての項目で減少しており、特に「感染症の流行時には外出を控えようと考えている」は大幅に減少している。

2.22. 加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

◆何らかの加工食品等の栄養成分表示を<参考にしている>が5割台半ば

(全員の方に)

問 35. 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされている場合がありますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

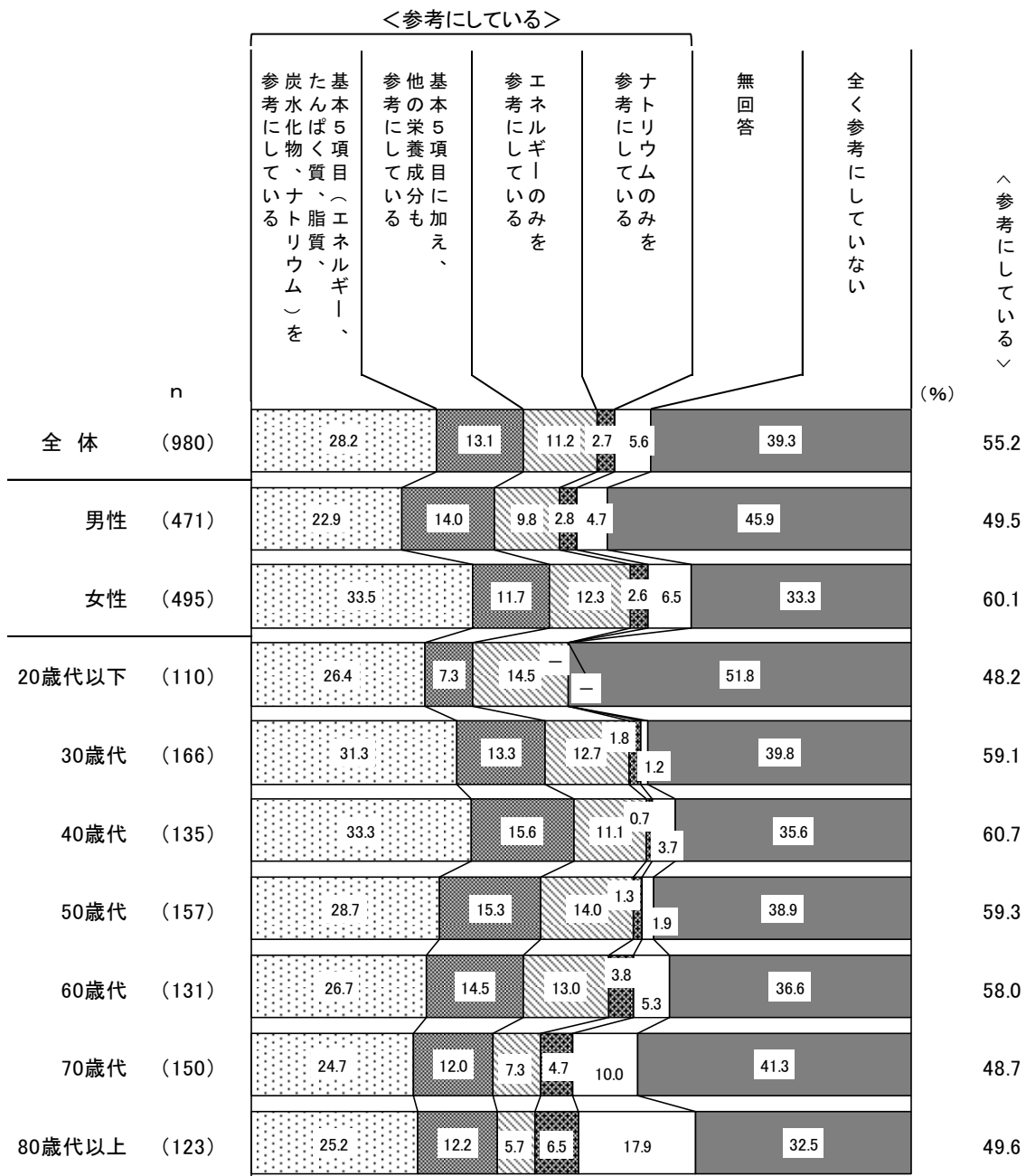
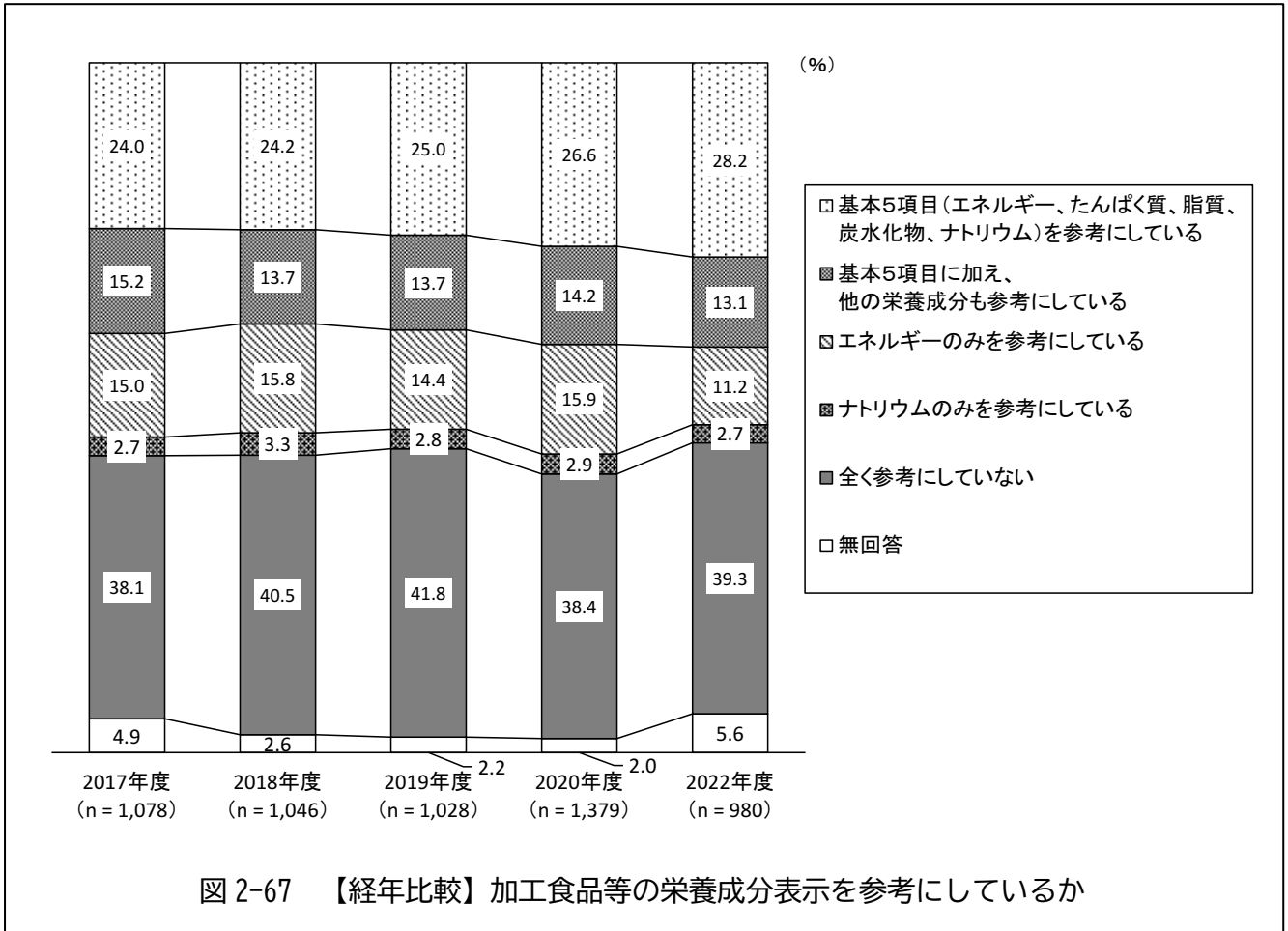


図 2-66 【性・年代別】加工食品等の栄養成分表示を参考にしているか

加工食品等の栄養成分表示の参考の度合いは、「全く参考にしていない」が 39.3%で最も高く、次いで「基本5項目(エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム)を参考にしている」(28.2%)となっている。性別にみると、<参考にしている>は女性(60.1%)が男性(49.5%)を約11ポイント上回っている。年代別にみると、<参考にしている>は30歳~60歳代で6割前後となっている一方、20歳代以下や70歳代以上では5割未満となっている。



経年で比較すると、大きな差異はみられない。

2.23. 食中毒に関する認識

◆食中毒に関する認識は<理解している>が5割台半ば

(全員の方に)

問 36. あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

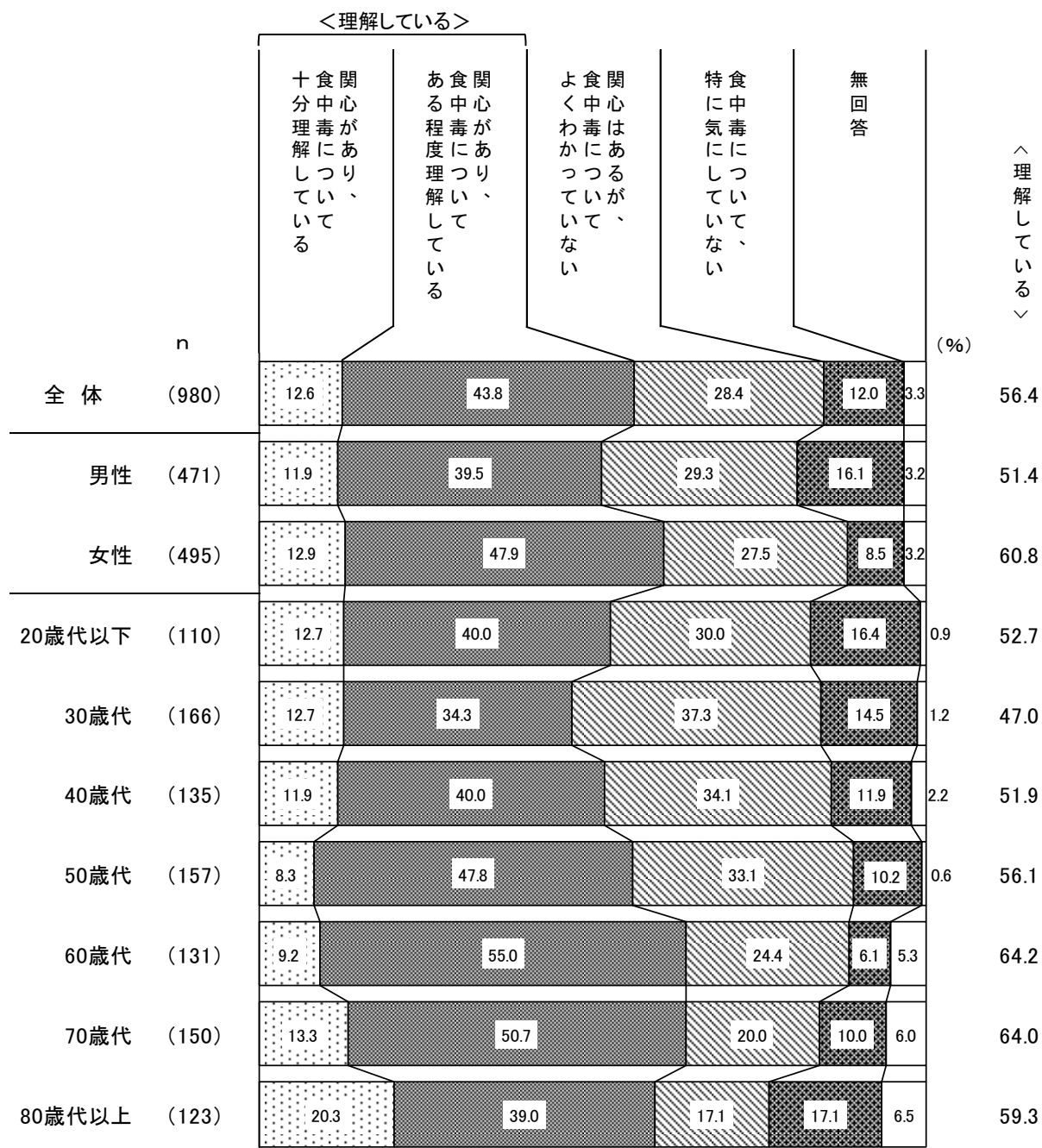
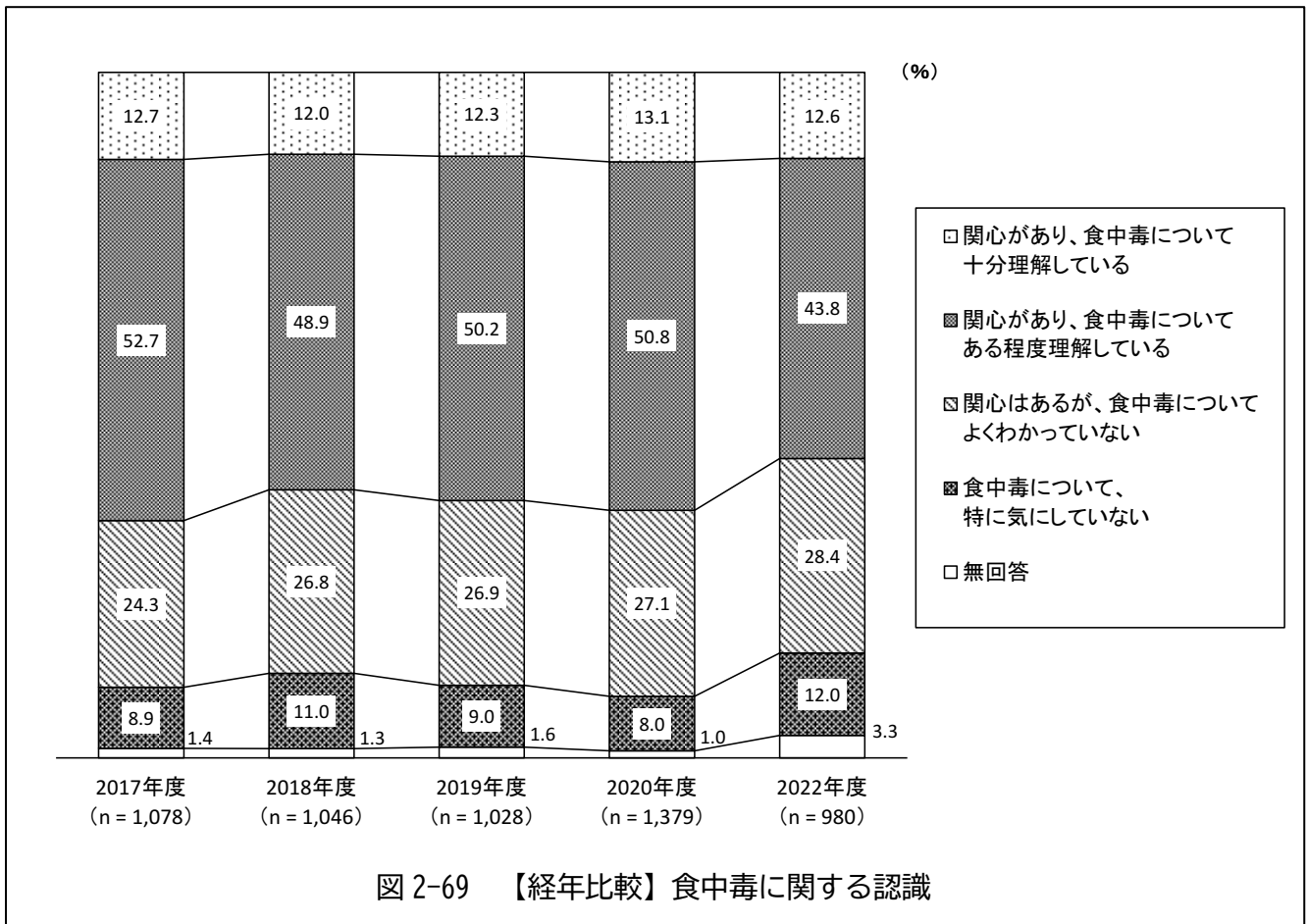


図 2-68 【性・年代別】食中毒に関する認識

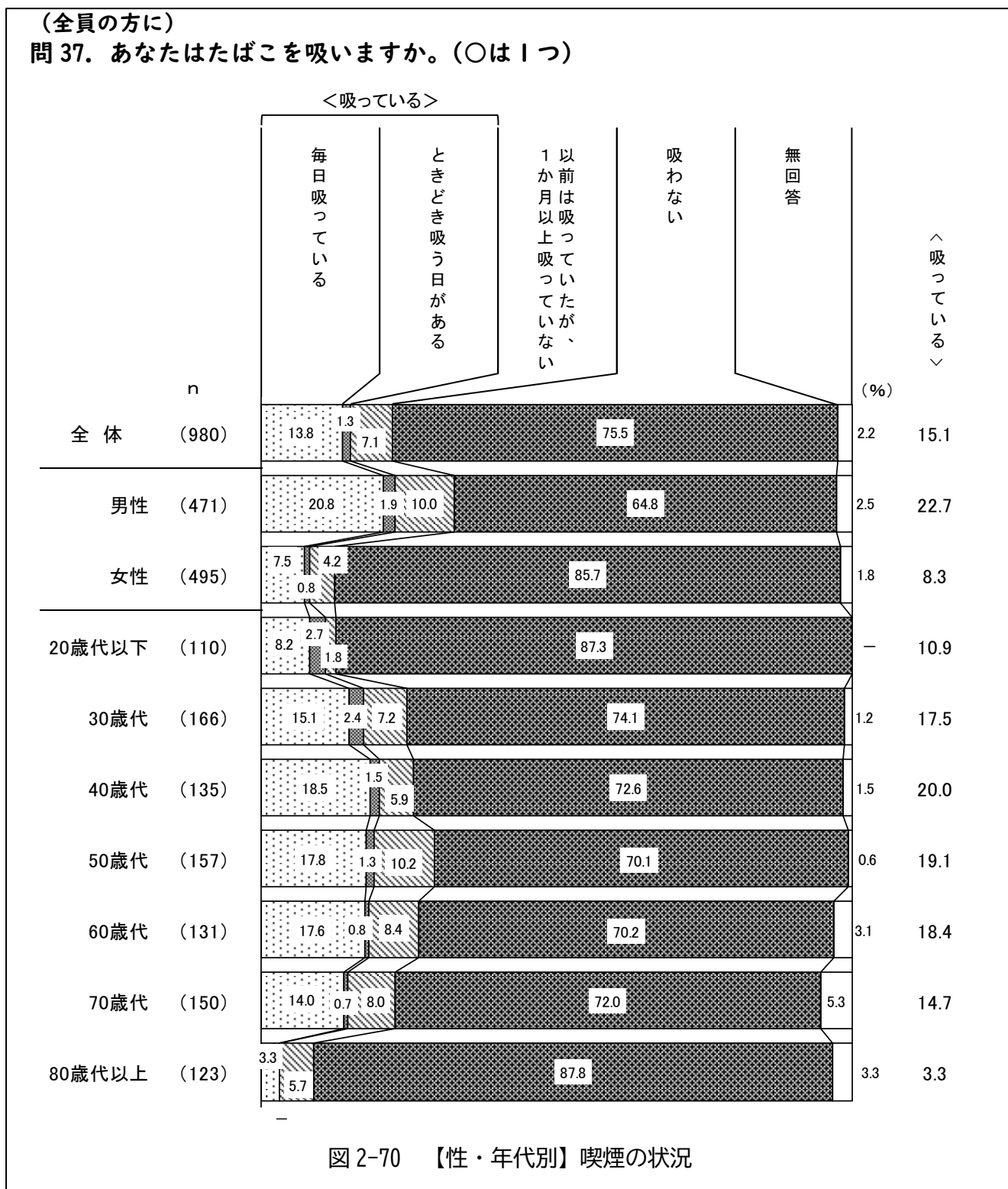
食中毒に関する認識の度合いは、「関心があり、食中毒について十分理解している」(12.6%)と「関心があり、食中毒についてある程度理解している」(43.8%)を合わせた<理解している>で56.4%となっている。性別にみると、<理解している>は女性(60.8%)が男性(51.4%)を約9ポイント上回っている。年代別にみると、<理解している>は60歳~70歳代で6割台半ばと高くなっている。



経年で比較すると、2022年度は「関心があり、食中毒についてある程度理解している」が7ポイント減少している。

2.24. 喫煙の状況

◆たばこを<吸っている>人は1割台半ば



喫煙の状況は、「毎日吸っている」(13.8%)と「ときどき吸う日がある」(1.3%)を合わせた<吸っている>で 15.1%となっている。性別にみると、<吸っている>は男性(22.7%)が女性(8.3%)を約 14 ポイント上回っている。年代別にみると、<吸っている>は 40 歳代で 2 割とやや高くなっている。

2.24.1. 今後禁煙したいか

◆「禁煙したい」は1割台後半、「吸う本数を減らしたい」が3割台半ば

(問37で「1.毎日吸っている」「2.ときどき吸う日がある」に○をつけた方に)
問37-1. 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

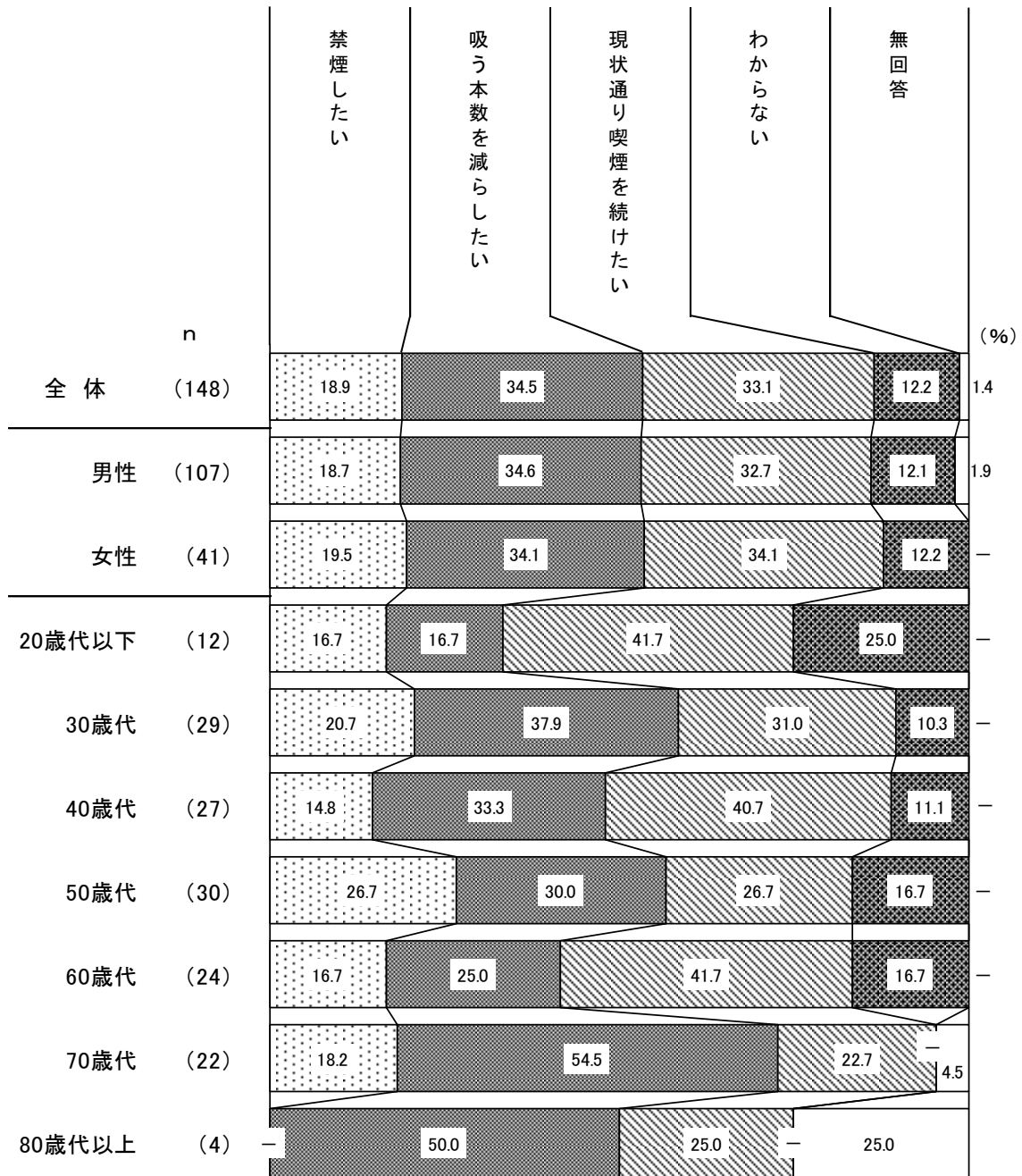


図2-71 【性・年代別】今後禁煙したいか

今後禁煙したいかについては、「吸う本数を減らしたい」が34.5%で最も高く、次いで「現状通り喫煙を続けたい」(33.1%)、「禁煙したい」(18.9%)となっている。

3. 制度等について

3.1. 「障害者差別解消法」についての認知度

◆ 「障害者差別解消法」について<知っている>人は2割台半ば

(全員の方に)

問 38. 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(〇は1つ)

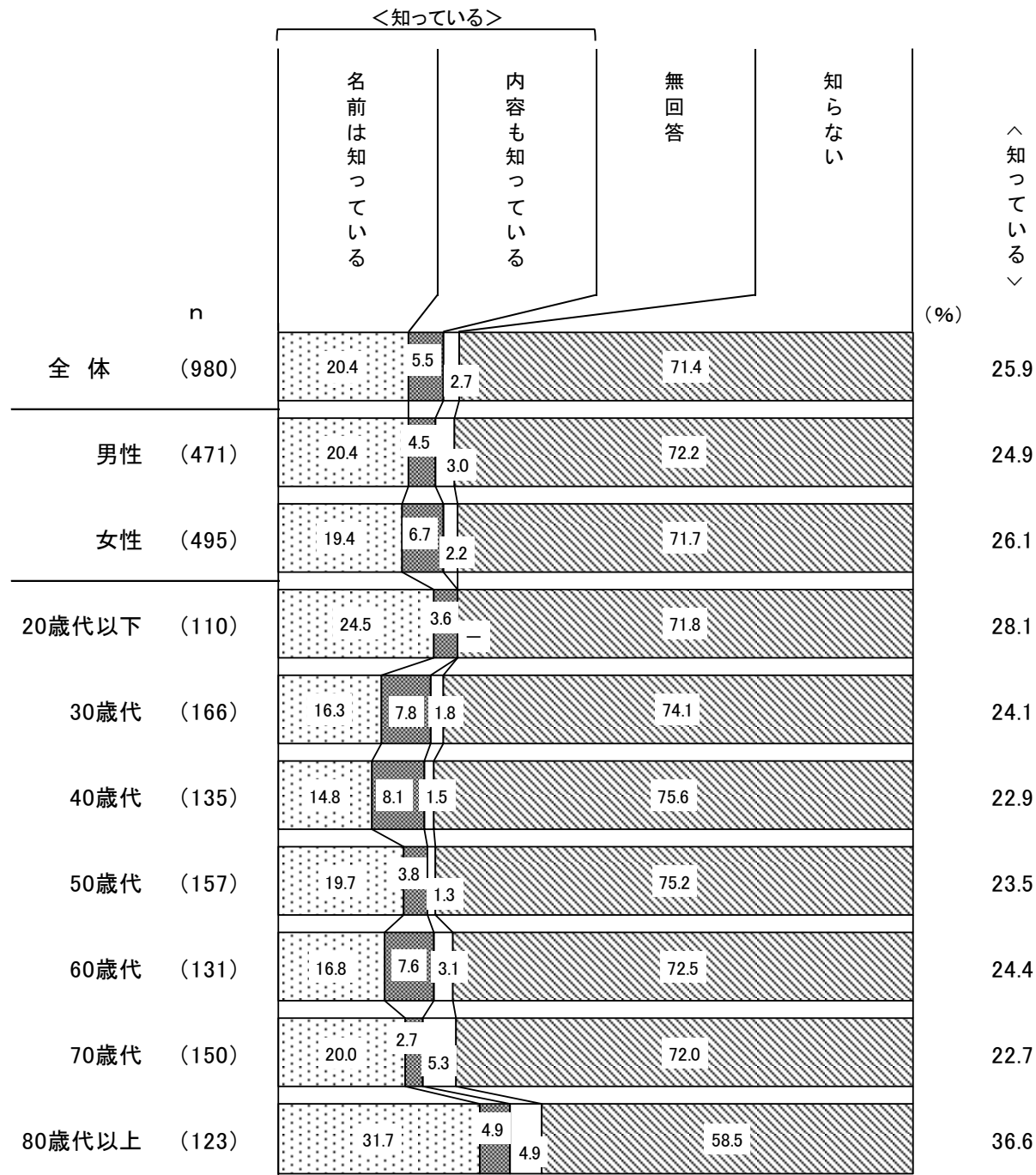


図 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」についての認知度

「障害者差別解消法」についての認知度は、「名前を知っている」(20.4%)と「内容も知っている」(5.5%)を合わせた<知っている>が25.9%となっている。年代別にみると、<知っている>は80歳代以上で3割台半ばと他の年代と比較して高くなっている。

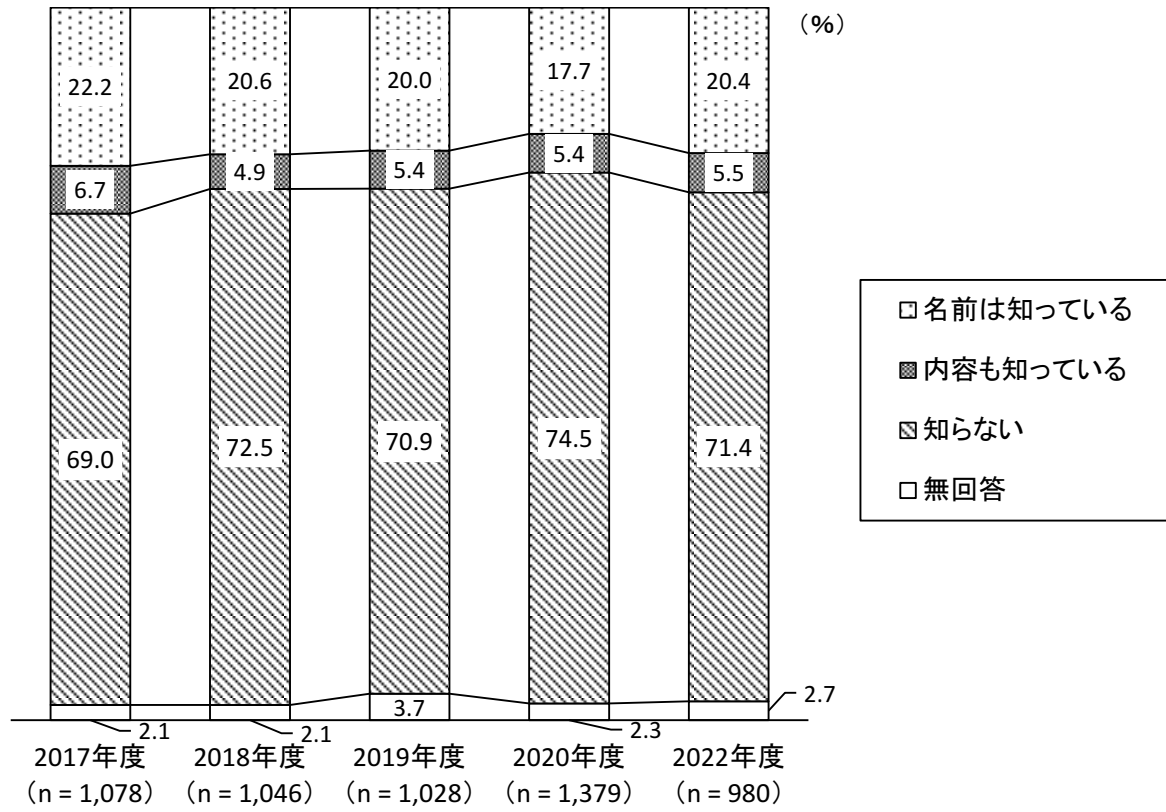


図 3-2 【経年比較】「障害者差別解消法」についての認知度

経年で比較すると、大きな差異はみられない。

3.1.1. 「障害者差別解消法」の認知方法

◆ 「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が5割台前半

(問 38 で「1. 名前は知っている」「2. 内容も知っている」に○をつけた方に)
 問 38-1. あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

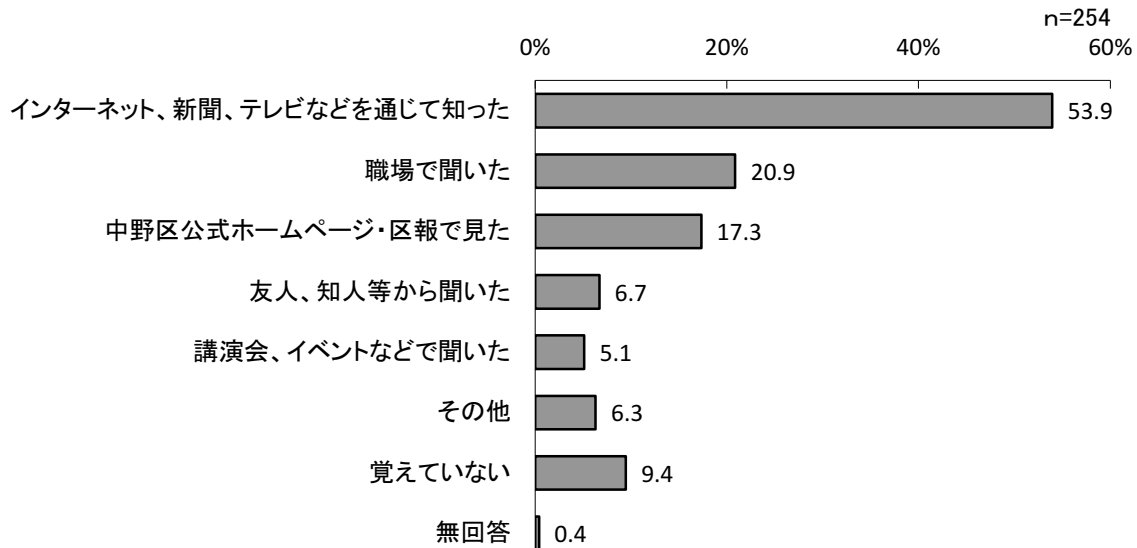


図 3-3 「障害者差別解消法」の認知方法

「障害者差別解消法」を<知っている>人に認知方法を聞いたところ、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が53.9%と最も高くなっている。

表 3-1 【性・年代別】「障害者差別解消法」の認知方法

単位：%

区分	有効回答数 (件)	見た	中野区公式ホームページ・区報で見た	を通じて知った	インターネット、テレビなど	講演会、イベントなどで聞いた	職場で聞いた	友人、知人等から聞いた	その他	覚えていない	無回答
全体	254	17.3	53.9	5.1	20.9	6.7	6.3	9.4	0.4		
男性	117	13.7	51.3	6.0	29.1	7.7	0.9	10.3	0.0		
女性	129	20.9	56.6	4.7	14.7	6.2	10.9	7.8	0.8		
20歳代以下	31	3.2	35.5	6.5	16.1	9.7	25.8	19.4	0.0		
30歳代	40	5.0	47.5	2.5	40.0	0.0	7.5	10.0	0.0		
40歳代	31	6.5	32.3	9.7	38.7	9.7	6.5	12.9	0.0		
50歳代	37	0.0	64.9	2.7	29.7	5.4	0.0	13.5	0.0		
60歳代	32	21.9	59.4	9.4	25.0	9.4	6.3	3.1	0.0		
70歳代	34	20.6	73.5	5.9	2.9	5.9	2.9	8.8	0.0		
80歳代以上	45	53.3	57.8	2.2	0.0	8.9	0.0	2.2	2.2		

性別にみると、「職場で聞いた」は男性、「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」「中野区公式ホームページ・区報で見た」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、40歳代で「職場で聞いた」、80歳代以上で「中野区公式ホームページ・区報で見た」の割合が他の年代と比較して高くなっている。

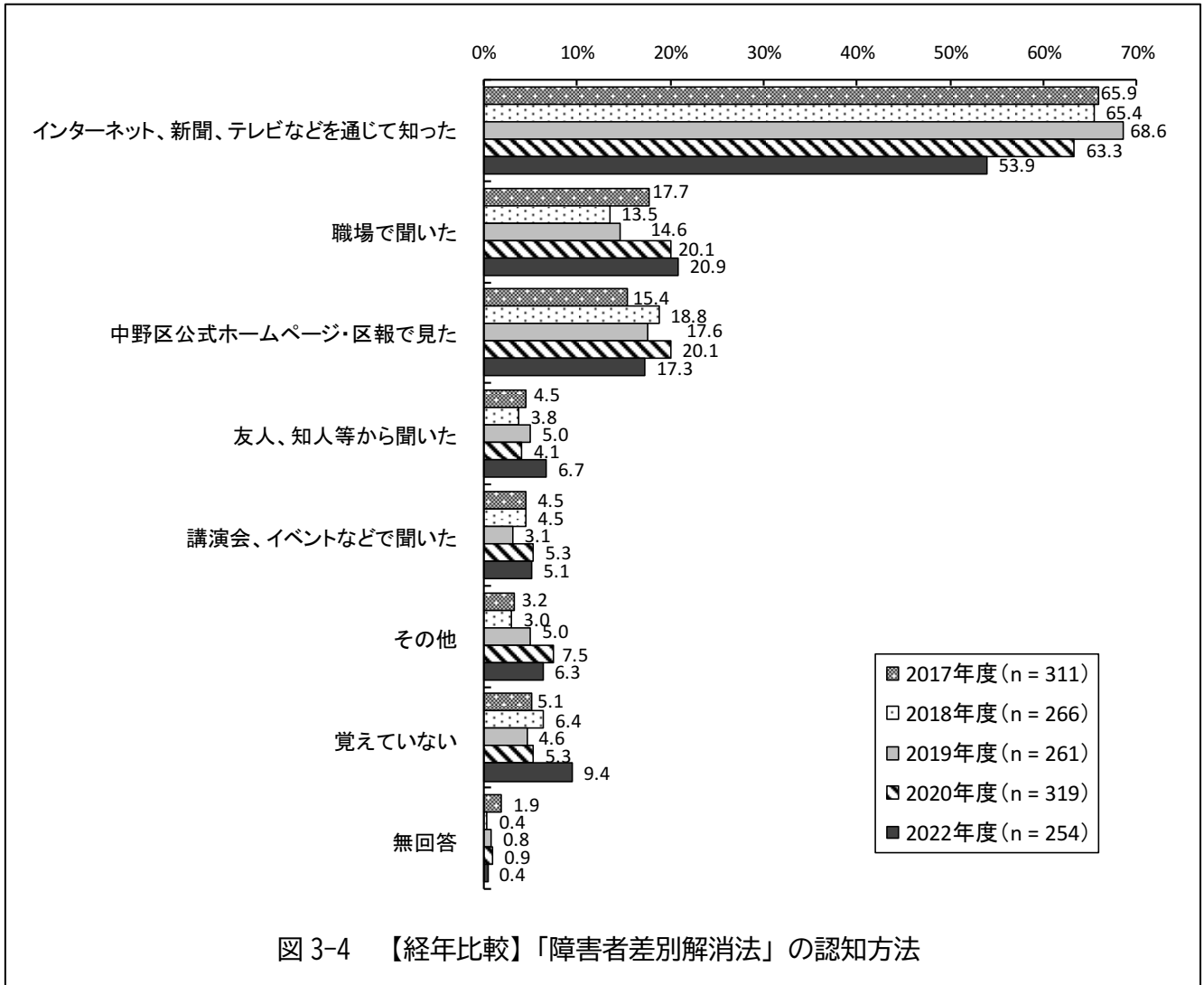


図 3-4 【経年比較】「障害者差別解消法」の認知方法

経年で比較すると、いずれの年度も「インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った」が最も高くなっているものの、2022年度は2020年度と比べ約9ポイント減少している。

3.2. 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

◆障害者差別解消のため中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が4割台後半

(全員の方に)

問 39. 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

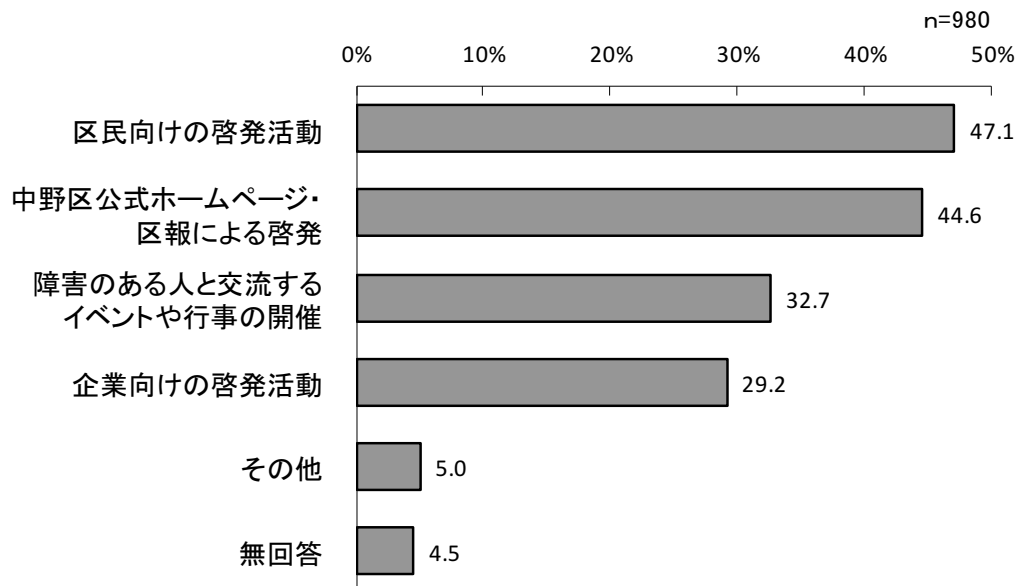


図 3-5 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

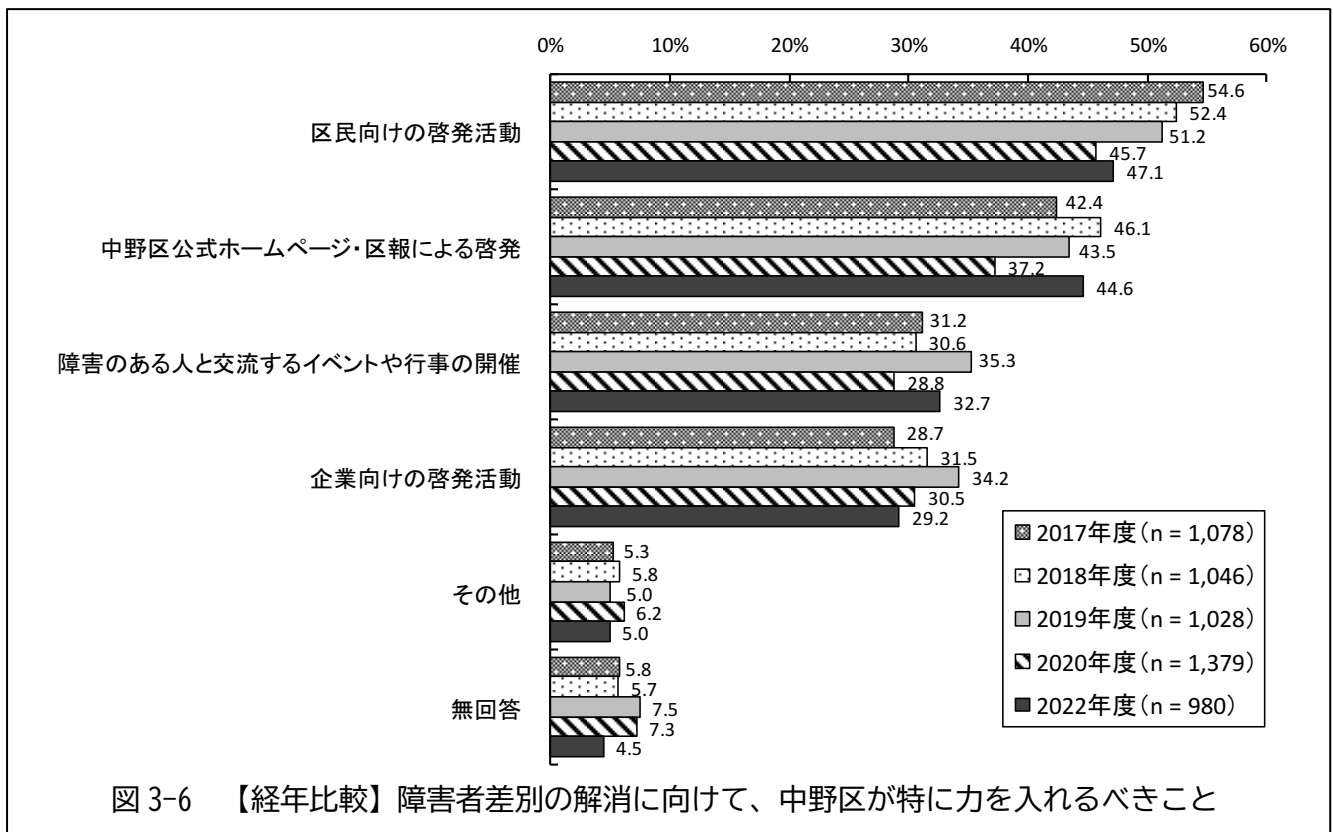
障害者差別の解消について、中野区が特に力を入れるべきことは、「区民向けの啓発活動」が 47.1% で最も高く、次いで「中野区公式ホームページ・区報による啓発」(44.6%)、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」(32.7%) となっている。

表 3-2 【性・年代別】 障害者差別の解消に向けて、中野区が特に力を入れるべきこと

単位：%

区分	有効回答数（件）	中野区公式ホームページ・区報による啓発	区民向けの啓発活動	企業向けの啓発活動	障害のある人と交流するイベントや行事の開催	その他	無回答
全体	980	44.6	47.1	29.2	32.7	5.0	4.5
男性	471	47.1	46.7	25.5	29.3	5.1	4.0
女性	495	42.6	47.7	32.7	35.6	4.8	4.8
20歳代以下	110	40.0	34.5	33.6	31.8	6.4	—
30歳代	166	39.2	47.6	39.8	27.7	6.6	1.2
40歳代	135	43.0	50.4	37.0	37.8	5.2	2.2
50歳代	157	42.0	53.5	33.1	40.8	4.5	1.3
60歳代	131	49.6	55.0	22.1	28.2	5.3	6.9
70歳代	150	54.7	48.0	22.0	32.7	2.7	8.0
80歳代以上	123	43.1	36.6	13.0	28.5	4.9	12.2

性別にみると、「中野区公式ホームページ・区報による啓発」は男性、「障害のある人と交流するイベントや行事の開催」「企業向けの啓発活動」は女性の割合が高くなっている。年代別にみると、20歳代以下と70歳代以上では「中野区公式ホームページ・区報による啓発」、30歳～60歳代では「区民向けの啓発活動」の割合が最も高くなっている。



経年で比較すると、いずれの年度も「区民向けの啓発活動」が最も高くなっている。

3.3. ヘルプマークの認知度

◆ヘルプマークについて「意味を含めて知っている」は5割台半ば

(全員の方に)

問 40. あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

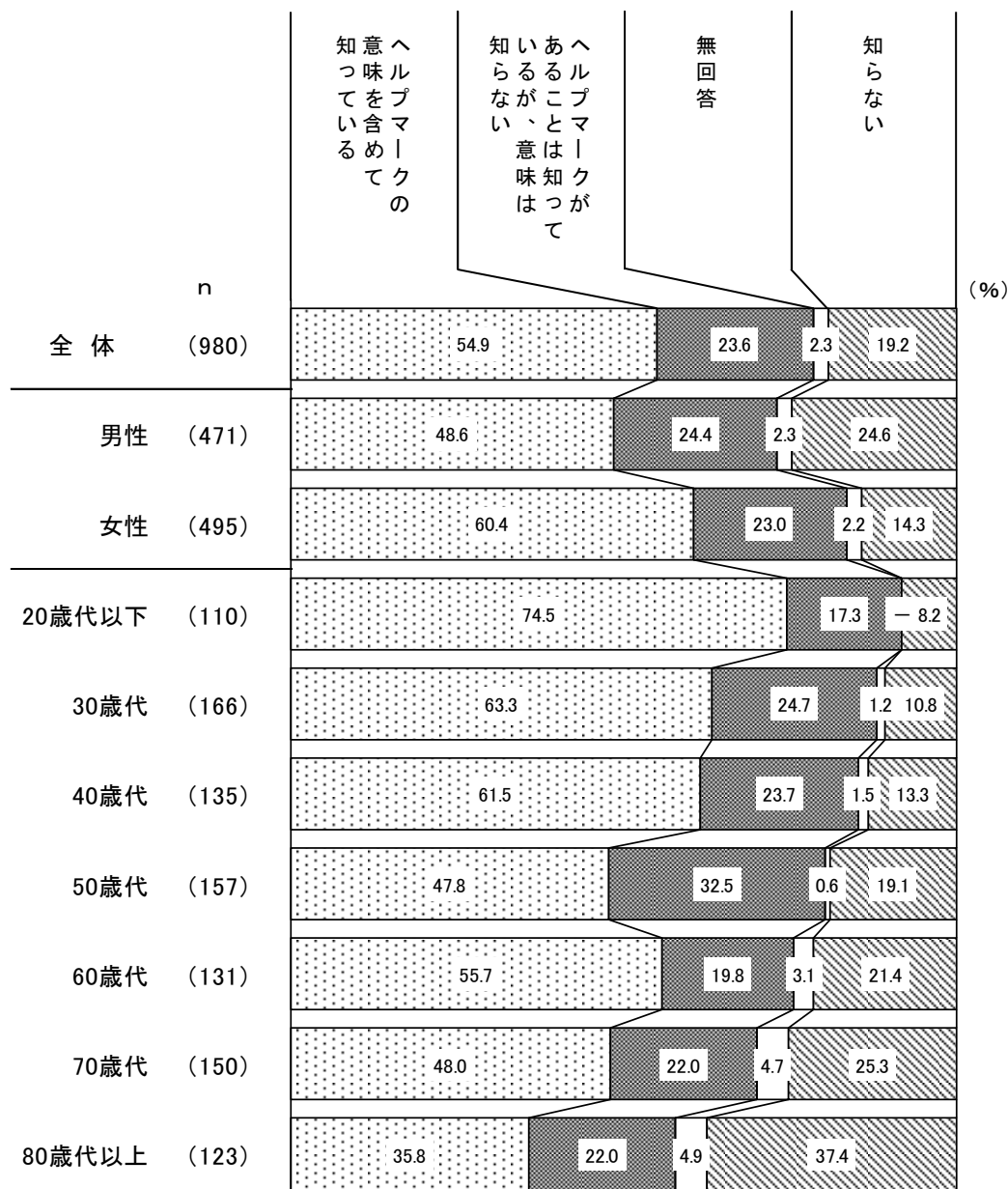
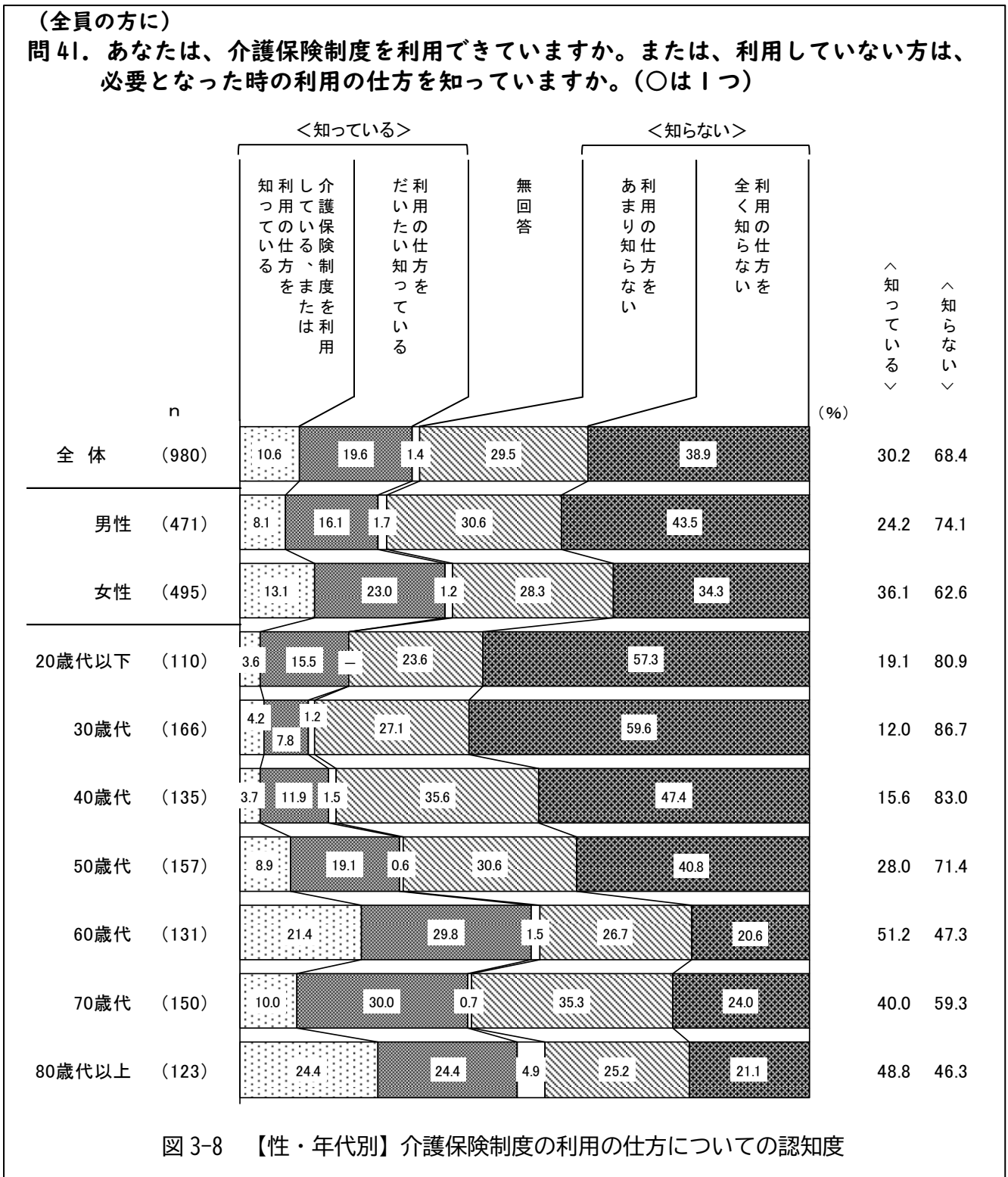


図 3-7 【性・年代別】ヘルプマークの認知度

ヘルプマークの認知度については、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」が54.9%で最も高く、「ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない」が23.6%、「知らない」は19.2%となっている。性別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は女性(60.4%)が男性(48.6%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、「ヘルプマークの意味を含めて知っている」は20歳代以下で7割台半ばと特に高くなっている。

3.4. 介護保険制度の利用の仕方についての認知度

◆介護保険制度の利用の仕方について<知っている>は約3割



介護保険制度を利用できている、または必要となった時の利用の仕方を知っているかについては、「介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている」(10.6%)と「利用の仕方を知りたい」(19.6%)を合わせた<知っている>は30.2%となっている。性別にみると、<知っている>は女性(36.1%)が男性(24.2%)を約12ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代の<知っている>の割合が最も高くなっており、5割を超えている。

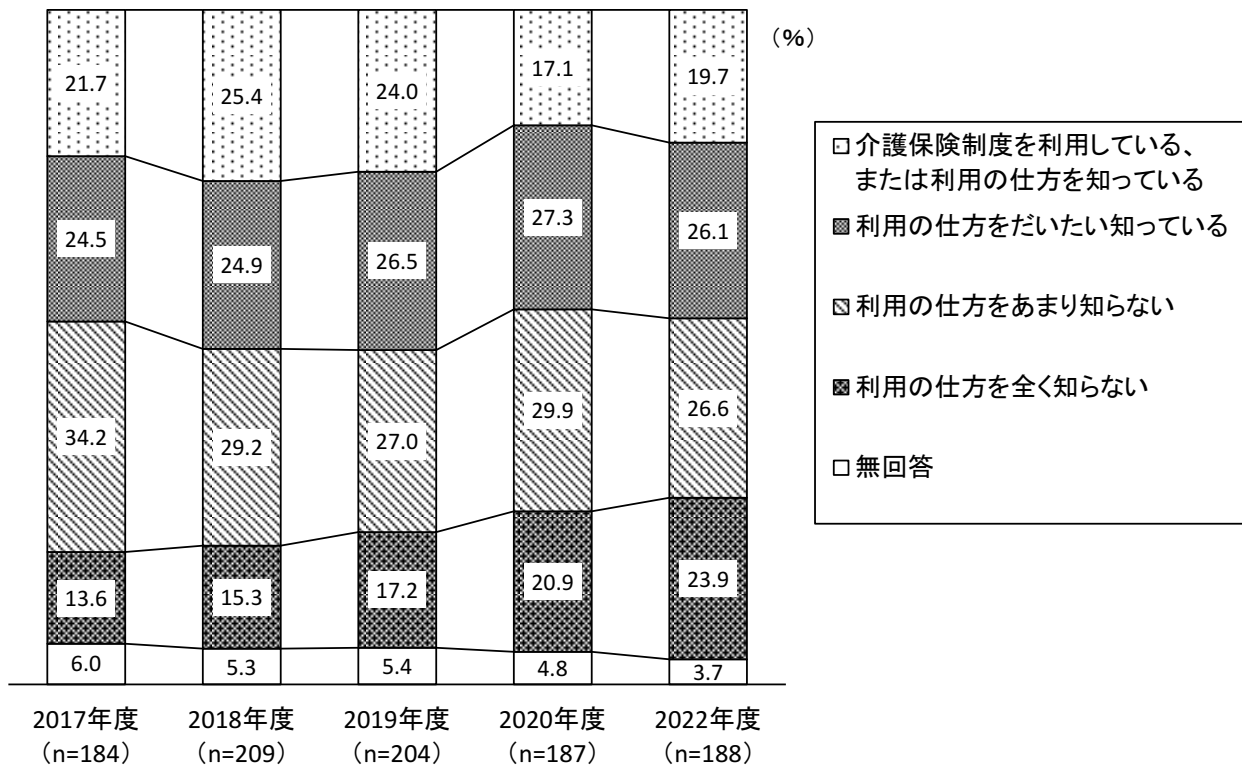
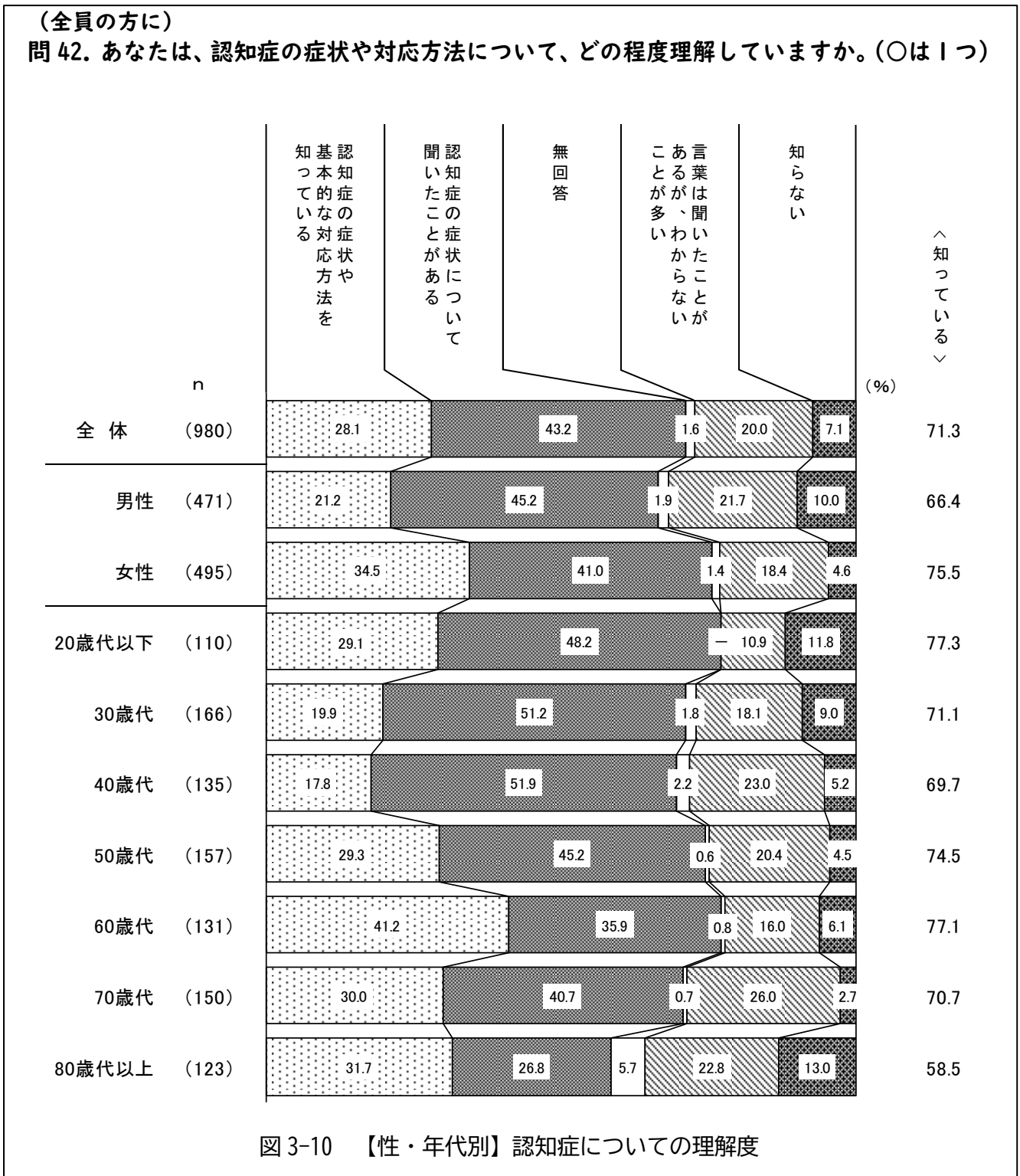


図 3-9 【経年比較】介護保険制度の利用の仕方についての認知度（75 歳以上の方）

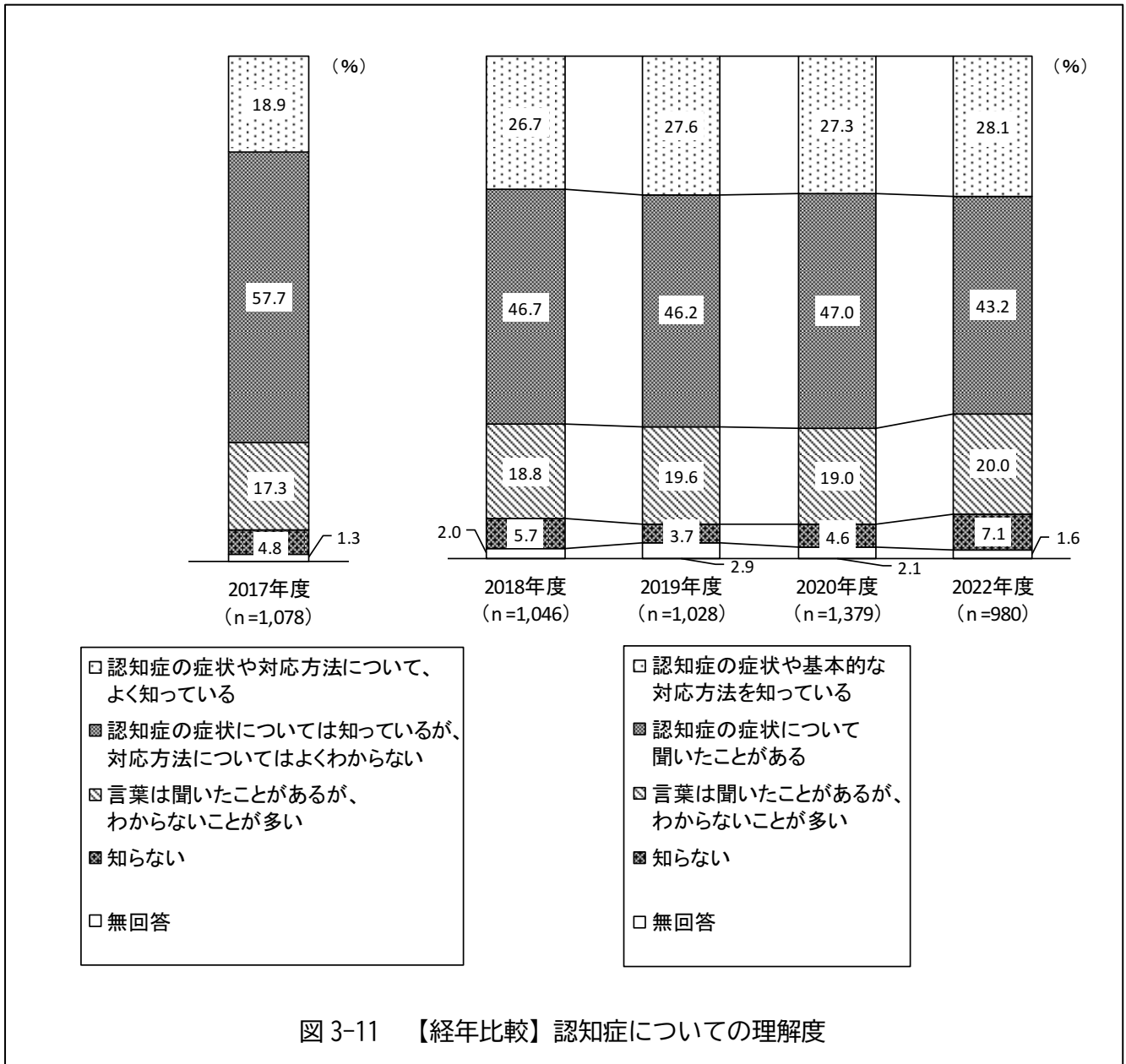
75 歳以上の方について経年で比較すると、「利用の仕方を全く知らない」が増加傾向にある。

3.5. 認知症についての理解度

◆認知症について「基本的な対応方法を知っている」は2割台後半



認知症の症状や対応方法についての理解度は、「認知症の症状について聞いたことがある」(43.2%)が最も高く、次いで「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」(28.1%)となっている。性別にみると、女性の方が男性より理解度が高くなっており、「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」で女性(34.5%)が男性(21.2%)を約13ポイント上回っている。年代別にみると、60歳代で「認知症の症状や基本的な対応方法を知っている」が約4割と他の年代と比べて高くなっている。



2018 年度以降は一部選択肢の内容を変更したため、2017 年度の結果は参考として掲載する。2022 年度は、「知らない」が微増となっている。

3.6. 人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度

◆人生会議という言葉や意味を「知らなかった」は8割台半ば

（全員の方に）

問 43. あなたはこれまでに見たり聞いたりして、「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）」という言葉や意味を知っていましたか。（○は1つ）

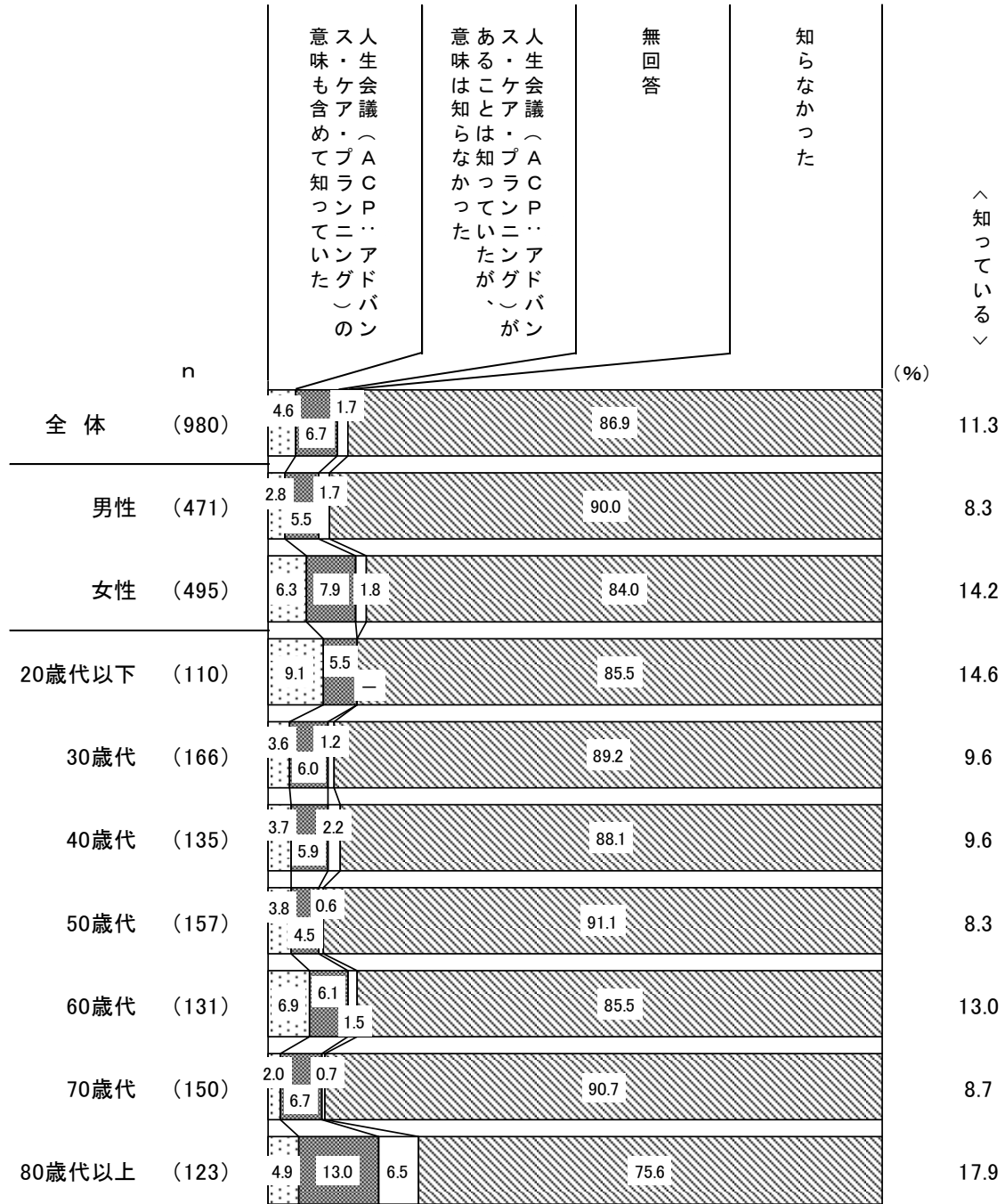
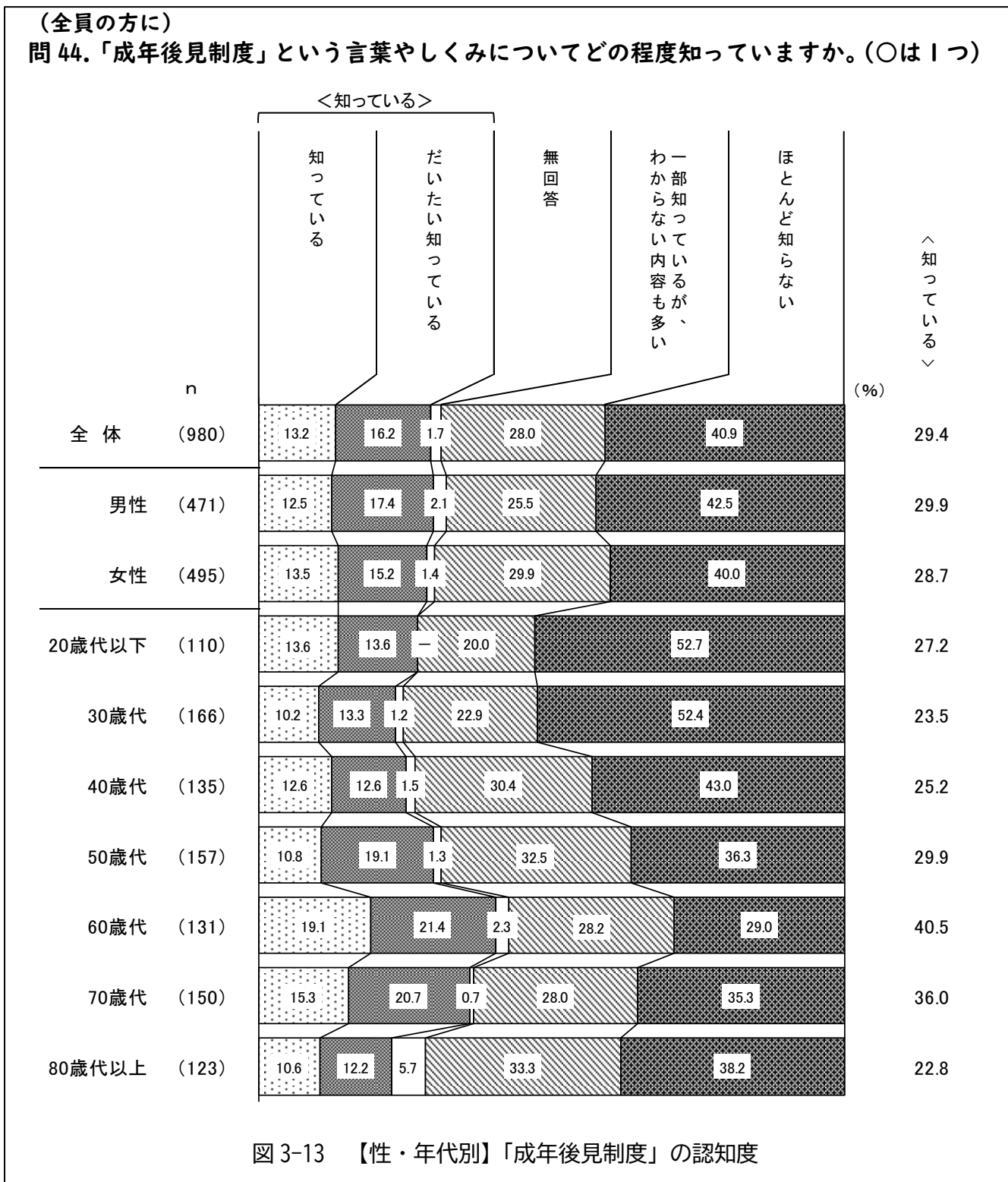


図 3-12 【性・年代別】人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の認知度

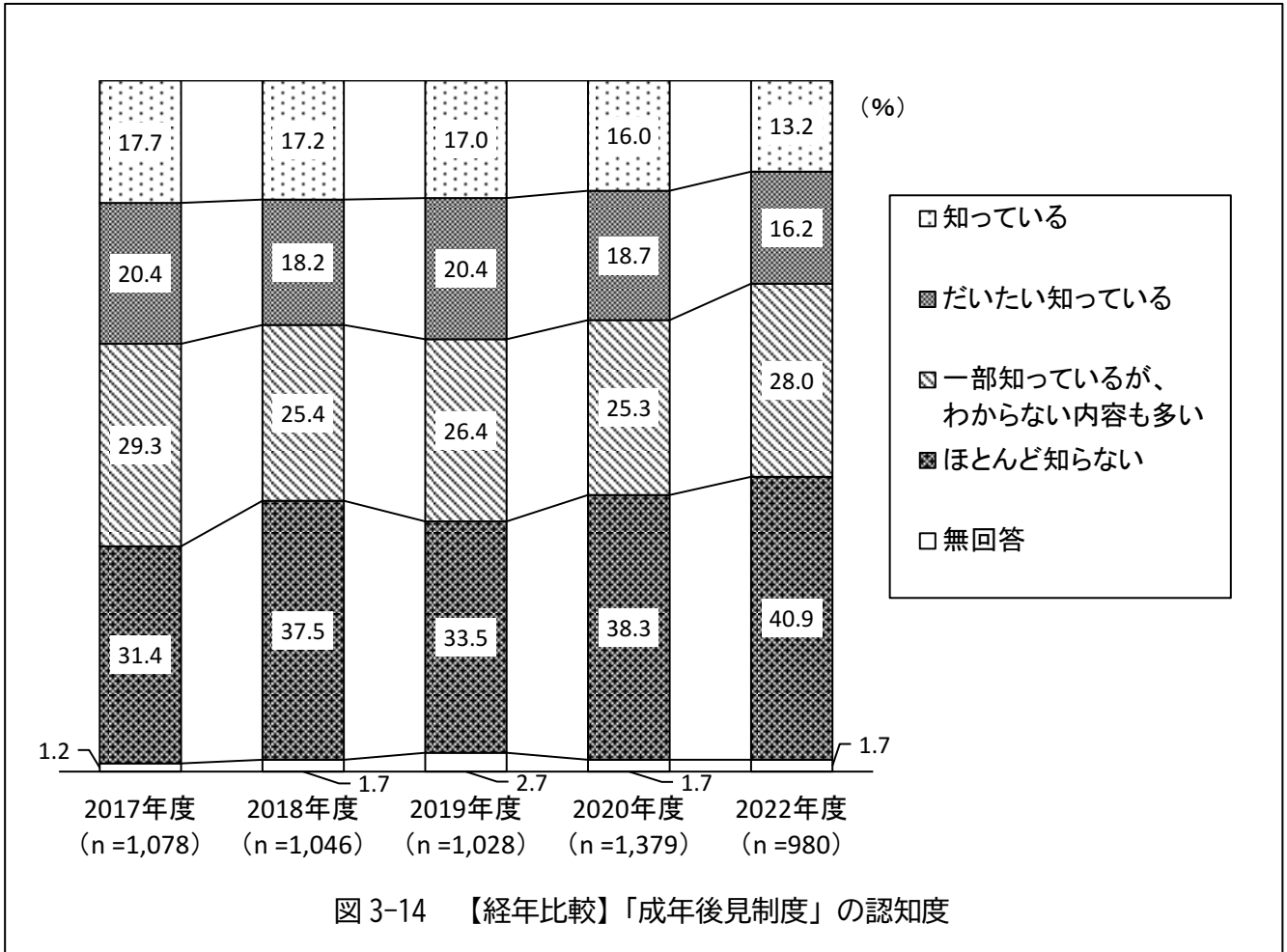
人生会議の認知度については、「知らなかった」が86.9%で最も高く、「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）があることは知っていたが、意味は知らなかった」が6.7%、「人生会議（ACP：アドバンス・ケア・プランニング）の意味も含めて知っていた」は4.6%となっている。性別にみると、「知らなかった」は男性（90.0%）が女性（84.0%）を6ポイント上回っている。年代別にみると、20歳代以下で「人生会議の意味も含めて知っていた」、80歳代以上で「人生会議があることは知っていたが、意味は知らなかった」が比較的高くなっている。

3.7. 「成年後見制度」の認知度

◆ 「成年後見制度」という言葉やしくみを<知っている>は約3割



「成年後見制度」という言葉やしくみについての認知度は、「知っている」(13.2%)と「だいたい知っている」(16.2%)を合わせた<知っている>で29.4%となっている。一方、「ほとんど知らない」は40.9%となっている。年代別にみると、60歳代で<知っている>が約4割と最も高くなっている。



経年で比較すると、「知っている」と「だいたい知っている」を合わせた<知っている>の割合は減少傾向となっている。

4. 相談窓口について

4.1. 健康福祉の相談窓口の身近さ

◆「身近に感じる」の割合は「区民活動センター」が最も高い

(全員の方に)

問 45. あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。(それぞれ○は1つ)

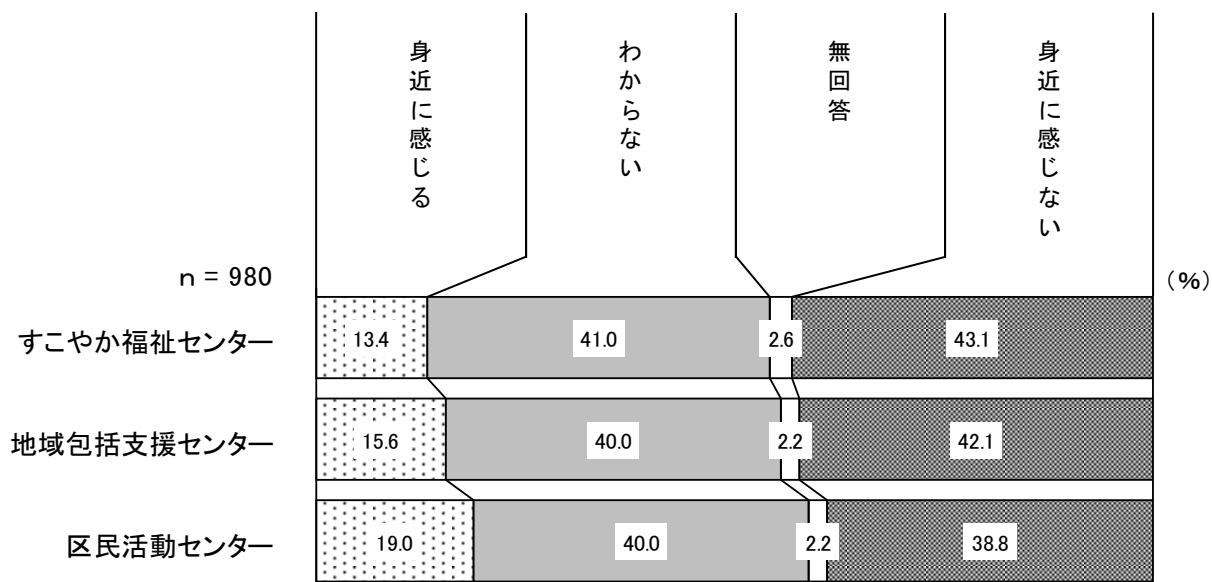


図 4-1 身近に感じるかどうかの割合

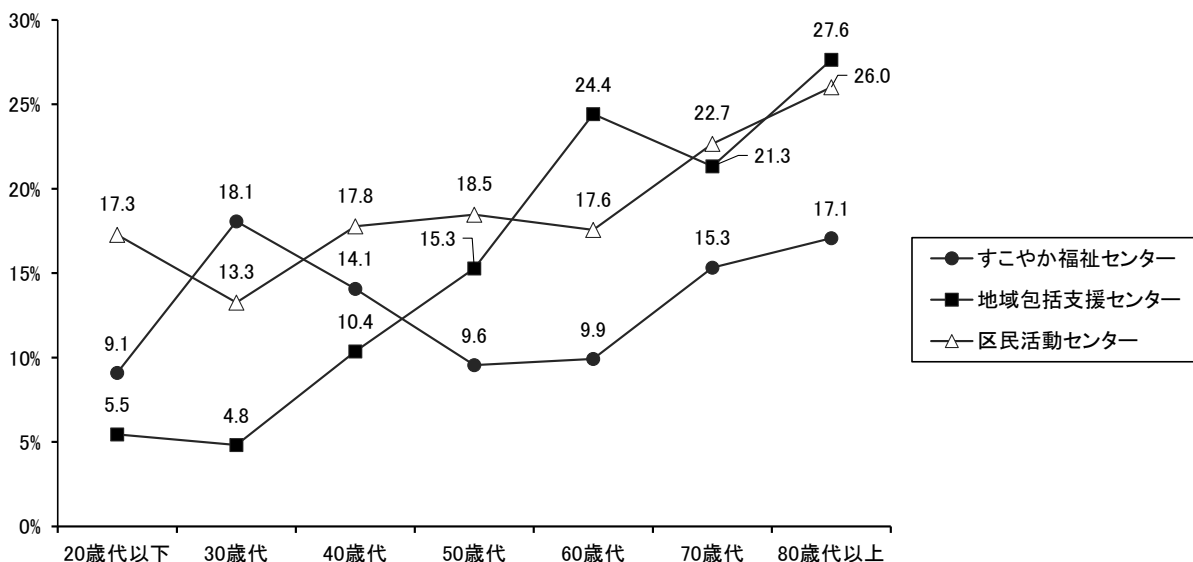


図 4-2 【年代別】身近に感じると回答した人の割合

健康福祉の相談窓口として身近に感じる機関を年代別で見ると、20歳代以下と40歳～50歳代、70歳代では「区民活動センター」、30歳代では「すこやか福祉センター」、60歳代と80歳代以上では「地域包括支援センター」の割合が最も高くなっている。

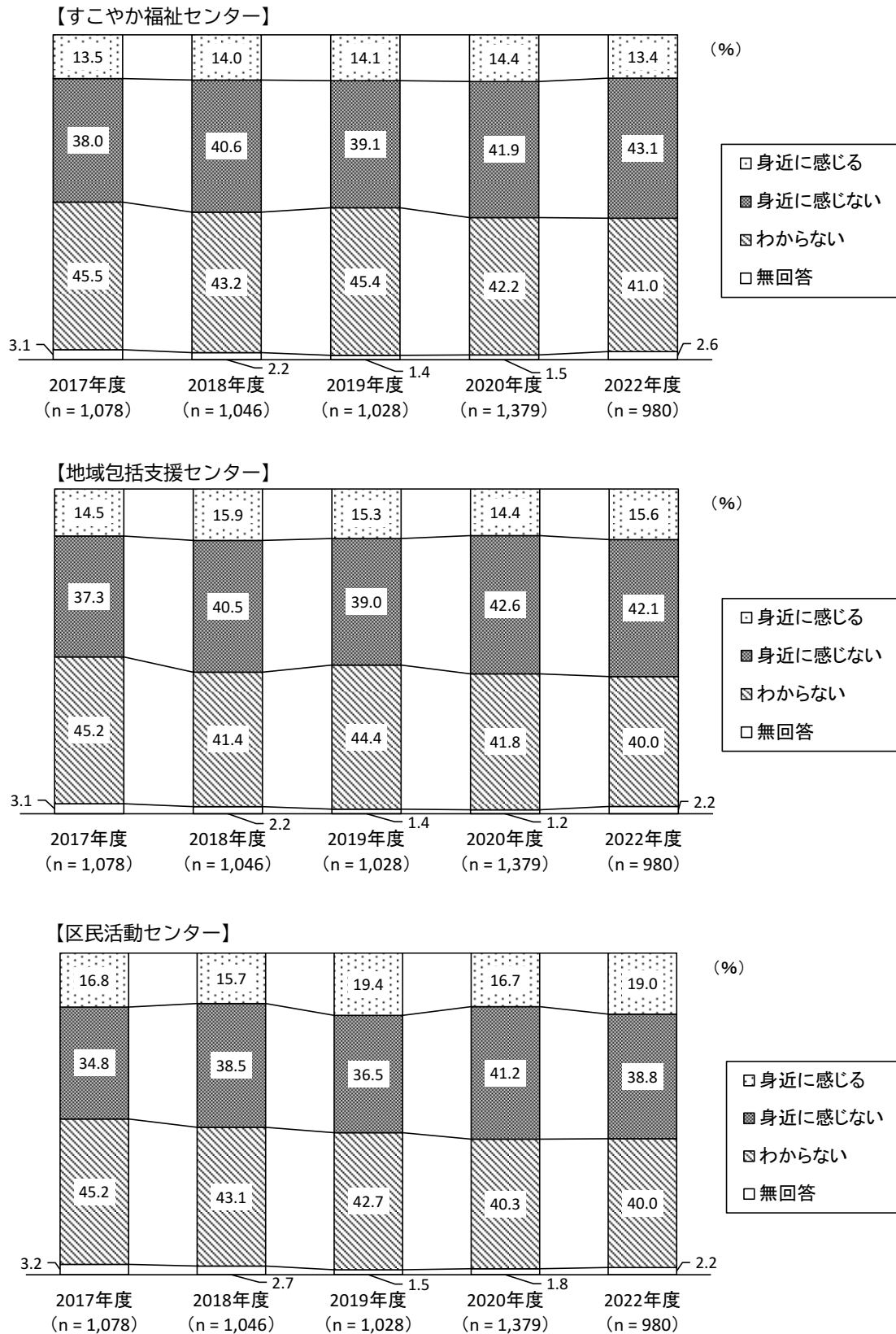
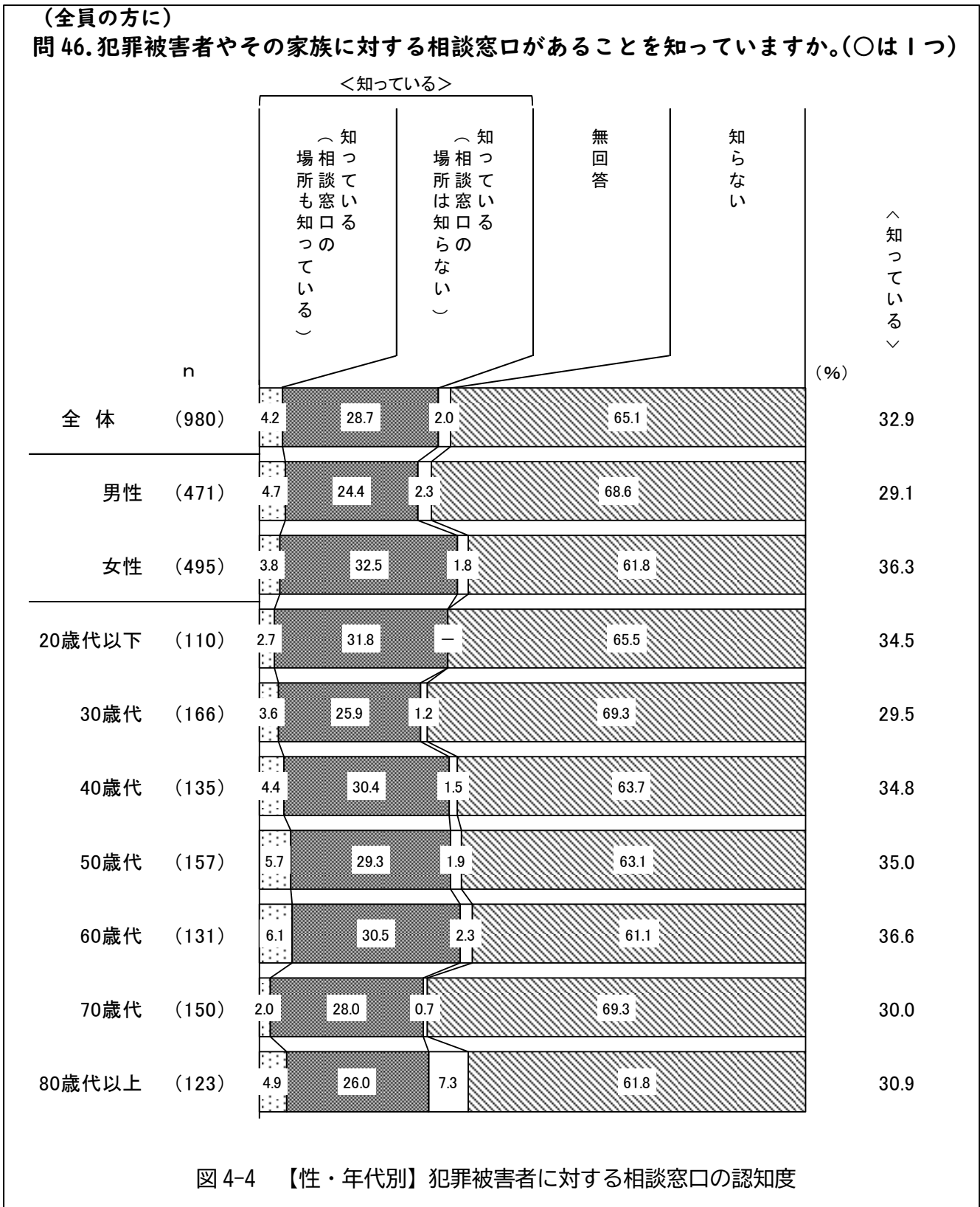


図 4-3 【経年比較】 身近に感じるかどうかの割合

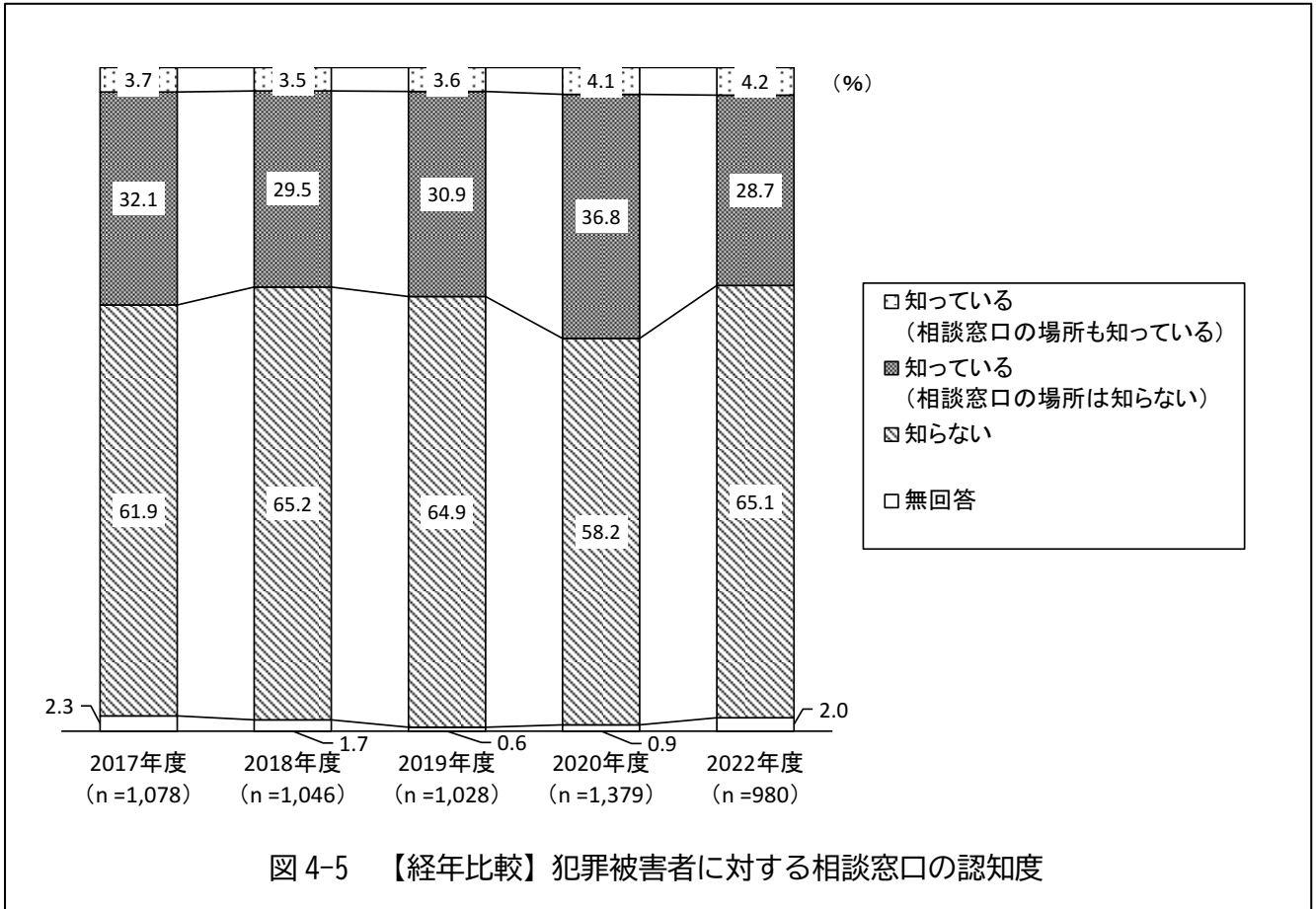
経年で比較すると、いずれの施設も「身近に感じる」割合は、1割台前半～1割台後半となっている。

4.2. 犯罪被害者に対する相談窓口の認知度

◆犯罪被害者やその家族に対する相談窓口を<知っている>は3割台前半



犯罪被害者やその家族に対する相談窓口の認知度は、「知っている（相談窓口の場所も知っている）」（4.2％）と「知っている（相談窓口の場所は知らない）」（28.7％）を合わせた<知っている>で32.9％となっている。性別にみると、<知っている>で女性（36.3％）が男性（29.1％）を約7ポイント上回っている。年代別にみると、<知っている>は30歳代と70歳代以上でやや低くなっている。



経年で比較すると、<知っている>の割合は2020年度に一度増加したものの、2022年度は2019年度と同程度になっている。

5. その他

5.1. 健康福祉行政全体への意見・要望（自由回答）

（全員の方に）

問 47. 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

健康福祉行政全体や今回の調査について、要望・意見を自由に記入していただいたところ、220 人の方から回答があった。その中から代表的な意見を掲載する。

なお、意見は明らかな誤字等の修正を除き、原文のまま掲載している。

本調査について 51 件

- 知らない事が多い事を認識致しました。中野区報などでももう少し取り上げていただけると意識が高まる事も多いと感じます。調査結果は何らかの方法でお知らせいただけるのでしょうか。すべてではありませんが、区民として知っておいた方が良い項目はパーセンテージでも良いので公表していただけると嬉しいです。(60 歳代)
- 年齢幅がありすぎて、この調査結果のみでいろいろな事が決まったりするのは不安。(60 歳代)
- 今回、このような機会をいただけたことで、いかに自分が普段、目を向けていないことがらが多いかがわかりました。まわりの友人で介護の仕事をしている人がいたり、自分の祖母は 90 代、両親は 60 代、自分も 30 代後半になって少しずつ健康福祉についても認識を増やしていかねばという気持ちになれました。皆にやさしい中野区であってほしいです。考えるきっかけをくださり、こちらこそありがとうございました。(30 歳代)
- 今回 18 才以上の区民からのアンケートとのことですが、100 才の人生と言われる高齢時代、自身の体験から衰えの加速する 85 才～の心身の問題についてのアンケートに興味があり、必要かと思えます。幼かったとは言え、戦火を経験した人達なので、かなり我慢強く自分を律する反面、鬱状態に陥るマイナスも合わせ持っている様に思うからです。(80 歳代以上)
- 今回の調査を受けて、いかに自分が無知であり、認識不足であったかを思い知らされました。いずれは自身が必要となるであろう健康福祉の現状をもっとしっかり理解し、実際に恩恵を受ける際は感謝し、心、満たされる福祉行政である事を心より願います。(80 歳代以上)
- この回答が何かしらの参考になっている事を願っております。また、今後は何が改善され、何が見直しされたかなど明確にわかるといいと思います。調査される側も回答した意味があると実感できるのではと考えます。(40 歳代)
- 初めて無作為調査の対象となりましたが、スマートフォンで答えられるのはとても便利に感じました。(20 歳代以下)

高齢福祉・介護・介護保険について 20 件

- 区で対応できる高齢者向け制度は、随時広報等で知らせて欲しい。(70 歳代)
- 本人は今特養に入所して、だいぶ認知症が進んでいます。せっかくのアンケートなので母の気持ちになって答えてみました。17 年前に中野に越して来てから、娘の私がいたので行政との橋渡しが出来ましたが、もし、完全に 1 人だとしたら生活の上で友人が見つけれられるか心配です。高齢者に関しては周囲に知人を見つけてあげられるかが大きな問題だと思います。(80 歳代以上)
- 介護保険制度で保険料を支払っているが、具体的に自分が必要になることは考えたことがなく、もっと勉強が必要と思った。知らない制度が多く、それらについても関心を持つべきと感じた。(60 歳代)
- 先日(10 月 4 日)区役所で開催された「認知症サポーター養成講座」に参加させて頂きました。89 才の母の介護をしながら日々いろいろな不安、心配事があり自分自身、精神的にまいってしまいそ

うになりますが、この様な企画のお陰で少し楽になりました。高齢者介護についての講座（リモートではなく）もお願いしたいです。（50 歳代）

- 人生会議については初めて知る言葉だったので、調べてみたいと思いました。（20 歳代以下）
- 一人暮らしの高齢者住宅を増やし、自立支援に対して優しい行政を期待しています。（70 歳代）

障害福祉について 10 件

- 今回の調査の事ではないのですが以前母の車イスを押す時に歩道の段差に苦労しました。足の悪い方々もつまずいたりするのではないかと思います。障害者のことを考える上で一番最初に考えるべき事だと思います。（70 歳代）
- 障害者福祉という言葉が、身体障害者のみを指しているような気がしてならない。精神疾患の障害者に対しても福祉を充実させてほしいと思う。（40 歳代）

医療・健診（検診）について 11 件

- 区でできる健康診断をもっと増やして欲しい。（30 歳代）
- がん検診のクーポンが使いにくい。新型コロナのワクチンのようにインターネットでも事前予約ができたらありがたい。（40 歳代）
- 元気な高齢者が活躍できるプログラムが紹介されるイメージがあるが、一方で、癌等で長期療養、治療を継続し、60 才や途中で、それ以上仕事を続ける状況にない人も多いはず。後者の人々で前向きに生活できる支援、啓蒙が不足しているようにも感じる。（60 歳代）

地域活動について 7 件

- 中野区に転居して来て 10 年近くになります。子どもが義務教育期間中は地域の方にお世話になりましたが、卒業後は地域でのつながりがなくなりました。今回の調査で地域とのつながりを考えてみたいと思いました。（50 歳代）
- 50 代女性です。私の親世代に比べ、いわゆるご近所づきあいが減っていると思います。具体策は書けず申し訳ないですが、お互い「お元気にしているかな？」と気かけられるシチュエーションが身近にあれば良いな、と思います。（50 歳代）
- 子供時代からの地域コミュニティの作り方を考えた方がいいと思います。東京は特に遅れているのでは？（50 歳代）

健康づくり・スポーツ施設や公園等について 9 件

- 区民（特に高齢者や子ども）が安心してウォーキングできる環境を街路に設置して欲しいです。歩道の拡幅も必要でしょうか。暮らしの保健室の様な、気軽に相談出来る場所作りの支援をして欲しいと思います。（60 歳代）
- スポーツ施設、特に屋外のグラウンドが持つ機材や設備が場所によって差が大きいのので、その差をなくして欲しい。ex.) イス、ベンチの数やサッカーの ck のフラッグなどある所とない所がある。（20 歳代以下）
- こどもの運動不足が気になります。こどもが運動できる施設やイベント教室を増やしてほしい。小学校の放課後にスポーツ教室やイベント、体育館開放など学校で開催してほしい。（40 歳代）
- 平和の森公園の多目的広場の利用に関して、地域の中学校の部活などに使わせてあげるべきだと思います。中学校のグラウンドが狭かったり、他の部活で使えなかったりするので特に、サッカー、野球に関しては場所が少なすぎる。区内にもっと簡単に使える施設を作るべき。そうでないと、スポーツが発展しない。（40 歳代）

その他 112 件

- あらかじめ自分に起こっていない事柄については関心がうすく、なって初めて調べ始めるというパターンが人の常のような気がします。ある程度は仕方無い事なのだとも思うが、啓もうが重要なのだと思う。障害のある人等、もっと外に出られる状況が必要。そういう人もいる事を健常者も認識できる事も重要。(70 歳代)
- 区民の意見を聞いたら早めの実行をお願いします。(70 歳代)
- 相談窓口を利用するべき時になった時、わかりやすく簡単に気楽に相談できると良いですね！(70 歳代)
- 障害者手帳までいかないが、両足にハウタイを巻いて生活している人への支援はありませんか？サービスが行き届いていない人へ目を向けてほしい。(40 歳代)
- いろんな取り組みをたくさんしていただいているのだと思います。知らないのはもったいないですね。SNS などで気軽に発信していただいたら、毎日気にして見ると思います。いつもありがとうございます。(50 歳代)
- 高齢者対応だけでなく、若年層、子育て層にも目を向けてほしい。不妊治療や共働き支援も拡充させてほしい。(30 歳代)
- 健康福祉は、これから益々必要になってくると思う。地味な活動であり、充実させていくのには、大きな予算がいる。安心、安全な日々を送るのには何が 1 番必要なのかを良く考え、税の配分に十分配慮していくことが肝心と思います。(70 歳代)
- 各種制度や取組について、せっかく制度や取組があるのに、知られておらず必要な時に利用出来ないことも多いのではないかと思います。HP や区報での広報も大切ですが、そういったものをあまり自分から見ない人に向けた広報手法等でもアプローチすると、より色々な立場の方へ施策等が認知されるのかなと思いました。私個人としては、このアンケートをしたことにより、支援センターや ACP など知らなかったことを知る事が出来ました。(30 歳代)
- 男子のトイレについて考えて欲しい。男の人の紙パンツが多くなっているの、女子のトイレのようにする事。又、多目的トイレを多くして欲しいです。(80 歳代以上)
- 子育て支援を充実させれば、結果的に子供の自殺が減ると思う。子供の現社会における生きにくさを支援する機関を増やすべき。児相等の機関が頑張っているが、マンパワー不足から仕事の質がどんどん落ちている。(40 歳代)
- DX を最大限に活用して、過去のしがらみや人海戦術でない効率的な健康福祉行政を追求してください。(50 歳代)
- 中野区に限らず、東京都や他の道府県でも言えることではあるが、前述の通り、障害者が在宅でも行政サービスが受けられるようなシステムを作るべきであると考えている。現在、当方 30 代で仕事がある身で、60 代の片方は脳梗塞の後遺症で半身麻痺、片方は認知症で高齢者施設に入所している両親がいると、オンラインで多くの手続きができるようなシステムがないと生活が詰む(両親のことでかなりの時間が取られる)。介護休暇制度などもあるが、それだけで解決もしないし、人を雇えば済むことではあるが、そのようなサービスがあれば、もう少し生きやすい世の中になります。(30 歳代)
- 特に若者は地域のための活動をしてきていることもあまり知らないと思うので、認知してもらうための幅広い SNS 広報活動が必要だと感じました。(20 歳代以下)
- 紙媒体や掲示板、特定の区の施設での広報が多く、中野区の取り組みやイベント情報の取得がとても難しいです。もっとネットでの広報や情報発信及びウェブの見やすきの改善を進めていただきたいです。(40 歳代)
- あらゆる面において、区政に要望・意見を言える制度・場がない。(70 歳代)
- 障がい者や病気で支援を必要としている人への、インターネット上での情報が不足していると感じる。自分で中野区のホームページから必要な情報を探そうとしても、最終的には役所や施設、センターへの訪問や電話相談を促されてしまうのが少し残念に思う。(20 歳代以下)

- 広報には限界があると思う。リアルに接する機会が重要。(30 歳代)
- 中野区健康福祉に対する支援には、満足しています。コロナウィルスの予防接種の問い合わせなど、中野区の保健所の方々は本当に一生懸命やっていたらと感謝しています。私の住んでいる野方地区は、世帯の高齢化が進み、新しく单身アパートや高層マンションなどが建つなどし、新しく転居されてくる世帯が増えてきました。一方で、コロナ禍で町内会などの地域主催のイベントが全くできず、住民同士の交流は全く無くなってしまいました。子供が、地域の幼稚園、小中学校に通っていれば、学校を基点とした繋がりもありますが、他地域の学校に通っていると、地域との関わりはほとんどゼロになってしまいます。そのような繋がりが感じられない地域では、ゴミのポイ捨てや不法投棄が横行するようになり、悲しい思いをしています。中野区には、地域の連携、つながりが感じられる区政を望みます。(50 歳代)
- いつも区民の為にありがとうございます。相談窓口に行くまでが大変だと思います。緊張したり、こんな内容で相談して良いのか？と悩んだりしてなかなか一歩が踏み出しにくいと思います。もっと気軽に相談できる方法や、場所などあれば良いと思います。各制度の仕組みや、手続きなど複雑なイメージです。自分で知ろうと勉強したり、情報を集めたりしない限りわからない事が多いと思います。(50 歳代)

IV 調査票と単純集計

令和4年度（2022年度） 健康福祉に関する意識調査 調査票

【調査のご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がお答えください。ご本人がお答えにならない場合は、ご家族や介護されている方が、ご本人の立場に立ってお答えください。
2. 令和4年8月1日現在の状況でお答えください。
3. このアンケートは匿名です。名前・住所を書きいただく必要はありません。
4. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆でお願いします。
5. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
6. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
7. 「その他（ ）」に○印をつけられた方は、お手数ですが具体的にご記入ください。
8. 郵送で回答する場合、本調査票を三つ折りにした上で、同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。
9. インターネットで回答する場合、右のQRコードを読み取るか、URLを入力して、最初の画面でIDとパスワードを入力し、ログインしてください。
※QRコードを読み取ると、ID・パスワードが自動的に入力されます。

回答用 URL : <https://www.cz-wee.com/if/nakano.php>

【 回答期限（郵送・インターネット共通）】 令和4年（2022年）10月11日（火曜日）

10. 調査報告書は、令和5年7月から、図書館、すこやか福祉センター、区ホームページなどでご覧になれる予定です。
11. 調査の内容や記入方法等について、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

中野区健康福祉部 福祉推進課 健康福祉企画係
TEL. 03-3228-5421 FAX. 03-3228-5662
E-mail fukusisuisin@city.tokyo-nakano.lg.jp

質問の上に（全員の方に）と記載のあるものは全員の方が、（～の方に）とその他の記載があるものはその条件に合う方のみお答えください。

《はじめに、あなたご自身のことについてうかがいます》

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（1） あなたの性別は、どちらですか。（○は1つ）

1. 男性(48.1%)	2. 女性(50.5%)	3. その他(0.6%)	無回答(0.8%)
--------------	--------------	--------------	-----------

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（2） あなたの年齢は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

1. 18歳・19歳(0.4%)	2. 20歳代(10.8%)	3. 30歳代(16.9%)	4. 40歳代(13.8%)
5. 50歳代(16.0%)	6. 60～64歳(6.9%)	7. 65～69歳(6.4%)	8. 70～74歳(8.7%)
9. 75～79歳(6.6%)	10. 80～84歳(6.8%)	11. 85～89歳(3.8%)	12. 90歳以上(1.9%)
無回答(0.8%)			

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（3） あなたのご職業は、次のどれにあてはまりますか。

（○は1つ。複数ある方は、主なもの1つに○）

1. 正規の職員・従業員(39.2%)	2. 労働者派遣事業所の派遣社員(2.4%)	
3. パート・アルバイト・契約社員・嘱託(11.7%)	4. 自営業主・家族従事者(10.0%)	
5. 学生(2.4%)	6. 家事専業(8.1%)	
7. 無職(21.4%)	8. その他(3.7%)	無回答(1.0%)

（全員の方に）＜回答者数：980人＞

（4） あなたの世帯構成は、次のどれにあたりますか。（○は1つ）

1. 単身世帯（一人暮らし）(30.9%)	2. 夫婦のみ世帯(25.4%)
3. 2世代世帯（親と子）(34.4%)	4. 3世代世帯（親と子と孫）(3.9%)
5. その他の世帯(4.5%)	無回答(0.9%)

((4) で、「3. 2世代世帯(親と子)」「4. 3世代世帯(親と子と孫)」「5. その他の世帯」に○をつけた方に) <回答者数: 419人>

(5) あなたの世帯に18歳未満の子どもはいますか。(○は1つ)

1. はい(41.8%)	2. いいえ(57.0%)	無回答(1.2%)
--------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(6) あなたは日常的に家族の介護をしていますか。(○は1つ)

1. はい(4.7%)	2. いいえ(93.3%)	無回答(2.0%)
-------------	---------------	-----------

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(7) お住まいは、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1. 持ち家(一戸建て)(37.2%)					
2. 持ち家(分譲マンション等の集合住宅)(18.1%)					
3. 公営の賃貸住宅(都営・区営住宅、公社等)(4.4%)					
4. 民営の賃貸住宅(33.6%)					
5. 社宅、社員寮、公務員住宅(3.1%)					
6. その他(3.0%)					無回答(0.7%)

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(8) あなたは中野区にお住まいになられて何年になりますか。(○は1つ)

1. 1年未満(5.0%)	2. 1年以上5年未満(20.2%)		
3. 5年以上10年未満(11.4%)	4. 10年以上20年未満(14.4%)		
5. 20年以上(48.4%)			無回答(0.6%)

(全員の方に) <回答者数: 980人>

(9) あなたがお住まいの地域はどこですか。(○は1つ)

1. 南台(6.7%)	2. 弥生町(8.6%)	3. 本町(7.2%)	4. 中央(8.0%)
5. 東中野(7.3%)	6. 中野(9.7%)	7. 上高田(5.2%)	8. 新井(5.0%)
9. 沼袋(3.5%)	10. 松が丘(2.0%)	11. 江原町(2.2%)	12. 江古田(2.9%)
13. 丸山(1.6%)	14. 野方(5.5%)	15. 大和町(5.1%)	16. 若宮(3.5%)
17. 白鷺(3.7%)	18. 鷺宮(5.9%)	19. 上鷺宮(5.8%)	無回答(0.5%)

《地域活動についておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：980人>

問1 あなたは、どのような内容の地域の活動に参加していますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 町会・自治会の活動(9.7%) | 2. ボランティア活動(3.2%) |
| 3. スポーツ関係の活動(6.4%) | 4. 趣味関係の活動(5.1%) |
| 5. 学習・教養サークルの活動(2.4%) | 6. その他(1.9%) |
| 7. 参加していない(78.4%) | 無回答(0.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問2 あなたのご近所とのつきあいはどのようなものですか。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1. 困っているときお互いに相談したり助け合ったりする等、親しくおつきあいしている(10.7%) |
| 2. 町会、自治会や隣近所の行事の時だけつきあう(4.7%) |
| 3. たまに世間話する程度(19.9%) |
| 4. 顔を合わせたときに会釈する程度(43.1%) |
| 5. つきあいがほとんどない(20.9%) |
| 無回答(0.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問3 自分には人とのつきあがないと感じることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(26.5%) | 2. ほとんど感じない(34.7%) |
| 3. ときどき感じる(29.6%) | 4. 常に感じる(8.6%) |
| | 無回答(0.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問4 自分は取り残されていると感じることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(40.7%) | 2. ほとんど感じない(42.0%) |
| 3. ときどき感じる(14.6%) | 4. 常に感じる(1.9%) |
| | 無回答(0.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問5 自分は他の人から孤立していると感じることはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1. 全く感じない(41.0%) | 2. ほとんど感じない(41.4%) |
| 3. ときどき感じる(14.4%) | 4. 常に感じる(2.7%) |
| | 無回答(0.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問6 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる、または相談できるのは誰ですか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------------|------------------|-----------|
| 1. 配偶者・パートナー(53.7%) | 2. 子(25.2%) | |
| 3. 親・祖父母(28.9%) | 4. 兄弟姉妹(27.2%) | |
| 5. その他親族(7.4%) | 6. 知人・友人(57.7%) | |
| 7. 職場の人(25.1%) | 8. 加入団体の仲間(3.1%) | |
| 9. ネット上の知り合い(2.9%) | 10. その他(1.3%) | |
| 11. そのような人はいない(4.6%) | | 無回答(0.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問7 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手・相談機関はありますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|--------------------------------|----------------------|-----------|
| 1. 自治会・町会(3.7%) | 2. 民生委員・児童委員(2.6%) | |
| 3. 社会福祉協議会(1.8%) | 4. 区役所等の公的機関(14.8%) | |
| 5. 精神科医・臨床心理士等の精神・心理の専門家(6.3%) | | |
| 6. 精神科以外の医師や弁護士等の専門家(7.3%) | | |
| 7. その他(5.7%) | 8. そのような人はいない(65.8%) | 無回答(1.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問8 あなたは、地域で生活していくうえで、近隣同士のどのような見守り・支えあい活動が必要だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-----------|
| 1. 日常的な声かけ(50.3%) | |
| 2. 生活の様子気配り(ポストに新聞や手紙がたまっていないか等)(35.2%) | |
| 3. 異変を感じた時の区役所等への連絡(38.2%) | |
| 4. ちょっとしたお手伝い(ごみ捨て等)(26.4%) | |
| 5. 見守り・支えあい活動は必要だと思わない(5.0%) | |
| 6. わからない(13.8%) | 無回答(0.9%) |

— IV 調査票と単純集計

(全員の方に) <回答者数：980人>

問9 あなたは、見守り・支えあい活動をしていますか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------------------|-----------|
| 1. 継続的に活動している(5.5%) | |
| 2. 活動したことがある(11.8%) | |
| 3. 活動していないが、これから活動してみたい(41.8%) | |
| 4. 活動していないし、これからも活動したいと思わない(38.8%) | 無回答(2.0%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問10 あなたは、地域の子どもに対する見守り・支えあい活動をしていますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 困っているときに、相談にのったり、子どもを預かったりする等している(2.1%) | |
| 2. 子どもを対象とした地域の活動にスタッフとして参加している(2.7%) | |
| 3. 通学中の子どもに声かけをしている(5.7%) | |
| 4. あいさつをしている(20.6%) | |
| 5. その他(1.6%) | |
| 6. 特に何もしていない(73.3%) | 無回答(1.1%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問11 地域には、住民同士の交流の場がありますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------|----------------------|-----------|
| 1. ある(11.7%) | 2. どちらかといえばある(18.0%) | |
| 3. どちらかといえばない(23.0%) | 4. ない(45.8%) | 無回答(1.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 12 障害のある人とない人が共に地域社会で暮らしていくために、行政の施策としてどのようなことが重要だと思いますか。特に重要だと思うことを3つまでお選びください。
(○は3つまで)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動(27.0%) | |
| 2. ボランティア活動の育成・支援(16.3%) | |
| 3. 障害のある子どもの相談・支援体制や学校教育の充実(27.3%) | |
| 4. 職業訓練の充実、就労の機会の確保(22.3%) | |
| 5. 保健医療サービス・リハビリテーションの充実(17.1%) | |
| 6. 年金や手当の充実(20.4%) | |
| 7. 相談員やホームヘルパー等の在宅サービスの充実(25.8%) | |
| 8. 福祉機器や情報機器の開発・普及(5.5%) | |
| 9. 障害のある人に配慮した公共建築物や公共住宅、交通機関の改善・整備(29.5%) | |
| 10. 点字や手話、字幕放送等による情報提供の充実(6.2%) | |
| 11. 民間住宅のバリアフリー化の普及促進(8.0%) | |
| 12. スポーツや文化活動・交流活動の推進(9.4%) | |
| 13. グループホーム等居住の場の整備、入居支援(9.1%) | |
| 14. 災害時の救出・救護体制の整備(23.6%) | |
| 15. その他(1.3%) | |
| 16. 特にない(2.8%) | |
| 17. わからない(6.7%) | 無回答(1.1%) |

(60歳以上の方に) <回答者数：404人>

問 13 高齢者会館を利用したことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------------|-----------------------|-----------|
| 1. よく利用している(5.2%) | 2. ときどき利用している(4.2%) | |
| 3. あまり利用していない(8.2%) | 4. 全く利用したことがない(81.4%) | 無回答(1.0%) |

(問 13 で「3. あまり利用していない」「4. 全く利用したことがない」に○をつけた方に)

<回答者数：362人>

問 13-1 利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 知らなかったから(21.8%) | 2. 行く必要を感じないから(59.7%) |
| 3. 行く時間がないから(13.0%) | 4. 遠いから(4.4%) |
| 5. 参加したい催しや活動がないから(17.4%) | 6. 知り合いがないから(15.2%) |
| 7. その他(6.6%) | 無回答(2.2%) |

《医療・健康についておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：980人>

問14 あなたは、現在の健康状態をどのように感じていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 健康である(35.5%) | 2. どちらかといえば健康である(46.4%) |
| 3. どちらかといえば健康でない(11.2%) | 4. 健康でない(5.7%) |
| 無回答(1.1%) | |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問15 1回30分以上の連続した運動や身体活動を週1~2回以上行っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------------|---------------------|
| 1. 継続的に行っている(33.6%) | 2. ときどき行っている(23.5%) |
| 3. 以前は行っていたが、現在は行っていない(15.4%) | 4. 全く行っていない(26.5%) |
| 無回答(1.0%) | |

(問15で「1. 継続的に行っている」「2. ときどき行っている」に○をつけた方に)

<回答者数：559人>

問15-1 あなたは、運動・スポーツを1年以上続けていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------|----------------|------------|
| 1. 1年以上(68.7%) | 2. 1年未満(18.1%) | 無回答(13.2%) |
|----------------|----------------|------------|

問15-2 あなたは、運動・スポーツをどこで行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|--|---------------------|-----------|
| 1. 公園(18.6%) | 2. 遊歩道(26.1%) | |
| 3. 区有施設(体育館、グラウンド、スポーツ・コミュニティプラザ)(16.8%) | | |
| 4. 高齢者施設(高齢者会館等)(4.8%) | 5. 民間スポーツクラブ(22.9%) | |
| 6. 屋外で自転車利用(15.2%) | 7. その他(31.1%) | 無回答(1.1%) |

(問15で「3. 以前は行っていたが、現在は行っていない」「4. 全く行っていない」に○をつけた方に) <回答者数：411人>

問15-3 運動・スポーツを行っていない理由として最もあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. 時間がないから(28.7%) | 2. 機会がないから(17.5%) |
| 3. 施設や場所の利用時間帯が合わないから(1.9%) | 4. 施設や場所が近くにないから(3.4%) |
| 5. お金がかかるから(3.2%) | 6. 体力的に難しいから(9.7%) |
| 7. 運動することが好きではないから(9.5%) | 8. 一緒に運動する人がいないから(2.2%) |
| 9. 指導してくれる人がいないから(0.7%) | 10. 運動する必要を感じないから(3.4%) |
| 11. その他(10.0%) | 無回答(9.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 16 この1年間に、プロ・アマチュアスポーツを問わず、スタジアム・体育館・沿道などで実際にスポーツを観戦したことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------------------------|---------------------|
| 1. 野球(16.7%) | 2. サッカー、フットサル(6.4%) |
| 3. バスケットボール(1.8%) | 4. バレーボール(1.2%) |
| 5. 卓球(1.1%) | 6. テニス(1.6%) |
| 7. バドミントン(0.4%) | 8. ラグビー(1.6%) |
| 9. 陸上競技(1.5%) | 10. マラソン、駅伝(2.9%) |
| 11. 水泳(1.7%) | 12. 柔道、剣道、空手(0.8%) |
| 13. ボクシング、レスリング、その他格闘技(2.0%) | 14. その他(3.4%) |
| 15. 観戦しなかった(69.9%) | 無回答(3.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 17 あなたは、区のスポーツ施策や区立のスポーツ施設について、何か望むことはありますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-----------|
| 1. 初心者向けのスポーツ教室やスポーツ行事の充実(22.8%) | |
| 2. 障害のある人が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(9.1%) | |
| 3. 高齢者が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(20.8%) | |
| 4. 子育て世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(15.6%) | |
| 5. 働き盛りの世代が参加しやすいスポーツ教室やスポーツ行事の充実(16.4%) | |
| 6. 民間企業等と連携したスポーツ教室やスポーツ行事の充実(11.3%) | |
| 7. 体力測定等の健康指導(15.5%) | |
| 8. 地域のスポーツ団体、クラブへの支援(7.1%) | |
| 9. 指導者の育成・支援(5.7%) | |
| 10. スポーツボランティアの育成・支援(4.6%) | |
| 11. 利用手続きの簡素化や利用時間の拡大(早朝、夜間等)などスポーツ施設の利便性の向上(24.4%) | |
| 12. スポーツに関する広報の充実(9.0%) | |
| 13. 新規スポーツ施設の整備(12.0%) | |
| 14. 既存スポーツ施設のメンテナンス・リニューアル(11.5%) | |
| 15. 高齢者や障害のある人に配慮した施設・設備の整備(15.4%) | |
| 16. その他(4.4%) | |
| 17. 特にない(25.8%) | 無回答(2.4%) |

— IV 調査票と単純集計 —

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 18 東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催により、あなたはどのような効果があったと感じましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. スポーツ実施者の増加(障害者スポーツを含む)(19.5%) | |
| 2. 障害者への理解の向上(24.6%) | |
| 3. 児童・生徒への好影響(15.6%) | |
| 4. 来訪者の増加による地域活性化(4.0%) | |
| 5. バリアフリー化など全ての人に優しいまちづくりの促進(13.2%) | |
| 6. 国際交流の推進(15.3%) | |
| 7. その他(2.8%) | |
| 8. 特にない(45.7%) | 無回答(1.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 19 パラリンピックや障害者スポーツ(ユニバーサルスポーツ)を理解し広めるために、区はどのようなことを重点的に行えば良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|-----------|
| 1. パラリンピック競技種目等の障害者スポーツ体験イベントの実施(53.0%) | |
| 2. パラリンピアンなど、障害者スポーツのアスリート等による講演会等の実施(18.7%) | |
| 3. 障害者スポーツに関する展示会等の実施(6.9%) | |
| 4. 区報やホームページ等に障害者スポーツを紹介するなどの普及・宣伝活動(46.5%) | |
| 5. その他(6.4%) | 無回答(6.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 20 スポーツ・ボランティア活動として関心のある内容はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 区内スポーツイベント等の専門ボランティア(審判、通訳、救護など)(6.4%) | |
| 2. 区内スポーツイベント等の一般ボランティア(案内、受付、運搬など)(16.5%) | |
| 3. イベント当日以外のボランティア(広報、データ処理など)(8.9%) | |
| 4. 区内スポーツ活動の指導者やコーチ(6.2%) | |
| 5. 区内のスポーツ選手を応援などで支えるボランティア(12.6%) | |
| 6. その他(1.6%) | |
| 7. 特にない(62.2%) | 無回答(3.2%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 21 日ごろ、あなたが食べ物や食生活に関して心がけていることや、関心があることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|----------------------------------|-----------|
| 1. 朝食を毎朝欠かさず食べる(57.3%) | |
| 2. 家族そろって食事をする(19.9%) | |
| 3. 栄養バランスや規則正しい食生活を心がけている(55.1%) | |
| 4. 国産品や地場産品の購入に努めている(27.6%) | |
| 5. 食べ残しや食材の廃棄を減らすようにしている(51.9%) | |
| 6. 食の安全性を重視している(37.9%) | |
| 7. 手軽さ・利便性や値段の安さを重視している(28.3%) | |
| 8. 間食をしないようにしている(20.4%) | |
| 9. その他(3.1%) | |
| 10. 特にない(5.1%) | 無回答(0.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 22 生活習慣病の予防や改善のために、あなたは、普段から適正体重の維持や減塩などに
気をつけた食生活を実践していますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------------------|-------------------------|-----------|
| 1. いつも気をつけて実践している(19.4%) | 2. 気をつけて実践している(46.0%) | |
| 3. あまり気をつけて実践していない(25.7%) | 4. 全く気をつけて実践していない(5.4%) | |
| 5. わからない(2.3%) | | 無回答(1.1%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 23 あなたは、健康診断を受けていますか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------|---------------------|-----------|
| 1. 毎年受けている(74.5%) | 2. ときどき受けている(13.7%) | |
| 3. ほとんど受けていない(10.7%) | 問 23-3 (次のページ)へ | 無回答(1.1%) |

(問 23 で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に) <回答者数：864人>

問 23-1 あなたは、健康診断をどこで受けていますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|--------------------------|----------------------|-----------|
| 1. 職場や健康保険組合の健康診断(56.9%) | 2. 区が実施する健康診断(33.4%) | |
| 3. 通学先で実施する健康診断(2.2%) | 4. 人間ドック(10.6%) | |
| 5. その他(6.5%) | | 無回答(1.2%) |

— IV 調査票と単純集計

(問23で「1. 毎年受けている」「2. ときどき受けている」に○をつけた方に) <回答者数: 864人>

問23-2 健康診断の結果をどのように活用しましたか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 前回の結果と比較して健康状態を確かめた(76.2%) | |
| 2. 食事や運動等の生活習慣を見直した(23.1%) | |
| 3. 特定保健指導*を受けた(3.4%) | |
| 4. 医療機関に行って医師に相談した(20.4%) | |
| 5. すこやか福祉センターで病気や栄養について相談した(0.2%) | |
| 6. 家族や友人に結果を見せて相談した(10.2%) | |
| 7. 気になることがなかったので何もしなかった(15.9%) | |
| 8. 気になることがあったが何もしなかった(5.9%) | |
| 9. その他(0.7%) | 無回答(1.9%) |

*特定保健指導…メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の早期発見を目的とした健康診査(特定健診)の結果、メタボリックシンドローム、あるいはその予備群とされた人に対して医療保険者が行う保健指導のことです。

(問23で「3. ほとんど受けていない」に○をつけた方に) <回答者数: 105人>

問23-3 あなたが、健康診断を受けなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--------------------------------|-------------------------|
| 1. 時間がないから(26.7%) | 2. 費用がかかるから(27.6%) |
| 3. 面倒だから(33.3%) | 4. 病気治療を継続しているから(21.0%) |
| 5. 健康診断を行っていることを知らなかったから(3.8%) | |
| 6. 健康診断を信用していないから(2.9%) | |
| 7. 悪い結果が出ると不安になるから(14.3%) | |
| 8. 健康なので必要性を感じないから(21.9%) | |
| 9. その他(11.4%) | 無回答(0.0%) |

(全員の方に) <回答者数: 980人>

問24 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの診療所(医院・クリニック)を決めていますか。(○は1つ)

- | | | | |
|-----------------|---------------------|------------------|-----------|
| 1. 決めている(48.8%) | 2. だいたい決めている(22.6%) | 3. 決めていない(27.6%) | 無回答(1.1%) |
|-----------------|---------------------|------------------|-----------|

(問24で「1. 決めている」「2. だいたい決めている」に○をつけた方に) <回答者数: 699人>

問24-1 あなたは、かかりつけの診療所(医院・クリニック)で、普段から本人や家族等の日常生活を含めた健康についてのアドバイスを受けていますか。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|------------------|-----------|
| 1. 受けている(54.2%) | 2. 受けていない(44.9%) | 無回答(0.9%) |
|-----------------|------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：980人>

問25 あなたは、この1年間、歯科健診を受けましたか。(○は1つ)

1. 受けた(58.6%) 2. 受けていない(40.5%) 無回答(0.9%)

(問25で「1. 受けた」に○をつけた方に) <回答者数：574人>

問25-1 あなたは、歯科健診をどこで受けていますか(あてはまるものすべてに○)

1. 職場の歯科健診(2.6%) 2. 区が実施する歯科健診(5.1%)
 3. 通学先で実施する健康診断(0.2%) 4. かかりつけの歯科医(91.1%)
 5. その他(3.1%) 無回答(0.2%)

(問25で「2. 受けていない」に○をつけた方に) <回答者数：397人>

問25-2 あなたが、歯科健診を受診しなかった理由は何ですか(あてはまるものすべてに○)

1. 時間がないから(30.7%) 2. 費用がかかるから(17.6%)
 3. 面倒だから(24.7%) 4. かかりつけの歯科医で治療中だから(9.6%)
 5. 歯科健診を行っていることを知らなかったから(11.8%)
 6. 歯科健診を信用していないから(0.8%) 7. 悪い結果が出ると不安になるから(4.0%)
 8. 必要性を感じないから(23.2%)
 9. その他(12.6%) 無回答(3.0%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問26 あなたは、定期的にメンテナンスのために歯科医に通っていますか。(○は1つ)

1. 通っている(52.7%) 2. 通っていない(45.8%) 無回答(1.5%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問27 あなたは、自宅の近くで診察や健康相談をするかかりつけの歯科診療所を決めていますか。
(○は1つ)

1. 決めている(53.4%) 2. だいたい決めている(13.8%) 3. 決めていない(31.4%) 無回答(1.4%)

— IV 調査票と単純集計

(全員の方に) <回答者数：980人>

問28 あなたは、自宅の近くで調剤をお願いしたり薬に関する相談をするかかりつけの薬局を決めていますか。(○は1つ)

- | | | |
|------------------|---------------------|-----------|
| 1. 決めている(33.4%) | 2. だいたい決めている(25.0%) | |
| 3. 決めていない(37.6%) | 4. その他(院内処方)(2.6%) | 無回答(1.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問29 あなたは、自宅のある地域で救急患者が出た場合に、病状に応じた適切な医療を受けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|
| 1. 整っていると思う(20.9%) | 2. ほぼ整っていると思う(56.9%) | 3. 整っているとは思わない(19.0%) | 無回答(3.2%) |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：980人>

問30 介護や病気での療養が必要になっても、医療、介護サービスや地域の見守り等を受けながら、身近な地域で暮らし続けられる環境が整っていると思いますか。(○は1つ)

- | | | | |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|
| 1. 整っていると思う(10.4%) | 2. ほぼ整っていると思う(49.1%) | 3. 整っているとは思わない(35.7%) | 無回答(4.8%) |
|--------------------|----------------------|-----------------------|-----------|

(全員の方に) <回答者数：980人>

問31 脳卒中の後遺症やがん等で長期の療養が必要となった場合、あなたはこういった生活をお考えですか。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------------|----------------------------|-----------|
| 1. 可能な限り自宅や実家で過ごしたい(36.4%) | 2. 医療機関や施設に入院・入所したい(38.4%) | |
| 3. わからない(22.1%) | 4. その他(1.5%) | 無回答(1.5%) |

(問31で「2. 医療機関や施設に入院・入所したい」に○をつけた方に) <回答者数：376人>

問31-1 あなたが医療機関や施設に入院・入所したいとお考えの理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|-------------------------|
| 1. 医療機関や施設のほうが安心だから(64.4%) | 2. 家族に負担をかけるから(72.1%) |
| 3. 看護・介護をしてくれる家族がいないから(21.5%) | 4. 住宅環境が整っていないから(20.2%) |
| 5. 急に病状が変わったときの対応に不安があるから(40.7%) | |
| 6. 自宅で受けられる医療サービス(往診してくれる医師や訪問看護等)に不安があるから(10.9%) | |
| 7. 自宅や実家での療養は、お金がかかるから(10.9%) | |
| 8. その他(1.1%) | 無回答(0.3%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問32 自殺対策は、自分自身に関わることだと思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. そう思う(14.7%) | 2. どちらかといえばそう思う(15.2%) |
| 3. どちらかといえばそう思わない(12.8%) | 4. そう思わない(39.8%) |
| 5. わからない(15.1%) | 無回答(2.4%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問33 今後、どのような自殺対策が必要になると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| 1. 自殺の実態を明らかにする調査・分析(33.8%) | |
| 2. 様々な分野におけるゲートキーパーの養成(21.0%) | |
| 3. 地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い(26.5%) | |
| 4. 様々な悩みに対応した相談窓口の設置(57.0%) | |
| 5. 自殺対策に関わる民間団体の支援(19.4%) | |
| 6. 自殺に関する広報・啓発(16.5%) | |
| 7. 子どもの自殺予防(44.4%) | |
| 8. その他(6.5%) | 無回答(4.5%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問34 あなたが、感染症の予防について考えたり、心がけていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 感染症の発生や流行についての情報には目を通すようにしている(65.4%) | |
| 2. 感染症の流行に備えて、マスクや消毒薬、食糧・日用品等の備蓄を心がけている(64.3%) | |
| 3. 感染症の流行時には外出を控えようと考えている(50.8%) | |
| 4. 感染症の流行時には手洗い・うがいをするよう心がけている(78.7%) | |
| 5. 感染症の流行時には咳エチケットを守るよう心がけている(66.3%) | |
| 6. その他(1.9%) | |
| 7. 特に考えたり、心がけていることはない(3.7%) | 無回答(1.5%) |

— IV 調査票と単純集計 —

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 35 加工食品等のパッケージには、エネルギーやたんぱく質量等の表示がされている場合がありますが、それらの加工食品や調理済みの料理を購入する時に、表示されている栄養成分を参考にしていますか。(○は1つ)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 基本5項目(エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム)を参考にしている(28.2%) | |
| 2. 基本5項目に加え、他の栄養成分も参考にしている(13.1%) | |
| 3. エネルギーのみを参考にしている(11.2%) | |
| 4. ナトリウムのみを参考にしている(2.7%) | |
| 5. 全く参考にしていない(39.3%) | 無回答(5.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 36 あなたの食中毒に関する認識に最も近いものはどれですか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 関心があり、食中毒について十分理解している(12.6%) | |
| 2. 関心があり、食中毒についてある程度理解している(43.8%) | |
| 3. 関心はあるが、食中毒についてよくわかっていない(28.4%) | |
| 4. 食中毒について、特に気にしていない(12.0%) | 無回答(3.3%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 37 あなたはたばこを吸いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------------|--------------------------|
| 1. 毎日吸っている(13.8%) | 2. ときどき吸う日がある(1.3%) |
| 3. 以前は吸っていたが、1か月以上吸っていない(7.1%) | 4. 吸わない(75.5%) 無回答(2.2%) |

(問37で「1. 毎日吸っている」「2. ときどき吸う日がある」に○をつけた方に) <回答者数：148人>

問 37-1 今後禁煙したいと考えていますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 禁煙したい(18.9%) | 2. 吸う本数を減らしたい(34.5%) |
| 3. 現状通り喫煙を続けたい(33.1%) | 4. わからない(12.2%) 無回答(1.4%) |

《制度等についておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 38 障害のある人への差別をなくし、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指して、平成28年4月1日に「障害者差別解消法」が施行されましたが、あなたはこの法律について知っていますか。(○は1つ)

1. 名前は知っている(20.4%) 2. 内容も知っている(5.5%) 3. 知らない(71.4%) 無回答(2.7%)

(問38で「1. 名前は知っている」「2. 内容も知っている」に○をつけた方に) <回答者数：254人>

問 38-1 あなたは、「障害者差別解消法」について、どのように知りましたか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 中野区公式ホームページ・区報で見た(17.3%)
2. インターネット、新聞、テレビなどを通じて知った(53.9%)
3. 講演会、イベントなどで聞いた(5.1%)
4. 職場で聞いた(20.9%)
5. 友人、知人等から聞いた(6.7%)
6. その他(6.3%)
7. 覚えていない(9.4%) 無回答(0.4%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 39 障害者差別の解消に向けて、区民などの理解や関心を深めるため、中野区が特に力を入れるべきことは何だと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 中野区公式ホームページ・区報による啓発(44.6%) 2. 区民向けの啓発活動(47.1%)
3. 企業向けの啓発活動(29.2%) 4. 障害のある人と交流するイベントや行事の開催(32.7%)
5. その他(5.0%) 無回答(4.5%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 40 あなたはヘルプマークを知っていますか。(○は1つ)

ヘルプマーク

1. ヘルプマークの意味を含めて知っている(54.9%)
2. ヘルプマークがあることは知っているが、意味は知らない(23.6%)
3. 知らない(19.2%) 無回答(2.3%)



— IV 調査票と単純集計 —

(全員の方に) <回答者数：980人>

問41 あなたは、介護保険制度を利用できていますか。または、利用していない方は、必要となった時の利用の仕方を知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|--|-----------|
| 1. 介護保険制度を利用している、または利用の仕方を知っている(10.6%) | |
| 2. 利用の仕方をだいたい知っている(19.6%) | |
| 3. 利用の仕方をあまり知らない(29.5%) | |
| 4. 利用の仕方を全く知らない(38.9%) | 無回答(1.4%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問42 あなたは、認知症の症状や対応方法について、どの程度理解していますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 1. 認知症の症状や基本的な対応方法を知っている(28.1%) | |
| 2. 認知症の症状について聞いたことがある(43.2%) | |
| 3. 言葉は聞いたことがあるが、わからないことが多い(20.0%) | |
| 4. 知らない(7.1%) | 無回答(1.6%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問43 あなたはこれまでに見たり聞いたりして、「人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)」という言葉や意味を知っていましたか。(○は1つ)

※ACP:アドバンス・ケア・プランニングとは、将来あなた自身が病気になったり、介護が必要になったりしたときに備えて、これまで大切にしてきたことや、これから誰とどのように過ごしたいか、希望する医療や介護のことなどについて、家族や大切な人、医療・介護関係者とあらかじめ考え、繰り返し話し合うプロセスのことを言います。平成30年度、厚生労働省はACPの愛称を「人生会議」と決め普及・啓発を行っています。

- | | |
|--|-----------|
| 1. 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)の意味も含めて知っていた(4.6%) | |
| 2. 人生会議(ACP:アドバンス・ケア・プランニング)があることは知っていたが、意味は知らなかった(6.7%) | |
| 3. 知らなかった(86.9%) | 無回答(1.7%) |

(全員の方に) <回答者数：980人>

問44 「成年後見制度」という言葉やしくみについて、どの程度知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 1. 知っている(13.2%) | 2. だいたい知っている(16.2%) |
| 3. 一部知っているが、わからない内容も多い(28.0%) | 4. ほとんど知らない(40.9%) 無回答(1.7%) |

《相談窓口についておたずねします》

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 45 あなたは、次の地域の健康福祉の相談機関について、困っているときに相談できる窓口として、身近に感じますか。

(1) すこやか福祉センター (○は1つ)

1. 身近に感じる(13.4%) 2. 身近に感じない(43.1%) 3. わからない(41.0%) 無回答(2.6%)

(2) 地域包括支援センター (○は1つ)

1. 身近に感じる(15.6%) 2. 身近に感じない(42.1%) 3. わからない(40.0%) 無回答(2.2%)

(3) 区民活動センター (○は1つ)

1. 身近に感じる(19.0%) 2. 身近に感じない(38.8%) 3. わからない(40.0%) 無回答(2.2%)

(全員の方に) <回答者数：980人>

問 46 犯罪被害者やその家族に対する相談窓口があることを知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている (相談窓口の場所も知っている) (4.2%)

2. 知っている (相談窓口の場所は知らない) (28.7%)

3. 知らない(65.1%) 無回答(2.0%)

《その他》

(全員の方に)

問 47 健康福祉行政全体や今回の調査について、ご要望やご意見等ありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました

この調査票は環境に配慮して
再生紙を使用しています。



令和4年度（2022年度）
健康福祉に関する意識調査
報告書

発行日／令和5年（2023年）3月
印刷登録番号／4中健福第3248号
発行／中野区健康福祉部福祉推進課 健康福祉企画係
〒164-8501
東京都中野区中野 4-8-1
電話 03-3228-5421（直通）
編集分析／株式会社アイアールエス
〒160-0004
東京都新宿区四谷 3-1-3 第1富澤ビル7F
電話 03-3357-7181（代表）

この冊子は環境に配慮して再生紙を使用しています。

